

---

# JD Edwards EnterpriseOne 作業 原価 9.0 製品ガイド

---

2008 年 12月

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価 9.0 製品ガイド  
SKU E1AJC-B1208JPN

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

## 商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

## ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

## 保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

## 制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

## 危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

## 第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993-2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999-2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.  
Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.  
Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.  
This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.  
This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).  
This product includes cryptographic software written by Eric Young ([ey@cryptsoft.com](mailto:ey@cryptsoft.com)).  
This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)). All rights reserved.  
This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

## Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.



# 目次

## はじめに

この PeopleBook について .....	xiii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xiii
アプリケーションの基礎.....	xiii
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xiv
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xiv
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xiv
追加情報.....	xiv
表記規則.....	xvi
表記規則.....	xvi
注意事項の表示.....	xvii
国、地域、業種の表記.....	xvii
通貨コード.....	xviii
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xviii
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xviii

## まえがき

JD Edwards EnterpriseOne作業原価 – まえがき.....	xxi
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxi
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxi
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxi

## 第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne作業原価 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne作業原価の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne作業原価のビジネス・プロセス.....	4
JD Edwards EnterpriseOne作業原価の統合.....	5
JD Edwards EnterpriseOne作業原価の導入.....	8
導入手順.....	8

## 第 2 章

作業原価システムの設定.....	9
作業原価の設定要件について.....	9

作業原価のユーザー定義コードについて.....	10
作業原価固定情報の設定.....	14
作業原価固定情報について.....	14
作業原価固定情報の設定に使用するフォーム.....	15
作業原価固定情報の設定.....	15
作業原価のAAIの設定.....	16
作業原価の元帳タイプの設定.....	19
作業原価の元帳タイプについて.....	19
事前設定.....	21
作業原価の元帳タイプの設定に使用するフォーム.....	21
作業原価の元帳タイプの設定.....	21
自動採番の設定.....	22
作業原価の自動採番について.....	22
作業原価の自動採番の設定に使用するフォーム.....	22
分割融資の自動採番の設定.....	23
<b>第 3 章</b>	
<b>作業の設定.....</b>	<b>25</b>
作業について.....	25
作業マスター・レコードの設定.....	26
作業マスター・レコードについて.....	26
作業マスター・レコードとデータ・リレーションシップについて.....	28
事前設定.....	28
作業マスター・レコードの設定に使用するフォーム.....	29
作業原価マスターの改訂 (P51006) の処理オプションの設定.....	29
作業マスター・レコードの設定.....	31
作業の補足データの設定.....	36
事前設定.....	36
<b>第 4 章</b>	
<b>原価コード構造の設定.....</b>	<b>37</b>
原価コード構造について.....	37
この章で使用する共通フィールド.....	43
科目表タイプの作成.....	43
科目表タイプについて.....	44
事前設定.....	44
科目表タイプへの原価コード構造の追加に使用するフォーム.....	44
作業原価コード構造 (P51091) の処理オプションの設定.....	44

科目表タイプへの原価コード構造の追加.....	45
原価コード構造の作成.....	46
原価コード構造の作成について.....	46
事前設定.....	48
原価コード構造のコピーに使用するフォーム.....	49
原価コード構造のコピー.....	50
複数の原価コード構造の同時作成.....	51
複数の原価コード構造の作成について.....	51
事前設定.....	51
複数の原価コード構造バージョンの作成に使用するフォーム.....	52
複数原価コードの設定(P51092)の処理オプションの設定.....	52
複数の原価コード構造の設定.....	52
複数の原価コード構造の作成.....	53
複数原価コード作業の作成(R51092)の処理オプションの設定.....	53
代替順序の割当.....	53
代替順序について.....	53
事前設定.....	55
代替順序の割当に使用するフォーム.....	55
代替順序の手動割当.....	55
カテゴリ・コードのマッピングによる代替順序の作成.....	56
カテゴリ・コードの一括更新プログラム(R51807)の実行.....	56
カテゴリ・コードの一括更新(R51807)の処理オプションの設定.....	56

## 第 5 章

予算の入力および作業のスケジュール.....	59
作業原価の予算について.....	59
この章で使用する共通フィールド.....	60
当初予算の入力.....	60
当初予算について.....	61
事前設定.....	61
当初予算の入力に使用するフォーム.....	62
当初予算(P510121)の処理オプションの設定.....	62
当初予算の入力.....	65
予算改訂の入力.....	66
予算改訂について.....	66
事前設定.....	67
予算改訂の入力に使用するフォーム.....	67
作業予算の改訂(P510171)の処理オプションの設定.....	67
予算改訂の入力.....	69

原価コード・スケジュールの入力.....	70
原価コード・スケジュールについて.....	70
原価コード・スケジュールの設定に使用するフォーム.....	71
原価コード・スケジュール(P51901)の処理オプションの設定.....	71
原価コード・スケジュールの設定.....	72
<b>第 6 章</b>	
<b>作業情報の照会.....</b>	<b>73</b>
作業原価の照会について.....	73
この章で使用する共通フィールド.....	74
基本作業情報の確認.....	74
基本作業照会について.....	75
基本作業情報の確認に使用するフォーム.....	75
作業状況照会 - 基本(P512100)の処理オプションの設定.....	75
基本作業情報の確認.....	78
ユーザー定義カラムによる作業情報の確認.....	79
作業状況照会 - ユーザー定義カラム・プログラム(P512000)について.....	79
ユーザー定義カラムによる作業情報の確認に使用するフォーム.....	81
照会カラムの定義.....	81
作業状況照会ユーザー定義カラム(P512000)の処理オプションの設定.....	83
ユーザー定義カラムによる作業情報の確認.....	85
元帳タイプ別の予算情報の確認.....	89
元帳タイプ別改訂予算プログラム(P51216)について.....	89
元帳タイプ別の予算情報の確認に使用するフォーム.....	89
元帳タイプ別の予算情報の確認.....	89
作業別の買掛金情報の確認.....	90
作業別買掛金照会プログラム(P04220)について.....	90
作業別の買掛金情報の確認に使用するフォーム.....	90
作業別の買掛金情報の確認.....	90
<b>第 7 章</b>	
<b>作業進捗状況のトラッキング.....</b>	<b>91</b>
作業進捗状況について.....	91
計算方法について.....	92
方法D(デフォルト).....	93
方法F(強制).....	94
方法G(予算デフォルト: 強制).....	94
方法A(勘定科目: 強制).....	95

方法P(完了率).....	95
方法Q(数量).....	96
方法C(原価コード見出しの完了率).....	96
方法O(一時変更).....	97
方法SおよびI(集計および組込み).....	98
方法E(見積残).....	99
方法HおよびL(作業量および労務).....	100
方法B(買取りまたは固定価格契約).....	101
方法R(収益: 単価契約).....	102
方法U(残存単位レート).....	102
方法V(絶対値).....	103
方法N(予測なし).....	103
方法T(合計).....	104
計算方法のクイック・リスト.....	105
事前設定.....	106
この章で使用する共通フィールド.....	106
現場進捗状況レポートの生成.....	107
現場進捗状況レポートについて.....	107
現場進捗状況レポートの実行.....	107
現場進捗状況レポート(R51432B)の処理オプションの設定.....	107
勘定進捗状況情報の入力.....	108
勘定別進捗状況の入力プログラム(P510211)について.....	108
勘定進捗状況情報の入力に使用するフォーム.....	108
勘定別進捗状況の入力(P510211)の処理オプションの設定.....	108
勘定進捗状況情報の入力.....	109
作業進捗状況情報の入力.....	110
作業別進捗状況の入力プログラム(P510212)について.....	110
作業進捗状況情報の入力に使用するフォーム.....	111
作業別進捗状況の入力(P510212)の処理オプションの設定.....	111
作業進捗状況情報の入力.....	113
パフォーマンス基準労務進捗状況情報の入力.....	115
パフォーマンス基準労務進捗状況の入力プログラム(P510312)について.....	115
パフォーマンス基準労務進捗状況情報の入力に使用するフォーム.....	116
パフォーマンス基準労務進捗状況の入力(P510312)の処理オプションの設定.....	116
パフォーマンス基準労務進捗状況情報の入力.....	118
<b>第 8 章</b>	
<b>利益の認識</b> .....	<b>123</b>
利益認識について.....	123

作業の完了率の更新.....	123
完了率の更新結果について.....	124
作業の完了率の更新に使用するフォーム.....	124
作業の完了率の入力.....	124
利益認識データの生成.....	124
利益計算プログラム(R51800)について.....	124
事前設定.....	126
利益認識データの生成.....	126
利益計算(R51800)の処理オプションの設定.....	126
利益認識バージョンの削除.....	128
利益認識バージョンおよびレコード削除について.....	128
利益認識バージョンの削除.....	129
利益認識バージョンの削除(R51810)の処理オプションの設定.....	129
利益認識情報の改訂.....	129
利益認識情報の改訂について.....	129
利益認識情報の改訂に使用するフォーム.....	131
グループ作業の調整(P5144)の処理オプションの設定.....	131
単一作業の調整(P51440)の処理オプションの設定.....	132
利益認識レコードの改訂.....	132
利益認識レコード内の勘定科目の改訂.....	135
利益認識仕訳の作成.....	136
仕訳の作成プログラムについて.....	136
利益認識仕訳について.....	137
利益認識仕訳の作成.....	139
仕訳の作成(R51444)の処理オプションの設定.....	139
利益認識仕訳の改訂.....	139
作業の終了.....	140
<b>第 9 章</b>	
<b>分割融資の処理.....</b>	<b>141</b>
分割融資処理について.....	141
事前設定.....	142
分割融資の作成.....	142
分割融資の作成プログラム(R51500)について.....	142
分割融資の作成プログラム(R51500)の実行.....	143
分割融資の作成(R51500)の処理オプションの設定.....	143
分割融資取引の改訂.....	144
分割融資の改訂プログラム(P515003)について.....	144
分割融資処理に使用するフォーム.....	146

分割融資の改訂 (P515003) の処理オプションの設定.....	146
分割融資状況の更新 (P515001) の処理オプションの設定.....	147
分割融資情報の改訂.....	147
分割融資の明細レポートの印刷.....	148
分割融資の明細レポート (R51510) について.....	148
分割融資の明細レポート (R51510) の印刷.....	148
分割融資の明細レポート (R51510) の処理オプションの設定.....	148

## 第 10 章

<b>作業原価の更新の実行.....</b>	<b>149</b>
分割融資レポート用の勘定科目情報の更新.....	149
分割融資レポート用の勘定科目情報の更新について.....	149
分割融資レポート用の勘定科目情報の更新.....	150
計算方法の更新.....	150
計算方法の変換プログラム (R519901) について.....	150
計算方法の更新.....	150
計算方法の変換 (R519901) の処理オプションの設定.....	150
作業原価予測の再計算.....	151
予測の再計算プログラム (R51803) について.....	151
予測の再計算プログラム (R51803) の実行.....	151
予測の再計算 (R51803) の処理オプションの設定.....	151
最終予測情報の削除.....	152
最終予測情報の削除.....	152
作業原価予測の削除 (R51997) の処理オプションの設定.....	152
作業情報の集計および除去.....	152
作業原価の除去処理について.....	152
事前設定.....	153
作業原価の除去プログラム (R51840) の実行.....	153

## 付録 A

<b>JD Edwards EnterpriseOne 作業原価レポート.....</b>	<b>155</b>
作業原価レポート.....	155
作業原価のすべての集計レポート.....	155
作業原価の主なレポート.....	157
R512000P: 作業状況照会の印刷.....	157
作業状況照会の印刷 (R512000P) の処理オプションの設定.....	157
R51412: マスター作業原価レポート.....	158
マスター作業原価レポート (R51412) の処理オプションの設定.....	159

R514122: 原価タイプ別集計.....	160
原価タイプ別集計 (R514122) の処理オプションの設定.....	161
R514121: 単位原価分析.....	161
単位原価分析 (R514121) の処理オプションの設定.....	162
R51420: 作業別詳細.....	163
作業別詳細 (R51420) の処理オプションの設定.....	163
R51425B: 取引分析.....	166
取引分析 (R51425B) の処理オプションの設定.....	166
R51430: 期間別傾向分析.....	167
期間別傾向分析 (R51430) の処理オプションの設定.....	167
R51443: 管理者向け集計レポート.....	169
管理者向け集計レポート (R51443) の処理オプションの設定.....	169
R51445: 利益認識作業状況.....	169
利益認識作業状況レポート (R51445) の処理オプションの設定.....	169
R51520: 建設原価 - 明細.....	170
建設原価 - 明細 (R51520) の処理オプションの設定.....	170
R51525: 建設原価 - 集計.....	170
建設原価 - 集計 (R51525) の処理オプションの設定.....	170
R51530: 補助元帳別作業詳細.....	171
補助元帳別作業詳細 (R51530) の処理オプションの設定.....	171
R51540: 予算改訂詳細.....	172
予算改訂詳細 (R51540) の処理オプションの設定.....	172
<b>付録 B</b>	
<b>作業原価システムで使用するテーブル.....</b>	<b>175</b>
作業原価システムのテーブル.....	175
<b>JD Edwards EnterpriseOne用語集.....</b>	<b>179</b>
<b>索引 .....</b>	<b>195</b>

# この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要となる情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

---

**注意:** 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお勧めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

---

## アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

---

## 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)
- ドキュメンテーションのダウンロード

### 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

---

**重要:** アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

---

#### 関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: [http://www.oracle.com/support/support\\_peoplesoft.html](http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html)

### ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

---

## 追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

## 表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

## 表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせて使う操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒( )で区切られています。
[ ] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。  また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

## 注意事項の表示

表記規則

### 注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

---

**注意:** 注意事項は、このような形式で示しています。

---

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

---

**重要:** 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

---

### 警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

---

**警告:** 警告は、このような形式で示しています。

---

### 相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

## 国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

### 国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の国コード」

### 地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

### 業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)
- E&G(教育/公的機関)

## 通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の通貨コード」

---

## ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn\_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

---

## 製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されません。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/IC)のコードが表示されます。値は次のとおりです。 空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。 A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。 D: バッチが正常に転記されています。 E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。

P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。

U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。

<b>事業所</b>	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
<b>ビジネスユニット</b>	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
<b>カテゴリ・コード</b>	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
<b>会社</b>	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
<b>通貨コード</b>	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
<b>伝票会社</b>	伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。  会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。  2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。
<b>伝票番号</b>	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
<b>伝票タイプ</b>	ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。  P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 時間および給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー伝票 S: 受注オーダー伝票
<b>有効日付</b>	住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。

- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

**会計期間、会計年度**

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

**元帳日付**

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

# JD Edwards EnterpriseOne 作業原価 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 製品
- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

---

## JD Edwards EnterpriseOne 製品

この製品ガイドには、オラクル社の次の JD Edwards EnterpriseOne 製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne 一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne 変更管理
- JD Edwards EnterpriseOne 住所録
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理

---

## JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOne の最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOne は、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて <http://oracle.com/contracts/index.html> のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

---

## この製品ガイドで使用する共通フィールド

### 原価コード

作業内のステップ、フェーズまたは活動タイプを識別します（現場作業、土木工事、舗装工事、景観整備など）。原価コードは、総勘定元帳の勘定科目の補助科目です。

**注意:** 補助科目は総勘定元帳の勘定科目には必須ではありませんが、原価コードは作業原価の各詳細勘定科目には必須です。

---

<b>原価タイプ</b>	原価コード内の原価カテゴリを識別します(労務、資材、設備、外注など)。原価カテゴリは、通常時間、割増時間、間接労務費などのサブカテゴリに細分できます。原価タイプは、総勘定元帳の勘定科目の主科目です。
<b>作業</b>	原価のトラッキング対象となるビジネスの個別の組織を識別します。作業は特定のタイプのビジネスユニットであり、原価を原価タイプ別にトラッキングおよびレポートするように構成されています。作業はF0006テーブルに(ビジネスユニットとして)保存されます。
<b>作業タイプ</b>	異なるプロジェクトにわたる類似した作業をグループ化するユーザー定義コード(00/MC)を入力します。
<b>LD、LOD、詳細レベル</b>	<p>追加する新しい作業および勘定科目のそれぞれに詳細レベルを入力します。</p> <p>詳細レベルは、勘定科目を総勘定元帳で集計して分類する際に使用する番号です。最も詳細度が高いのがレベル9で、最も詳細度が低いのがレベル1です。レベル1と2は、会社と作業の合計用に予約されています。レベル8と9は、JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムの作業原価転記勘定用に予約されています。</p> <p>これ以外に次の詳細レベルがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>3: 資産、負債、収益、費用</li><li>4: 流動資産、固定資産、流動負債</li><li>5: 現金、売掛金、在庫、給与</li><li>6: 小口現金、銀行預金、売掛金</li></ul> <p>詳細レベルの間を空けてレベルを勘定科目に割り当てないでください。詳細レベルが連続していないと、集計エラーが発生して正確な財務レポートが作成されない場合があります。</p> <p>検索条件として、フォームに表示する勘定科目の詳細レベルを入力します。入力した詳細レベルに基づき、勘定科目が積み上げられ、総合計が表示されます。たとえば、詳細レベルとして5を入力すると、詳細レベルが3から5までの勘定科目のみが表示されます。これより低い詳細レベル(6から9)は詳細レベル5の勘定科目に積み上げられ、集計値が表示されます。</p>
<b>PE、転記編集、転記編集コード</b>	作業またはビジネスユニットの取引を総勘定元帳に転記します。勘定科目の転記編集コードはユーザー定義コード・テーブルH00/PEに保存され、作業のコードは00/PFに保存されます。
<b>プロジェクト</b>	作業を1つの共通のビジネスユニットにグループ化する番号を入力します。この場合、プロジェクト・ビジネスユニットには、各作業に配賦可能な間接費をトラッキングするための勘定科目を設定することもできます。プロジェクトには、複数の作業が割り当てられます。

# 第 1 章

## JD Edwards EnterpriseOne 作業原価 – はじめに

この章では、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の概要と次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 作業原価のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の統合
- JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の導入

---

### JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の概要

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムは、他の JD Edwards EnterpriseOne システムとともに、プロジェクトおよび作業の管理と、プロジェクトおよび作業に関連する原価および収益の監視に役立ちます。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、次の処理を実行できます。

- すべての作業に対する原価コード構造の作成と管理
- 作業予算の確立
- 作業タスクのスケジュールの設定
- プロジェクトや作業に関連する原価および収益のトラッキングおよび管理
- プロジェクトや作業に関連する追加情報の確認および改訂
- プロジェクトや作業の原価、収益および他の詳細を示す各種レポートの生成
- 作業中の作業進捗状況の随時計算
- プロジェクトや作業に関連する最終予測値の計算
- 作業の任意の時点における利益または損失の認識および記録
- ローン契約で借入れ可能な原価に関する分割融資レポートの作成

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムでは、次のビジネス領域を含む幅広いビジネスに関連する作業を柔軟に管理できます。

- 鉱業
- 公共事業
- エンジニアリング・プロジェクト
- メディア製作
- 一般請負
- 製造
- 自家建設資産

- 土地開発および住宅建設
- 重機および幹線道路建設

さらに、次の処理を実行すると、特定のビジネス・ニーズに応じてJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムをカスタマイズできます。

- 各作業に固有の原価コード構造の設定
- フォームおよびレポートへの業界用語の統合
- 最終予測値の計算に使用する計算方法の選択

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムを使用すると、プロジェクトおよび作業を管理できます。たとえば、財務機能を使用して、作業に関連する原価と収益を監視できます。このシステムの機能は次のとおりです。

- 最終予測
- 利益認識
- 作業状況照会
- 監査証跡管理
- 作業予算改訂
- 原価分析
- 分割融資処理
- レポート生成

## 最終予測

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、作業中に随時、作業の最終予測値を計算します。最終予測は、特定の時間における作業に関連する原価、収益および完了率に基づいて計算されます。

最終予測に含まれる内容は次のとおりです。

- 最終予測原価
- 最終予測収益
- 最終予測利益
- 予測差異

## 利益認識

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムは、収益および原価の利益認識仕訳の作成に役立ちます。これらの入力、作業の進捗中の任意の時点における作業の完了率に基づきます。これらの仕訳は、原価計算目的で使用されます。計算のニーズに応じて、各作業で認識された収益および原価を手動で調整できます。

## 作業状況照会

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムには、オンライン照会オプションがあります。このオプションを使用すると、プロジェクトまたは作業に関するすべての情報を参照できます。また、事前に定義された作業情報も確認できます。カラムを設定して特定の情報を表示するには、作業状況照会プログラム (P512000およびP512100)を使用します。この情報の参照の終了時にカラム形式を保存しておく、後で参照できます。作業状況照会プログラムでは、次の情報を参照できます。

- 実績金額および数量

- 当初および改訂予算の金額および数量
- 合計および未決済のコミットメント、金額および数量
- 最終予測金額および数量
- 予測差異金額および数量
- 各勘定科目の完了率情報

### 監査証跡管理

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、作業の全取引の詳細な監査証跡を管理します。監査証跡には、最終予測値、予算変更、コミットメントなどに関する明細を含めることができます。

### 作業予算改訂

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、作業の当初予算情報を入力してロックします。予算をロック後に変更するには、予算改訂を入力する必要があります。予算改訂プログラム(P510171)を使用すると、作業に対する予算変更の監査証跡を作成できます。この監査証跡を使用して、当初予算情報と、作業の完了時の改訂予算情報を比較できます。

予算変更は、次の原価管理の結果として発生することがあります。

- 買掛金伝票、給与設備請求および在庫出庫を使用した実際原価管理
- 完了率および最終予測原価見積を使用した最終原価管理
- 外注および購買オーダーを使用したコミット済原価管理

### 原価分析

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、作業に関連する単位原価を分析します。たとえば、次の原価を分析できます。

- 時給
- 単位当たり原価
- 単位当たり労務時間

### 分割融資処理

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、作業の進捗状況をトラッキングします。金融機関にクレジット・ラインがある場合は、その機関で返済の対象となっている原価をトラッキングできます。貸出機関に提出する対象原価の分割融資レポートを生成できます。

### レポート生成

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、作業に関する情報の管理および確認に使用できるレポートを生成します。次の生成が可能です。

- 管理集計レポート
- 作業および口座設定レポート
- 財務明細レポート
- 補足データ・レポート

## JD Edwards EnterpriseOne作業原価のビジネス・プロセス

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne作業原価のビジネス・プロセス・フローを構成するビジネス・プロセスを示します。

ビジネス・プロセス	説明
作業情報の入力	会社を識別し、作業番号と作業名を含む作業マスター・レコードを作成します。作業がそれより大きなプロジェクトの一部である場合は、プロジェクト・マスター・レコードを最初に作成してから、作業マスター・レコードを作成します。
原価コード構造とスケジュール情報の入力	各作業に関連する原価のトラッキングや管理、レポートの作成を行う勘定科目表を作成します。勘定科目を科目表タイプからコピーしたり、勘定科目および関連する予算情報を既存の作業からコピーできます。各勘定科目に対し、計画開始日付および終了日付を識別し、作業の進捗状況に応じてこの情報を更新します。
当初予算情報の入力	トラッキングまたはレポート作成を行う各勘定科目の金額および数量情報を入力します。
改訂予算情報の入力	増分値または累計値を指定して金額および数量を変更します。当初予算情報は保持されます。
作業および特定勘定科目情報の確認	作業の進捗状況を随時確認し、予測予算および原価の差異における問題の可能性を識別します。他のシステムで管理されている作業または勘定科目情報にアクセスできます。
作業進捗状況情報の入力	実績金額および数量情報を入力し、各勘定科目の予測完了率を入力します。計算方法を入力し、最終予測の自動計算を可能にします。ビジネス要件に応じて、表示される情報を変更し、最終予測情報を再計算します。
利益の予測	作業利益を予測し、作業がビジネス要件を満たしていることを確認します。作業利益は、完了前に随時予測できます。作業の累計予測利益、最終予測利益、収益および原価明細が計算されます。予測利益には、純利益または純損失が反映される場合があります。
予測利益情報の変更	次のいずれかのパラメータを変更し、予測利益情報を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 利益認識方法</li> <li>• 繰越/見越原価情報</li> <li>• 完了率情報</li> <li>• 最終予測値情報</li> </ul>
仕訳の作成	処理する各利益認識レコードの仕訳を作成します。

ビジネス・プロセス	説明
仕訳の転記	利益認識レコードを含むバッチを転記します。
分割融資情報の生成	ある期間にわたって作業で発生した融資対象原価に基づいて融資の受取が可能となるように、金融機関に提出する分割融資レポートを生成します。
作業の終了	作業の完了後、または作業に関連する取引情報がすべて転記された後、作業を終了します。
作業原価情報の除去	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムで管理されている機能を使用して、古くなった作業原価情報や完了した作業の原価情報を F0902 および F0911 テーブルから定期的に除去し、空き容量を増やします。作業をシステムから除去する前に、F0901、F0902 および F0911 テーブルの関連情報を集計してコピーしてください。

これらのビジネス・プロセスについては、この製品ガイドの各ビジネス・プロセスの章で説明します。

## JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の統合

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムは、オラクル社の次の JD Edwards EnterpriseOne システムと統合されています。

システム	説明
JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理	進捗支払の入力、伝票の記録または作業に対する支払が行われると、該当する買掛金レコードを更新します。
JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理	作業の業務に対する契約請求が記録されると、該当する売掛金レコードを更新します。
JD Edwards EnterpriseOne 住所録	仕入先、外注業者および事業主の住所を提供します。この情報は、支払やレポートなどの印刷に使用できます。
JD Edwards EnterpriseOne 変更管理	JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システム、JD Edwards EnterpriseOne 外注管理システムおよび JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理システム内の予算変更オーダーを統合します。
JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理	JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システム内の勘定科目情報を使用して、契約業務の請求書を生成します。

システム	説明
JD Edwards EnterpriseOne外注管理	<p>JD Edwards EnterpriseOne作業原価システム内の勘定科目に対し、コミット済の数量および金額を更新します。契約予算および原価予測はJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムで管理できます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne外注管理はJD Edwards EnterpriseOne作業原価と統合され、作業に関連する契約、支払およびコミットメントの日常のおよび長期的な明細を管理します。JD Edwards EnterpriseOne外注管理システムは、契約の作成および管理、支払ガイドラインの確立、支払の実行、支払済経費のトラッキング、将来のコミットメントのトラッキング、契約コミットメントの変更オーダーの入力、および契約やコミットメントの状況レポートの生成に使用します。JD Edwards EnterpriseOne変更管理システムは、作業に関連する外注契約の未決済コミットメント額に対する変更の記録に使用します。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne外注管理システムに外注オーダーが入力されると、コミットメント元帳(元帳タイプPAおよびPU)の未決済コミットメント額が更新されます。勘定別進捗状況の入力プログラム(P510211)または作業別進捗状況の入力プログラム(P510212)を使用して契約に対する支払が実行および転記されると、未決済コミットメント額はPA/PU元帳からリリースされます。</p> <p>コミットメント元帳に対して更新された金額によって、作業またはプロジェクトの最終予測金額が変更されます。これらの金額はすべて、作業状況照会プログラム(P512000またはP512100)で確認できます。これらのプログラムを使用すると、作業またはプロジェクトに関連する予算金額、実績金額、コミットメントおよび最終予測金額を比較できます。</p>
JD Edwards EnterpriseOne設備/工場管理	作業内の特定の勘定科目に設備時間および原価を計上します。
JD Edwards EnterpriseOne固定資産管理	建物などの自家建設資産の開発原価を記録します。
JD Edwards EnterpriseOne一般会計	総勘定元帳残高への変更を反映するように作業原価システムの勘定科目を更新します。
JD Edwards EnterpriseOne在庫管理	在庫出庫時に作業原価システムで在庫勘定を貸方に記入し、原価勘定を借方に記入します。
JD Edwards EnterpriseOne Payroll	作業に関連する労務費および設備原価を管理します。
JD Edwards EnterpriseOne不動産管理	このシステムに関連する開発および仕上げ作業の原価は、作業原価システムでトラッキングされます。

システム	説明
JD Edwards EnterpriseOne 調達管理	<p>このシステムとJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムは共通のデータベースを共有しているため、作業に関連する購買オーダーおよびコミット金額の参照が可能になります。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne調達管理システム全体では、記録およびトラッキングされる将来の支払義務はコミットメントと呼ばれます。コミットメント金額は、作業原価コミットメント元帳(PA/PU)で管理されます。コミットメント金額は、作業に関連する非在庫材料に対する購買オーダーが入力されると作成されます。PA/PU元帳は、F43199テーブルから勘定残高テーブル(F0902)内に更新されます。</p> <p>購買オーダーが受領されて伝票が入力されても、未決済コミットメント残高は変更されません。未決済金額は、伝票の転記時にリリースされます。転記中に、追加レコードがF43199テーブルに作成され、購買オーダーの受領または支払が記載されます。この後、未決済コミットメント額はPA/PU元帳からリリースされ、実績金額(AA/AU)元帳に追加されます。</p>
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理	<p>作業の進捗状況に関連する原価に対する請求を管理します。</p>
JD Edwards EnterpriseOne 作業オーダー処理	<p>このシステムを使用すると、作業オーダーに対する品目引当を制限できます。品目から作業オーダーへの原価の請求は、JD Edwards EnterpriseOne作業原価システム、JD Edwards EnterpriseOne外注管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムで行います。</p>
JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産	<p>大規模な製造に関連する作業の原価を管理し、進捗状況をトラッキングします。このシステムで使用する詳細な計画および実行フェーズは、サプライチェーン実行モジュールの作業の管理に役立ちます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産はJD Edwards EnterpriseOne作業原価と統合され、次の処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作業マスターおよび勘定科目表の作成およびアップロード</li> <li>• 当初予算情報のアップロード</li> <li>• 予算改訂の作成およびアップロード</li> <li>• 最終予測金額の計算</li> <li>• 完了率の計算</li> <li>• 作業の収益性の判断</li> </ul> <p>JD Edwards EnterpriseOne作業原価は、その幅広い原価分析機能、予算改訂トラッキング、詳細な原価構造およびJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムとの統合により、JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産のユーザーに役立つツールとなっています。</p>

統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。サード・パーティ・アプリケーションとの統合についての補足情報は、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトを参照してください。

## JD Edwards EnterpriseOne作業原価の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne作業原価システム導入の概要と、導入に必要な手順について説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne作業原価について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

### 導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムの導入手順を示します。

手順	参照
1. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	
2. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	
3. 一般会計固定情報を設定します。	
4. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「多通貨処理の一般会計の設定」</li> <li>JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「為替レートの設定」</li> </ul>
5. 元帳タイプ規則を設定します。	
6. 住所録レコードを入力します。	
7. 作業原価固有の固定情報、自動採番、元帳タイプおよびユーザー定義コードを設定します。	<a href="#">第 2 章、「作業原価システムの設定」、9ページ</a>
8. 作業を設定します。	<a href="#">第 3 章、「作業の設定」、25ページ</a>
9. 原価コード構造を設定します。	<a href="#">第 4 章、「原価コード構造の設定」、37ページ</a>

## 第 2 章

# 作業原価システムの設定

この章では、JD Edwards EnterpriseOne作業原価の設定要件の概要、作業原価のユーザー定義コード(UDC)の概要、および次の方法について説明します。

- 作業原価固定情報の設定
- 作業原価のAAI(自動仕訳)の設定
- 作業原価の元帳タイプの設定
- 作業原価の自動採番の設定

関連項目:

第 3 章、「作業の設定」、「作業の補足データの設定」、36ページ

---

## 作業原価の設定要件について

JD Edwards EnterpriseOne作業原価を使用する前に、システムをビジネス・ニーズに応じてカスタマイズする情報を定義してください。システムでは、定義された情報を使用して作業を処理します。次の表に、各機能に関連する設定タスクを示します。

機能	設定タスク
作業原価固定情報	作業原価固定情報を設定し、次の処理が行われるかどうかを決定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 最終予測原価および単位数量の計算</li><li>• 最終予測原価および単位数量に対する変更の監査証跡の保持</li><li>• 計算方法AおよびRに関連する予算情報に対する変更の監査証跡の保持</li><li>• JD Edwards EnterpriseOne購買管理またはJD Edwards EnterpriseOne外注管理を使用して取引明細テーブル(F0911)に買掛金伝票が転記された場合の未決済コミットメントの自動リリース</li></ul>
AAI	AAIを設定し、JD Edwards EnterpriseOne作業原価とJD Edwards EnterpriseOne一般会計との統合を定義します。

機能	設定タスク
自動採番	自動採番を使用して、一意の番号を必要とする項目（分割融資レポートなど）に番号を割り当てます。自動採番プログラム（P0002）により、これらの番号の割り当て方法が決まります。
分割融資の自動採番	分割融資の自動採番機能を使用して、作業を分割融資の自動採番に関連付けます。これらの作業の分割融資番号を指定します。
UDC	UDCを設定し、システムを会社固有のビジネス・ニーズに応じてカスタマイズします。次の項目に対するコードなど、多様なUDCを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作業カテゴリ</li> <li>• 元帳タイプ</li> <li>• 勘定科目カテゴリ</li> <li>• 単位</li> <li>• 最終予測ビジネスユニット・タイプ</li> <li>• 契約タイプ</li> <li>• 原価コード・マスター表タイプ</li> <li>• 科目表タイプ編集フィールド</li> <li>• 照会元帳タイプ</li> <li>• 利益認識入力</li> </ul>
元帳タイプ・マスター	年度締めを実行すると、作業原価元帳の金額が次の会計年度に繰り越されます。改訂予算元帳タイプや、集計および除去する元帳タイプも設定できます。
科目表タイプ	科目表タイプおよびモデル作業によって、標準原価コード構造情報が作成されます。この構造情報は、作業にコピーした後、作業ごとに変更できます。

## 作業原価のユーザー定義コードについて

JD Edwards EnterpriseOne作業原価の多数のフィールドは、ビジネス環境のニーズに応じたユーザー定義コードを設定することでカスタマイズできます。ユーザー定義コードは、システム・コードとユーザー定義コード・リストで識別します。たとえば、システム51は作業原価、ユーザー定義コード・リストTOは科目表タイプを表します。

UDCは、特定のシステムおよびコード・タイプに関連するテーブルに保存されます。これらのテーブルにより、システム内の各フィールドで有効となるコードが決まります。フィールドに無効なコードを入力すると、エラーが表示されます。たとえば、「ビジネスユニット・タイプ」フィールドには、システム00およびコード・タイプMEのテーブルに存在するコードのみを入力できます。全ユーザー定義コードのテーブルは、ユーザー定義コード・テーブル（F0005）に保存されます。

## ビジネスユニット・タイプ(作業タイプ)(00/MC)

ビジネスユニット・タイプを使用して、類似したビジネスユニット・タイプ・コードを結合します。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、ビジネスユニット・タイプは作業タイプとも呼ばれます。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、両方の用語を区別なく使用しています。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、作業タイプ・コードを使用して最終予測を実行します。最終予測を実行するには、ビジネスユニット・タイプ(作業タイプ・コード)が、最終予測ビジネスユニット・タイプ(51/PF)に割り当てたコードと同じである必要があります。

## ビジネスユニット・カテゴリ・コード(00/01から00/30)

ビジネスユニット・カテゴリ・コードを使用して、レポート作成用に使用する各作業グループを識別します。

最大30の異なるカテゴリ・コード・タイプを定義できます(作業カテゴリ・コード用の10のメニュー項目を含む)。コード・タイプ01から20は、3文字のコードです。コード・タイプ21から30は、10文字のコードです。

作業カテゴリ・コードの作業への割当は、作業カテゴリ・コードを改訂するフォームまたは「会社別作業の改訂」フォームから実行できます。これらのコードは、ビジネスユニット・マスター(F0006)に保存されます。このテーブルを使用する全システムでは、同じビジネスユニット・カテゴリ・コードが共有されます。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理および JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理を使用している場合は、コード11および12を原価加算請求用に予約しておきます。

## 勘定科目カテゴリ・コード(09/01から09/23)

勘定科目カテゴリ・コードを使用して、レポート作成用に使用する各勘定科目グループを識別します。勘定科目カテゴリ・コードは、フォームおよびレポート上の勘定科目の順序を変更する場合にも使用します。

最大23の異なるコード・タイプを定義できます(勘定科目カテゴリ・コード用の4つのメニュー項目を含む)。コード・タイプ01から20は、3文字のコードです。コード・タイプ21から23は、10文字のコードです。

次の方法を使用して、カテゴリ・コードを勘定科目に割り当てます。

- コード01から08は、「科目表タイプ設定」や「当初予算」などの勘定科目関連フォームから割り当てます。
- コード01から20は、「勘定カテゴリ・コード」フォームから割り当てます。このフォームには、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムの「単一勘定科目の改訂」フォームからアクセスします。
- コード21から23は、「原価コード・スケジュール」フォームから割り当てます。これらのコードは、第2の勘定科目表の勘定科目にも使用できます。
- コード01から03は、代替順序用の勘定科目に割り当てます。

これらのコードは、勘定科目マスター(F0901)に保存されます。このテーブルを使用する全システムでは、同じ勘定科目カテゴリ・コードが共有されます。

## 単位(00/UM)

単位コードを使用して、勘定科目に関連する各タイプの単位を識別します。コードは2文字です。たとえば、立方フィートにはCF、立方ヤードにはCY、平方フィートにはSFなどを定義できます。単位は、「勘定科目表タイプの設定」や「当初予算/勘定科目マスター順序」などの勘定科目に関連するフォームから勘定科目に割り当てられます。

## 契約タイプ(51/CT)

このコードを使用して、作業に関連する契約のタイプを識別します。契約タイプ・コードは、サービス請求管理を使用している場合にのみ定義します。コードは4文字で、照会およびレポート作成用としてのみ使用されます。

契約タイプは、「作業マスターの改訂」フォームから作業に割り当てます。

コードFFは、固定料金または固定価格の契約に関連しています。

### コミットメント伝票タイプ(40/CT)

このコードを使用して、購買の伝票タイプ(OPやOSなど)を識別します。勘定残高テーブル(F0902)に保存されているPAおよびPU元帳でコミットメントを更新またはトラッキングする場合は、コミットメント伝票タイプを使用してください。

### 最終予測ビジネスユニット・タイプ(51/PF)

このコードを使用して、最終の金額(元帳タイプHA)および単位数量(元帳タイプHU)を予測する作業を作業タイプ別に識別します。このコードは、「作業マスターの改訂」フォームまたは「会社別作業の改訂」フォームから作業に割り当てるビジネスユニット・タイプと同じです。作業タイプをUDC 51/PFで設定していない場合、作業タイプが割り当てられている作業の最終予測値は作成できません。UDC 51/PFでコードとして割り当てる作業タイプは、UDC 00/MCにも存在する必要があります。

### 原価コード・マスター表タイプ(51/TC)

このコードを使用して、作業のタイプのモデル勘定科目表または作業内の原価コードの標準範囲を識別します。

コードは3文字です。たとえば、道路と橋にはRABを、小売店にはRETなどを定義できます。ブランクの科目表タイプは通常、最もよく使用されるモデルに関連しています。

科目表タイプに関連するモデルを「科目表タイプ設定」フォームで設定します。モデル勘定科目表の使用は任意です。各作業タイプには、1つのモデル作業を設定できます。作業名は、次のように、作業タイプと同じにすることをお勧めします。

- 作業名: JB
- モデル作業: M
- 作業タイプ: JB

### 科目表タイプ編集フィールド(51/ED)

このコードを使用して、科目表タイプに設定されている原価コード構造に対して検証する作業内の勘定科目のフィールドを識別します。このコードは、所定の科目表タイプに関連する作業内の一貫性を保つのに役立ちます。

作業および科目表タイプで共通の勘定科目(原価コードおよび原価タイプ)を共有している場合、このUDCテーブルにより、指定のフィールドで値が一致することが保証されます。このコードは最大6文字です。データ項目名(エイリアス)は、科目表タイプ・マスター(F5109)のフィールドに使用します。たとえば、設備料金コードにはGJERC、転記編集コードにはGJPEC、単位にはGJUMなどを使用します。

原価コードの詳細レベルが作業の詳細レベルと同じかどうかを自動で検証するには、データ項目GJLDA(詳細レベル)をUDCテーブルに定義する必要があります。科目表タイプを指定し、当初予算プログラム(P510121)の処理オプションと比較します。

### 計算式の記述(51/FM)

このUDCテーブルのコードは、作業状況照会ユーザー定義カラム・プログラム(P512000)の照会カラムの定義時に表示される計算式に対応するようにハードコード化されています。このテーブルのコードの追加や変更は行わないでください。これは金額に関連するコードですが、カラムの定義時には、対応する数量および見出しレベルの数量の計算式が表示されます。

- 金額の計算式は、コード1から10、および61を使用して設定されます。

- 対応する数量の計算式では、コード20から30を使用します。
- 対応する見出しレベルの数量の計算式では、コード40から50を使用します。

参照: 第 6 章、「作業情報の照会」、73ページ

### 照会元帳タイプ(51/IL)

照会元帳タイプを使用して、作業状況照会ユーザー定義カラム・プログラム(P512000)の金額または単位数を取得できる追加の元帳を識別します。

- 金額の場合、有効なコードは11から20、および70から79です。
- 単位数の場合、有効なコードは31から40、および80から89です。
- 見出し勘定科目レベルの単位数の場合、有効なコードは51から60、および90から99です。

「記述02」フィールドの最初の2文字は、金額元帳タイプを指定する必要があります。このフィールドの3番目と4番目の文字は、対応する数量元帳タイプがある場合、このタイプを指定する必要があります。

元帳タイプは、大文字である必要があります。

「特殊取扱」フィールドには、次のいずれかの値が含まれている必要があります。

- ブランク: 予算以外の元帳
- 1: 予算元帳
- 2: BORGフィールドの取得

コードの「記述01」、「記述02」および「特殊取扱」フィールドの入力が終了すると、照会カラムの定義に使用する計算式リストにコードが自動的に表示されます。

### 利益認識IS入力(51/IS)

利益認識に仕訳の作成プログラムを使用している場合、AAI項目ISを使用して、仕掛品(WIP)勘定科目に使用する相手勘定が検索されます。複数の相手勘定を使用する場合は、IS AAIを原価タイプ別(IS1340など)に設定できます。IS1340に関連付けられている勘定科目は、その勘定科目用に作成される全仕訳に使用されます。ただし、必要に応じて、コードをUDC 51/ISに設定すると、相手勘定を作業タイプ別に区別できます。UDC 51/ISの設定時は、作業タイプのコードおよびユーザー定義AAIを「記述02」フィールドで指定します。必要に応じて、作業タイプと原価タイプの組合せに対する追加コードを設定できます。

仕訳の作成プログラムを実行すると、次の順序で、相手勘定の取得に使用するAAIが検索されます。

1. 作業タイプのコード(JBなど)がUDC 51/ISに設定されているかどうかを検証されます。
2. コードが設定されている場合、作業タイプおよび原価タイプ別に設定されている別のコード(JB1340など)があるかどうかを検索されます。
3. 作業タイプ/原価タイプの組合せに対するコードが見つかった場合、AAIが「記述02」フィールドから取得され、勘定科目がそのAAIから取得され、仕訳で使用されます。
4. JB1340のコードがUDC 51/ISで見つからない場合、コードJBに関連するAAIが使用されます。
5. JBのコードが設定されていない場合、AAI項目ISxxxx(xxxxは原価タイプ)が使用されます。
6. AAI項目ISxxxxが見つからない場合、AAI項目ISが使用されます。

次の表に、コードおよびAAIをUDC 51/ISで設定する方法の例を示します。

コード	記述01	記述02
JB 作業タイプのコードの設定のみが必要です。	建設作業	JB00 AAI JB00に関連する勘定科目が使用されます。
JB1340	JB1340	JB1340 AAI JB1340に関連する勘定科目が使用されます。
JB1360	JB1360	JB1360 AAI JB1360に関連する勘定科目が使用されます。
JB1380	JB1380	JB1380 AAI JB1380に関連する勘定科目が使用されます。

**注意:** IS AAIが損益計算書の入力に使用できるように区別されている場合は、UDC 51/ISの設定は不要です。

## 作業原価固定情報の設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne作業原価固定情報の概要と、JD Edwards EnterpriseOne作業原価の固定情報の設定方法について説明します。

### 作業原価固定情報について

会社用のJD Edwards EnterpriseOne作業原価固定情報を設定し、次の処理が行われるかどうかを定義します。

- 最終予測原価および単位数量の計算
- 最終予測原価および単位数量に対する変更の監査証跡の保持
- 計算方法AおよびRに関連する予算情報に対する変更の監査証跡の保持
- JD Edwards EnterpriseOne購買管理または外注管理を使用して取引明細テーブル(F0911)に買掛金伝票が転記された場合の未決済コミットメントの自動リリース

最終予測原価および単位数量は、作業の完了に必要な原価および単位数量の合計を予測したものです。最終予測情報が作成されるようにシステムを設定すると、次の情報に基づいて各勘定科目の最終原価および単位数量が予測されます。

- 勘定科目の完了率
- 勘定科目に関連する現場進捗値
- 勘定科目の実際原価
- 予算およびコミット済の値
- 作業進捗状況の計算に使用すると選択した計算方法

予測監査証跡を使用すると、予測原価および単位数量に対する変更をトラッキングできます。予算監査証跡は、IAおよびIU元帳の予算原価および単位数量に対する変更のトラッキングに使用します。

システムの設定により、勘定科目に対して転記された支払額が未決済コミットメントから自動的に減額されるようにすることができます。

コミットメント情報は、合計コミットメント金額または未決済コミットメント金額として参照できます。合計コミットメント金額は、すべての未決済コミットメント金額とすべての実績コミットメント金額の合計です。未決済コミットメント金額は、コミット済原価のみの合計です。

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、固定情報を JD Edwards EnterpriseOne 外注管理および JD Edwards EnterpriseOne 購買管理と共有します。この両方のシステムの管理者と協力し、固定情報が同様に設定されるようにしてください。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の固定情報と JD Edwards EnterpriseOne 外注管理の固定情報は同じフォームで定義し、これによって作業原価会社固定情報テーブル (F0026) が更新されます。

会社 00000 に対しては、システム固定情報を設定する必要があります。この設定により、特定の固定情報が定義されていない会社にデフォルトの固定情報が使用可能になります。時間を節約するには、デフォルトの会社の固定情報を、システム上の会社で最もよく使用される固定情報として設定してください。会社固有の固定情報は、デフォルト値の例外用に設定します。

**注意:** 会社内の作業の最終予測金額および単位数量を作成するには、「作業原価予測」オプションを選択し、予測を計算するビジネスユニットのタイプ (UDC 51/PF) を定義する必要があります。

## 作業原価固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業原価固定情報の処理	W0026B	「作業原価セットアップ」(G5141)、「作業原価固定情報」	作業原価固定情報レコードを確認および選択します。
作業原価固定情報	W0026A	「作業原価固定情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	プロジェクトまたは債務を使用するかどうかを指定します。

## 作業原価固定情報の設定

「作業原価固定情報」フォームにアクセスします。

- 作業原価予測** このチェックボックスを選択すると、勘定残高テーブル (F0902) の最終予測金額および数量 (元帳タイプはそれぞれ HA および HU) が更新および保存されます。
- 予測監査証跡** このチェックボックスを選択すると、作業原価予測 (元帳タイプ HA および HU) に対する変更の監査証跡 (F0911 レコード) が作成されます。
- 予算監査証跡** このチェックボックスを選択すると、予算に対する変更の監査証跡レコード (F0911) が作成され、元帳タイプ IA および IU で保持されます。この監査証跡レコードは元帳タイプ・マスター・ファイル (F0025) テーブルに保存されます。  
この固定情報は、計算方法 A および R にのみ関連しています。
- コミットメント・リリース** このチェックボックスを選択すると、処理支払伝票などの買掛金伝票を総勘定元帳に転記したときに未決済コミットメントが自動的にリリースされます。

買掛金伝票は、非在庫購買オーダーおよび契約進捗支払に関連した伝票です。

## 作業原価のAAIの設定

AAIにより、JD Edwards EnterpriseOne作業原価システム、JD Edwards EnterpriseOne外注管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne一般会計間システムのリンクが定義されます。新しいAAIを定義する前に、システム内のAAIを確認し、追加するAAIがすでに定義されていないことを確認してください。

JD Edwards EnterpriseOne作業原価に関連するAAIの順序番号は、51で始まります。

### 利益認識AAI

利益認識AAIにより、利益認識の仕訳の作成時に使用される勘定科目が指定されます。次の表に、利益認識AAI項目と、その使用方法を示します。

AAI項目	説明
BS	<p>仕掛品(WIP)勘定科目を損益計算書に振り替える際に使用される相手(相対)勘定科目。相殺額は、この相対資産勘定に転記されます。</p> <p>AAI項目BSを使用して相殺額を単一の貸借対照表勘定に集計することや、AAI項目BSxxxx(xxxxは原価タイプ)を使用して原価タイプ別の相殺値を作成することが可能です。たとえば、BS1344を設定すると、原価タイプが1344の勘定の相殺値として、AAIに関連する勘定が使用されます。項目番号で原価タイプを指定しないと、AAI項目BSが自動的に使用されます。</p> <p>作業を損益計算書で設定している場合は、このAAIは必須ではありません。ただし、貸借対照表上の作業に対しては、少なくともデフォルト会社00000のBS AAIを定義する必要があります。</p>
IS	<p>損益計算書で報告される収益および売上原価の勘定科目。仕掛品金額のリリース時に原価および請求の仕訳が作成され、この仕訳はこのAAIによって貸借対照表から損益計算書に振り替えられます。</p> <p>AAI項目ISを使用して相殺額を単一の貸借対照表勘定に集計することや、AAI項目ISxxxx(xxxxは原価タイプ)を使用して原価タイプ別の相殺値を作成することが可能です。たとえば、IS1344を設定すると、原価タイプが1344の勘定の相殺値として、AAIに関連する勘定が使用されます。項目番号で原価タイプを指定しないと、AAI項目ISが自動的に使用されます。</p> <p>作業を損益計算書で設定している場合は、このAAIは必須ではありません。</p>

AAI項目	説明
JCBE	<p>過剰請求用の勘定科目。過剰請求とは、原価および見積収益を超える請求のことです。BSLOSSが未設定の場合、この勘定科目をJCLOSSの貸方相殺に使用することもできます。</p> <p>この勘定科目は通常、負債勘定です。金額は毎月逆仕訳されます。</p>
JCCE	<p>請求不足用の勘定科目。請求不足とは、原価または見積収益が請求を超えているということです。</p> <p>この勘定科目は通常、資産勘定です。金額は毎月逆仕訳されます。</p>
JCBOUA	<p>売上原価に関連する調整を損益計算書に入力するための勘定科目。完了率が請求額に基づく場合、超過項目や不足項目はこの勘定科目に転記されます。</p> <p>この勘定科目は、JCBEおよびJCCEに関連する勘定科目に転記された仕訳の相手勘定科目になります。金額は毎月逆仕訳されます。</p>
JCCOUA	<p>収益に関連する調整を損益計算書に入力するための勘定科目。完了率が原価に基づく場合、利益項目や損失項目はこの勘定科目に転記されます。</p> <p>この勘定科目は、JCBEおよびJCCEに関連する勘定科目に転記された仕訳の相手勘定科目になります。金額は毎月逆仕訳されます。</p>
JCLOSS	<p>損失引当金に関連する項目用の勘定科目。このような項目は、作業に最終予測損失がある場合に作成されます。金額は毎月逆仕訳されます。</p>
BSLOSS	<p>損失引当金の相手(相対)勘定科目。JCLOSSに関連する勘定科目に転記された仕訳の相手勘定科目です。金額は毎月逆仕訳されます。</p> <p>このAAIの設定は必須ではありません。未設定の場合はJCCEが使用されます。</p>
JCAPC	<p>作業勘定科目の見越原価用の勘定科目。金額は翌月に自動的に逆仕訳されます。</p>
JCSMJ	<p>作業勘定科目の繰延原価用の勘定科目。一般に、このAAIは保管資材に使用されます。金額はすべて、翌月に自動的に逆仕訳されます。</p>
JCAPO	<p>見越原価用の相手(相対)勘定科目。JCAPCに関連する勘定科目に転記された仕訳の相手勘定科目です。</p>
JCSMI	<p>繰延原価用の相手(相対)勘定科目。JCSMJに関連する勘定科目に転記された仕訳の相手勘定科目です。</p>

AAI項目	説明
JCPFC	最終予測原価を調整するための勘定科目。このAAIには主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。
JCPFP	最終予測利益を調整するための勘定科目。このAAIは通常、利益を勘定科目に転記して予算元帳タイプの貸借を一致させる場合にのみ設定します。 このAAIには主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。
JCPFR	最終予測収益を調整するための勘定科目。このAAIには主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。
JCCAxxからJCCAxx + 1	収益勘定科目の範囲に対する開始主科目および終了主科目。利益認識には、JCCA01からJCCA02およびJCCA97からJCCA98までの49の範囲を含めることができます。
JCSTxxからJCSTxx + 1	原価勘定科目の範囲に対する開始主科目および終了主科目。利益認識には、JCST01からJCST02およびJCST97からJCST98までの49の範囲を含めることができます。

### 現場進捗保護AAI

現場進捗保護AAIにより、特定の勘定科目の実績数量が、関連する作業進捗状況入力プログラムで更新されるのを防ぐことができます。このAAIを使用することで、他のJD Edwards EnterpriseOneシステムから実績数量が取り込まれる際に、数量を入力できないようにします。

AAI項目	説明
JCxxからJCxx + 1	労務費勘定科目の範囲に対する開始主科目および終了主科目。現場進捗保護には、JC01からJC02およびJC09からJC10までの5つの範囲を含めることができます。 このAAIには主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。

**注意:** 別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから自動転記された実績数量に対して、原価タイプのAAI範囲を設定してください。

### 分割融資レポート選択AAI

分割融資レポート選択AAIにより、分割融資レポートの対象となる建設費勘定が指定されます。分割融資レポートでは、他の勘定科目は処理されません。

AAI項目	説明
DWxxからDWxx + 1	<p>対象となる勘定科目の2つの範囲に対する開始主科目および終了主科目。分割融資レポート選択には、DW01からDW02およびDW49からDW50までの範囲を含めることができます。</p> <p>このAAIには主科目が必須です。補助科目は任意であり、ビジネスユニットは使用されません。</p>

## 作業原価の元帳タイプの設定

この項では、作業原価の元帳タイプの概要と、作業原価の元帳タイプの設定方法について説明します。

### 作業原価の元帳タイプについて

JD Edwards EnterpriseOne作業原価では、異なるタイプの元帳を使用して、数量のトラッキングや予算の管理などを行っています。各元帳に対し、会計規則を設定する必要があります。元帳タイプは、次の場合に、JD Edwards EnterpriseOne作業原価の元帳タイプとして識別されます。

- ・「当初予算の次年度繰越」チェックボックスが選択されている場合
- ・「予算元帳の改訂」チェックボックス（「作業原価元帳タイプ規則」からアクセス可能）が選択されている場合

「元帳タイプの集計」チェックボックス（同じく「作業原価元帳タイプ規則」からアクセス可能）を選択することで、元帳タイプの金額および数量を改訂予算元帳の一部として含めるように指定することもできます。集計により、フォームまたはレポート上ですべての改訂元帳の合計を確認することや、任意の仕訳を除去する前に集計することが可能になります。

利益認識や最終予測を正確に計算するには、JD Edwards EnterpriseOne作業原価のすべての元帳の通貨コードが、元帳タイプ・マスター・ファイル・テーブル (F0025) で作業が属する会社の通貨に一致する必要があります。

数量元帳タイプに対応する金額元帳タイプを設定する場合は、両方の元帳タイプの最初の文字が同じである必要があります。また、数量元帳タイプの2番目の文字はUである必要があります。たとえば、SA（金額元帳タイプ）とSU（数量元帳タイプ）などです。

JD Edwards EnterpriseOne作業原価で使用されるデータは、勘定残高テーブル (F0902) に元帳タイプ別に保存されます。取引明細テーブル (F0911) の元帳には、次に示す勘定残高テーブルの情報をサポートする、金額と数量の両方を含めることができます。

- ・ 予算情報
- ・ コミットメント情報
- ・ 実績情報
- ・ 現場進捗情報
- ・ 予測と見積
- ・ 最終予測情報

JD Edwards EnterpriseOne作業原価の元帳タイプを変更する前に、システムに定義されている元帳タイプを確認してください。その後、必要に応じて元帳タイプを変更できます。

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne作業原価で使用する元帳タイプを示します。

元帳タイプ	説明
AA、AU	実績金額(AA)および実績数量(AU)。
JA、JU	作業予算金額(JA)および作業予算数量(JU)。
PA、PU	PO/契約金額(PA)およびPO/契約数量(PU)。この元帳タイプは、購買オーダーおよび外注契約に関連しています。
HA、HU	最終予測金額(HA)および最終予測数量(HU)。
FA、FU	現場進捗金額(FA)および現場進捗数量(FU)。これは、作業原価予算と最終予測値の差異に関連しています。
F%	作業の完了率。作業の完了率を手動で更新するために、作業の総勘定元帳の勘定科目で使用されます。
IA、IU	作業原価予測予算金額(IA)および作業原価予測予算数量(IU)。計算方法R(収益:単価契約)およびA(勘定予算:強制)に関連し、自動で管理されます。
RA	残存単位レート。計算方法U(残存単位レート)に関連しています。

**注意:** JD Edwards EnterpriseOne作業原価で追加の元帳タイプを設定および使用するには、他のタスクも必要です。

参照: [第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価の元帳タイプの設定」、19ページ](#)

参照: [第 6 章、「作業情報の照会」、73ページ](#)

### 新しい作業原価元帳を設定するタスクの実行

追加の元帳を使用して作業原価予算のトラッキングと作業進捗状況の確認を行うには、特定のタスクを順番に実行する必要があります。単純な設定タスクは軽視されやすいため、次に、これらのタスクを実行順に示します。JD Edwards EnterpriseOne作業原価で追加元帳を適切に設定および使用するには、次の手順に従ってください。

1. 金額および数量元帳タイプをUDCコードとして09/LTに設定します。金額および数量元帳タイプでは最初の文字は同じになるため、元帳タイプQAを設定する場合は、数量に元帳タイプQUを使用する必要があります。
2. 元帳タイプごとに、元帳タイプ規則(作業原価規則など)を設定します。フォームでは元帳タイプと数量元帳タイプに別々のフィールドが用意されているため、1つのフォームで両方を同時に設定することはできません。たとえば、元帳タイプQAを設定してから、元帳タイプQUを設定します。

元帳タイプをJD Edwards EnterpriseOne作業原価の元帳タイプとして識別するには、次のチェックボックスを選択する必要があります。

- 「元帳タイプ規則の設定」フォームの「当初予算の次年度繰越」
- 「作業原価元帳タイプ規則」フォームの「予算元帳の改訂」

3. 金額と数量元帳タイプの両方に元帳タイプ規則を設定した後は、金額元帳タイプの「数量元帳タイプ」フィールドに数量元帳タイプを追加する必要があります。たとえば、QA元帳のレコードを選択し、「数量元帳タイプ」フィールドにQUを追加する必要があります。
4. 元帳タイプをUDC 51/ILに設定し、作業状況照会ユーザー定義カラム(P512000)のユーザー定義カラムの設定を可能にします。UDCの「記述02」フィールドで指定する元帳タイプに使用する数値の計算式が自動的に追加されます。元帳タイプの他に、「特殊取扱」フィールドへの値の指定も必要です。
  - 「1」を入力すると、勘定残高テーブル(F0902)から転記額フィールドの値が取得されます。
  - 「2」を入力すると、テーブルF0902からBORGフィールドの値が取得されます。
5. たとえば、QA/QU元帳にUDC 13を選択する場合は、「QAQU」をUDC 13の「記述02」フィールドに入力し、特殊取扱コードを1にする必要があります。この結果、予算元帳金額の計算式13、予算数値元帳の計算式33および見出し数量の計算式43が追加されます。数量および見出し数量の計算式は、51/ILで選択するUDCコードに基づいてハードコード化されます。
6. 照会カラムの定義プログラム(P51921)を使用して、各元帳タイプのカラム計算式を設定します。
7. 「作業状況照会」フォームでカラムを設定します。
8. 当初予算(P510121)および予算改訂(P510171)プログラムの新しいバージョンを設定し、「予算金額元帳タイプ」処理オプションで新しい予算元帳タイプ(金額用)を指定します。
9. この新しいプログラムのバージョン(「当初予算QA」など)をメニューに追加します。

## 事前設定

この項のタスクを実行する前に、JD Edwards EnterpriseOne作業原価で使用する元帳タイプをUDC 09/LTに設定する必要があります。

## 作業原価の元帳タイプの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
元帳タイプの処理	W0025FQ	「作業原価セットアップ」(G5141)、「元帳タイプ・マスターの設定」	元帳タイプ・レコードを確認および選択します。
作業原価元帳タイプ規則	W0025FS	元帳タイプを「元帳タイプの処理」フォームで選択して、「ロー」メニューから「作業原価元帳タイプ規則」を選択します。	作業原価元帳タイプの規則を指定します。

## 作業原価の元帳タイプの設定

「作業原価元帳タイプ規則」フォームにアクセスします。

### 数量元帳

金額元帳に対応する数量元帳を入力します。金額と数量の両方の元帳の最初の文字として同じ文字を割り当て、数量元帳の2番目の文字としてUを割り当てます。

**注意:** 現金主義の金額元帳タイプ (AX) に数量元帳タイプを指定しない場合、ZUが使用されます。

予算繰越	このチェックボックスを選択すると、年度締めプログラム (R098201) の実行時に、現行年度の当初予算が次年度の当初予算に繰り越されます。
元帳タイプの集計	このチェックボックスを選択すると、この元帳タイプに入力された取引が取引の集計プログラム (R09811) による集計の対象になります。
予算元帳の改訂	このチェックボックスを選択すると、元帳タイプが作業原価の元帳タイプになり、この元帳の予算金額を変更できます。

## 自動採番の設定

この項では、作業原価の自動採番の概要と、分割融資の自動採番の設定方法について説明します。

### 作業原価の自動採番について

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の標準の自動採番は、システム・コードを使用して設定します。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価のシステム・コードは 51 です。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の標準の自動採番では、3 行目と 4 行目 (それぞれ「Job Draws (作業分割融資)」および「Profit Recog (利益認識)」) のみを使用します。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価のこれらの自動採番は、次の処理に使用されます。

- 分割融資番号の割当
- 利益認識テーブルのリンク

自動採番は、選択した伝票に対して会社および会計年度別に割り当てることができます。

**注意:** 自動採番は、JD Edwards EnterpriseOne システムの中核です。自動採番を変更する前に、その細部まで理解しておく必要があります。

### 分割融資の自動採番

分割融資の自動採番プログラム (P51002) を使用して、1 つ以上の作業を分割融資番号に関連付けます。分割融資情報の生成時に処理オプションを設定すると、作業原価分割融資の自動採番テーブル (F51002) または標準の自動採番テーブル (F0002) から次番号が自動的に割り当てられるように指定できます。分割融資の次番号を使用するように指定し、作業を自動採番テーブルに追加しなかった場合、分割融資の作成プログラムによって作業が分割融資番号 1 で自動的に追加されます。

### 作業原価の自動採番の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
自動採番の処理	W0002A	「作業原価セットアップ」 (G5141)、「作業原価自動採番」	システム 51 の自動採番を検索します。
システム別自動採番の設定	W0002C	システム 51 の自動採番テーブルを選択します。	自動採番を設定します。
作業原価分割融資の自動採番	W51002C	「作業原価セットアップ」 (G5141)、「作業原価分割融資の自動採番」	作業を特定の分割融資の自動採番に関連付けます。

## 分割融資の自動採番の設定

「作業原価分割融資の自動採番」フォームにアクセスします。

### 次の番号範囲1

分割融資番号を割り当てる際に使用する自動採番の開始番号を入力します。指定する分割融資番号は、「作業」処理オプションに入力された作業にのみ割り当てられます。作業が未設定の場合、作業がテーブルに追加され、自動採番として1が割り当てられます。



## 第 3 章

# 作業の設定

この章では、作業の概要と、次の方法について説明します。

- 作業マスター・レコードの設定
- 作業の補足データの設定

---

## 作業について

作業とは、原価の管理と進捗状況のトラッキングの対象となるあらゆる活動のことです。書籍の出版から高層ビルの建設まで、あらゆる活動を作業とみなすことができます。

ビジネス・ニーズに応じて、大規模プロジェクトをサブプロジェクトに基づいて一連の小規模な作業に分割する場合があります。1つの作業は複数のサブプロジェクトで構成されます。この場合、作業全体をプロジェクトとみなし、各サブプロジェクトを個別の作業とみなします。

次に例を示します。

- 10階建てのオフィス・ビルの建設を請け負いました。原価の管理と進捗状況のトラッキングは、階別に行います。この場合、オフィス・ビルがプロジェクトであり、各階がプロジェクト内の個別の作業になります。
- ある区画の住宅30戸の建設を請け負いました。原価の管理と進捗状況のトラッキングは、戸別に行います。この場合、区画がプロジェクトであり、各戸がプロジェクト内の個別の作業になります。
- 地方空港の建設を請け負いました。原価の管理と進捗状況のトラッキングは、作業別に行います。この場合、空港がプロジェクトであり、中央ターミナル・ビル、周辺道路、各コンコースなどの各サブプロジェクトがプロジェクト内の個別の作業になります。

### 作業タイプ

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、いくつかのデータ入力フィールドを JD Edwards EnterpriseOne 一般会計と共有しています。これらのフィールドの情報は同じですが、2つのシステムでは異なるフィールド名を使用し、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では作業タイプという用語を、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計ではビジネスユニット・タイプという用語を使用します。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では「作業タイプ」フィールドのデータを JD Edwards EnterpriseOne 一般会計と共有しているため、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価のフォームに JD Edwards EnterpriseOne 一般会計の用語が表示される場合があります。作業タイプ情報は、ビジネスユニット・レベルで使用され、類似したビジネスユニットをグループ化します。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、作業タイプを使用して最終予測をレポートします。作業タイプは、ユーザーによって設定されるユーザー定義コード(UDC)です。作業を設定する際、特定の作業タイプをデフォルト・コードとして指定するよう処理オプションを設定できます。

---

**注意:** 新しい作業タイプを設定する際は、その作業タイプの最終予測が生成されるように、対応するユーザー定義コードをUDCテーブル(51/PF)に設定する必要があります。

---

---

## 作業マスター・レコードの設定

この項では、作業マスター・レコードの概要、作業マスター・レコードとデータ・リレーションシップの概要、および次の方法について説明します。

- 作業原価マスターの改訂 (P51006) の処理オプションの設定
- 作業マスター・レコードの設定

### 作業マスター・レコードについて

作業マスター・レコードには、作業に固有の情報が含まれます。作業マスター・レコードは、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムで管理されるプロジェクトごとおよび作業ごとに作成する必要があります。作業マスター・レコードを作成するには、作業の番号や説明、および作業全体のプロジェクトがある場合はそのプロジェクトなどの情報を特定します。作業マスター・レコードには、設備情報、税情報、作業日付、給与計算情報などのトラッキング情報やレポート情報も含まれます。

作業マスター・レコードは、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価と JD Edwards EnterpriseOne 一般会計のリンクになります。このリンクにより、両方のシステムで、プロジェクトおよび作業に関連する原価、予算および他の財務情報を管理できます。作業マスター・レコードは、プロジェクトと関連作業とのリンクにもなります。各作業を個別にトラッキングできるだけでなく、複数の作業にわたる勘定科目情報をプロジェクト全体のレベルにまで統合することも可能です。この情報には、予算、原価、予測などが含まれる場合があります。統合の結果、情報を確認して分析し、プロジェクト全体の状況を判断することができます。作業をプロジェクトにリンクさせるには、作業マスター・レコードの「プロジェクト」フィールドに入力します。プロジェクト階層を確立するには、プロジェクトの作業マスター・レコードを入力してから、プロジェクトに関連する各作業の作業マスター・レコードを入力します。プロジェクト情報を最初に入力する必要があります。

単一の作業のマスター・レコードを作成するには「作業マスターの改訂」フォームを、同じ会社の複数の作業のマスター・レコードを作成するには「会社別作業の改訂」フォームを使用します。作業マスター・レコードを作成するには、「作業番号」、「記述」および「会社」フィールドへの入力が必要です。作業に固有のその他の情報は、作業マスター・レコードの作成時に入力するか、後で追加することも可能です。

---

**重要:** 次の処理が確実に行われるようにするために、作業マスター・レコードの作成には、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計ではなく、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価を使用する必要があります。

追加作業マスター (F5108) への関連レコードの作成。

勘定科目マスター (F0901) への作業の総勘定元帳見出し勘定科目の作成。見出し勘定科目により、利益の認識時に特定の作業の完了率を調整できます。

ビジネスユニット・マスター (F0006) への作業マスター情報の保存。JB などの指定のビジネスユニット・タイプがレコードに自動的に追加されるように指定できます。

JD Edwards EnterpriseOne Payroll を使用している場合の、設定固定情報ファイル・テーブル (F069056) の更新。

---

## カテゴリ・コード

ビジネスユニット・カテゴリ・コードは、レポート作成用にプロジェクトおよび作業に割り当てるユーザー定義コードです。会社が使用する情報の要件に応じて、最大50のカテゴリ・コードを定義できます。カテゴリ・コード1から20には3文字のコード、カテゴリ・コード21から50には10文字のコードを割り当てることができます。システム00のカテゴリ・コードは、複数のJD Edwards EnterpriseOneシステムにより使用されます。ビジネスユニット・カテゴリ・コードは、ビジネスユニット・マスター(F0006)に保存されます。また、最大5つの住所録番号も割り当てることができます。

## 作業日付および他の作業関連情報

各プロジェクトおよび作業のスケジュールが決まった時点で、予定開始および完了日付や、実際開始および完了日付を入力できます。レポート作成の際に重要となるその他の日付情報も入力できます。予定および実際の開始および完了日付は、作業のスケジュールの作成時に入力することや、後で入力することができます。作業関連の日付情報は、追加作業マスター(F5108)に保存されます。

各作業に対し、設備料金情報を入力できます。まず、設備の請求料金を示すユーザー定義コードを設定する必要があります。設備料金情報は、ビジネスユニット・マスター(F0006)に保存されます。設備/工場管理では、この情報を使用して、作業に対して設備原価を計上するときの適切な料金を特定します。

作業に関する税情報を入力できます。また、ユーザー定義コードを設定し、税の査定方法や、作業の総勘定元帳の収益および費用の勘定に税を配賦する方法を制御することも可能です。

JD Edwards EnterpriseOne Payrollを使用している場合は、作業の給与計算情報を入力できます。作業の間接費レートの有無を指定した後、間接費レートを設定できます。間接費は、会社が従業員に対して賃金以外に直接的に負担する費用として定義されます。会社が支払うこの費用の例としては、法人税、給与計算税、健康保険、会社負担の福利厚生費などがあります。作業に関する情報を給与計算レポートに含めるかどうかを指定できます。また、作業に適用される場合のある賃率税規則も指定できます。作業の給与計算情報は、設定固定情報ファイル・テーブル(F069056)に保存されます。

JD Edwards EnterpriseOne Payrollを使用していない場合は、処理オプションの設定により、作業マスター・フォームの給与計算フィールドを非表示にできます。

## 追加作業情報

「追加作業マスター」フォームを使用して、レポート作成に使用する作業予算日付およびカテゴリ・コード定義を入力します。このフォームで設定するカテゴリ・コードにより、定義するカテゴリ別に作業情報を参照できます。このコードは、代替順序とも呼ばれます。

参照: [第4章、「原価コード構造の設定」、「代替順序の割当」、53ページ](#)

追加作業マスターを使用して、会計年度別の最終予測残高や、新しい勘定科目マスター・ファイル・レコードの作成を制御します。この処理では、関連するカテゴリ・コードの値が使用されます。

作業をJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムで追加すると、追加作業マスターが自動的に作成されます。

## 作業マスター・レコードまたは勘定科目の削除

作成した作業マスター・レコードが不適切な場合、作業を削除できます。作業を削除すると、作業番号がビジネスユニット・マスター(F0006)、勘定科目マスター(F0901)および追加作業マスター(F5108)から削除されます。設定固定情報ファイル・テーブル(F069056)など、作業の作成により更新された他のテーブルも、JD Edwards EnterpriseOne作業原価によって更新されます。

---

**重要:** 作業の原価コード構造が作成済であり、作業に勘定科目および予算情報がある場合は、作業を削除する前に、予算および勘定科目情報を削除する必要があります。

---

作業の勘定科目に対して仕訳(F0911レコード)が生成されていない場合は、その勘定科目を削除できません。勘定科目の仕訳が存在する場合は、仕訳を無効にし、その勘定科目情報が使用されないようにすることができますが、その勘定科目レコードおよび関連情報は、JD Edwards EnterpriseOne作業原価レコードとして残ります。

作業を削除する前に、次の処理が必要です。

- 作業の予算情報を削除します。

参照: 第 5 章、「予算の入力および作業のスケジュール」、「当初予算について」、61ページ

- 作業の勘定科目情報を削除します。

## 作業マスター・レコードとデータ・リレーションシップについて

データ・リレーションシップ・ツールは、ビジネスユニット・マスター(F0006)に入力するデータの一貫性および品質の管理に使用できる複数のプログラムをまとめたものです。このツールにより、F0006テーブル内のカラム(データ項目)間の関係を定義できます。

カラムのデータ・リレーションシップを定義した後、新しい作業マスター・レコードの入力時に単一の基準値に対して表示するデフォルトのターゲット値を定義します。データ・リレーションシップは、データの入力中に自動的に適用されます。

F0006テーブルにすでに存在する作業マスター・レコードのデータ・リレーションシップを定義する場合、データ・リレーションシップ・ルールを使用して、F0006テーブルを手動または自動で更新できます。

データ・リレーションシップ機能は、F0006テーブルの複数のカラムをサポートします。

## 事前設定

作業マスター・レコードを設定する前に、次の作業を行う必要があります。

- 会社を設定します。
- 必要に応じて、プロジェクト管理会社の住所録レコードを設定します。
- ビジネスユニットのカテゴリ・コードを設定します。
- 設備料金のユーザー定義コード(13/TB)を設定します。
- 税率/税域を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 税処理 9.0 製品ガイド、「税情報の設定」、「税率/税域の設定に使用するフォーム」

## 作業マスター・レコードの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業マスターの処理	W51006R	「作業および予算の設定」(G5111)、「作業原価マスターの改訂」	作業マスター・レコードを確認および選択します。
作業マスターの改訂	W51006S	「作業マスターの処理」フォームで「追加」をクリックします。	単一の作業マスター・レコードを入力します。
会社別作業の改訂	W51006C	「選択ボタン・エグジット」処理オプションの設定に応じて、作業マスター・レコードの選択時に「会社別作業の改訂」フォームが表示される場合があります。これ以外の場合は、レコードを選択し、「フォーム」メニューから「作業マスター情報」の「会社別作業の改訂」を選択します。	複数の作業マスター・レコードを入力します。
追加作業マスター	W51006X	「作業マスターの処理」フォームで作業を選択し、「ロー」メニューから「作業マスター情報」の「追加作業」を選択します。	作業の会計年度およびカテゴリ・コード情報を入力します。

## 作業原価マスターの改訂 (P51006) の処理オプションの設定

「作業原価マスターの改訂」と「会社別作業の改訂」のメニュー項目は同じプログラム (P51006) の異なるバージョンであるため、処理オプションは同じです。

### デフォルト

この処理オプションを使用して、作業を照会または追加するときに適用されるデフォルト値を定義します。

- 1. 作業タイプ** 作業タイプのデフォルト値を指定するか、この処理オプションを空白のままにして、新しい作業の追加時に作業タイプを入力します。
- 2. 転記編集** 追加する作業に割り当てる転記編集コードを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 作業への取引の転記を可能にします。  
1: 勘定科目が、取引が転記されない見出し勘定科目であることを示すために、転記編集コードとしてNが割り当てられます。

### 編集

この処理オプションを使用して、特定のフィールドが必須かどうかを指定します。

- 1. 作業現場住所を必須にする** 作業現場住所が必須かどうかを指定します。
- 2. 所有者住所を必須にする** 所有者住所が必須かどうかを指定します。

3. 住所番号1を必須にする 住所番号1が必須かどうかを指定します。
4. 住所番号2を必須にする 住所番号2が必須かどうかを指定します。
5. 住所番号3を必須にする 住所番号3が必須かどうかを指定します。
6. 住所番号4を必須にする 住所番号4が必須かどうかを指定します。
7. 住所番号5を必須にする 住所番号5が必須かどうかを指定します。

## 表示

この処理オプションを使用して、作業原価マスター・プログラムのフィールドの表示オプションを設定します。

1. 会社番号変更 作業に勘定科目が関連付けられている場合に、作業の会社番号を変更できるかどうかと、警告メッセージが表示されるかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 会社番号を変更でき、警告メッセージは表示されません。  
 1: 会社番号を変更でき、警告メッセージが表示されます。  
 2: エラーが表示され、会社番号は変更できません。

---

**重要:** 会社番号を変更する場合は、追加プログラムを実行して勘定科目マスターと勘定科目詳細のレコードを更新する必要があります。

---

2. 給与計算フィールド 「作業日付その他の情報」フォームに給与計算フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 給与計算フィールドを表示します。  
 1: 給与計算フィールドを表示しません。

## 処理

この処理オプションを使用して、作業の追加時に給与計算設定固定情報テーブル (F069056) にレコードを作成するかどうかを指定します。

1. 設定固定情報の作成 JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムに作業を追加するときに給与計算設定固定情報テーブル (F069056) にレコードを作成するかどうかを指定します。このフィールドに「1」を入力すると、レコードはF069056テーブルに作成されません。

## バージョン

この処理オプションを使用して、実行するアプリケーション・バージョンを選択します。ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

1. 当初予算 (P510121) のバージョン 「ロー」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、当初予算プログラム (P510121) のバージョンを指定します。
2. 作業状況の照会 (P512000) のバージョン 「ロー」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、作業状況照会プログラム (P512000) のバージョンを指定します。
3. 予算改訂 (P510171) のバージョン 「ロー」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、予算改訂 (P510171) のバージョンを指定します。

4. 作業補足データ (P00092) のバージョン 「ロー」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、補足データ・プログラム (P00092) のバージョンを指定します。
5. 作業から作業へのコピー (P51091) のバージョン 「ロー」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、作業から作業へのコピー (P51091) プログラムのバージョンを指定します。
6. 原価コード・スケジュール (P51901) のバージョン 「ロー」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、原価コード・スケジュール (P51901) プログラムのバージョンを指定します。
7. 購買オーダー (P4310) のバージョン 「ロー」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、購買オーダー・プログラム (P4310) のバージョンを指定します。
8. 選択ボタン・エグジット 「作業マスターの処理」フォームからレコードを選択したときに実行されるアプリケーションを指定します。値は次のとおりです。
- ブランクまたは1: 作業マスターの改訂
- 2: 会社別作業の改訂
- 3: 当初予算
- 4: 予算の改訂
- 5: 類似作業のコピー
- 6: 原価コード・スケジュール
- 7: 完了率の更新
- 8: 追加作業マスター

## 作業マスター・レコードの設定

「作業マスターの改訂」フォームにアクセスします。

「作業マスターの改訂」フォーム: 「単一作業の改訂」タブ

サービス請求固定情報プログラム(P48091)で「米国公共事業契約勘定使用」チェックボックスを選択すると、作業マスター・レコードの入力時に次の追加タスクが実行されます。

- このフォームの「追加明細」タブに次の追加フィールドが表示されます。
  - 資金調達レベル
  - 請求書レベル
  - 契約レベル
  - 間接費カテゴリ
- 次のフィールドに追加の編集が実行されます。
  - ビジネスユニット・タイプ
  - 予定完了日付、予定開始日付
  - 関連ビジネスユニット

データ・リレーションシップ機能を使用して新しい作業マスター・レコードを設定すると、他のフィールドに入力した特定の値に基づいて一部のフィールドにデフォルト値が表示される場合があります。

## 単一作業の改訂

### プロジェクト

会社内のこのビジネスユニットを使用して、レポート作成用に、作業を特定のプロジェクト(階層)にグループ化します。プロジェクトには、個別の作業マスター・レコードを作成する必要があります。グループに関連する間接費をトラッキングする勘定科目も設定できます。この番号は、ビジネスユニットの詳細レベルと連動します。

### ビジネスユニット・タイプ

ビジネスユニットまたは作業の分類を表す2桁のコードを入力します。たとえば、商業オフィス・ビルを指定するにはCOと入力します。有効なタイプをUDCテーブル00/MCから入力する必要があります。

---

**注意:** サービス請求固定情報プログラム(P48091)でProject and Government Contract Accounting(PGCA)を有効にした場合に、P48091プログラムでPGCAビジネスユニット・タイプとして定義されているビジネスユニット・タイプを選択すると、「資金調達レベル」フィールドへの契約番号の入力が必須になります。

---

### 補助元帳無効

補助元帳が作業で有効かどうかを指定します。通常は、更新エラーを防ぐために、完了した作業に対しては補助元帳を無効にします。値は次のとおりです。

ブランク: 有効。

1: 無効。補助元帳情報の照会とレポートは可能ですが、補助元帳に新しい取引を入力することや、新しい取引で更新することはできません。

### モデル作業

作業(ビジネスユニット)がモデルまたは連結ビジネスユニットかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: モデルではない。

M: モデル。

C: 連結ビジネスユニット。連結データの再作成(R10862)を使用して連結を生成すると、処理オプションがこの値に自動的に更新されます。

**詳細レベル**

作業のプロジェクト、親作業、従属作業または他のグループとの関係を指定します。この指定は、勘定科目用の詳細レベルとは異なります。詳細レベルの割当規則は次のとおりです。

値は2(最も詳細でない)から9(最も詳細)になります。レベル1は会社用に予約されています。

集計レベルには、全レベルの関連するビジネスユニットが含まれます。

すべての詳細レベルを使用する必要はありません。値が一貫しているかぎり、レベルをスキップすることが可能です。

「作業マスターの改訂」と「会社別作業の改訂」の両方のフォームでは、詳細レベルとプロジェクト番号を一緒に使用できます。

情報を詳細レベル別に集計できるように、プロジェクトの作業番号とプロジェクト内の作業には番号が順番に付けられる必要があります。

---

**注意:** 情報を作業別に集計する場合、詳細レベルよりもビジネスユニット・カテゴリ・コードを使用の方が有効な場合があります。

---

**しきい値完了%**

作業の完了率がいくつになった時点で最終値を予測するかを入力します。勘定科目の完了率がしきい値率以上になった場合にのみ、最終値が予測されます。

**追加明細****作業現場住所**

物理的な作業現場の住所録番号を入力します。

**所有者住所**

実行している作業の対象となる会社または個人の住所録番号を入力します。通常は、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理またはJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理における所有者の住所録番号です。

**監督者**

作業の監督者の住所録番号を入力します。

**契約タイプ**

サービス請求管理を使用している場合、契約のタイプを識別する値を入力します。

**都道府県**

作業が行われる都道府県を表すコードを入力します。

**転記編集**

作業(ビジネスユニット)に関する取引の総勘定元帳への転記を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 取引をこのビジネスユニットに転記します。

K: 取引をこのビジネスユニットに転記します。ただし、当初予算はロックされ、予算を変更するには変更オーダーが必要です。

N: 取引をこのビジネスユニットに転記しません。このコードは、開始前の作業または終了した作業に使用します。

P: 取引をこのビジネスユニットに転記しません。作業は除去できます。

**関連ビジネスユニット**

この作業の契約の「配賦レベル」フィールドが「Specific Job」に設定されている場合、このフィールドには契約の「Allocation Destination Job」フィールドで指定された作業が入力されます。「配賦レベル」フィールドが「Specific Job」に設定されていない場合、このフィールドには入力している作業の番号が入力されます。



---

**注意:** サービス請求固定情報プログラムでProject and Government Contract Accountingを有効にした場合、このフィールドは必須です。契約の予定完了日付がデフォルト値として使用されますが、一時変更も可能です。この日付と予定開始日付が契約に指定されている実行期間外である場合、エラーが生成されます。

---

<b>実際完了日付</b>	プロジェクトまたは作業の実際完了日付をこのフィールドに入力します。この情報はレポート作成用として使用します。
<b>その他日付5、その他日付6</b>	プロジェクトまたは作業に関連するユーザー定義日付をこのフィールドに入力します。この情報はレポート作成用として使用します。
<b>労務費配賦</b>	<p>給与計算税および福利厚生などの固定間接費を労務費に含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>空白または0: 固定間接費係数が常に1.0000になるため、固定間接費の合計額がゼロになります。</p> <p>1: 固定間接費係数が常に1.0000以上になるため、固定間接費が労務費に含まれることとなります。</p>
<b>固定間接費方式</b>	直接労務費に間接費を付加する乗数を入力します。たとえば、係数が1.32の場合、労務費1ドルにつき32セントの間接費が付加されます。
<b>申告対象作業</b>	<p>政府への申告で使用する給与証明レポートに、この作業に関する情報を含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 作業情報を含めます。</p> <p>空白またはN: 作業情報を含めません。</p>
<b>EEOコード</b>	<p>雇用機会均等(EEO)マイノリティ・レポート(情報目的のみのレポート)をビジネスユニットに対して必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>Y: EEOレポートを必須にします。</p> <p>N: EEOレポートを必須にしません。</p> <p>EEO情報は従業員マスター(F06011)に保存されます。</p>
<b>税域-給与計算</b>	税域を入力します。税域とは、税率や税勘定について共通の税規則を適用する地理的な地域のことです。税域には、都道府県や市などの納税先を含める必要があります。このフィールドは、給与計算税の会計処理で使用されます。
<b>追加作業マスター</b>	
<b>予算開始西暦</b>	予算の開始または作業の最初の総勘定元帳取引のいずれか早い方の西暦上2桁を入力します。たとえば、2010年の場合、20が西暦上2桁になります。作業をJD Edwards EnterpriseOne作業原価で追加すると、現在の西暦上2桁が自動的に割り当てられます。
<b>予算終了年(西暦)</b>	予算の終了または作業の最後の総勘定元帳取引のいずれか遅い方の西暦上2桁を入力します。たとえば、2010年の場合、20が西暦上2桁になります。

---

**注意:** 作業をJD Edwards EnterpriseOne作業原価で追加すると、現在の西暦上2桁がこれらのフィールドに自動的に割り当てられます。

このフィールドと「予算終了年」フィールドの組合せが、「予算開始西暦」フィールドと「予算開始年」の組合せより後になるように設定してください。

---

#### 関連項目:

第 4 章、「[原価コード構造の設定](#)」、「[代替順序の割当](#)」、53ページ

---

## 作業の補足データの設定

作業マスター・レコードの設定後、作業の様々な補足情報を入力できます。補足情報には、地面の状況から法律的な考慮事項まで、作業の進捗状況に影響を与えうるあらゆる情報が含まれます。補足情報を使用して、プロジェクトまたは作業の進捗状況のトラッキング、確認およびレポートを実行できます。補足情報を設定および管理するには、補足データ・タイプを定義し、各補足データ・タイプに該当する情報を入力します。補足データ・タイプは、次の例のように、必要に応じていくつでも定義できます。

- 敷地工事の作業項目の詳細を確認したところ、伐採および整地工事が予定より1か月遅れていて、予算を10%超過していたとします。この場合、この作業に関連する補足情報を確認し、作業の遅れの原因となった悪天候についての情報を検索できます。その結果、敷地工事の作業項目と、他の影響を受けた作業を調整できます。
- プロジェクトの全作業の詳細全体を確認したところ、コンクリートが予算を10%下回っていることを発見したとします。鉄筋の価格が予想より低いことが、補足情報からわかります。それに応じて予算を調整できます。

ユーザー定義コードを使用してデータを分類する必要があり、既存のユーザー定義コード・タイプがどれも不適切な場合は、データ・タイプを追加します。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne作業原価内の地面状況に関連するすべての作業を識別する必要がある場合、検索タイプGRをユーザー定義UDCテーブル(55/ST)に追加できます。

適切なユーザー定義コードおよびユーザー定義コード・タイプを設定した後は、補足データの要件に適したJD Edwards EnterpriseOne作業原価用の特定のデータ・タイプを追加できます。

### 事前設定

補足データ・プログラム(P00092)の処理オプションを設定し、補足データ・プログラムを使用してデータ・タイプを追加しているターゲット・システムの補足データベース・コードを指定します。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne作業原価の補足データベース・コードはJCです。

## 第 4 章

# 原価コード構造の設定

この章では、原価コード構造の概要と、次の方法について説明します。

- 科目表タイプの作成
- 原価コード構造の作成
- 複数の原価コード構造の同時作成
- 原価コードへの代替順序の割当

---

## 原価コード構造について

作業マスター・レコードの作成後は、JD Edwards EnterpriseOne作業原価コード構造をそのレコードに割り当てる必要があります。原価コード構造は、作業に関連する金額、数量、予算および他の勘定科目情報のトラッキング、管理およびレポートに使用します。原価コード構造は、特定の作業に関連する勘定科目表です。これらの勘定科目は、作業に関連するタスクであるとも考えることもできます。JD Edwards EnterpriseOne作業原価における原価コード構造の役割は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計における勘定科目表と同じです。

原価コード構造は科目表タイプ別に構成します。科目表タイプは、ユーザー定義コード(UDC) (51/TC)です。原価コード構造を作成するには、原価コードおよび原価タイプを科目表タイプに追加します。科目表タイプは、原価構造を作業または別の科目表タイプにコピーする元のテンプレートとして使用されます。たとえば、プロジェクトの研究開発に関連する原価をトラッキングする科目表タイプと、製品の製造原価をトラッキングする別の科目表タイプがある場合があります。新しい科目表タイプ用の新しい原価コード構造を作成するのではなく、別の科目表タイプから原価コード構造をコピーし、それを必要に応じて変更することが可能です。

### 原価コード構造の計画

原価コード構造を設定するときは、次の事項を考慮してください。

- 原価コード情報を使用するユーザー
- 原価コード構造を使用するレポートおよび予測の目的
- 原価コード構造の最も有効な構成方法

作業に対して同じ原価コード構造を使用する場合でも、目的や要件はユーザー・グループによって異なる場合があります。たとえば、原価コード構造には次のようなユーザーが考えられます。

- 作業の各フェーズで行われている業務に関心がある技術者
- 作業の各勘定科目に計上された原価に関心がある会計担当者
- 行われている業務と各勘定科目に計上された原価の両方に関心がある管理者

有効な原価コード構造とは、それを使用する全グループのニーズを満たす構造を意味します。

原価コードを作成するときは、構造をさらに詳細に定義し、レポートの作成目的を満たすコードを組み込むことができます。たとえば、次の基準に基づいて、8文字の原価コードを構成できます。

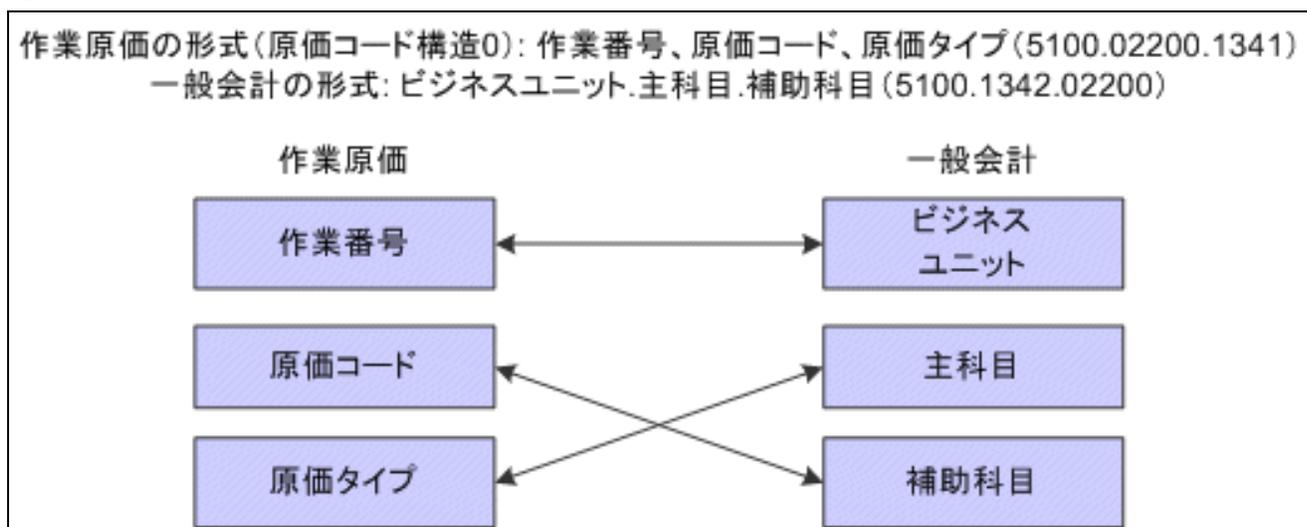
- 最初の3文字は、作業内の特定の作業項目を表します。
- 次の3文字は、作業項目内の特定のタイプのタスクを表します。
- 最後の2文字は、作業が行われている物理的な場所を表します。

原価コード構造により、プロジェクト、作業およびタスク間のリンクが確立され、それらの関係を簡単に認識できる必要があります。この目的を果たすためには、プロジェクトの全体的なレベルから、個々の作業および勘定科目へと降りていく階層となる原価コード構造を構成します。

### 原価コード構造の構成要素

原価コード構造は、科目表タイプ別に、原価コードと原価タイプで構成されます。原価コード構造を各作業に追加し、関連するタスクおよび予算をトラッキングします。原価コード構造は科目表タイプと同様に構成できますが、主科目と補助科目の関係は逆にします。

次の図に、JD Edwards EnterpriseOne作業原価とJD Edwards EnterpriseOne一般会計の勘定科目構造を示します。



原価コード構造

原価コードにより、作業内の特定のタスクが識別されます。原価タイプにより、活動内の特定の原価(労務費や資材費など)が識別されます。JD Edwards EnterpriseOne作業原価では、原価コードを使用してタスクを示し、原価タイプを使用してタスクに関連する原価を示します。

たとえば、特定の製品の使用方法に関するドキュメンテーションを生成する原価をトラッキングする場合、ドキュメンテーションの原価構造を作成してから、次のように各活動に原価タイプを追加できます。

- 作業(121): DVDプレーヤー
- 原価コード(1021): ドキュメンテーション
- 原価タイプ(001): 調査
- 原価タイプ(002): 執筆
- 原価タイプ(003): テスト
- 原価タイプ(004): 編集
- 原価タイプ(005): 印刷

原価コードと原価タイプの関係を作成することで、同じ活動の原価を複数の作業にわたってトラッキングできます。

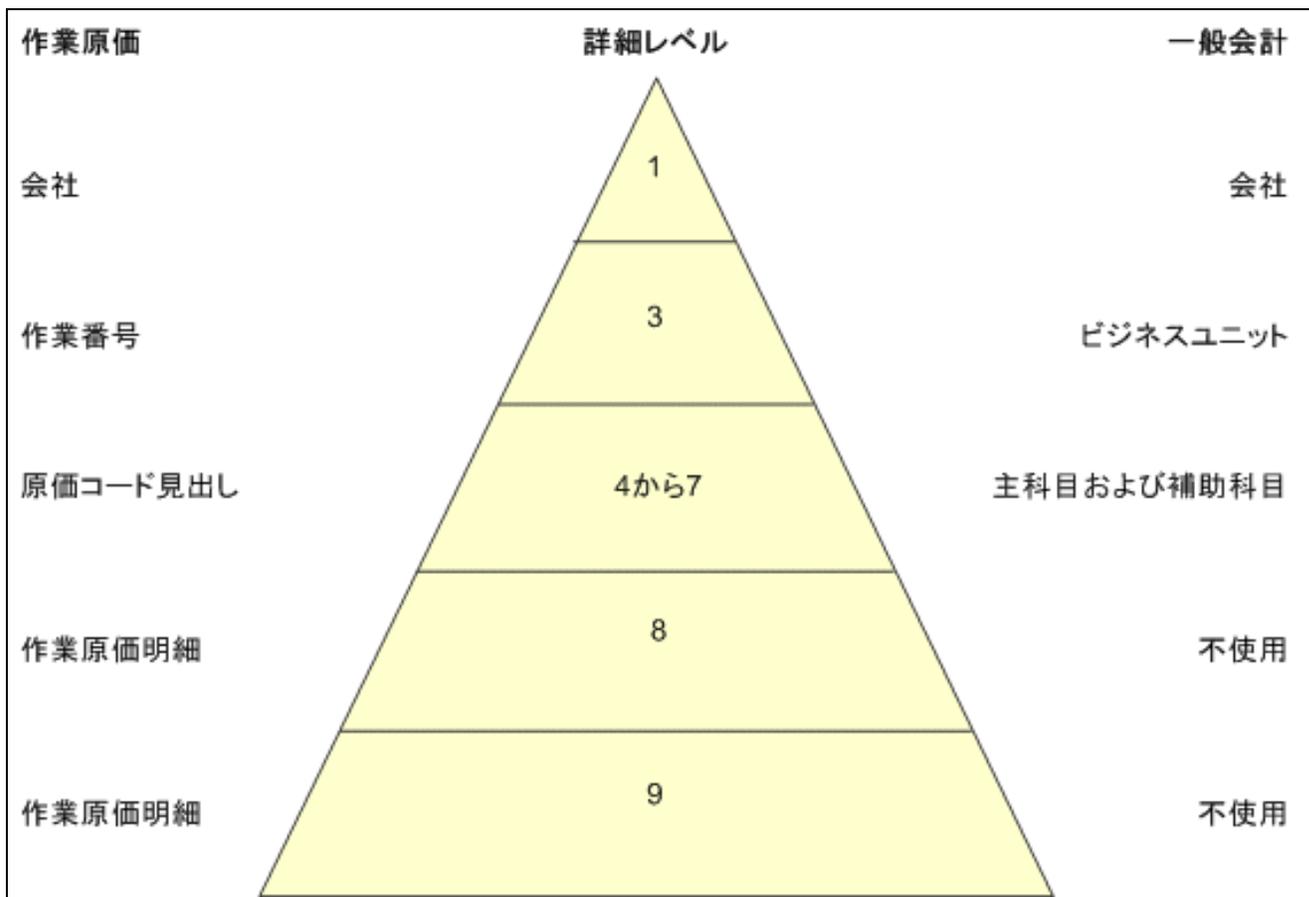
### 見出しおよび明細勘定科目

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の勘定科目は、見出し勘定科目と明細勘定科目に分類されます。これらの勘定科目は原価コード構造内で使用され、集計された作業原価情報の様々な詳細レベルを表示します。作業番号と原価コードのみを持つ作業原価勘定科目が、見出し勘定科目です。作業番号、原価コードおよび原価タイプを持つ作業原価勘定科目が、明細勘定科目です。原価コード見出しを使用して、関連する明細勘定科目を1つのタスクにグループ化できます。また、主要原価コード見出しを定義して、関連する原価コード構造を詳細レベルに基づきグループ化することも可能です。

### 詳細レベル

詳細レベルをJD Edwards EnterpriseOne 作業原価内の各勘定科目に割り当て、作業に設定する原価コード構造に関連する勘定科目の階層を確立します。詳細レベルにより、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システム内の集計勘定科目と明細勘定科目が識別され、フォームおよびレポートの勘定科目合計が制御されます。詳細レベルの番号は1から9までで、最も一般的なレベルが1、最も詳細なレベルが9になります。

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価とJD Edwards EnterpriseOne 一般会計の詳細レベルを比較しています。



詳細レベル

通常、詳細レベルは次の表に示すように割り当てます。

勘定科目詳細レベル	説明
レベル1	JD Edwards EnterpriseOne 作業原価と JD Edwards EnterpriseOne 一般会計で会社用に予約されています。
レベル2	JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では作業用、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計ではビジネスユニット用に予約されています。
レベル4から7	JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では原価コード見出し用、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計では主科目および補助科目用に予約されています。JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、原価コード見出しは原価タイプを持たず、レベルは4から7になります。このような勘定科目は、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計の同じ詳細レベルの勘定科目とは関係ありません。多数の見出し勘定科目が必要ない場合は、詳細レベルをスキップできます。
レベル8と9	JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の原価コードおよび原価タイプ用に予約されています。このレベルは、作業原価明細にのみ使用してください。

**注意:** 詳細レベル8および9は、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価用に予約することをお勧めします。ただし、詳細レベル8および9を JD Edwards EnterpriseOne 一般会計で使用する必要がある場合は、作業原価コードが設定された詳細レベルで財務レポートを作成しないでください。

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、すべての詳細レベルを使用する必要はありません。値が一貫しているかぎり、レベルをスキップすることが可能です。

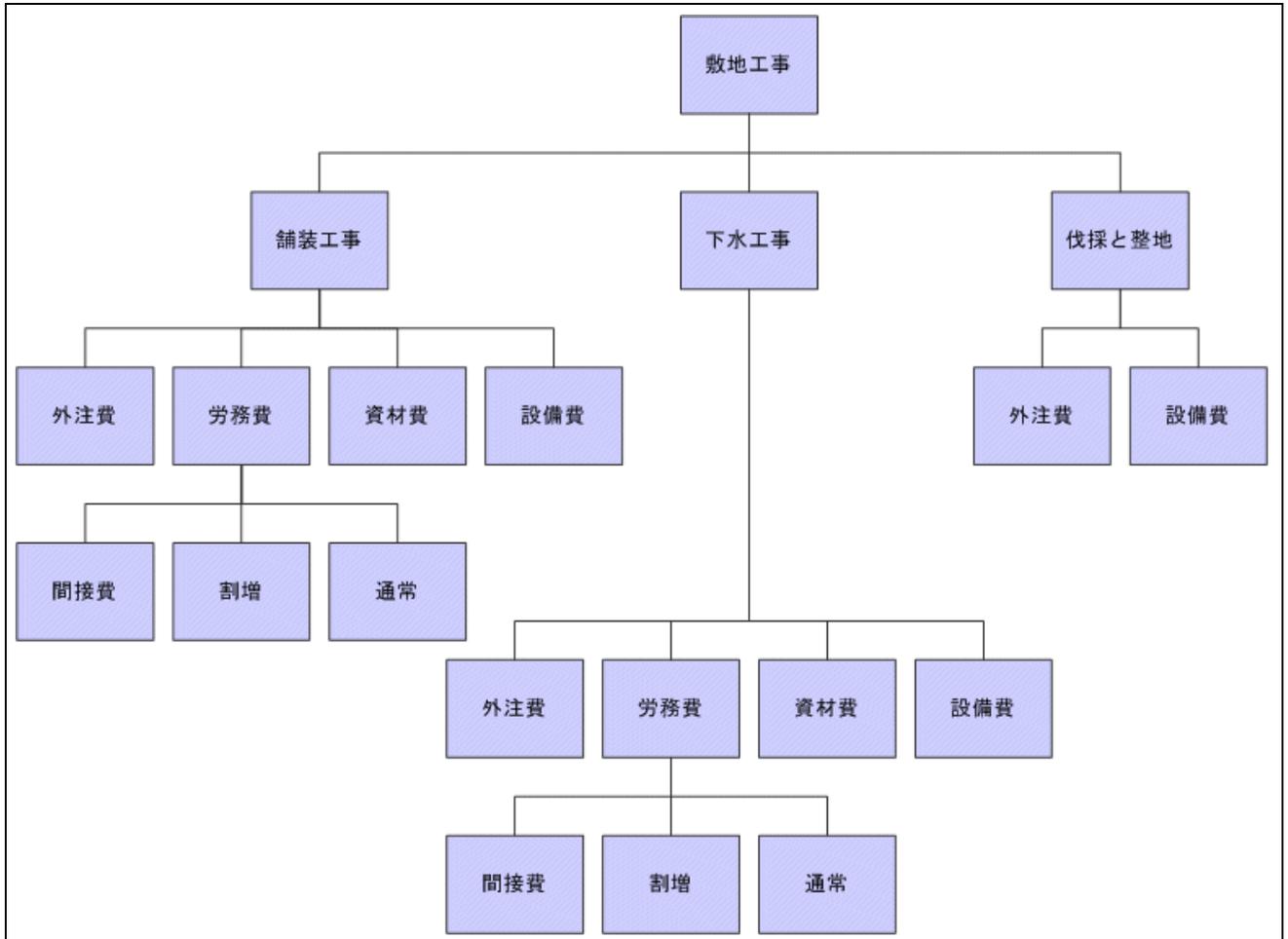
### 例: 原価コード構造

大規模な地方空港の建設を請け負ったとします。空港がプロジェクトで、中央ターミナル・ビルの建設、自動手荷物システム、空港周辺道路などのプロジェクト内の各サブプロジェクトが個別の作業になります。各作業に関連する勘定科目用の原価コード構造を設定する必要があります。

中央ターミナル・ビルの作業は、次の作業項目に分割でき、この各項目を様々なレベルのタスクに分割できます。

- 敷地工事
- 電気工事
- コンクリート工事

次の図は、敷地工事の作業項目に関連するタスクを示しています。



敷地工事関連タスク

勘定科目に組み込む構造を決定してから、作業番号、原価コードおよび原価タイプを割り当てます。次の各表に、割り当てる番号の例を示します。

作業

作業	作業番号
中央ターミナル・ビル	5001

原価コード

作業項目とタスク	原価コード	詳細レベル
敷地工事	02000	3
伐採と整地	02200	4
下水工事	02600	4
舗装工事	02800	4

## 原価タイプ

特定勘定科目	原価タイプ	詳細レベル
労務費	1340	8
通常労務費	1341	9
割増労務費	1342	9
間接費	1343	9
資材費	1350	8
設備費	1355	8
外注費	1360	8

次に、敷地工事の作業項目の原価コード構造を次のように設定できます。

勘定科目コード	記述	詳細レベル
5000	地方空港プロジェクト	1
5001	中央ターミナル・ビル	3
5001.02000	敷地工事	4
5001.02200	伐採と整地	5
5001.02200.1355	設備費	8
5001.02200.1360	外注費	8
5001.02600	下水工事	4
5001.02600.1340	労務費	8
5001.02600.1341	通常	9
5001.02600.1342	割増	9
5001.02600.1343	間接費	9
5001.02600.1350	資材費	8
5001.02600.1355	設備費	8
5001.02600.1360	外注費	8
5001.02800	舗装工事	4

勘定科目コード	記述	詳細レベル
5001.02800.1340	労務費	8
5001.02800.1341	通常	9
5001.02800.1342	割増	9
5001.02800.1343	間接費	9
5001.02800.1350	資材費	8
5001.02800.1355	設備費	8
5001.02800.1360	外注費	8

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価では、次のテーブルを JD Edwards EnterpriseOne 一般会計と共有しています。

テーブル	説明
ビジネスユニット・マスター (F0006)	作業マスター情報を保存します。
勘定科目マスター (F0901)	原価コード構造の勘定科目情報を保存します。
取引明細 (F0911)	取引の詳細な監査証跡を提供し、勘定科目残高の金額と数量に対する改訂をトラッキングできます。
勘定残高 (F0902)	原価コード構造の各勘定科目に関連付けられている各種の元帳に関する勘定残高明細を保存します。

## この章で使用する共通フィールド

### 科目表タイプ

モデル勘定科目表を識別します。各タイプの作業や標準セクションの作業に別々のモデルを設定できます。ブランクの科目表タイプは、最もよく使用されるモデルの識別に使用できます。科目表タイプを使用して、作業または他の科目表タイプの原価コード構造を作成できます。

## 科目表タイプの作成

この項では、科目表タイプの概要と、次の方法について説明します。科目表タイプに基づき、多数の原価コード構造を作成できます。

- 作業原価コード構造 (P51091) の処理オプションの設定
- 科目表タイプへの原価コード構造の追加

## 科目表タイプについて

科目表タイプとは、定義する原価コードおよび原価タイプの階層のことです。複数の作業タイプがある場合は、各作業タイプに対して1つずつ、複数の科目表タイプを設定できます。科目表タイプは、作業タイプに対するモデル勘定科目構造であり、科目表タイプUDC(51/TC)により定義されます。科目表タイプ(モデル原価構造)を作成するには、科目表タイプに関連するプロジェクトに使用する原価コード見出しおよび原価タイプ明細勘定科目を追加する必要があります。たとえば、景観整備プロジェクトの管理に関連する全勘定科目が含まれている景観整備用の科目表タイプや、作業現場への電気敷設に関連する全勘定科目が含まれている電気工事用の科目表タイプなどを設定できます。

科目表タイプの会計情報を入力した後は、その科目表タイプを使用して、他の科目表タイプの作成や、作業マスター・レコードへの科目表(全勘定科目または選択範囲の勘定科目)のコピーを簡単に実行できます。たとえば、10階建てのオフィス・ビルの建設を請け負ったと仮定します。この場合、オフィス・ビルがプロジェクトであり、各階が個別の作業になります。さらに、各階が3種類の間取り図のいずれかに基づいていると仮定します。各間取り図に対し、科目表タイプを設定できます。その後、各階の作業マスター・レコードを作成する際は、該当する間取り図の原価コード構造を各作業にコピーできます。

科目表タイプを設定し、勘定科目情報を作業にコピーすることで、勘定科目構造の一貫性を保つことができます。科目表タイプには、予算情報は含まれません。

**注意:** 最もよく使用する原価コード構造情報に対しては、または、すべての原価コード構造を含む科目表タイプとしては、ブランクの科目表タイプを定義してください。

## 事前設定

この項のサブタスクを実行する前に、次の作業を行う必要があります。

- 使用する科目表タイプ・コード(51/TC)を設定します。
- 「勘定科目表タイプの設定」フォームが表示されるよう、「作業原価選択ボタン」処理オプション(「バージョン・エグジット」タブ上)を2に設定します。

## 科目表タイプへの原価コード構造の追加に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
原価コード構造の処理	W51091G	「作業原価セットアップ」(G5141)、「作業原価コード構造」	原価コード構造を追加または確認する科目表タイプを選択します。
勘定科目表タイプの設定	W51091I	「原価コード構造の処理」フォームで科目表タイプを選択して、「ロー」メニューから「勘定科目表タイプの設定」を選択します。	科目表タイプに原価コード構造を追加します。 「原価コード」、「原価タイプ」および「記述」フィールドに入力を行い、原価構造(勘定科目情報)を科目表タイプに追加します。

## 作業原価コード構造(P51091)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 表示オプション

### 1. 原価タイプに使用するデフォルトの文字数(5文字まで)

「原価タイプ」処理オプションに入力した値の開始部分から切り捨てる文字数(5文字まで)を指定します。切り捨てた文字は、フォームには表示されません。たとえば、6文字の原価タイプが複数あり、その全原価タイプで最初の3文字が022の場合、この処理オプションで「022」と入力すると、この数字がフォームで表示されなくなります。逆に、新しい勘定科目を作業に追加する場合、入力する原価タイプに、この処理オプションに入力した数字が自動的に付加されます。たとえば、原価タイプが897の新しい勘定科目を追加し、この処理オプションに「022」と入力すると、原価タイプとして022897が勘定科目マスター(F0901)に保存されます。

## 処理オプション

### 1. 予算金額元帳タイプ

原価コード構造を別の作業からコピーする際に作業に割り当てるデフォルトの元帳タイプを指定し、予算をコピーするにはチェックボックスを選択します。この処理オプションを空白にすると、JAが割り当てられます。

## バージョン・エグジット

### 1. 作業原価選択ボタン

「原価コード構造の処理」フォームで科目表タイプを選択したときに表示されるフォームを指定します。値は次のとおりです。

空白または1: 「原価コードのコピー」フォーム

2: 「勘定科目表タイプの設定」フォーム

### 2. 複数原価コードの設定バージョン(P51092)

「フォーム」メニューから「複数原価コード設定の処理」を選択したときに使用する複数原価コードの設定プログラム(P51092)のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

## 科目表タイプへの原価コード構造の追加

「勘定科目表タイプの設定」フォームにアクセスします。

### 労災補償

従業員補償のレポート上の分類に関連付けるため、勘定科目の従業員補償コードを識別するUDCテーブル00/Wの値を入力します。

---

**注意:** 保険料が作業のタイプではなく従業員の作業分類に関連する場合は、このフィールドを空白にします。この場合、保険料は従業員情報から取り込まれます。

---

### 料金コード

DY(日次)、MO(月次)、WK(週次)などの請求頻度を示すUDC(00/RC)を入力します。設備品目1つに対して複数の請求頻度を設定できます。

このフィールドを空白にした場合、有効な請求頻度は次の順序で検索されます。

#### 1. 勘定科目マスター(F0901)

このテーブルには請求頻度に関する最も詳細な情報が含まれます。1つのジョブには複数の請求頻度を割り当てることができます。たとえば、複数の設備稼働条件に対して別個の請求頻度を設定できます。

	<p>2. ビジネスユニット・マスター (F0006)</p> <p>このテーブルには、勘定科目マスターよりも大まかな請求頻度情報が含まれます。このテーブルに基づいて各作業に設定できる請求頻度は1種類のみです。</p> <p>3. 賃貸規則 (F1302)</p> <p>このテーブルには請求頻度に関する最も単純な情報が含まれます。このテーブルの情報は、テーブル設定時に定義した検索基準に基づいて検索されます。</p>
<b>請求可能</b>	<p>JD Edwards EnterpriseOne 一般会計の勘定科目が請求可能かどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランクまたはN: 請求不可</p> <p>Y: 請求可能</p> <p>1: 請求書作成のみの対象</p> <p>2: 収益認識のみの対象</p> <p>4: 原価のみの対象</p> <hr/> <p><b>注意:</b> コードY、1、2および4は、JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理にのみ有効です。</p> <hr/>
<b>請求項目</b>	勘定科目マスター (F0901) に関連する請求項目コード (UDCテーブル09/01) を入力します。このコードは、勘定科目を柔軟にマッピングし、選択した情報をレポートに印刷するために使用します。
<b>エリアコード</b>	勘定科目マスター (F0901) に関連する請求項目コード (UDCテーブル09/02) を入力します。このコードは、勘定科目を柔軟にマッピングし、選択した情報をレポートに印刷するために使用します。
<b>場所コード</b>	勘定科目マスター (F0901) に関連する請求項目コード (UDCテーブル09/03) を入力します。このコードは、勘定科目を柔軟にマッピングし、選択した情報をレポートに印刷するために使用します。

## 原価コード構造の作成

この項では、原価コード構造の作成の概要と、原価コード構造をコピーする方法について説明します。

### 原価コード構造の作成について

関連する勘定科目情報を使用して最初の科目表タイプを作成した後は、それを使用して他の原価コード構造を作成できます。原価コード構造の作成には、次のいずれかの方法を使用します。

- 科目表タイプの原価コード構造を別の科目表タイプにコピーします。
- 科目表タイプの原価コード構造を作業にコピーします。
- 作業の原価コード構造を新しい作業にコピーします。
- 作業の原価コード構造を作業タイプにコピーします。

原価コード構造に対する変更を作業タイプ内の全作業にコピーする場合は、この方法を使用します。たとえば、新しい原価コードを科目表および作業に追加するとします。新しい構造を各作業に個別に手動でコピーするかわりに、指定の作業タイプが割り当てられている全作業に原価コード構造をコピーできます。

- 既存の原価コードを作業内の新しい原価コードにコピーします。

たとえば、原価コード構造が原価コード02200に対して設定されている場合、関連する原価タイプを新しい原価コード(03200など)にコピーできます。新しい原価コードを既存の原価コードから作成するには、同じ科目表へのコピー(「科目表を科目表にコピー」を使用)または同じ作業へのコピー(「作業から作業へコピー」を使用)を行います。

原価コード構造のコピーに使用できるオプションは、アクセスする最初の「検索/表示」フォームによって異なります。

- 原価コード構造を科目表タイプからコピーするには、「原価コード構造の処理」フォームにアクセスする必要があります。このフォームでは、すべての科目表タイプが表示されます。科目表タイプから別の科目表タイプまたは作業へは、全勘定科目または選択範囲の勘定科目をコピーできます。
- 原価コード構造を作業からコピーするには、「作業マスターの処理」フォームにアクセスする必要があります。このフォームでは、すべての作業が表示されます。作業から別の作業、作業タイプまたは科目表タイプへは、全勘定科目または選択範囲の勘定科目をコピーできます。

---

**注意:** 原価コードを同じ作業または科目表内の別の原価コードにコピーするには、作業番号または科目表タイプを両方の「作業」フィールドに入力します。2つ目の「作業」フィールドが未入力の場合、フォームがリフレッシュされ、「コピー元」および「コピー先」原価コード・フィールドのみが表示されます。

---

- 選択した勘定科目を作業、作業タイプまたは科目表タイプにコピーするには、原価コード構造を表示するフォーム(「勘定科目表タイプの設定」や「当初予算/勘定科目マスター順序」など)にアクセスする必要があります。
  - 「勘定科目表タイプの設定」フォームにアクセスした場合、コピーする勘定科目を選択して「ロー」メニューから「勘定科目のコピー」を選択すると、選択した勘定科目のコピー先の科目表タイプを指定するフォームが表示されます。
  - 「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームにアクセスした場合は、勘定科目が作業に関連付けられているため、選択した勘定科目を別の作業にコピーできます。

新しい科目表タイプの原価コード構造を作成した後は、「勘定科目表タイプの設定」フォームを使用して勘定科目を追加および削除できます。作業の原価コード構造を作成した後は、「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームを使用して勘定科目情報を変更し、新しい作業の要件を満たすことができます。

作業原価勘定科目情報(原価コードおよび原価タイプ)は勘定科目マスター(F0901)に保存されます。科目表タイプの原価コード構造情報は科目表タイプ・マスター(F5109)に保存されます。

---

**重要:** 原価が適用済の原価コード構造を変更する場合は、BU/OBJ/SUBの一括更新(F0901からF0902/F0911)プログラム(R09806)を実行してシステムの整合性を維持する必要があります。

---

### 既存の作業からの予算情報のコピー

現行年度の予算情報が関連付けられている原価コード構造から勘定科目をコピーする場合、勘定科目に関連付けられている予算情報もコピーできます。新しい作業の原価コード構造を作成する場合にのみ、予算情報をコピーできます。既存の予算情報を新しい作業にコピーするには、次のいずれかの方法を使用できます。

コピー方法	説明
改訂予算のコピー	当初予算、期間残高および繰越残高情報が新しい作業にコピーされます。
当初予算のコピー	当初予算のみが新しい作業にコピーされます。
改訂予算の当初予算へのコピー	当初予算、期間残高および繰越残高が合計され、計算結果が新しい作業の当初予算として更新されます。

次の条件が満たされた場合にのみ、予算情報をコピーできます。

- コピー元の作業に現行年度の予算が含まれている場合。
- 作業原価コード構造プログラム (P51091) の「予算金額元帳タイプ」処理オプションに有効な元帳タイプが含まれている場合。既存の作業元帳の予算情報が、処理オプションに入力されている元帳タイプにコピーされます。
- P51091 の「予算金額元帳タイプ」処理オプションに入力されている予算元帳タイプが元帳タイプ・マスターの設定プログラム (P0025) に設定されていて、「当初予算の次年度繰越」オプションが選択されている場合。

## 原価コード構造の変更

原価コード構造を作成した後は、勘定科目を追加および削除することでその構造を変更できます。勘定科目を追加するときは、勘定科目情報を手動で入力するか、原価コード範囲を同じ作業の別の原価コード範囲にコピーできます。

選択した原価コードに関する勘定科目マスター (F0901) または科目表タイプ・マスター (F5109) の情報が新しい原価コードにコピーされます。原価コードを作業内の新しい原価コードにコピーする際は、予算情報をコピーするオプションは使用できません。

作業に取引が関連付けられていない場合、作業から勘定科目を削除できます。勘定科目に取引が関連付けられている場合、つまり取引明細テーブル (F0911) に情報が存在する場合は、勘定科目を削除できません。勘定科目取引を無効にし、その勘定科目情報が使用されないようにすることができますが、その勘定科目および関連情報は、作業レコードに残ります。

## 事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に次の作業を行う必要があります。

- 科目表タイプの原価コード構造を設定します。
- 作業のマスター・レコードを作成します。

予算情報が関連付けられている勘定科目を削除する場合は、予算情報を最初に削除します。

### 関連項目:

[第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価の元帳タイプの設定」、19 ページ](#)

## 原価コード構造のコピーに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
原価コード構造の処理	W51091G	<ul style="list-style-type: none"> <li>「作業および予算の設定」(G5111)、「選択したマスター・コードのコピー」</li> <li>「作業原価セットアップ」(G5141)、「作業原価コード構造」</li> </ul>	科目表タイプを確認および選択します。
原価コードのコピー	W51091J	「原価コード構造の処理」で科目表タイプを選択し、「ロー」メニューから「科目表を科目表にコピー」または「科目表を作業にコピー」を選択します。	科目表タイプの原価コード構造を別の科目表タイプまたは別の作業にコピーします。選択した「ロー」メニューに応じて、タスクに適したフィールドが表示されます。指定した原価コードをコピーして、同じ科目表に新しい原価コードを作成することもできます。指定した原価コードに関連するすべての原価タイプがコピーされます。
勘定科目表タイプの設定	W51091I	「原価コード構造の処理」で科目表タイプを選択します。処理オプションの設定によっては、「ロー」メニューから「勘定科目表タイプ設定」を選択することが必要な場合があります。	原価コード構造を確認および変更します。
勘定科目のコピー	W51091A	コピーする各原価コードを選択して、「ロー」メニューから「勘定科目のコピー」を選択します。	選択した原価コードを科目表タイプから別の科目表タイプにコピーします。選択した勘定科目のコピー先の科目表タイプを入力し、「更新」チェックボックスを選択します。
作業マスターの処理	W51006R	「作業および予算の設定」(G5111)、「類似作業のコピー」	作業を確認および選択します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
原価コードのコピー	W51091J	「作業マスターの処理」で作業を選択し、「ロー」メニューから「勘定科目の追加」を選択し、「ロー」メニューから「作業を勘定科目表にコピー」、「作業から作業へコピー」または「作業を作業タイプにコピー」を選択します。	作業の原価コード構造を別の作業、作業タイプまたは科目表タイプにコピーします。選択した「ロー」メニューに応じて、タスクに適したフィールドが表示されます。作業の原価コード構造全体を別の作業にコピーすることや、原価コードおよび原価タイプの範囲を指定してコピーすること、または勘定科目詳細レベルに基づいてコピーすることが可能です。指定した原価コードをコピーして、同じ作業に新しい原価コードを作成することもできます。指定した原価コードに関連するすべての原価タイプがコピーされます。
当初予算/勘定科目マスター順序	W510121B	「作業マスターの処理」で作業を選択します。処理オプションの設定によっては、フォームにアクセスするには、「ロー」メニューから「作業予算」の「当初予算」を選択することが必要な場合があります。	作業の原価コード構造を確認および変更します。
勘定科目のコピー	W51091A	コピーする各原価コードを選択して、「ロー」メニューから「勘定科目のコピー」を選択します。	選択した原価コードを作業から別の作業にコピーします。選択した勘定科目のコピー先の作業を入力し、「更新」チェックボックスを選択します。

## 原価コード構造のコピー

選択したコピー機能に応じて、タスクの完了に必要なフィールドが表示されます。

**改訂予算をコピーする、当初予算をコピーする、改訂予算を当初予算にコピーする**

いずれかのチェックボックスを選択し、予算情報を関連する勘定科目とともにコピーするかどうかを示します。

改訂予算をコピーする: 既存の作業の改訂予算をコピーします。新しい勘定科目の当初予算、期間残高および繰越残高は、既存の作業の現在の勘定科目情報と同じになります。

当初予算をコピーする: 既存の作業の当初予算を新しい作業にコピーします。

改訂予算を当初予算にコピーする: 当初予算、期間残高および繰越残高を合計し、計算結果を新しい勘定科目の当初予算にコピーします。

**関連作業予算をコピーしますか。**

原価コード構造情報を作業または作業タイプにコピーするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、「予算のコピー」グループ・ボックスがフォームに表示されます。

---

## 複数の原価コード構造の同時作成

この項では、複数の原価コード構造の作成の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 複数原価コードの設定 (P51092) の処理オプションの設定
- 複数の原価コード構造の設定
- 複数の原価コード構造の作成
- 複数原価コード作業の作成 (R51092) の処理オプションの設定

### 複数の原価コード構造の作成について

多数の類似した作業を作成する必要がある場合は、原価構造を各作業に個別にコピーするかわりに、原価コード構造をバージョンとして設定した後でプログラムを実行することで、その構造を複数の作業にコピーできます。原価コード・バージョンを設定するには複数原価コードの設定プログラム (P51092) を使用し、バージョンで指定した作業の原価コード構造を作成するには複数原価コード作業の作成レポート (R51092) を実行します。

---

**注意:** 情報は作業からではなく科目表タイプからコピーするため、この機能を使用する場合は、予算金額はコピーできません。

---

P51092プログラムにアクセスすると、UDC 51/VSで指定したバージョンのリストが表示されます。バージョンを選択すると、コピーする原価コード基準を入力する詳細フォームが表示されます。1つの科目表タイプまたは複数の科目表タイプから、1つまたは多数の原価コードを選択できます。新しい作業に同じ原価コード番号を割り当てることや、新しい作業には別の原価コードを使用すると指定することが可能です。任意の数の科目表タイプから、必要な数の原価コードを入力できます。

あるバージョンに対して基準を入力した後は、それを別のバージョンにコピーして必要に応じて変更できます。たとえば、建設プロジェクトと管理プロジェクトに別々のバージョンを使用できます。原価コード構造を作成する必要があるどの作業タイプに対しても、バージョンを作成してそれをコピーすることで、複数の作業に対して原価コード構造を同時に作成できます。バージョンおよび詳細基準は複数原価コードの設定テーブル (F51092) に保存されます。

バージョンの作成後、R51092レポート・プログラムを実行し、各作業の原価コード構造を生成します。このプログラムは、テスト・モードでも最終モードでも実行できます。最終モードでこのプログラムを実行すると、作業に対して入力した原価コード構造により勘定科目マスター (F0901) が更新されます。

### 事前設定

この項のタスクを実行する前に、原価コード構造情報の追加先のバージョン名をUDC 51/VSに設定する必要があります。

## 複数の原価コード構造バージョンの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
複数原価コード設定バージョンの処理	W51092A	「作業および予算の設定」(G5111)、「複数原価コードの設定」	コピーまたは変更するバージョンを確認および選択します。
複数原価コード設定バージョン詳細	W51092B	「複数原価コード設定バージョンの処理」フォームでバージョンを選択します。	複数の原価コード構造を設定します。 1つ以上の科目表タイプから1つ以上の作業にコピーする情報を追加します。
複数原価コード設定バージョンのコピー	W51092C	バージョンを選択し、「ロー」メニューから「バージョンのコピー」を選択します。	バージョンの原価コード情報を別のバージョンにコピーします。

## 複数原価コードの設定 (P51092) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

この処理オプションを使用して、「ロー」、「フォーム」および「レポート」メニューからアクセスできるプログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

1. 複数原価コード作業の作成 (R51092) のバージョン 「レポート」メニューから「原価コードの作成」を選択する際に実行される、複数原価コード作業の作成プログラム (R51092) のバージョンを指定します。
2. 作業マスターの処理 (P510006) のバージョン 「ロー」または「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、作業原価マスターの改訂プログラム (P51006) のバージョンを指定します。

## 複数の原価コード構造の設定

「複数原価コード設定バージョン詳細」フォームにアクセスします。

**科目表原価コード** 指定した科目表タイプから指定した作業にコピーする原価コードを入力します。指定した原価コードのすべての原価タイプが作業にコピーされます。

**作業原価コード** 新しい作業に勘定科目をコピーする際に、原価コード勘定科目を変更します。このフィールドをブランクにすると、科目表タイプに入力したのと同じ原価コードが使用されます。たとえば、科目表原価コードとして「02200」と入力した場合に、勘定科目を04100として作成するには、このフィールドに「04100」と入力します。勘定科目を02200のままにする場合は、このフィールドをブランクにします。

**記述** コピーする原価コードの見出し勘定科目に関する記述を入力します。このフィールドをブランクにすると、見出し記述が科目表タイプから新しい作業にコピーされます。

## 複数の原価コード構造の作成

「作業および予算の設定」(G5111)の「複数原価コード作業の作成」を選択します。

## 複数原価コード作業の作成(R51092)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

この処理オプションを使用して、複数原価コード作業の作成プログラムの実行モードと、バージョンを削除するかどうかを指定します。

#### 1. 実行モード

このプログラムの実行モードを指定します。値は次のとおりです。

空白: テスト・モード。勘定科目マスター・レコードは作成されません。このプログラムは、コピーされる勘定科目数を確認するために、最終モードで実行する前にテスト・モードで実行してください。

1: 最終モード。勘定科目マスター・レコードが勘定科目マスター(F0901)に作成されます。

#### 2. 複数原価コード設定バージョンの削除

複数原価コード作業の作成レポート(R51092)による処理後に複数原価コードの設定テーブル(F51092)の選択バージョンを削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 削除しない。

1: 削除する。

---

## 代替順序の割当

この項では、代替順序の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 代替順序の手動割当
- カテゴリ・コードのマッピングによる代替順序の作成
- カテゴリ・コードの一括更新プログラム(R51807)の実行
- カテゴリ・コードの一括更新(R51807)の処理オプションの設定

## 代替順序について

作業を照会すると、原価コード構造は自動的に英数字の順で表示されます。しかし、ビジネス・プロセスによっては、原価構造を別の順序で表示することが望ましい場合があります。代替順序を使用する理由は次のとおりです。

- 作業の特定の領域を識別する。
- 監督官庁の指定する原価コード構造ガイドラインに従う。
- 親会社の要件に従う。
- サード・パーティの要件に従う。

代替順序を作成すると、当初の原価コード構造を維持したまま、別の方法で勘定科目を表示できます。代替順序を手動で作成するには、「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームの特定のフィールドに値を割り当てます。代替順序を自動で作成するには、カテゴリ・コード値を更新する文字を既存の原価コードからマッピングします。

代替順序を作成するためにどのような方法で値を割り当てても、代替順序を使用して原価コード構造を再表示できるのは、作業原価照会プログラム(オンラインと印刷の両方)を使用している場合のみです。

参照: [第 6 章、「作業情報の照会」、73ページ](#)

勘定科目マスター(F0901)は、代替順序用に追加または更新した値で更新されます。

### 代替順序の手動作成

代替順序を手動で作成するには、「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームの次の1つ以上のフィールドを更新します。

- 代替原価コード
- 請求項目(R001)
- 地域コード(R002)
- 場所コード(R003)

---

**注意:** カテゴリ・コードはユーザーが定義するため、フィールドには別の記述が割り当てられている場合があります。

---

### 代替順序の自動作成

作業に割り当てた原価コードに意味を持たせている場合は、原価コードから意味のある文字を抽出し、代替順序として使用できるカテゴリ・コードを更新できます。代替順序の自動作成は、新しい勘定科目を作業に追加(または作業をコピー)する際、または原価コードを作業に割り当てた後に実行できます。

カテゴリ・コードを自動的に更新するには、更新する文字を「追加作業マスター」フォームまたはカテゴリ・コードの一括更新プログラム(R51807)の処理オプションを使用してマッピングする必要があります。マッピング・プロセスは、選択する方法にかかわらず同じです。「追加作業マスター」フォームを使用すると、勘定科目を作業に追加または作業を別の作業にコピーするときに、カテゴリ・コード値を更新できます。カテゴリ・コードの一括更新プログラムを使用すると、1つ以上の作業に対し、既存の原価コード構造のカテゴリ・コードを更新できます。

原価コードの長さは、最大8文字です。この8桁のマッピング用に、3つのカテゴリ・コード・フィールドがあります。文字をマッピングするには、各カテゴリ・コードで更新する桁を指定します。文字をスキップするには、「+」記号を入力します。文字は昇順で入力する必要があります。たとえば、「234」と入力すると、原価コードの2桁目、3桁目および4桁目がコピーされます。「2+4」と入力すると、2桁目と4桁目がコピーされません。「243」という順序の指定は無効になります。

次の表に、原価コードの例と、マッピングの結果のカテゴリ・コード値を示します。

- カテゴリ・コード1: 1 + 3
- カテゴリ・コード2: 4 5 +
- カテゴリ・コード3: + + 6

原価コード	カテゴリ・コード1 (R001)	カテゴリ・コード2 (R002)	カテゴリ・コード3 (R003)
440101	40	10	1
442201	42	20	1
302235	32	23	5
300135	30	13	5
443201	43	20	1

カテゴリ・コード値をいつ更新するかに応じて、マッピングの設定に「追加作業マスター」またはカテゴリ・コードの一括更新プログラムを使用します。

カテゴリ・コードの一括更新プログラムは、対応するフィールドに入力して代替原価コード値を割り当てる場合にも使用できます。

**注意:** 一括更新プログラムは、カテゴリ・コード値の更新を必要な頻度で実行できます。このプログラムにより、既存の値が上書きされます。

## 事前設定

この項のタスクを実行する前に、当初予算プログラム(P510121)の「勘定科目カテゴリ・コードの編集」処理オプションの設定を確認する必要があります。この処理オプションが空白に設定されている場合、更新するカテゴリ・コードのUDC値を設定する必要があります。この処理オプションが1に設定されている場合、入力する値は検証されません。

## 代替順序の割当に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業マスターの処理	W51006R	「作業および予算の設定」(G5111)、「勘定科目マスター順序」	作業を確認および選択します。
当初予算/勘定科目マスター順序	W510121A	「作業マスターの処理」フォームで作業を選択します。	代替順序を手動で割り当てます。
追加作業マスター	W51006X	「作業マスターの処理」フォームで作業を選択し、「ロー」メニューから「作業マスター情報」の「追加作業」を選択します。	カテゴリ・コードをマッピングし、代替順序を作成します。 原価コードから取得して「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームの対応するカテゴリ・コードに更新する文字を指定します。

## 代替順序の手動割当

「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームにアクセスします。

<b>代替原価タイプ</b>	代替主科目を入力します。これは、法定勘定科目表、親会社の要件またはサード・パーティのコーディング体系に応じるために使用される場合があります。
<b>請求項目</b>	勘定科目マスター(F0901)に関連する請求項目コード(UDCテーブル09/01)を入力します。このコードは、勘定科目を柔軟にマッピングし、選択した情報をレポートに印刷するために使用します。
<b>地域コード</b>	勘定科目マスター(F0901)に関連する請求項目コード(UDCテーブル09/02)を入力します。このコードは、勘定科目を柔軟にマッピングし、選択した情報をレポートに印刷するために使用します。
<b>場所コード</b>	勘定科目マスター(F0901)に関連する請求項目コード(UDCテーブル09/03)を入力します。このコードは、勘定科目を柔軟にマッピングし、選択した情報をレポートに印刷するために使用します。

## カテゴリ・コードのマッピングによる代替順序の作成

「追加作業マスター」フォームにアクセスします。

<b>カテゴリ・コード1選択</b>	<p>勘定科目に対するカテゴリ・コード1を作成するために、その勘定科目の原価コードから選択される文字を入力します。勘定科目が勘定科目マスター(F0901)に追加されると、カテゴリ・コードが自動的に作成されます。原価コードには最大8文字まで使用できるため、有効な文字は1から8になります。文字をスキップするには、「+」を入力します。たとえば、原価コード03100、05120および12100の勘定科目を追加するとします。</p> <p>このフィールドで「123」と指定すると、原価コードの1、2、3桁目が選択されます。コード031、051、121が作成され、各勘定科目にカテゴリ・コード1として割り当てられます。</p> <p>「2+4」と指定すると、原価コードの2桁目と4桁目が選択されます。コード30、52、20が作成され、各勘定科目に割り当てられます。</p> <p>「678」と指定すると、原価コードの6、7、8桁目が選択されます。追加された原価コードにはこれらの桁は存在しないため、これらの勘定科目のカテゴリ・コード1はブランクになります。</p> <p>カテゴリ・コード1に自動選択機能を使用しない場合は、このフィールドをブランクにします。</p>
<b>カテゴリ・コード2選択</b>	勘定科目に対するカテゴリ・コード2を作成するために、その勘定科目の原価コードから選択される文字を入力します。
<b>カテゴリ・コード3選択</b>	勘定科目に対するカテゴリ・コード3を作成するために、その勘定科目の原価コードから選択される文字を入力します。

## カテゴリ・コードの一括更新プログラム(R51807)の実行

「上級/技術的操作」(G5131)の「カテゴリ・コードの一括更新」を選択します。

## カテゴリ・コードの一括更新(R51807)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 処理

### 1. カテゴリ・コード1の マッピング

原価コードから勘定科目マスター (F0901) のカテゴリ・コード1 (R001) にコピーする桁を昇順に指定します (最大3桁)。

### 2. カテゴリコード2マッピング

原価コードから勘定科目マスター (F0901) のカテゴリ・コード2 (R002) にコピーする桁を昇順に指定します (最大3桁)。

### 3. カテゴリ・コード3の マッピング

原価コードから勘定科目マスター (F0901) のカテゴリ・コード3 (R003) にコピーする桁を昇順に指定します (最大3桁)。

---

**注意:** 「カテゴリ・コード1のマッピング」、「カテゴリコード2マッピング」および「カテゴリ・コード3のマッピング」処理オプションでは、桁をスキップするには「+」を入力します。たとえば、「234」と入力すると、原価コードの2桁目、3桁目および4桁目がコピーされます。「2+4」と入力すると、原価コードの2桁目と4桁目がコピーされます。「243」という順序の指定は無効になります。

---

### 4. カテゴリコード4マッピング

「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームに表示される「代替原価コード」処理オプション (SUBA) にコピーする文字を指定します (最大8文字)。この情報で、勘定科目マスター (F0901) が更新されます。



## 第 5 章

# 予算の入力および作業のスケジュール

この章では、作業原価の予算の概要と、次の方法について説明します。

- 当初予算の入力
- 予算改訂の入力
- 原価コード・スケジュールの入力

---

## 作業原価の予算について

作業マスター・レコードおよび原価コード構造を作成した後、作業の予算情報を入力します。予算情報には、各勘定科目に関連する金額と数量が含まれます。

予算は、当初予算または改訂予算に分類されます。

- 当初予算

当初予算とは、プロジェクトまたは作業の開始時点で設定された金額や数量のことです。当初予算は、各勘定科目の予算情報を手動で入力することや、予算を別の作業からコピーすることで作成できます。当初予算は日付に左右されません。変更は、プロジェクトまたは作業のどの時点でも可能です。勘定科目構造をコピーしたときに予算情報をコピーした場合は、新しい作業用に予算情報の変更が必要な場合があります。当初予算情報に対する変更の監査証跡は保持されません。

- 予算の改訂

改訂予算は、予算変更オーダーの入力時に作成します。予算変更オーダーにより、当初予算情報を変更せずに、作業の予算が更新されます。

次に、原価コード構造に入力する予算情報の例を示します。原価コード構造は勘定科目コードと勘定科目名で構成されます。入力する予算情報としては、単位(UM)、予算数量、予算金額などがあります。

勘定科目コード	記述	単位	予算数量	予算金額(USD)
5001.02000	敷地工事			
5001.02200	伐採と整地	CY	241	
5001.02200.1355	設備費	HR	180	4,750.00
5001.02200.1360	外注費	LS	1	215,000.00
5001.02600	下水工事			
5001.02600.1340	労務費	MH	610	15,000.00

勘定科目コード	記述	単位	予算数量	予算金額(USD)
5001.02600.1341	通常			
5001.02600.1342	割増			
5001.02600.1343	間接費			
5001.02600.1350	資材費	LF	6,900	313,950.00
5001.02600.1355	設備費	HR	200	5,100.00
5001.02600.1360	外注費	LS	1	165,000.00
5001.02800	舗装工事			
5001.02800.1340	労務費	MH	1,200	21,600.00
5001.02800.1341	通常			
5001.02800.1342	割増			
5001.02800.1343	間接費			
5001.02800.1350	資材費			15,000.00
5001.02800.1355	設備費	HR	800	20,000.00
5001.02800.1360	外注費			550,000.00

## この章で使用する共通フィールド

### 当初数量、当初金額

プロジェクトまたは作業の開始時点の予算金額を入力します。この金額は日付に左右されず、勘定科目の予算数量全体を表します。プロジェクトまたは作業の当初予算を変更すると、「予算金額元帳タイプ」フィールドに入力した元帳タイプに対応する数量元帳の勘定残高テーブル(F0902)のBORGフィールドが更新されます。

当初予算に対する変更の監査証跡は保持されません。

---

## 当初予算の入力

この項では、当初予算の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 当初予算(P510121)の処理オプションの設定
- 当初予算の入力

## 当初予算について

予算はP510121プログラムを使用して入力します。このプログラムにアクセスするには、「当初予算」または「単位レート予算入力」メニュー・オプションを選択します。このメニュー・オプションは、同じプログラム (P510121) の異なるバージョンに対して設定されています。当初予算プログラムに関連するバージョンでは、「当初数量」および「当初金額」フィールドが表示されます。単位レート予算入力プログラムに関連するバージョンでは、「当初数量」、「単位原価」および「当初金額」フィールドが表示されます。数量とレート、または数量と金額を入力できます。入力しなかったフィールドの値は自動的に計算されます。

当初予算情報の入力または変更には「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームを使用します。勘定残高テーブル (F0902) のBORG (当初予算) フィールドは、フィールドに指定されている元帳タイプに対して入力した金額および数量で更新されます。たとえば、元帳タイプがJAで、予算金額を「1000」、数量を「50」と入力した場合、JA元帳タイプのBORGフィールドが1000で更新され、JU元帳タイプのBORGフィールドが50で更新されます。

---

**注意:** 作業原価固定情報で「作業原価予測」オプションが選択されている場合、F0902テーブルのHAおよびHU元帳タイプの開始期間金額フィールド (AN01) も更新されます。

---

当初予算情報を変更すると、BORGおよびAN01フィールドがそれに応じて更新されます。当初予算に対する変更の監査証跡レコードは生成されません。改訂予算を入力するまでは、予算情報はすべて当初予算情報とみなされます。

予算入力フォームには「作業マスターの処理」フォームからアクセスするため、P510121の処理オプションにはアプリケーション・バージョン対話型プログラム (P983051) からアクセスする必要があります。メニューからアクセスする処理オプションは、作業原価マスターの改訂プログラム (P51006) 専用のオプションです。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide

### 予算の削除

作業に対する取引が存在しない場合、予算情報を削除できます。作業が取引明細テーブル (F0911) の情報と関連付けられている場合は、その勘定科目および関連する予算情報を削除できません。ただし、勘定科目を無効にし、その勘定科目情報が使用されないようにすることは可能です。

### 予算のロックまたはロック解除

当初予算情報をロックして変更されないようにすることや、予算のロックをいつでも解除することが可能です。予算のロックは作業 (ビジネスユニット) レベルでのみ可能で、作業内の特定の勘定科目をロックすることはできません。権限のあるユーザーであれば、当初予算情報をいつでもロックまたはロック解除できます。

作業および対応する予算情報をロックするには、「作業マスターの改訂」フォームにアクセスし、「転記編集」フィールドの値を「K」に変更します。

## 事前設定

当初予算を入力する前に、次の作業を行う必要があります。

- 作業原価固定情報プログラム (P0026) の「作業原価予測」処理オプションの設定を確認します。予測元帳タイプ (HA、HU) を予算情報で更新するには、このオプションが選択されている必要があります。
- 割り当てる作業タイプがユーザー定義コード (UDC) テーブル51/PFに設定されていることを確認します。

## 当初予算の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業マスターの処理	W51006R	「作業および予算の設定」(G5111)、「当初予算」または「作業および予算の設定」、「単位レート予算入力」	作業マスター・レコードを確認および選択します。
当初予算/勘定科目マスター順序	W510121B	「作業マスターの処理」フォームで作業を選択します。	原価コードの当初予算情報を入力または変更します。原価コード構造の勘定科目を追加および削除します。  作業の合計予算金額を計算するには、「フォーム」メニューから「作業予算合計」を選択します。

## 当初予算(P510121)の処理オプションの設定

バージョンおよび関連する処理オプションにアクセスするには、アプリケーション・バージョン対話型プログラム(P983051)を使用し、「対話型プログラムID」フィールドに「P510121」と入力する必要があります。

### 表示

この処理オプションを使用して、勘定科目範囲の原価コードおよび原価タイプの表示とセキュリティを制御します。

#### 1. デフォルトの原価コード範囲

##### 開始原価コード

表示する勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価コード」フィールドに入力した値以前の全原価コードが表示されます。

##### 終了原価コード

表示する勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価コード」フィールドに入力した値以降の全原価コードが表示されます。

#### 2. デフォルトの原価タイプ範囲

##### 開始原価タイプ

表示する勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価タイプ」フィールドに入力した原価タイプ以前の全原価タイプが表示されます。

##### 終了原価タイプ

表示する勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価タイプ」フィールドに入力した値以降の全原価タイプが表示されます。

#### 3. 勘定科目の範囲制限

「デフォルトの原価コード範囲」および「デフォルトの原価タイプ範囲」処理オプションの勘定科目範囲をフォーム上で変更するかどうか指定します。値は次のとおりです。

空白: 表示する勘定科目範囲を変更します。

1: フォームに表示された勘定科目範囲は変更できません。フォームの「追加選択」領域の勘定科目処理オプションは無効になります。ただし、指定した範囲内での勘定科目の追加は可能です。

#### 4. 非アクティブ勘定科目の表示

非アクティブ勘定科目を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 非アクティブ勘定科目を表示しません。

1: 非アクティブ勘定科目を表示します。

#### 5. 原価タイプの開始文字(1-5)

「原価タイプ」処理オプションに入力した値の開始部分から切り捨てる文字数(5文字まで)を指定します。切り捨てた文字は、フォームには表示されません。たとえば、6文字の原価タイプが複数あり、その全原価タイプで最初の3文字が022の場合、この処理オプションで「022」と入力すると、この数字がフォームで表示されなくなります。

逆に、新しい勘定科目を作業に追加する場合、入力する原価タイプに、この処理オプションに入力した数字が自動的に付加されます。たとえば、原価タイプが897の新しい勘定科目を追加し、この処理オプションに「022」と入力すると、原価タイプとして022897が勘定科目マスター(F0901)に保存されます。

### 編集

この処理オプションを使用して、勘定科目の照合およびセキュリティのオプションを設定します。

#### 1. 勘定科目マスター変更

表示される作業原価会計情報に対して可能な変更を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 勘定科目のすべての処理オプションを変更できます。

1: 勘定科目のすべての処理オプションは変更できません。

2: 「原価コード」および「原価タイプ」処理オプションを除き、すべての処理オプションを変更できます。

#### 2. 従業員補償の変更

フォームに表示される「労災補償コード」処理オプションを変更できます。値は次のとおりです。

ブランク: 変更可

1: 変更不可

#### 3. 勘定科目カテゴリ・コードの編集

総勘定元帳のカテゴリ・コード1から3(R001、R002、R003)に入力した値を、対応するUDCテーブルの設定値と照合するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 検証する。

1: 検証しない。

#### 4. 科目表タイプとの照合

「科目表タイプ」処理オプションに入力した科目表タイプに対する変更および追加を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 検証しない。

1: 検証する。

#### 5. 科目表タイプ

作業原価構造に対する変更および追加を照合する科目表タイプを指定します。「科目表タイプとの照合」処理オプションに「1」を入力し、この処理オ

プションを空白にすると、空白の科目表タイプがある場合、空白の科目表タイプとの照合が行われます。

#### 6. 科目表の詳細レベル

「科目表タイプとの照合」処理オプションに「1」を入力した場合、照合時の最下位の詳細レベルを指定します。たとえば、この処理オプションに「5」と入力すると、詳細レベル6から9で入力された勘定科目は科目表タイプと照合されません。この処理オプションを空白にすると、全詳細レベルの勘定科目が科目表タイプと照合されます。

#### 7. 原価コード範囲

開始原価コード

「科目表タイプとの照合」処理オプションに「1」を入力した場合、科目表タイプとの照合に使用される勘定科目範囲の開始原価コードを指定します。

終了原価コード

「科目表タイプとの照合」処理オプションに「1」を入力した場合、科目表タイプとの照合に使用される勘定科目範囲の終了原価コードを指定します。

#### 8. 原価タイプ範囲

開始原価タイプ

「科目表タイプとの照合」処理オプションに「1」を入力した場合、科目表タイプとの照合に使用される勘定科目範囲の開始原価タイプを指定します。

終了原価タイプ

「科目表タイプとの照合」処理オプションに「1」を入力した場合、科目表タイプとの照合に使用される勘定科目範囲の終了原価タイプを指定します。

### 処理

この処理オプションを使用して、予算の処理時に処理する情報のタイプを指定します。

#### 1. 予算金額元帳タイプ

予算元帳タイプのデフォルト値を指定します。予算金額は、この処理オプションで指定した元帳タイプにのみ入力できます。この処理オプションを空白にすると、フォームの予算元帳タイプとしてJAが割り当てられます。

#### 2. 予算入力フィールドの表示

予算情報の入力に使用される「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームに「当初数量」および「当初金額」処理オプションを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 予算入力処理オプションを表示します。

1: 予算入力処理オプションを表示しません。この値は、予算金額を入力せずに作業の原価コード構造を作成する場合に使用します。

#### 3. 予算更新

予算金額を更新できる年度を指定します。値は次のとおりです。

空白: 現行年度および将来年度を更新します。

1: 現行年度のみ更新します。

2: すべての年度を更新します。

#### 4. 予算単位レートのフォーマット

「当初数量」および「当初金額」処理オプションに加えて、「単位原価」処理オプションを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 「単位原価」処理オプションを表示しません。

1: 「単位原価」処理オプションを表示します。

## バージョン

この処理オプションを使用して、実行するアプリケーション・バージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

1. 予算改訂 (P510171) のバージョン 「ロー」または「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、予算改訂プログラム (P510171) のバージョンを指定します。
2. 作業から作業へのコピー (P51091) のバージョン 「ロー」または「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、作業から作業へのコピー・プログラム (P51091) のバージョンを指定します。
3. 単一勘定科目の改訂 (P0901) 「ロー」または「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、単一勘定科目の改訂プログラム (P0901) のバージョンを指定します。

## 当初予算の入力

「当初予算/勘定科目マスター順序」フォームにアクセスします。

単位レート 予算入力 - 当初予算/勘定科目マスター順序

作業マスターの処理 当初予算/勘定科目マスター順序

OK(O) 検索(S) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) 前 次 ツール(T)

表示 追加選択

元帳タイプ JA JU 元帳日付 2005/06/30  
 作業No. 5351 Baseball Ballpark 詳細レベル 9  
 作業転記編集 補助元帳 \*

レコード 1 - 10

原価コード	原価タイプ	記述	単位	詳細レベル	転記編集	計算方法	調整のみ	FAR 非許容	当初数量	当初金額	第3勘定科目コード
01000		Parking Lot		6	B	D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		8,750,000.00	
01000	1340	Labor		7	N	D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
01000	1341	Regular Time		8		D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
01000	1342	Overtime		8		D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
01000	1343	Burden		8		D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
01000	1350	Materials		7		D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
01000	1355	Equipment		7		D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
02000		Concessions		6	B	D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		1,600,000.00	
02000	1360	Subcontractor		7		D	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		2,100,000.00	

「当初予算/勘定科目マスター順序」フォーム

サービス請求固定情報プログラム (P48091) で「米国公共事業契約勘定使用」チェックボックスを選択すると、「FAR非許容」フィールドが表示されます。

### 調整のみ

この勘定科目が調整入力のみを使用されることを示すには、このオプションを選択します。

### 第3勘定科目コード

第3勘定科目コードを入力します。このコードは自由形式であり、次のような目的で使用します。

- 以前の勘定科目表からの移行を容易にする。

- 年度途中の勘定科目コード変更を容易にする。
- 法定レポートに必要な勘定科目構造を提供する。

第3勘定科目コードは、ビジネスユニット内のみでなく、システム全体で一貫である必要があります。このコードの形式は、システム内のビジネスユニット/主科目/補助科目のコード形式とは関係ありません。

**代替原価コード**

代替補助科目コードを入力します。このコードにより、法定勘定科目表、親会社の要件またはサード・パーティのコーディング体系に応じることが可能になります。

**代替原価タイプ**

代替主科目コードを入力します。このコードにより、法定勘定科目表、親会社の要件またはサード・パーティのコーディング体系に応じることが可能になります。

**集計レベル(数量積上げレベル)、見出しタイプ**

将来使用されます。

## 予算改訂の入力

この項では、予算改訂の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 作業予算の改訂(P510171)の処理オプションの設定
- 予算改訂の入力

### 予算改訂について

作業予算の改訂プログラム(P510171)を使用して予算改訂を入力することで、予算情報を変更できます。この入力は、予算変更オーダーとも呼ばれます。予算改訂により、予算が更新されますが、勘定残高テーブル(F0902)の当初予算情報は変更されません。金額または数量に関する予算改訂を入力します。

予算改訂は、金額または数量に対する増分値または累計値として入力できます。たとえば、現在の数量が1000で、この数を100減らす場合、「+/-数量」フィールドに増分変更値(「-100」)を入力するか、「累計数量」フィールドに「900」と入力できます。単位原価の増分または累計変更値を入力し、数量を掛けて予算金額を算出することもできます。金額は、数量に単位原価を掛けた値になります。数量、金額または単位原価のいずれを更新するかにかかわらず、残りのフィールドに対する増分または累計変更値が計算されます。

**注意:** 現在の数量を変更しても現在の金額は自動的に調整されず、現在の金額を変更しても現在の数量は自動的に調整されません。

処理オプションの設定により、フォームに表示される予算改訂フィールドと、入力できる変更値(増分、累計またはこの両方)が決まります。勘定科目詳細(F0911)レコードが監査証跡として生成されるかどうか、処理オプションの設定により決まります。

予算入力フォームには「作業マスターの処理」フォームからアクセスするため、P510171の処理オプションにはアプリケーション・バージョン対話型プログラム(P983051)からアクセスする必要があります。メニューからアクセスする処理オプションは、作業原価マスターの改訂プログラム(P51006)専用のオプションです。

## 予算監査証跡の記録

「予算監査証跡の記録」処理オプションを使用して、予算改訂に対してF0911レコードを生成するかどうかを指定し、生成する場合は、レコードを期間別に勘定科目別で生成するか、改訂ごとに勘定科目別で生成するかを指定します。期間中に行われた全改訂に対してレコードを1つ生成すると選択した場合、仕訳の同じ明細行上の金額が更新されます。改訂ごとにレコードを1つ生成すると選択した場合、期間番号にかかわらず、改訂ごとに新しい伝票が生成され、明細行は同じ伝票に追加されません。

監査証跡に選択した方法にかかわらず、次の処理が行われます。

- 転記コードPを明細行に割り当てます。  
予算改訂の入力時にF0902は自動的に更新されるため、明細レコードには転記済のマークが自動的に付けられます。
- バッチ・タイプGを割り当てます。
- 改訂が入力された予算元帳タイプを割り当てます。
- 「伝票タイプ」処理オプションで指定した伝票タイプを割り当てます。
- 期間の最終日を総勘定元帳日付として割り当てます。

作業原価固定情報で「予測監査証跡」オプションを選択した場合、最終予測元帳タイプ(HA/HU)を更新する仕訳も生成されます。生成される仕訳には伝票タイプFPが割り当てられ、改訂ごとに仕訳が1つ生成されます。

**重要:** 予算改訂に対する監査証跡としてF0911レコードを生成しない場合は、作業原価元帳に対して取引明細の再転記プログラム(R099102)を実行しないでください。このプログラムにより、F0911の仕訳に基づいてF0902テーブルが更新されます。

## 事前設定

この項のタスクを実行する前に、作業原価固定情報プログラム(P0026)の「作業原価予測」オプションの設定を確認する必要があります。予測元帳タイプ(HA、HU)を予算情報で更新するには、このオプションが選択されている必要があります。

## 予算改訂の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業マスターの処理	W51006R	「作業および予算の設定」(G5111)、「作業原価マスターの改訂」	作業を検索して選択します。
作業予算の改訂	W510171A	「作業マスターの処理」フォームで作業を選択します。「ロー」メニューから「作業予算」の「予算の改訂」を選択します。	予算改訂を入力します。

## 作業予算の改訂(P510171)の処理オプションの設定

バージョンおよび関連する処理オプションにアクセスするには、アプリケーション・バージョン対話型プログラム(P983051)を使用し、「対話型プログラムID」フィールドに「P510171」と入力する必要があります。

## 表示オプション

- 1. デフォルトの原価コード範囲**
- 開始原価コード**  
表示する勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価コード」フィールドに入力した値以前の全原価コードが表示されます。
- 終了原価コード**  
表示する勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価コード」フィールドに入力した値以降の全原価コードが表示されます。
- 2. デフォルトの原価タイプ範囲**
- 開始原価タイプ**  
表示する勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価タイプ」フィールドに入力した原価タイプ以前の全原価タイプが表示されます。
- 終了原価タイプ**  
表示する勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価タイプ」フィールドに入力した値以降の全原価タイプが表示されます。
- 3. 勘定範囲を原価コードと原価タイプの範囲内に制限する**
- 「デフォルトの原価コード範囲」および「デフォルトの原価タイプ範囲」処理オプションの勘定科目範囲をフォーム上で変更するかどうか指定できます。値は次のとおりです。
- 空白: 表示する勘定科目範囲を変更します。
- 1: フォームに表示された勘定科目範囲は変更できません。フォームの「追加選択」タブの勘定科目処理オプションは無効になります。ただし、指定した範囲内での勘定科目の追加は可能です。
- 4. 計算方法**
- 表示する勘定科目の選択に使用する計算方法を指定します。このオプションを空白にすると、すべての計算方法の勘定科目が表示されます。
- 5. 詳細レベル**
- 勘定科目の表示に使用するデフォルトの詳細レベル(3から9)を指定します。入力した値以上の(詳細でない)詳細レベルの勘定科目が表示されます。たとえば、この処理オプションに「5」と入力すると、詳細レベル1、2、3、4、5のみの勘定科目が表示されます。この処理オプションを空白にすると、デフォルトの値9が使用され、全勘定科目が表示されます。
- 6. 予算カラムに表示する項目**
- 表示する予算改訂フィールドを指定します。この処理オプションと「表示する予算変更フィールド」処理オプションの値により、フォームに表示されるフィールドが決まります。値は次のとおりです。
- 空白: 数量および金額フィールドのみを表示します。
- 1: 数量、金額および単位原価フィールドを表示します。
- 2: 数量および単位原価フィールドを表示します。
- 3: 金額フィールドのみを表示します。
- 7. 表示する予算変更フィールド**
- フォームに表示する予算変更フィールドを制限するかどうかを指定します。この処理オプションと「予算カラムに表示する項目」処理オプションの値により、フォームに表示されるフィールドが決まります。値は次のとおりです。
- 空白: すべての予算改訂フィールドを表示します。

1: 増分値による変更を使用されるフィールドのみを表示します(「+/-数量」、「+/-金額」)。

2: 累計値による変更を使用されるフィールドのみを表示します(「累計数量」、「累計金額」)。

## 処理

1. **予算金額元帳タイプ**

表示するデフォルトの元帳タイプを指定します。ここで入力した元帳タイプと、対応する数量元帳タイプが表示されます。この処理オプションを空白にすると、JA/JU元帳が表示されます。
2. **元帳日付の検証**

入力した総勘定元帳日付を、会社に入力した現行期間および総勘定元帳固定情報と照合するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 総勘定元帳日付を、会社に入力した現行期間および総勘定元帳固定情報と照合します。

1: 総勘定元帳日付を検証しません。
3. **伝票タイプ**

「予算監査証跡の記録」処理オプションに空白または1を指定した場合、生成される仕訳に割り当てる伝票タイプを指定します。この処理オプションを空白にすると、JEが割り当てられます。予算改訂に対して監査証跡を生成しない場合、この処理オプションは無視されます。
4. **予算監査証跡の記録**

行われた予算改訂に対する監査証跡として取引明細レコード(F0911)を生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 予算改訂の期間ごとにF0911レコードを1つ生成します。同一期間内に複数の改訂が行われた場合、仕訳の同じ明細行が更新され、累計残高が保持されます。

1: 同一期間内に行われた変更の数にかかわらず、行われた予算改訂ごとにF0911レコードを1つ生成します。

2: 予算改訂に対してF0911レコードを生成しません。
5. **参照番号**

監査証跡に対して生成される仕訳に割り当てる参照番号を指定します。参照番号を入力することで、予算改訂に対して生成される仕訳をグループ化できます。
6. **変更仕訳の摘要**

「予算監査証跡の記録」処理オプションを空白または1に設定した場合、予算改訂に対して生成される仕訳に割り当てる概要を指定します。この処理オプションを空白にすると、仕訳の概要として作業原価JEが割り当てられます。

## 予算改訂の入力

「作業予算の改訂」フォームにアクセスします。

- 日付/期間**

改訂を有効にする期間の期間番号または最終日の総勘定元帳日付を入力します。期間番号を入力すると、期間の最終日に変換されます。期間の終了日付でない総勘定元帳日付を入力すると、メッセージが表示され、期間の最終日に自動的に更新されます。
- +/-数量**

単位数量を変更する数を入力します。たとえば、単位数量を50増やすには「50」と入力します。単位数量を50減らすには「-50」と入力します。

<b>+/-単位原価</b>	単位当たりの原価を変更する金額を入力します。たとえば、単位原価を0.75増やすには「.75」と入力します。単位原価を75減らすには「-75」と入力します。
<b>+/-金額</b>	予算を変更する金額を入力します。たとえば、予算金額を50増やすには「50」と入力します。予算金額を50減らすには「-50」と入力します。予算が50増える場合は、このフィールドに「50」と入力します。予算が50減る場合は、このフィールドに「-50」と入力します。
<b>累計単位原価</b>	改訂の単位当たりの合計原価を入力します。たとえば、単位当たりの当初原価が66.00の場合、原価を2.25増やすには「68.25」と入力します。単位当たりの当初原価を2.25減らすには「63.75」と入力します。
<b>累計金額</b>	勘定科目の合計予算金額を入力します。たとえば、当初金額が1,200の場合、金額を65増やすには「1,265」と入力します。金額を65減らすには「1,135」と入力します。
<b>累計数量</b>	勘定科目の合計数量を入力します。たとえば、当初数量が500の場合、数量を100増やすには「600」と入力します。金額を100減らすには「400」と入力します。
<b>参照2</b>	監査証跡に対して生成される仕訳に割り当てる番号を入力します。この番号により、複数の改訂をグループ化して識別できます。

---

## 原価コード・スケジュールの入力

この項では、原価コード・スケジュールの概要と、次の方法について説明します。

- 原価コード・スケジュール (P51091) の処理オプションの設定
- 原価コード・スケジュールの設定

### 原価コード・スケジュールについて

原価コード構造の作成後、各作業内のタスクに対して原価コード・スケジュールを設定できます。原価コード・スケジュールを使用して、各タスクを時系列的に並べることができます。タスクの中には時系列的に行うことが必要なものと、同時進行が可能なものがあります。たとえば、大規模な地方空港の建設を請け負ったと仮定します。空港がプロジェクトで、中央ターミナル・ビルの建設、自動手荷物システム、空港周辺道路などのプロジェクト内の各タスクが個別の作業になります。

中央ターミナル・ビルの作業は、次のような複数の作業項目に分割できます。

- 敷地工事
- コンクリート工事
- 煉瓦工事
- 鉄筋工事
- 耐熱および耐湿工事
- 電気工事

作業項目が正しい順序で行われるように、中央ターミナル・ビルの作業スケジュールを設定する必要があります。たとえば、基礎を築く前に敷地を用意するため、敷地工事作業項目のスケジュールはコンクリート工事作業項目より前に設定する必要があります。

作業スケジュールを作成する際、作業内の各タスクについて予定開始日付と終了日付を入力します。これにより、作業の進捗状況に応じて、各タスクの実際開始日付と終了日付を入力し、スケジュール情報を更新できます。

原価コード・スケジュール情報には、各タスクの予定開始日付と終了日付が含まれます。作業の進捗状況に応じて、このスケジュール情報を、各タスクの実際開始日付と終了日付で更新します。

一部の勘定科目カテゴリ・コード情報は入力または変更できます。これらのカテゴリ・コードはJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムと関連しており、レポートの集計ロジックの設定に使用できます。勘定科目カテゴリ・コードは、第2の勘定科目表の勘定科目に使用できます。

原価コード・スケジュール情報は、勘定科目マスター(F0901)と原価コード・スケジュール・テーブル(F51901)に保存されます。

## 原価コード・スケジュールの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
原価コード・スケジュールの改訂	W51901G	「作業および予算の設定」(G5111)、「原価コード・スケジュール」。「作業マスターの処理」フォームで作業を選択して、「ロー」メニューから「コード・スケジュール」を選択します。	作業内のタスクの原価コード・スケジュールを設定します。

## 原価コード・スケジュール(P51901)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションを使用して、フォームに表示されるデフォルト値を指定します。

- デフォルトの原価コード範囲**

開始原価コード  
表示する勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価コード」フィールドに入力した値以前の全原価コードが表示されます。

終了原価コード  
表示する勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価コード」フィールドに入力した値以降の全原価コードが表示されます。
- デフォルトの原価タイプ範囲**

開始原価タイプ  
表示する勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価タイプ」フィールドに入力した原価タイプ以前の全原価タイプが表示されます。

終了原価タイプ

表示する勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価タイプ」フィールドに入力した値以降の全原価タイプが表示されます。

### 3. 表示する勘定科目詳細レベル

勘定科目の表示に使用するデフォルトの詳細レベル(3から9)を指定します。入力した値以上の(詳細でない)詳細レベルの勘定科目が表示されます。たとえば、この処理オプションに「5」と入力すると、詳細レベル1、2、3、4、5のみの勘定科目が表示されます。この処理オプションを空白にすると、デフォルトの値9が使用され、全勘定科目が表示されます。

## 処理

### 1. 日付範囲を超えた場合

実際または予定開始日付が終了日付より後の場合に表示されるメッセージのタイプを指定します。値は次のとおりです。

空白: エラー・メッセージを表示します。

1: 警告を表示します。

## 原価コード・スケジュールの設定

「原価コード・スケジュールの改訂」フォームにアクセスします。

### スケジュールNo.

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システム以外でスケジュールされている作業の項目番号または行番号を入力します。スケジュールされているタスクと作業原価を相互参照できます。

## 第 6 章

# 作業情報の照会

この章では、作業原価の照会の概要と、次の方法について説明します。

- 基本作業情報の確認
- ユーザー定義カラムによる作業情報の確認
- 元帳タイプ別の予算情報の確認
- 作業別の買掛金情報の確認

---

## 作業原価の照会について

作業の設定後、原価および数量のタスク別および勘定科目別のトラッキングを開始できます。プロジェクトまたは作業に関連する全情報は、作業の進行中にいつでも確認できます。作業情報を確認することで、予算金額と実績金額の差異を識別し、コミットメントと最終予測金額をトラッキングし、異なる元帳を比較します。

作業関連の情報の確認には、次の照会プログラムを使用できます。

- 作業状況照会 - 基本 (P512100)

このプログラムを使用すると、処理オプションの設定により表示できる事前定義済カラムに、勘定残高テーブル (F0902) の勘定残高情報を表示できます。

- 作業状況照会 - ユーザー定義カラム (P512000)

このプログラムを使用すると、選択または作成したカラムを使用して勘定残高および詳細情報を表示できます。定義する選択基準に基づき、勘定科目情報は勘定残高と勘定科目明細 (F0911) の両方のテーブルから取得されます。

- 元帳タイプ別改訂予算 (P51216)

このプログラムを使用すると、すべての改訂予算元帳に入力されているすべての金額および数量を表示できます。

- 作業別買掛金照会 (P04220)

このプログラムを使用すると、特定の作業または仕入先に対して入力されているすべての伝票を表示できます。

### 関連項目:

[付録 A、「JD Edwards EnterpriseOne 作業原価レポート」、「作業原価のすべての集計レポート」、155 ページ](#)

## この章で使用する共通フィールド

<b>期間/日付</b>	金額および数量の情報を確認する期間番号または日付を入力します。期間を入力すると、日付に変換され、期間の最終日を使用されます。期間の最終日でない日付を入力すると、その日付が含まれる期間の最終日に更新されます。各期間の最終日の特定には、作業に割り当てられている会社に割り当てられている期間パターンが使用されます。
<b>開始日以降、累計、期間</b>	<p>フォームに表示する情報のタイプを指定します。オプションは次のとおりです。</p> <p>開始日以降: 指定した期間または日付以前の各勘定科目の作業累計を表示します。このオプションを選択すると、前年度の繰越残高も取り込まれます。</p> <p>累計: 指定した期間または日付以前の各勘定科目の年累計を表示します。</p> <p>期間: 指定した期間または日付の各勘定科目の期間累計を表示します。</p>
<b>補助元帳</b>	勘定科目情報の取得に使用する補助元帳タイプおよび補助元帳を入力します。
<b>改訂予算金額</b>	指定した期間の改訂予算元帳の金額の合計を入力します。
<b>改訂予算数量</b>	指定した期間の改訂予算元帳の数量の合計を入力します。
<b>実績金額</b>	指定した期間のAA元帳の金額を入力します。
<b>実績数量</b>	指定した期間のAU元帳の金額を入力します。
<b>当初予算金額</b>	指定した期間の全改訂予算金額元帳のBORGフィールド(当初予算)の金額の合計を入力します。
<b>当初予算数量</b>	指定した期間の全改訂予算数量元帳のBORGフィールド(当初予算)の金額の合計を入力します。
<b>完了率</b>	F%元帳で指定されている期間の金額を入力します。F%元帳の金額がゼロの場合、完了率は、勘定科目に割り当てられている計算方法に基づいて計算されます。

## 基本作業情報の確認

この項では、基本作業照会の概要と、次の方法について説明します。

- 作業状況照会 - 基本 (P512100) の処理オプションの設定
- 基本作業情報の確認

## 基本作業照会について

作業状況照会 - 基本プログラムでは、事前定義済カラムを使用して、勘定残高テーブルの実際原価および数量、予算原価および数量、コミット済原価および数量、最終予測値を確認できます。表示されるカラムは処理オプションで指定できるため、照会フォームを必要に応じてカスタマイズできます。フォームには、期間、累計(年累計)または開始日以降累計の金額を表示するオプションがあります。開始日以降累計には、年累計に加えて、前年度の繰越残高も含まれます。当初予算金額および数量については、金額または数量元帳のBORGフィールド(当初予算)の情報が表示されます。改訂予算金額および数量については、金額または数量元帳の期間金額フィールド(AN01からAN14)の情報が表示されます。

**注意:** 改訂予算元帳には、JAおよびJU元帳に加えて、JD Edwards EnterpriseOne作業原価で設定および使用する追加元帳も含まれます。

参照: 第 2 章、「作業原価システムの設定」、9ページ

## 基本作業情報の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業状況照会の処理 - 基本	W512100A	「作業原価照会」(G5112)、 「作業状況照会 - 基本」	基本作業情報を確認 します。  AA、AU、PA、PU、HAおよ びHU元帳、または複数の 元帳の組合せに関連する 金額と数量を確認します。 フォームに表示されるカ ラムは、処理オプションの設 定によって異なります。

## 作業状況照会 - 基本(P512100)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

#### 1. デフォルトの原価コード 範囲

##### 開始原価コード

表示する勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価コード」フィールドに入力した値以前の全原価コードが表示されます。

##### 終了原価コード

表示する勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価コード」フィールドに入力した値以降の全原価コードが表示されます。

#### 2. デフォルトの原価タ イプ範囲

##### 開始原価タイプ

表示する勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価タイプ」フィールドに入力した原価タイプ以前の全原価タイプが表示されます。

##### 終了原価タイプ

- 表示する勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価タイプ」フィールドに入力した値以降の全原価タイプが表示されます。
- 3. 原価コードと原価タイプの範囲外の勘定科目の変更許可** 「デフォルトの原価コード範囲」および「デフォルトの原価タイプ範囲」処理オプションの勘定科目範囲をフォーム上で変更するかどうか指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 表示する勘定科目範囲を変更します。  
 1: フォームに表示された勘定科目範囲は変更できません。フォームの「追加選択」領域の勘定科目処理オプションは無効になります。ただし、指定した範囲内での勘定科目の追加は可能です。
- 4. AA元帳の表示** 実績金額(AA元帳タイプ)のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 実績金額を表示しない。  
 1: 実績金額を表示する。
- 5. AU元帳の表示** 実績数量(AU元帳タイプ)のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 実績数量を表示しない。  
 1: 実績数量を表示する。
- 6. JA元帳 - 当初予算金額(BORG)の表示** JA元帳の当初予算金額(勘定残高テーブルのBORGフィールド)のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 当初予算金額を表示しない。  
 1: 当初予算金額を表示する。
- 7. JA元帳 - 改訂予算金額の表示** JA元帳の金額のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 金額を表示しない。  
 1: 金額を表示する。
- 8. JU元帳 - 当初予算金額(BORG)の表示(画面上では「JA元帳 - 当初予算金額(BORG)の表示」)** JU元帳の当初予算数量(勘定残高テーブルのBORGフィールド)のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 当初予算数量を表示しない。  
 1: 当初予算数量を表示する。
- 9. JU元帳 - 改訂予算数量の表示** JU元帳の改訂予算数量のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 数量を表示しない。  
 1: 数量を表示する。
- 10. コミットメント合計(PA元帳 + AA元帳)の表示** コミットメント金額合計(PAおよびAA元帳の金額の合計)のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: コミットメント金額合計を表示しない。  
 1: コミットメント金額合計を表示する。

- 11. PA元帳 - コミットメント未消化額の表示** PA元帳のコミットメント未消化額の列を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: コミットメント未消化額を表示しない。  
 1: コミットメント未消化額を表示する。
- 12. コミットメント数量合計 (PU元帳 + AU元帳)の表示** コミットメント数量合計 (PUおよびAU元帳の数量の合計)の列を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: コミットメント数量合計を表示しない。  
 1: コミットメント数量合計を表示する。
- 13. PU元帳 - コミットメント未消化数量** PU元帳のコミットメント未消化数量の列を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: コミットメント未消化数量を表示しない。  
 1: コミットメント未消化数量を表示する。
- 14. HA元帳 - 最終予測金額の表示** HA元帳の最終予測金額の列を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 最終予測金額を表示しない。  
 1: 最終予測金額を表示する。
- 15. HU元帳 - 最終予測数量の表示** HU元帳の最終予測数量の列を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 最終予測数量を表示しない。  
 1: 最終予測数量を表示する。
- 16. 改訂予算金額元帳 - 当初予算金額 (BORG)の表示** 改訂予算元帳の当初予算金額 (勘定残高テーブルのBORGフィールド)の合計の列を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 当初予算金額の合計を表示しない。  
 1: 当初予算金額の合計を表示する。
- 17. 改訂予算金額元帳 - 改訂予算金額の表示** 改訂予算元帳の金額の合計の列を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 金額の合計を表示しない。  
 1: 金額の合計を表示する。
- 18. 改訂予算数量元帳 - 当初予算数量の表示** 改訂予算元帳の当初予算数量 (勘定残高テーブルのBORGフィールド)の合計の列を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 当初予算数量の合計を表示しない。  
 1: 当初予算数量の合計を表示する。
- 19. 改訂予算数量元帳 - 改訂予算数量の表示** 改訂予算数量元帳の合計の列を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 改訂予算数量元帳の合計を表示しない。  
 1: 改訂予算数量元帳の合計を表示する。

- 20. F%元帳 - 完了率の表示** 完了率(F%元帳の金額)のカラムを表示するかどうかを指定します。完了率がゼロの場合、勘定科目に割り当てられている計算方法に基づいて結果が表示されます。値は次のとおりです。  
 ブランク: 完了率を表示しない。  
 1: 完了率を表示する。
- 21. 予算差異金額(JA元帳-AA元帳)の表示** 予算差異金額(JA元帳とAA元帳の金額の差異)のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 予算差異金額を表示しない。  
 1: 予算差異金額を表示する。
- 22. 予算差異数量(JU元帳-AU元帳)の表示** 予算差異数量(JU元帳とAU元帳の数量の差異)のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 予算差異数量を表示しない。  
 1: 予算差異数量を表示する。
- 23. 最終予測金額差異(HA元帳-JA元帳)の表示** 最終予測金額差異(HA元帳とJA元帳の金額の差異)のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 最終予測金額差異を表示しない。  
 1: 最終予測金額差異を表示する。
- 24. 最終予測数量差異(HU元帳-JU元帳)の表示** 最終予測数量差異(HU元帳とJA元帳の数量の差異)のカラムを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 最終予測数量差異を表示しない。  
 1: 最終予測数量差異を表示する。

## バージョン

- 1. 作業進捗の入力(P510212)のバージョン** 「フォーム」メニューから「作業進捗状況入力」を選択する際に使用する、進捗の入力プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 2. 予算の改訂(P510171)のバージョン** 「フォーム」メニューから「作業予算」の「当初予算」を選択する際に使用する、予算の改訂プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 3. 勘定進捗の入力(P510211)のバージョン** 「ロー」メニューから「勘定科目進捗状況」を選択する際に使用する、作業進捗の入力プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 4. 「選択」ボタン・エグジット** 「作業状況照会の処理 - 基本」フォームで勘定科目を選択する際に表示されるフォームを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 「進捗状況の入力」フォームを表示します。  
 1: 「作業別進捗状況の入力」フォームを表示します。  
 2: 「取引明細の処理」フォームを表示します。

## 基本作業情報の確認

処理オプションの選択に基づいて、フォームに表示されるカラムが決定されます。

「作業状況照会の処理 - 基本」フォームにアクセスします。

<b>改訂予算額 - JA</b>	指定した期間のJA元帳の改訂予算金額を入力します。
<b>改訂予算数量 - JU</b>	指定した期間のJU元帳の改訂予算数量を入力します。
<b>当初予算額 - JA</b>	指定した期間のJA元帳のBORG(当初予算)の金額を入力します。
<b>当初予算数量 - JU</b>	指定した期間のJU元帳のBORG(当初予算)の金額を入力します。
<b>コミットメント金額合計</b>	指定した期間のAAおよびPA元帳で指定されている期間の金額の合計を入力します。
<b>コミットメント数量合計</b>	指定した期間のAUおよびPU元帳で指定されている期間の金額の合計を入力します。
<b>コミットメント未消化金額</b>	指定した期間のPA元帳で指定されている期間の金額を入力します。
<b>コミットメント未消化数量</b>	指定した期間のPU元帳の金額を入力します。
<b>最終予測金額</b>	指定した期間のHA元帳の金額を入力します。
<b>最終予測数量</b>	指定した期間のHU元帳の金額を入力します。
<b>予算/実績差異金額</b>	指定した期間のJA元帳の金額とAA元帳の金額の差異を入力します。
<b>予算/実績差異数量</b>	指定した期間のJU元帳の金額とAU元帳の金額の差異を入力します。
<b>最終予測超過/未達金額</b>	指定した期間のHA元帳の金額とJA元帳の金額の差異を入力します。
<b>最終予測超過/未達数量</b>	指定した期間のHU元帳の金額とJU元帳の金額の差異を入力します。

## ユーザー定義カラムによる作業情報の確認

この項では、作業状況照会 - ユーザー定義カラム・プログラム (P512000) の概要と、次の方法について説明します。

- 照会カラムの定義
- 作業状況照会ユーザー定義カラム (P512000) の処理オプションの設定
- ユーザー定義カラムによる作業情報の確認

### 作業状況照会 - ユーザー定義カラム・プログラム (P512000) について

作業状況照会ユーザー定義カラム・プログラム (P512000) では、作業またはプロジェクトの重要な情報を非常に柔軟に確認できます。情報を勘定残高テーブルからのみ取得する作業状況照会基本プログラムとは異なり、P512000プログラムでは、情報を勘定残高テーブルと取引明細 (F0911) テーブルの両方から取得できます。部分期間の日付を使用して、未転記レコードをF0911テーブルから選択できます。

このプログラムを使用して、表示するカラムや、情報を表示する順序を決定し、日付、原価コード範囲、転記状況などの情報の取得に使用する検索条件を設定します。処理オプションでは、検索条件のデフォルト値を指定でき、カラム・バージョンでは、選択したカラムを保存できます。処理オプションとカラム・バージョンの両方を使用することで、異なるタイプの検索に対し、複数のバージョンの照会プログラムを設定できます。

## カラムの設定

最もよく使用するカラムを含んでいるリストから、「作業状況照会」フォームに表示するカラムを選択します。リスト上の各カラムは、取得される情報のタイプを決定する計算式を使用して設定されます。標準の計算式は、勘定科目の金額、数量および見出しレベルの数量を取得するようにハードコード化されています。

照会カラムの定義プログラム(P51921)を使用して、カラム情報の追加、確認および変更を行います。このプログラムには、事前定義済カラムで使用する標準計算式の番号のリストがあります。標準計算式を数式に設定することで、追加情報を表示する新しいカラムを作成できます。新しいカラムの数式を作成するには、標準計算式の番号とともに、基本的な算術記号(+、-、×、÷)を使用します。かっこ()を使用して数式を入れ子にすることも可能です。

たとえば、JA元帳の当初予算金額が計算式2を使用するようにハードコード化されていて、改訂予算金額が計算式3を使用するようにハードコード化されているとします。この2つの金額の差異を表示する場合、予算差異のカラムを設定し、計算式として数式「2-3」を入力できます。ユーザー定義コード(UDC)51/ILの「記述01」、「記述02」および「特殊取扱」フィールドに入力することで、JA、AA、HAなどの標準計算式に使用されている元帳タイプ以外の元帳タイプの計算式を作成することも可能です。これらのフィールドに入力すると、金額および数量元帳の対応する数値コードが標準計算式リストに表示されます。

参照: 第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価のユーザー定義コードについて」、10ページ

このプログラムには、計算式を簡潔に保つのに役立つ「乗数」フィールドもあります。たとえば、計算式の結果に3を掛ける場合、入れ子にした数式を使用するかわりに、乗数として「3」を入力できます。また、データ項目をカラムに割り当て、それを使用して用語情報を追加することも可能です。

カラム情報は照会カラム・テーブル(F5192)に保存されます。

## カラム・バージョンの設定および使用

必要なカラムを「作業原価照会」フォームに設定した後は、指定したカラムをバージョンに保存できます。フォームに表示して1つのバージョンに保存するカラムは最大で20選択でき、必要な数のバージョンを保存できます。保存されているバージョンがある場合、そのバージョンを「作業状況照会」フォームの「カラム・バージョン」フィールドに入力すると、指定したカラムが表示されます。カラム・バージョンを作成するには、「作業状況照会」フォームの「フォーム」メニューから「カラムの保存」を選択します。バージョンを保存すると、バージョン名の設定に使用する追加フォームが表示されます。バージョンはユーザーID別に保存されます。

このプログラムにはカラムを指定する必要がありますが、カラムをバージョンとして保存する必要はありません。作業状況照会プログラムを終了すると、カラム・バージョンとして設定したカラムが自動的に保存され、ユーザーIDが割り当てられます。プログラムに再度アクセスすると、別のカラム・バージョンを入力しないかぎり、ユーザーIDに対して保存されているバージョンが自動的に使用されます。カラム・バージョンを使用して、共通に使用できる複数の照会フォーマットを設定します。カラム・バージョンは変更できるため、この機能を使用することで不都合は生じません。カラム・バージョンは、進捗状況入力プログラムでも使用されます。

既存のバージョンのカラムを変更するには、「作業状況照会」フォームのカラム項目からカラムを削除し、バージョンを保存します。バージョンの変更時に名前を変更する必要はありませんが、既存のバージョンを使用して別のバージョンを作成し、それを変更することは可能です。カラム・バージョンを削除するには、カラム・バージョン - ユーザー一時変更プログラム(P98950)を使用する必要があります。このプログラムは複数のシステムで使用されるため、正しいバージョンを表示するには、P512000のプログラム番号を「対話型プログラムID」フィールドに入力してから、「削除」をクリックする必要があります。

**重要:** 新しいバージョンの作成には、カラム・バージョン - ユーザー一時変更プログラムのコピー機能は使用しないでください。P512000プログラムでは、この方法でコピーされたバージョンは認識されません。バージョンをコピーするには、既存のバージョンを「作業状況照会」フォームで保存し、新しい名前を割り当てます。

## ユーザー定義カラムによる作業情報の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業状況照会カラムの処理	W51921A	「作業原価セットアップ」(G5141)、「照会カラムの定義」	照会カラムを確認および選択します。照会カラムに関連する計算式を確認します。
照会カラムの定義	W51921B	「作業状況照会カラムの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	新しい照会カラムを作成します。
作業状況照会	W512000A	「作業原価照会」(G5112)、「作業状況照会 - ユーザー定義カラム」	様々な検索の組合せおよびユーザー定義カラムを使用して、作業情報を確認します。
カラム・バージョンの保存	W512000B	「作業状況照会」の「フォーム」メニューから「カラムの保存」を選択します。	照会カラムを保存および取得するバージョン名を指定します。
ユーザー一時変更の処理	W98950E	「作業原価セットアップ」(G5141)、「カラム・バージョン - ユーザー一時変更」	不要になったカラム・バージョンを削除します。

### 照会カラムの定義

「照会カラムの定義」フォームにアクセスします。

照会カラムの定義 - 照会カラムの定義 i ?

OK(O) 取消(L) ツール(T)

**カラム** 表示

カラム名 \*

記述 \*

カラム見出し1 \*

カラム見出し2

計算式 \*

---

レコード 1 - 11 グリッドのカスタマイズ   

	記述	金額	数量	見出し 数量
<input type="radio"/>	Actual Values	1	21	41
<input type="radio"/>	JAJU Original Budget Values	2	22	42
<input type="radio"/>	JAJU Revised Budget Values	3	23	43
<input type="radio"/>	51/RB 51/RU Original Budget	4	24	44
<input type="radio"/>	51/RB 51/RU Revised Budget	5	25	45
<input type="radio"/>	Open Commitment Values	6	26	46
<input type="radio"/>	Total Contract Values	7	27	47
<input type="radio"/>	Projected Final Values	8	28	48
<input type="radio"/>	FA/FU Projected Over/Under	9	29	49
<input type="radio"/>	Days Prior Actual Values	10	30	50
<input checked="" type="radio"/>	Percent Complete	61	---	---

「照会カラムの定義」フォーム

**カラム見出し1**

「作業状況照会」フォームに表示されるカラム見出しの1行目の説明を入力します(最大10文字)。この行は、カラムに対して自動的に中央揃えされます。

**カラム見出し2**

「作業状況照会」フォームに表示されるカラム見出しの2行目の説明を入力します(最大10文字)。この行は、カラムに対して自動的に中央揃えされます。

**計算式**

事前定義した計算式の番号か、カラム値の計算用に表示される計算式のリスト内の複数の計算式の番号を使用する数式を入力します。数式に使用できる算術記号は次のとおりです。

+: 加算

-: 減算

\*: 乗算

/: 除算

( ): 数式を入れ子にする場合の左かっこと右かっこ

**乗数**

カラムの金額または数量に掛ける係数を入力します。「計算式」フィールドの計算結果は、この乗数係数で乗算されてから、「作業状況照会」フォームに表示されます。

たとえば、大きな数値を千単位にスケール・ダウンする場合は、「.001」と入力します。パーセントを整数として表示する場合は、「100」と入力します。

## データ項目

カラムに関する情報を説明するデータ項目をデータ辞書から入力します。これには、関連する用語の記述、表示コード、小数および項目の特性が含まれます。カラム定義に対する変更は、データ辞書アプリケーションを使用して管理する必要があります。

## 作業状況照会ユーザー定義カラム(P512000)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

#### 1. 勘定科目順序

「順序コード」処理オプションに表示するデフォルト値を指定します。これにより、勘定科目情報の表示順序が制御されます。値は次のとおりです。

ブランク: 作業、原価コード、原価タイプ

1: 勘定科目カテゴリ・コード01

2: 勘定科目カテゴリ・コード02

3: 勘定科目カテゴリ・コード03

A: 代替原価コード

C: 原価コード、原価タイプ、作業

O: 作業、原価タイプと原価コード

T: 原価タイプ、原価コード、作業

#### 2. デフォルトの原価コード範囲

開始原価コード

表示する勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。ブランクにした場合、「終了原価コード」フィールドに入力した値以前の全原価コードが表示されます。

終了原価コード

表示する勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。ブランクにした場合、「開始原価コード」フィールドに入力した値以降の全原価コードが表示されます。

#### 3. デフォルトの原価タイプ範囲

開始原価タイプ

表示する勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。ブランクにした場合、「終了原価タイプ」フィールドに入力した原価タイプ以前の全原価タイプが表示されます。

終了原価タイプ

表示する勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。ブランクにした場合、「開始原価タイプ」フィールドに入力した値以降の全原価タイプが表示されます。

#### 4. デフォルト会社番号

フォームの対応するフィールドのデフォルト値として使用する会社番号を指定します。

- 5. 原価コードと原価タイプ範囲以外の勘定科目の変更を許可する** 「デフォルトの原価コード範囲」および「デフォルトの原価タイプ範囲」処理オプションの勘定科目範囲をフォーム上で変更するかどうか指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 表示する勘定科目範囲を変更します。  
 1: フォームに表示された勘定科目範囲は変更できません。フォームの「追加選択」領域の勘定科目処理オプションは無効になります。ただし、指定した範囲内での勘定科目の追加は可能です。
- 6. カラム・バージョンの指定** フォームの対応するフィールドのデフォルト値として使用するカラム・バージョンを指定します。
- 7. カラム・バージョンの制限** カラム・バージョンに対する変更を制御します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 有効にしない。  
 1: 有効にする。
- 8. 見出し勘定科目の表示** 見出し勘定科目をデフォルト値として表示するチェックボックスを選択するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: チェックボックスを選択します。  
 1: チェックボックスを選択しません。
- 9. 残高ゼロの勘定科目の表示** 金額がゼロの勘定科目をデフォルト値として表示するチェックボックスを選択するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: チェックボックスを選択しません。  
 1: チェックボックスを選択します。

## 処理

- 1. 取引明細照会タイプ** 元帳タイプ1  
 「ロー」メニューから取引明細照会プログラム (P09200) にアクセスする際に対応するフィールドに割り当てるデフォルトの元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、元帳タイプAAが割り当てられます。  
 元帳タイプ2  
 「ロー」メニューから取引明細照会プログラムにアクセスする際に対応するフィールドに割り当てるデフォルトの元帳タイプを指定します。ブランクにした場合、デフォルトの元帳タイプは割り当てられません。

## バージョン・エグジット

この処理オプションを使用して、指定したプログラムに使用するデフォルトのバージョンを指定します。

- 1. 勘定進捗の入力 (P510211)** 「ロー」メニューから「進捗状況の入力」の「勘定科目」を選択する際に使用する、勘定進捗の入力プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 2. 作業進捗の入力 (P510212)** 「ロー」メニューから「進捗状況の入力」の「作業」を選択する際に使用する、作業進捗の入力プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
- 3. パフォーマンス基準労務進捗状況の入力 (P510312)** 「ロー」メニューから「進捗状況の入力」の「パフォーマンス労務」を選択する際に使用する、パフォーマンス基準労務進捗状況の入力プログラムの

バージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

4. 当初予算 (P510121) 「ロー」メニューから「予算」の「当初予算」を選択する際に使用する、当初予算プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
5. 予算改訂 (P510171) 「ロー」メニューから「予算」の「予算の改訂」を選択する際に使用する、予算改訂プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
6. スケジュール・ワークベンチ (P48201) 「フォーム」メニューから「作業オーダー」の「作業オーダー・スケジュール・ワークベンチ」を選択する際に使用する、スケジュール・ワークベンチ・プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
7. 取引明細の照会 (P19200) のバージョン 「ロー」メニューから「一般会計」の「取引明細」を選択する際に使用する、取引明細の照会プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。
8. 選択ボタン・エグジット 「作業状況照会」フォームで勘定科目を選択する際に表示されるフォームを指定します。値は次のとおりです。
- 空白: 「進捗状況の入力」フォームを表示します。
- 1: 「作業別進捗状況の入力」フォームを表示します。
- 2: 「取引明細の処理」フォームを表示します。
- 3: 「パフォーマンス基準労務進捗状況の入力」フォームを表示します。

## ユーザー定義カラムによる作業情報の確認

「作業状況照会」フォームにアクセスします。

作業状況照会 - ユーザー定義カラム - 作業状況照会

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) レポート(P) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

タブを選択: 4-オプション

スキップ開始カテゴリ・コード  
スキップ終了カテゴリ・コード

順序コード: A  
活動オプション  
終了日前日数

代替原価コード

スキップ開始代替原価コード: \*  
スキップ終了代替原価コード: \*

転記コード(実績のみ)  
 転記済み  
 未転記  
 すべて

レコード 1 - 13

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	原価コード	原価タイプ	金額記述	作業	作業記述	代替コード	単位	計算方法	詳細レベル	転記編集
<input type="checkbox"/>		02200		Earthwork	00050	Project Management Company		*	N	4	B
<input type="checkbox"/>		02210		Mechanical Development	00050	Project Management Company		EA	N	5	B
<input type="checkbox"/>		02211		Electrical Development	00050	Project Management Company		EA	N	5	B
<input type="checkbox"/>		<b>02200</b>		<b>Earthwork</b>	<b>00050</b>	<b>Project Management Company</b>			<b>T</b>	<b>4</b>	
<input type="checkbox"/>		02600		Paving & Surfacing	00050	Project Management Company		*	*	4	*
<input type="checkbox"/>		02200	1340	Labor	00050	Project Management Company		MH	N	8	N
<input type="checkbox"/>		02210	1340	Labor	00050	Project Management Company		MH	D	8	N
<input type="checkbox"/>		02211	1340	Labor	00050	Project Management Company		MH	D	8	N
<input type="checkbox"/>		02600	1340	Labor	00050	Project Management Company		MH	Q	8	N
<input type="checkbox"/>		02200	1341	Regular	00050	Project Management Company		*	D	9	
<input type="checkbox"/>		02210	1341	Professional	00050	Project Management Company		MH	D	9	
<input type="checkbox"/>		02211	1341	Professional	00050	Project Management Company		MH	D	9	
<input type="checkbox"/>		02600	1341	Regular	00050	Project Management Company		*	*	9	

「作業状況照会」フォーム

「作業状況照会」フォームには、選択および表示基準の入力に使用するフィールドがあります。

このフォームには、「オプション」に関連する見出し情報が表示されています。

### 表示

「表示」タブを選択します。

### 作業転記編集

ビジネスユニット・マスター (F0006) で作業またはプロジェクトに割り当てる転記編集コードを入力します。

### カラム・バージョン

表示する照会カラムのバージョンを入力します。このフィールドを空白にすると、ユーザーIDに関連するバージョンが自動的に表示されます。このバージョンは、このプログラムを前回使用したときに自動的に作成されたものです。ユーザーIDに関連するバージョンがない場合は、表示するカラムを手動で選択する必要があります。

### 開始日付/期間、終了日付/期間

勘定科目情報の取得に使用する期間番号または日付の範囲を入力します。部分期間の日付を入力すると、情報が取引明細テーブル (F0911) から取得され、勘定残高テーブルの期間情報に追加されます。

### 追加選択

「追加選択」タブを選択します。

### 残高0の勘定科目の表示

このチェックボックスを選択すると、残高ゼロの勘定科目が表示されます。

- 見出し勘定科目の表示** このチェックボックスを選択すると、見出し勘定科目が表示されます。
- 見出し記述の表示** 「見出し勘定科目の表示」チェックボックスを選択した場合にこのチェックボックスを選択すると、見出し勘定科目の記述が表示されます。

## プロジェクト

「プロジェクト」タブを選択します。

- 作業タイプ** 表示するレコードの選択に使用する作業タイプを入力します。
- 一覧** このオプションを選択すると、各勘定科目が作業別に表示されます。  
 選択基準によって複数の作業がプロジェクト別または会社別に表示される場合、各勘定科目を別々に表示するか、同じ勘定科目の情報を複数の作業およびプロジェクトにわたって集計するかを選択できます。
- 集計** このオプションを選択すると、複数の作業に対して1つに集計された勘定科目が表示されます。  
 選択基準によって複数の作業がプロジェクト別または会社別に表示される場合、各勘定科目を別々に表示するか、同じ勘定科目の情報を複数の作業およびプロジェクトにわたって集計するかを選択できます。

## オプション

「オプション」タブを選択します。

- スキップ開始カテゴリ・コード** フォームに表示するレコードを選択するカテゴリ・コード値の範囲内の最初のカテゴリ・コード値を入力します。「スキップ開始カテゴリ・コード」および「スキップ終了カテゴリ・コード」フィールドは、「順序コード」フィールドの値が1、2または3の場合にのみ有効になります。この値に基づき、値の範囲がカテゴリ・コード1、カテゴリ・コード2またはカテゴリ・コード3から選択されます。
- スキップ終了カテゴリ・コード** フォームに表示するレコードを選択するカテゴリ・コード値の範囲内の最後のカテゴリ・コード値を入力します。「スキップ開始カテゴリ・コード」および「スキップ終了カテゴリ・コード」フィールドは、「順序コード」フィールドの値が1、2または3の場合にのみ有効になります。この値に基づき、値の範囲がカテゴリ・コード1、カテゴリ・コード2またはカテゴリ・コード3から選択されます。
- スキップ開始代替原価コード** フォームに表示するレコードを選択する代替原価コード値の範囲内の最初の代替原価コードを入力します。「スキップ開始代替原価コード」および「スキップ終了代替原価コード」フィールドは、「順序コード」フィールドの値がAの場合にのみ有効になります。
- スキップ終了代替原価コード** フォームに表示するレコードを選択する代替原価コード値の範囲内の最後の代替原価コードを入力します。「スキップ開始代替原価コード」および「スキップ終了代替原価コード」フィールドは、「順序コード」フィールドの値がAの場合にのみ有効になります。
- 順序コード** フォーム上の勘定科目の表示に使用される順序を指定するコードを入力します。選択した順序に基づき、カラムが自動的に表示されます。たとえば、「A」を選択すると、代替原価コードのカラムが追加されます。値は次のとおりです。  
 ブランク: 作業、原価コードおよび原価タイプ(ビジネスユニット、補助科目、主科目)

- 1: 勘定科目カテゴリ・コード01
- 2: 勘定科目カテゴリ・コード02
- 3: 勘定科目カテゴリ・コード03
- A: 代替原価コード
- C: 原価コードと原価タイプ
- O: 作業、原価タイプと原価コード
- T: 原価タイプと原価コード

### 活動オプション

表示される勘定科目情報を勘定科目内の活動に基づいて制限する方法を示すコードを入力します。値は次のとおりです。

- A: 実際原価(AA元帳)のある勘定科目のみを表示します。
- B: 最終予測金額(HA元帳)が100%未満の勘定科目のみを表示します。
- C: 実績金額(AA元帳)があり、完了率が100%未満の勘定科目のみを表示します。
- D: 100%完了した勘定科目のみを表示します。
- E: 最終予測金額(HA)が改訂予算元帳の値より大きい勘定科目のみを表示します。
- F: 最終予測金額(HA)が改訂予算元帳の値より小さい勘定科目のみを表示します。
- G: 実績金額(AA元帳)または予算金額のある勘定科目のみを表示します。

### 終了日前日数

勘定科目情報の取得の対象とする、「終了日付/期間」フィールドの日付より前の日数を入力します。たとえば、終了日付が2008年6月30日の場合にこのフィールドに「5」と入力すると、2008年6月25日を終了日付として勘定科目情報が取得されます。

このフィールドを使用すると、会計期間の半ばで発生する不規則な期間(週5日勤務など)の情報を表示できます。

---

**注意:** このフィールドはAAおよびAU元帳にのみ有効であり、コード10、30または50を含む計算式のあるカラムにのみ影響します。「終了日前日数」フィールドは他のカラムには影響しません。

---

### 転記済み、未転記、すべて

いずれかのボタンを選択して、表示される勘定科目情報をAAおよびAU元帳の転記済みまたは未転記取引のみに制限します。

### カラム

「カラム」タブを選択します。

#### カラム01 からカラム10

表示する勘定科目情報に対応するカラム名をこのフィールドに入力します。

### 作業コード

「作業コード」タブを選択します。

#### カテゴリ・コード01からカテゴリ・コード25

カテゴリ・コードに関連するユーザー定義コード・テーブルから値を選択します。

**勘定科目No.**

「勘定科目No.」タブを選択します。

**カテゴリ・コード01からカテゴリ・コード23**      カテゴリ・コードに関連するユーザー定義コード・テーブルから値を選択します。

**追加カラム**

「追加カラム」タブを選択します。

**カラム11 からカラム20**      表示する勘定科目情報に対応するカラム名を入力します。

---

## 元帳タイプ別の予算情報の確認

この項では、元帳タイプ別改訂予算プログラム (P51216) の概要と、予算情報を元帳タイプ別に確認する方法について説明します。

### 元帳タイプ別改訂予算プログラム (P51216) について

元帳タイプ別改訂予算プログラム (P51216) は、特定の勘定科目の活動を予算改訂元帳タイプ別に確認する際に使用します。指定した勘定科目に金額または数量がある予算元帳タイプごとに、明細行が表示されます。金額、数量またはその両方を表示するかどうかを選択できます。選択したオプションに応じて、次のフィールドが金額および数量用に表示されます。

- 当初予算
- 期首残高
- 年累計変更
- 改訂予算

指定した期間または日付に基づき、勘定残高テーブルから情報が取得されます。

### 元帳タイプ別の予算情報の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
改訂予算勘定残高の処理	W51216A	「作業原価照会」(G5112)、 「元帳タイプ別改訂予算」	金額または数量がゼロより大きい改訂予算元帳タイプの勘定残高を確認します。

### 元帳タイプ別の予算情報の確認

「改訂予算勘定残高の処理」フォームにアクセスします。

**期首残高額**      前年度以前の累積残高を入力します。この金額は、貸借対照表および作業原価勘定の期首残高として使用されます。

**注意:** この金額を前年度転記額と混同しないように注意してください。前年度転記額には、前年度からの転記額のみが含まれます。前年度の期末残高は含まれません。前年度転記額は、通常、損益計算書の比較に使用されます。

年累計変更金額	指定した期間または日付以前の当初予算金額を変更する合計金額を入力します。
改訂予算金額	当初予算金額と年累計変更金額の合計を入力します。

## 作業別の買掛金情報の確認

この項では、作業別買掛金照会プログラム(P04220)の概要と、買掛金情報を作業別に確認する方法について説明します。

### 作業別買掛金照会プログラム(P04220)について

作業別買掛金照会プログラム(P04220)は、調達プロセス中に照合された買掛金伝票や、各仕入先が作業に関して手動で入力した買掛金伝票の確認に使用します。この情報は、作業の各タスク(仕入先に基づく)や作業全体に関連する原価のトラッキングに役立ちます。

総額、未決済額、割引情報および日付(総勘定元帳および請求書)や、請求書番号、購買オーダー番号、銀行口座などの他の参照情報が表示されます。伝票の各支払項目を個別に確認することや、すべての支払項目を集計して伝票番号別に情報を表示することが可能です。このプログラムでは、伝票が支払済かどうかに関する情報も表示されます。伝票が支払済の場合、伝票レコードを選択して支払情報を確認できます。

このプログラムは参照用であるため、伝票情報の変更や伝票の支払の保留には、標準伝票入力プログラム(P0411)を使用する必要があります。

情報は買掛金元帳テーブル(F0411)から表示されます。

### 作業別の買掛金情報の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業別買掛金照会の処理	W04220A	「作業原価照会」(G5112)、 「作業別買掛金照会」	特定の作業または仕入先に関連する未決済および支払済伝票を確認します。

### 作業別の買掛金情報の確認

「作業別買掛金照会の処理」フォームにアクセスします。

#### 集計

このチェックボックスを選択すると、伝票取引が支払項目別ではなく伝票タイプ別に表示されます。たとえば、伝票123に55の支払項目がある場合、伝票の各支払項目を表示することや、「集計」チェックボックスを選択し、表示される伝票の明細行を1行にまとめることができます。この場合、すべての支払項目は1つの伝票に集計されます。

## 第 7 章

# 作業進捗状況のトラッキング

この章では、作業進捗状況および計算方法の概要と、次の方法について説明します。

- 現場進捗状況レポート (R51432B) の生成
- 勘定進捗状況情報の入力
- 作業進捗状況情報の入力
- パフォーマンス基準労務進捗状況情報の入力

---

## 作業進捗状況について

各勘定科目に対して作業マスター・レコードを作成し、原価コード構造を設定し、スケジュールを定義し、予算を設定した後は、作業の進捗状況をトラッキングできます。入力した情報に基づき、金額および数量の最終予測値が計算されます。この計算値を使用して、作業の予算値における差異金額を識別できます。最終的には、作業の利益認識を実行する際に、最終予測値を使用して、作業の完了率を計算します。

作業の開始時は、作業の完了時点で予想される最終原価および収益を予測した後、それに応じて予算を入力します。作業の進行中に、最終予測が変化する場合があります。予算の改訂をロックしているかどうかに応じて、予算金額が最終予測値と一致しなくなる場合があります。最終予測値と最終予算値の差異に迅速に対応するほど、問題の識別と修正を迅速に実行できます。作業の完了に近づくにつれて、最終予測はより正確になります。作業の完了時には、最終値は100%確定になり、最終予測値と等しくなります。

最終予測値は、各原価コード勘定科目に割り当てられた計算方法に基づいて計算されます。勘定科目に計算方法を入力していない場合は、D(デフォルト)が自動的に割り当てられます。計算方法により、勘定科目の完了率と、最終予測原価および最終予測数量の両方の計算方法が制御されます。JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、多数の異なる計算方法を選択できます。計算方法は、作業の進行中にいつでも変更できます。

JD Edwards EnterpriseOne作業原価には、作業進捗状況のトラッキングに役立つ4つのプログラムが用意されています。

- 現場進捗状況レポート (R51432B)
- 勘定別進捗状況の入力 (P510211)
- 作業別進捗状況の入力 (P510212)
- パフォーマンス基準労務進捗状況の入力 (P510312)

計算方法に基づき、最終予測値などの特定のフィールドを更新することや、フィールドが更新されないようにすることが可能です。勘定科目が現場進捗保護AAIで指定されていないかぎり、実績数量を変更できます。これらのAAIにより、勘定科目の「実績数量」フィールドの更新が防止されます。この機能は、JD Edwards EnterpriseOne PayrollやJD Edwards EnterpriseOne買掛管理などの他のシステムにより更新される可能性がある場合に役立ちます。

すべての作業別進捗状況入力プログラムでは、次の元帳の作業情報を勘定残高テーブル (F0902) から表示します。

- 実績 (AA/AU)
- 改訂予算 (JA/JU および 定義した追加元帳)
- 未決済コミットメント (PA/PU)
- 強制最終予測値 (FA/FU)
- 強制完了率 (F%)

## 計算方法について

計算方法により、最終予測値、そして最終的には完了率に影響を与えるフィールドの中で、アクセスできるフィールドが決まります。一部の方法は、見出しレベルの勘定科目にのみ割り当てることができます。また、収益勘定科目には使用できない方法もあります。さらに、最終予測値に影響を与える改訂を入力 (強制) できる方法や、最終予測値を自動で計算する方法もあります。

計算方法で最終予測値を強制できる場合は、増分変更値 (加算または減算する値) または合計最終予測値を入力します。各作業進捗状況アプリケーションでは、数量および金額の強制に異なるフィールドが用意されています。最終予測値に影響を与える際に使用する方法にかかわらず、FA/FU 元帳の正味変更が更新されます。

完了率を更新すると、F% 元帳が更新されます。完了率を更新できない場合、完了率は計算方法に基づいて自動的に計算されます。自動的に計算された完了率は F% 元帳に保存されません。計算方法に基づき、「作業状況照会」フォームには F% 元帳の値または自動計算値が表示されます。

各計算方法によって影響を与える元帳は異なるため、また、改訂予算元帳には JA/JU の他にユーザー定義元帳が含まれる場合があるため、次の各表に、計算で使用される元帳と、計算方法の説明で使用される略語を示します。

元帳タイプ	説明
AA/AU	実績金額および数量。
PA/PU	未決済コミットメント (購買オーダー) 金額および数量。
HA/HU	最終予測金額および数量。
FA/FU	強制した最終予測金額および数量。FA/FU の値が改訂予算元帳の値に加算され、最終予測値 (HA および HU) が計算されます。
IA/IU	予算値に対するシステム生成の改訂。
F%	入力した完了率。 F% 元帳は、自動的に計算された完了率の値では更新されません。
RA	残数元帳。RA は単位レート値で更新されるため、RU 元帳は存在しません。残額は計算式 $HA - AA$ を使用して計算されます。

略語	説明
RBLA	JAと他のユーザ一定義改訂予算元帳の金額の合計。
RBLU	JUと他のユーザ一定義改訂予算元帳の数量の合計。
PC	「作業状況照会」フォームおよびレポートに表示される完了率。この値は参照目的で計算されます。作業の完了率は、利益認識の計算に使用されます。
RBLUR	改訂予算元帳単位レート。計算式RBLA / RBLUを使用して計算されます。
AUR	実績単位レート。計算式AA / AUを使用して計算されます。
ETCU	見積残数量。タスクの完了に必要な見積数量です。
ETCA	見積残金額。タスクの完了に必要な見積金額です。
EACU	完了時見積数量。HUと同じですが、正味転記期間フィールドではなくBORGフィールドが更新されます。
EACA	完了時見積金額。HAと同じですが、正味転記期間フィールドではなくBORGフィールドが更新されます。
RMA	残額。計算式HA - AAを使用して計算されます。
RMU	残数。計算式HU - AUを使用して計算されます。

次の情報を各計算方法に割り当てることができます。

- 計算方法を割り当てることができる勘定科目のタイプ
- 勘定科目の完了率の計算に使用する計算式(計算方法により手動入力が不可能となっている場合)
- 勘定科目の最終予測数量の計算に使用する計算式
- 最終予測金額の計算に使用する計算式
- 1つの勘定科目に対する変更が関連する勘定科目(見出しまたは明細勘定科目など)に与える影響

## 方法D(デフォルト)

方法Dは、最終予測値の計算に最もよく使用される方法です。方法Dは最もよく使用されるため、作業に新しい勘定科目を追加する際にデフォルトの計算方法として使用されます。

- 見出しおよび明細勘定科目に割り当てます。
- PCは計算式  $AA / HA \times 100$  を使用して計算されます。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

HUの計算には、2つの計算式AU + PUとRBLUのうち、大きい方が使用されます。

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

HAの計算には、2つの計算式AA + PAとRBLAのうち、大きい方が使用されます。

## 方法F(強制)

方法Fは、最終予測値を強制する場合に、収益勘定科目でない勘定科目に割り当てます。

- 見出しおよび明細勘定科目に割り当てます。
- PC(F%)は参照目的でのみ強制します。計算用に入力した値は使用されません。
- PCを強制しない場合、PCは計算式 $AA / HA \times 100$ を使用して計算されます。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 最終予測数量を強制する場合(FU)、HUの計算には、2つの計算式 $RBLU + FU$ と $AU$ のうち、大きい方が使用されます。
- 最終予測数量を強制しない場合、HUの計算には、2つの計算式 $AU + PU$ と $RBLU$ のうち、大きい方が使用されます。

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 最終予測金額を強制する場合(FA)、HAの計算には、2つの計算式 $RBLA + FA$ と $AA$ のうち、大きい方が使用されます。
- 最終予測金額を強制しない場合、HAの計算には、2つの計算式 $AA + PA$ と $RBLA$ のうち、大きい方が使用されます。

## 方法G(予算デフォルト: 強制)

方法Gは、最終予測値を強制する場合に、収益勘定科目に割り当てます。方法Gは収益勘定科目に割り当て、収益勘定科目には貸方残高があるため、最終予測値はゼロおよび $AA/AU$ より小さくなる場合があります。

- 見出しおよび明細勘定科目に割り当てます。
- PC(F%)は参照目的でのみ強制します。計算用に入力した値は使用されません。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 最終予測数量を強制する場合(FU)、HUの計算には計算式 $RBLU + FU$ が使用されます。
- 最終予測数量を強制しない場合、HUの計算には、計算式 $AU + PU$ と $RBLU$ のうち、大きい方が使用されます。

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 最終予測金額を強制する場合(FA)、HAの計算には計算式 $RBLA + FA$ が使用されます。
- 最終予測金額を強制しない場合、HAの計算には、計算式 $AA + PA$ と $RBLA$ のうち、大きい方が使用されます。

## 方法A(勘定科目: 強制)

方法Aは、改訂予算金額を、見出しと同じ原価コードを共有しているすべての明細勘定科目の実績金額と等しくする場合に、見出し勘定科目に割り当てて最終値を予測します。

- 見出し勘定科目に割り当てます。
- PCは計算式  $AA / HA \times 100$  を使用して計算されます。
- RBLAとRBLUは、それぞれが明細勘定科目のAAとAUに等しくなるように更新されます。

たとえば、見出し勘定科目の実績金額が5,000で改訂予算金額が6,000の場合、改訂予算は5,000に更新され、IA元帳に対する-1,000のレコードがテーブルF0902に生成されます。

AAをRBLAと等しくし、AUをRBLUと等しくする際に使用された改訂予算金額に対する変更がIAおよびIU元帳に反映されます。IAおよびIU元帳を更新することで、予算に対して行われた変更の監査証跡が生成されます。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 最終予測数量を強制する場合(FU)、HUの計算には、2つの計算式  $RBLU + FU$  と  $AU$  のうち、大きい方が使用されます。
- 最終予測数量を強制しない場合、HUの計算には、2つの計算式  $AU + PU$  と  $RBLU$  のうち、大きい方が使用されます。

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

HAの計算には、2つの計算式  $AA + PA$  と  $RBLA$  のうち、大きい方が使用されます。

## 方法P(完了率)

方法Pは、完了率を入力して最終予測値を計算する勘定科目に割り当てます。

- 見出しおよび明細勘定科目に割り当てます。
- PC(F%)を入力します。入力しない場合、PCは計算式  $(AA / HA) \times 100$  を使用して計算されます。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- PC(F%)がゼロの場合、または作業しきい値率より低い場合、HUの計算には、2つの計算式  $AU + PU$  と  $RBLU$  のうち、大きい方が使用されます。
- PC(F%)が作業しきい値率より大きく、AUがゼロでない場合、HUの計算には計算式  $AU / F\%$  が使用されます。
- PC(F%)が100以上の場合、AUがHUとして使用されます。

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- PC(F%)がゼロの場合、または作業しきい値率より低い場合、HAの計算には、2つの計算式  $AA + PA$  と  $RBLA$  のうち、大きい方が使用されます。
- PC(F%)が作業しきい値率より大きく、AAがゼロでない場合、HAの計算には計算式  $(AA / F\%) \times 100$  が使用されます。

- PC (F%) が100以上の場合、AAがHAとして使用されます。

## 方法Q (数量)

方法Qは、入力した数量に基づいて勘定科目の進捗状況を測定する場合に割り当てます。

- 見出しおよび明細勘定科目に割り当てます。
- PCは計算式  $AU / HU \times 100$  を使用して計算されます。

### 最終予測数量 (HU) の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 最終予測数量を強制する場合 (FU)、HUの計算には、2つの計算式  $RBLU + FU$  と  $AU$  のうち、大きい方が使用されます。
- 最終予測数量を強制しない場合、HUの計算には、2つの計算式  $AU + PU$  と  $RBLU$  のうち、大きい方が使用されます。

### 最終予測金額 (HA) の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- PCが100に等しく、AAがゼロより大きい場合、HAはAAに等しくなります。
- PCが100に等しく、AAがゼロに等しい場合、HAはRBLAに等しくなります。

PCが100より小さい場合、PCは「作業マスターの改訂」フォームの作業の「しきい値完了%」フィールドの値と比較され、HAが計算されます。HAは、次の条件のうちで最初に該当する条件に基づいて計算されます。

1. AAがゼロでなく、PCが作業しきい値率より大きい場合、HAの計算には計算式  $AA / PC$  が使用されます。
2.  $RBLUR$  がゼロでなく、AAがゼロでない場合、HAの計算には計算式  $RBLUR \times HU$  が使用されます。
3.  $AUR$  がゼロでない場合、HAの計算には計算式  $AUR \times HU$  が使用されます。
4. 前述のどの条件も該当しない場合、HAの計算には、2つの計算式  $AA + PA$  と  $RBLA$  のうち、大きい方が使用されます。

## 方法C (原価コード見出しの完了率)

方法Cは、明細勘定科目の最終予測値の計算に見出し勘定科目の完了率を使用する場合に割り当てます。方法Cは方法Pまたは方法Qとともに使用する必要があります。これ以外の場合、明細勘定科目の最終予測値 (HAおよびHU) として実績値 (AAおよびAU) が使用されます。

- 明細勘定科目に割り当てます。
- 方法Pを見出し勘定科目に割り当てると、方法Cが割り当てられている明細勘定科目にPC (F%) の値が使用されます。
- 方法Qを見出し勘定科目に割り当てると、方法Cが割り当てられている明細勘定科目のPCの計算に計算式  $AU / HU \times 100$  が使用されます。

### 最終予測数量 (HU) の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 見出し勘定科目のPCが100の場合、 $HU = AU$  になります。

- 見出し勘定科目のPCが作業しきい値率より大きく、AUがゼロでない場合、HUの計算には計算式  $AU / PC$  (見出し勘定科目の値) が使用されます。
- 見出し勘定科目のPCが作業しきい値率より低い場合、またはゼロの場合、HUの計算には、2つの計算式  $AU + PU$  と  $RBLU$  のうち、大きい方が使用されます。

### 最終予測金額 (HA) の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 見出し勘定科目のPCが100の場合、 $HA = AA$  になります。
- 見出し勘定科目のPCが作業しきい値率より大きく、AAがゼロでない場合、HAの計算には計算式  $AA / PC$  (見出し勘定科目の値) が使用されます。
- 見出し勘定科目のPCが作業しきい値率より低い場合、またはゼロの場合、HAの計算には、2つの計算式  $AA + PA$  と  $RBLA$  のうち、大きい方が使用されます。

### 方法O (一時変更)

方法Oは、最終予測値または完了率を手動で入力する場合に割り当てます。最終予測値と完了率は、元帳から取得される情報と、手動で入力した情報に基づき、前述の計算方法で別々に計算されます。

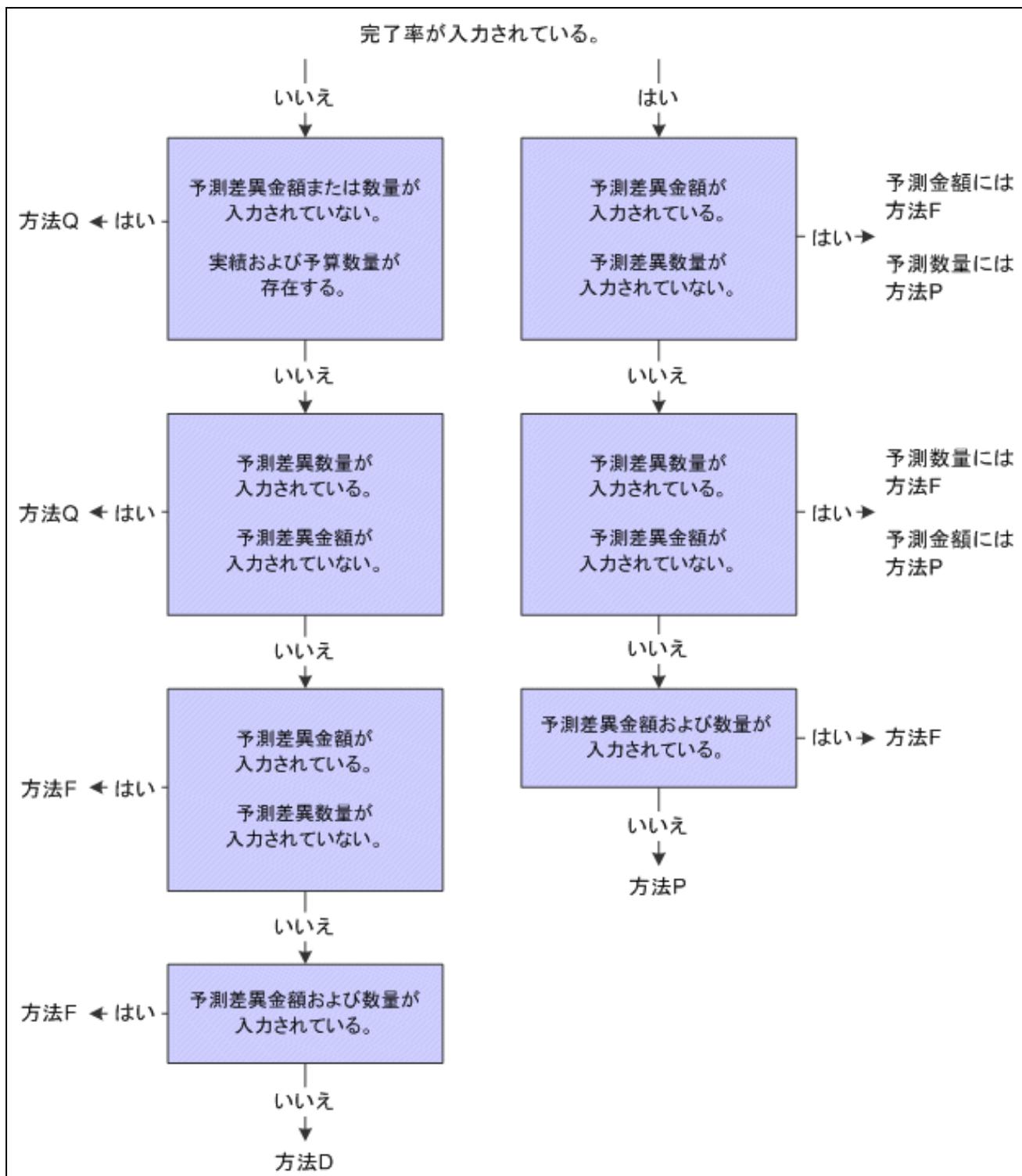
次の表に、対応するフィールドまたは元帳の値の有無に応じて使用される計算方法を示します。

- 見出しおよび明細勘定科目に割り当てます。
- PCを強制しない場合 (F%)、PCは計算式  $(AU / HU) \times 100$  を使用して計算されます。

完了率の入力 (F%)	最終予測金額の入力 (FA)	最終予測数量の入力 (FU)	金額の計算方法	数量の計算方法
○	○	×	F	P
○	×	○	P	F
○	○	○	F	F
○	×	×	P	P
×	×	×	Q*	Q*
×	×	○	Q	Q
×	○	×	F	F
×	○	○	F	F

\* 方法Qは、実績数量と改訂予算元帳の数量に値がある場合にのみ使用されます。これ以外の場合は方法Dが使用されます。

次の図は、方法Oを示しています。



完了率の入力

### 方法SおよびI(集計および組込み)

方法Sは、方法Oを使用して、下位の詳細レベルの勘定科目の金額を集計する場合に割り当てます。方法Sは、常に方法Iとともに使用します。

- 見出し勘定科目または下位の詳細レベルが存在する明細勘定科目に方法Sを割り当てます。  
方法Sを見出し勘定科目に割り当てる場合、その下位の明細勘定科目が同じ原価コードで設定されている必要があります。方法Sを明細勘定科目に割り当てる場合、それより下位の詳細レベルの勘定科目がその原価コードに対して存在する必要があります。つまり、集計する明細が存在する必要があります。
- 方法Iは明細勘定科目にのみ割り当てます。
- 金額(AA、PAおよびRBLAのみ)が集計され、方法SおよびIが割り当てられている勘定科目のHAが計算されます。
- 方法Sが割り当てられている勘定科目では、方法Oを使用してHAおよびHUが計算されます。F%が入力されている場合は、PCにF%が使用されます。入力されていない場合、PCは計算式(AA / HA) × 100を使用して計算されます。
- 方法Iが割り当てられている勘定科目のHA、HUおよびPCは計算されません。

次に、作業の勘定科目に方法SおよびIを割り当てる方法の例を示します。

勘定科目コード	詳細レベル	方法
501.02200	4	D
501.02200.1340	8	S
501.02200.1341	9	I
501.02200.1342	9	I
501.02200.1343	9	I
501.02600	4	D
501.02600.1340	8	S
501.02600.1341	9	I
501.02600.1342	9	I
501.02600.1343	9	I

**注意:** 勘定科目の集計処理は、大量のシステム・リソースを必要とするため、必要な場合にのみ行ってください。たとえば、金額を1つの明細勘定科目に転記する場合、集計する明細勘定科目の数に応じて、集計勘定科目の再計算および更新のために集計される全勘定科目について、影響を受ける全元帳から該当する金額を取得する必要があります。集計する勘定科目が多いほど、処理時間は長くなります。

## 方法E(見積残)

方法Eは、タスクを完了して最終予測値を計算するために必要な見積金額または数量を判断する場合に割り当てます。ETC(見積残)フィールドを表示するには、作業進捗の入力プログラムを使用する必要があります。

- 見出しおよび明細勘定科目に割り当てます。
- PCは計算式 AA / HA × 100を使用して計算されます。

## 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

ETCU(見積残数量)またはEACU(完了時見積数量)フィールドを更新できます。

---

**注意:** 更新するフィールドにかかわらず、新しい最終予測値は、期間の転記額フィールドではなく、HU元帳のBORGフィールドに反映されます。

---

- 見積残数量を入力すると、HUの計算には計算式ETCU + AUが使用されます。
- EACU値を入力すると、EACUとAUの差異が計算され、ETCUが表示されます。
- EACUがゼロの場合、HUの計算には、2つの計算式AU + PUとRBLUのうち、大きい方が使用されます。

## 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

ETCA(見積残金額)またはEACA(完了時見積金額)フィールドを更新できます。

---

**注意:** 更新するフィールドにかかわらず、新しい最終予測値は、期間の転記額フィールドではなく、HA元帳のBORGフィールドに反映されます。

---

- 見積残金額を入力すると、HAの計算には計算式ETCA + AAが使用されます。
- EACA値を入力すると、EACAとAAの差異が計算され、ETCAが表示されます。
- EACAがゼロの場合、HAの計算には、2つの計算式AA + PAとRBLAのうち、大きい方が使用されます。

## 方法HおよびL(作業量および労務)

方法HおよびLは、既存数量および発生値に基づいて労務(または他の類似した勘定科目)の進捗状況を測定する場合に割り当てます。

### 方法Hに適用される規則

次の規則に従います。

- 見出し勘定科目に割り当てます。
- PCは計算式(AU / HU) × 100を使用して計算されます。
- RBLUがHUとして使用されます。
- RBLAがHAとして使用されます。

### 方法Lに適用される規則

次の規則に従います。

- 明細勘定科目に割り当てます。

通常労務費や超過労務費などの下位の詳細レベルの労務費勘定科目の集計勘定科目として機能する労務費勘定科目がある場合、方法Lを最上位の詳細レベルの労務費勘定科目に割り当て、方法Nまたは方法Iを下位の詳細レベルの勘定科目に割り当てます。

---

**注意:** 単位は、すべての明細勘定科目で同じである必要があります。

---

- PCは計算式(AU / HU) × 100を使用して計算されます。

## 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

見出し勘定科目のPCが「作業マスターの改訂」フォームの「しきい値完了%」フィールドと比較され、HUの計算方法が決定されます。

- PCがしきい値率より低い場合、RBLUがHUとして使用されます。
- PCがしきい値率以上で、最終予測数量を強制(FU)する場合、HUの計算には計算式RBLU + FUが使用されます。
- PCがしきい値率以上で、最終予測数量を強制しない場合(FU)、HUは、発生数量を使用して計算された数量パフォーマンス係数に基づいて計算されます。
  - 発生数量 = PC(見出し勘定科目から計算) × 改訂予算労務時間(明細勘定科目のRBLUの合計)  
たとえば、タスクが土木工事で、完了率が40で、改訂予算労務時間(RBLU)が230の場合、発生数量は92になります。
  - 数量パフォーマンス係数 = 実績作業量(集計) / 発生数量  
たとえば、タスクが土木工事で、実績作業量(AU)が150で、発生数量が92の場合、数量パフォーマンス係数は1.63になります。
  - $HU = RBLU \times \text{数量パフォーマンス係数}$   
前述の例の値を使用すると、 $HU = 230(RBLU) \times 1.63(\text{数量パフォーマンス係数})$ で、374.9になります。

## 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

見出し勘定科目のPCが「作業マスターの改訂」フォームの「しきい値完了%」フィールドと比較され、HAの計算方法が決定されます。

- PCがしきい値より小さい場合、RBLAがHAとして使用されます。
- PCがしきい値率以上で、最終予測金額を強制する場合(FA)、HAの計算には計算式RBLA + FAが使用されます。
- PCがしきい値率以上で、最終予測金額を強制しない場合、HAは、発生金額を使用して計算された金額パフォーマンス係数に基づいて計算されます。
  - 発生原価 = PC(見出し勘定科目から計算) × 改訂予算労務費(明細勘定科目のRBLAの合計)  
たとえば、タスクが土木工事で、完了率が40で、改訂予算労務費が30,000の場合、発生原価は12,000になります。
  - 金額パフォーマンス係数 = 実績労務費(集計) / 発生原価  
たとえば、タスクが土木工事で、実績労務費(AA)が11,500で、発生原価が12,000の場合、金額パフォーマンス係数は0.9533になります。
  - $HA = RBLA \times \text{金額パフォーマンス係数}$   
前述の例の値を使用すると、 $HA = 30,000(RBLA) \times 0.9533(\text{金額パフォーマンス係数})$ で、28,599になります。

## 方法B(買取りまたは固定価格契約)

方法Bは、契約、サービスまたは非在庫購買オーダーに使用される勘定科目に割り当てます。この計算方法は、最終予測値をコミットメント合計と等しくする場合に使用します。

- 明細勘定科目に割り当てます。
- PCは計算式 $AA / HA \times 100$ を使用して計算されます。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- HUは計算式  $AU + PU$  を使用して計算されます。
- $AU + PU$  がゼロの場合、RBLUがHUとして使用されます。

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- HAは計算式  $AA + PA$  を使用して計算されます。
- $AA + PA$  がゼロの場合、RBLAがHAとして使用されます。

## 方法R(収益: 単価契約)

方法Rは、既存数量に基づいて契約者に支払が行われる場合に割り当てます。

- 見出し勘定科目に割り当てます。
- PCは計算式  $AU / HU \times 100$  を使用して計算されます。
- 最終予測値の変更の比率が計算され、その値に各明細勘定科目のRBLUおよびRBLAが掛けられ、その結果がIA/IU元帳に反映されます。

たとえば、HAが2000で、新しい最終予測金額(FA)として「2200」を入力することでこれを変更する場合、変更の比率は  $200 \div 2000 \times 100$  で、10%と計算されます。RBLA = 1,800の場合は、これに0.10が掛けられ、IA元帳が変更金額(180)で更新されます。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 最終予測数量を強制する場合(FU)、HUの計算には、2つの計算式  $RBLU + FU$  と  $AU$  のうち、大きい方が使用されます。
- 最終予測数量を強制しない場合、HUの計算には、2つの計算式  $AU + PU$  と  $RBLU$  のうち、大きい方が使用されます。

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

HAの計算には、2つの計算式  $AA + PA$  と  $RBLA$  のうち、大きい方が使用されます。

## 方法U(残存単位レート)

方法Uは、タスクの完了に必要な残額を計算する場合に、明細勘定科目に割り当てます。このためには、関連する見出し勘定科目の残数量および単位レートが使用されます。

- 明細勘定科目に割り当てます。
- PCは計算式  $(AA / HA) \times 100$  を使用して計算されます。
- 残存単位レート(RA)を入力できます。RA元帳は指定したレートで更新されます。

### 見出し勘定科目のレートの計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 見出し勘定科目の残数(RMU)は計算式  $HU - AU$  を使用して計算されます。

- 見出し勘定科目の実績単位レート(AUR)は計算式AA(明細勘定科目の値) / AU(見出し勘定科目の値)を使用して計算されます。
- 見出し勘定科目の改訂予算元帳単位レート(RBLUR)は計算式RBLA(明細勘定科目の値) / RBLU(見出し勘定科目の値)を使用して計算されます。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 明細勘定科目のHUは計算式HA / AURを使用して計算されます。
- AURがゼロの場合、HUの計算には、2つの計算式AU + PUとRBLUのうち、大きい方が使用されます。

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 次の階層に従って、残額(RMA)が計算されます。
  1. RAがゼロでない場合、RMAの計算には計算式RMU × RAが使用されます。
  2. RAがゼロの場合、残額(RMA)の計算には、見出し勘定科目のRMU × AURと見出し勘定科目のRU × RBLURという2つの計算式のうち、大きい方が使用されます。
- RMAがゼロでない場合、HAの計算には計算式AA + RMAが使用されます。
- RMAがゼロの場合、HAの計算には、2つの計算式AA + PAとRBLAのうち、大きい方が使用されます。

## 方法V(絶対値)

方法Vは、最終予測値がゼロより小さくなる場合に、貸方残高がある収益勘定科目に割り当てます。

- 見出しまたは明細勘定科目に割り当てます。
- PCは計算式AA / HA × 100を使用して計算されます。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

HUは次の3つの計算式の中で最大の値を使用して計算されます。

- RBLUの絶対値
- AU + PUの絶対値
- AUの絶対値

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

HAは次の3つの計算式の中で最大の値を使用して計算されます。

- RBLAの絶対値
- AA + PAの絶対値
- AAの絶対値

## 方法N(予測なし)

方法Nは、最終予測値または完了率を自動で計算しない場合に割り当てます。この方法を割り当てると、進捗状況が勘定科目の見出しレベルで計算およびトラッキングされる場合に、重複する最終予測値が生成されなくなります。

- 見出しおよび明細勘定科目に割り当てます。
- HA、HUおよびPCは自動で計算されません。

## 方法T(合計)

方法Tは、詳細レベルに基づいて合計用に生成された勘定科目に自動的に割り当てられます。ただし、これを使用して、最終予測数量を強制(FU)できます。

- 見出し勘定科目に割り当てます。  
方法Tは任意の見出し勘定科目に割り当てることができますが、この情報は各見出し勘定科目に対して自動で生成されるため、手動で割り当てる必要はありません。
- PCは計算式 $(AA / HA) \times 100$ を使用して計算されます。

### 最終予測数量(HU)の計算に適用される規則

次の規則に従います。

- 最終予測数量を強制する場合(FU)、HUの計算には、2つの計算式RBLU + FUとAUのうち、大きい方が使用されます。
- 最終予測数量を強制しない場合、HUの計算には、2つの計算式AU + PUとRBLUのうち、大きい方が使用されます。

**注意:** 作業状況照会プログラムでは、すべての明細勘定科目に割り当てられている単位が同じでないかぎり、数量の合計は表示されません。

### 最終予測金額(HA)の計算に適用される規則

HAは計算されません。合計が自動で生成される場合、明細勘定科目の最終予測金額を集計して合計が計算されます。

次の表に、詳細レベルに基づいて作成される勘定科目を示します。

勘定科目	詳細レベル	計算方法
169.02000	4	N
169.02200.	5	N
169.02200.1340	8	D
169.02200.1341	9	D
169.02200.1342	9	D
169.02200.1343	9	D
169.02200.1340	8	T
169.02200	5	T
169.02000	4	T

## 計算方法のクイック・リスト

次の各表に、各計算方法(MOC)を割り当てることができる勘定科目のタイプと、各計算方法で変更できるフィールドを示します。

勘定科目 タイプ別 MOC	A	B	C	D	E	F	G	H	I	L	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
収益					○		○								○				○
見出しの み	○							○							○		○		
明細のみ		○	○						○	○								○	
見出しお よび明細				○	○	○	○				○	○	○	○		○			○

AU元帳の数量値は更新できません。

次の表に、最終予測値または完了率を強制できる計算方法を示します。強制しない場合、前述の各方法の計算式に基づいて値が計算されます。

変更する フィールド	A	B	C	D	E	F	G	H	I	L	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
完了率 (F%)						○	○					○	○			○			
最終予測 金額-強 制 (FA)						○	○			○		○				○			
最終予測 数量-強 制 (FU)	○					○	○			○		○		○	○	○	○		
残存単位 レート(RA)																		○	
HU-最終 予測数量 (BORGの み)					○														
HA-最終 予測金額 (BORGの み)					○														

## 事前設定

この章のタスクを実行する前に、次の作業を行う必要があります。

- 作業進捗状況のトラッキングに使用する追加の改訂予算元帳タイプがある場合、その元帳タイプを設定します。

参照: 第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価の元帳タイプの設定」、19ページ

- 現場進捗状況AAIが正しく設定されていることを確認します。

参照: 第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価のAAIの設定」、16ページ

- 作業原価固定情報が正しく設定されていることを確認します。

参照: 第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価固定情報の設定」、14ページ

## この章で使用する共通フィールド

<b>参照番号</b>	現場進捗状況の変更に関連する勘定科目のグループ化および識別に使用する番号を入力します。 この番号はフィールドで制御できます。
<b>計算方法</b>	勘定科目の完了率と最終予測金額および数量の計算に使用する計算方法を入力します。計算方法としては、ユーザー定義コード(UDC)テーブル(51/MC)でハードコード化されている値を入力します。
<b>実績+/-数量</b>	実績数量を変更する数を入力します。たとえば、単位数量を50増やすには「50」と入力します。単位数量を50減らすには「-50」と入力します。AU元帳は、入力した変更値で更新され、更新された値がフォームに表示されます。
<b>強制+/-数量</b>	最終予測数量を変更する単位数量を入力します。たとえば、単位数量を50増やすには「50」と入力します。単位数量を50減らすには「-50」と入力します。入力した数はFU元帳に保存され、「強制合計数量」および「最終予測数量」フィールドの値が変更され、HU元帳が更新されます。このフィールドは、計算方法A、F、G、L、O、Q、R、SおよびTにのみ表示されます。
<b>強制+/-金額</b>	最終予測金額を変更する金額を入力します。たとえば、金額を50増やすには「50」と入力します。金額を50減らすには「-50」と入力します。入力した金額はFA元帳に保存され、「強制合計金額」および「最終予測金額」フィールドの値が変更され、HA元帳が更新されます。このフィールドは、計算方法F、G、L、OおよびSにのみ表示されます。
<b>強制合計数量</b>	最終予測数量の合計数を入力します。入力した数はFU元帳に保存され、「強制+/-数量」および「最終予測数量」フィールドの値が変更され、HU元帳が更新されます。このフィールドは、計算方法A、F、G、L、O、Q、R、SおよびTにのみ表示されます。
<b>強制合計金額</b>	最終予測金額の合計を入力します。入力した金額はFA元帳に保存され、「強制+/-金額」および「最終予測金額」フィールドの値が変更され、HA元帳が更新されます。このフィールドは、計算方法F、G、L、OおよびSにのみ表示されます。

## 現場進捗状況レポートの生成

この項では、現場進捗状況レポートの概要と、次の方法について説明します。

- 現場進捗状況レポート(R51432B)の実行
- 現場進捗状況レポート(R51432B)の処理オプションの設定

### 現場進捗状況レポートについて

最終予測情報を計算するには、最初に作業の各タスクの進捗状況情報を見積る必要があります。現場進捗状況レポートを生成すると、作業現場に持参してワークシートとして使用し、トラッキングする作業の数量、時間、原価および作業の完了に関連する他の情報を記録できます。その後、情報をシステムに入力し、完了率および最終予測値を計算できます。

現場進捗状況レポートには、作業進捗状況の記録に必要な全情報(原価コードおよび原価タイプ、計算方法、改訂予算情報、実績金額および数量、最終予測金額および数量、プロジェクトの予算差異金額および数量)が印刷されます。

印刷する作業の指定にはデータ選択を使用し、印刷する各原価コードの詳細レベルの指定には処理オプションを使用します。補助元帳および補助元帳タイプを指定して情報を選択することも可能です。

### 現場進捗状況レポートの実行

「進捗状況の入力/報告」(G5121)の「現場進捗状況レポート」を選択します。

### 現場進捗状況レポート(R51432B)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### デフォルト

- 1. 基準日** レポート生成の基準とする日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、作業に割り当てられている会社に割り当てられている現在の財務報告日付が使用されます。
- 2. 補助元帳** 勘定科目を選択する補助元帳を入力します。この処理オプションは、「補助元帳タイプ」処理オプションと組み合わせて使用します。すべての補助元帳を指定する場合は、「\*」を入力します。
- 3. 補助元帳タイプ** 「補助元帳」処理オプションに指定した補助元帳に対応する補助元帳タイプを入力します。UDC 00/STに設定されている補助元帳タイプを入力する必要があります。
- 4. 勘定詳細レベル** 勘定科目の印刷に使用する詳細レベル(3から9)を指定します。入力した値以上の(詳細でない)詳細レベルの勘定科目が印刷されます。たとえば、この処理オプションに「5」と入力すると、詳細レベル1、2、3、4、5のみの勘定科目が表示されます。この処理オプションを空白にすると、デフォルトの値9が使用され、全勘定科目が印刷されます。
- 5. 下線を表示するフィールド** レポートに下線を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 各処理オプション値の後に下線を印刷します。

1: 計算方法に基づいて値を入力できる処理オプションの下にのみ下線を印刷します。

## 勘定進捗状況情報の入力

この項では、勘定別進捗状況の入力プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 勘定別進捗状況の入力(P510211)の処理オプションの設定
- 勘定進捗状況情報の入力

### 勘定別進捗状況の入力プログラム(P510211)について

勘定別進捗状況の入力プログラム(P510211)は、個々の勘定科目の情報を更新する際に使用します。このプログラムをメニューから選択すると、表示する作業情報の選択に使用する「作業状況照会」フォーム(ユーザー定義カラムを含む)が表示されます。作業状況照会プログラムの処理オプションは、勘定科目レコードの選択時に勘定別進捗状況の入力プログラムが自動的に起動されるように設定されている必要があります。

割り当てられている計算方法に応じて、最終予測値および完了率を変更できるフィールドが表示されません。実績数量はいつでも変更できます。変更できるフィールドを確認するには、計算方法を変更します。このフォームにはどの計算方法でも予算情報は表示されませんが、この情報には「フォーム」メニューを使用して簡単にアクセスできます。

「OK」をクリックして「作業状況照会」フォームに戻ると、F0902テーブルが更新されます。

### 勘定進捗状況情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
進捗状況の入力	W510211A	「進捗状況の入力/報告」(G5121)、「勘定別進捗状況の入力」 「作業状況照会」で、「ロー」メニューから「進捗状況の入力」の「勘定科目」を選択します。	勘定進捗状況情報を入力します。データを入力できる進捗状況入力フィールドは、勘定科目の計算方法によって異なります。

### 勘定別進捗状況の入力(P510211)の処理オプションの設定

勘定別進捗状況の入力の処理オプションにアクセスするには、対話型バージョンのプログラムID(P983051)を使用する必要があります。

#### 表示オプション

##### 1. 表示する予算変更フィールド

「進捗状況の入力」フォームにすべての変更処理オプション(累計および+/-)を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべての変更処理オプションを表示します。

1: 増分値による変更で使用される処理オプションのみを表示します(「+/-数量」、「+/-金額」)。

2: 累計値による変更を使用される処理オプションのみを表示します(「累計数量」、「累計金額」)。

## 処理

### 1. 元帳日付のチェック

入力した総勘定元帳日付を、会社に入力した現行期間および総勘定元帳固定情報と照合するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 検証する。

1: 検証しない。

### 2. 計算方法の変更許可

計算方法処理オプションの変更を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 変更可

1: 変更不可

### 3. 予算監査証跡の記録

入力した進捗状況入力改訂に対する監査証跡として取引明細レコード(F0911)を生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 進捗状況入力改訂の期間ごとにF0911レコードを1つ生成します。同一期間内に複数の改訂が入力された場合、仕訳の同じ明細行が更新され、累計残高が保持されます。

1: 同一期間内に行われた変更の数にかかわらず、入力された進捗状況入力改訂ごとにF0911レコードを1つ生成します。

2: 進捗状況入力改訂に対してF0911レコードを生成しません。

### 4. 参照番号

監査証跡に対して生成される仕訳に割り当てる参照番号を指定します。参照番号を入力することで、処理オプションの進捗状況の変更に対して生成される仕訳をグループ化できます。

### 5. 監査証跡の摘要

生成される監査証跡レコードに割り当てる摘要を指定します。空白にした場合、現場進捗状況入力が割り当てられます。

## バージョン

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

### 1. 当初予算の入力 (P510121)のバージョン

「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に実行する、当初予算の入力プログラムのバージョンを指定します。

### 2. 作業予算の改訂 (P510171)のバージョン

「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に実行する、作業予算の改訂プログラムのバージョンを指定します。

## 勘定進捗状況情報の入力

「進捗状況の入力」フォームにアクセスします。

勘定別進捗状況の入力 - 進捗状況の入力 i ?

作業状況照会 **進捗状況の入力**

OK(O) 取消(L) フォーム(E) 前 次 ツール(T)

作業No.	5100	Potomac Hotel	元帳日付	2005/06/30
02600	1341	Regular	補助元帳	+
参照No.		作業転記編集	勘定科目転記	計算方法 C
記述	Field Progress Entry			

	最終予測	実績 +/-	実績合計
数量	2,200.00		550.00
金額	47,154.00		11,788.50

「進捗状況の入力」フォーム

このフォームに表示されるフィールドは、勘定科目に割り当てられている計算方法に直接対応します。

<b>作業転記編集</b>	作業に割り当てる転記編集コードを入力します。
<b>勘定科目転記</b>	勘定科目に割り当てる転記編集コードを入力します。
<b>実績合計数量</b>	勘定科目の合計数量を入力します。「実績+/-数量」フィールドの値が変更され、入力した数量でAU元帳が更新されます。
<b>完了%</b>	勘定科目(タスク)で完了している累計パーセント合計を入力します。計算方法に応じて、完了率値を入力(強制)できます。

## 作業進捗状況情報の入力

この項では、作業別進捗状況の入力プログラム(P510212)の概要と、次の方法について説明します。

- 作業別進捗状況の入力(P510212)の処理オプションの設定
- 作業進捗状況情報の入力

### 作業別進捗状況の入力プログラム(P510212)について

作業別進捗状況の入力プログラム(P510212)は、進捗状況情報を勘定科目別ではなく作業別に確認する際に使用します。勘定別進捗状況の入力プログラムと同様に、作業別進捗状況の入力を選択すると、「作業状況照会」フォーム(ユーザー定義カラムを含む)が表示されます。作業状況照会プログラムの処理オプションは、勘定科目レコードの選択時に作業別進捗状況の入力プログラムが自動的に起動されるように設定されている必要があります。

変更できるフィールドのみが表示される勘定別進捗状況の入力プログラムとは異なり、「作業別進捗状況の入力」フォームには、確認するカラムを表示するために選択できる事前定義済カラムがあります。計算方法でフィールドの更新が許可されている場合、変更をフォームに直接入力できます。

計算方法で予算の改訂が許可されている場合、予算改訂プログラム(P510171)を使用して予算改訂を入力する場合と同様にF0902テーブルが更新されますが、予算改訂に生成されるF0911監査証跡レコードにFP(現場進捗状況)が割り当てられる点のみが異なります。P510171プログラムを使用して予算情報を変更する場合、仕訳に割り当てる伝票タイプを処理オプションで指定できます。

**注意:** 処理オプションにより、予算を改訂する際に更新される予算元帳タイプが決まります。予算改訂を入力する前に、元帳タイプが正しいことを確認してください。

## 作業進捗状況情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業別進捗状況の入力	W510212A	「進捗状況の入力/報告」(G5121)、「作業別進捗状況の入力」 「作業状況照会」フォームで、「ロー」メニューから「進捗状況の入力」の「作業」を選択します。	作業進捗状況情報を入力します。データを入力できる進捗状況入力フィールドは、勘定科目の計算方法によって異なります。

## 作業別進捗状況の入力(P510212)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

- 1. デフォルトの原価コード範囲**

**開始原価コード**  
表示する勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価コード」フィールドに入力した値以前の全原価コードが表示されます。

**終了原価コード**  
表示する勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価コード」フィールドに入力した値以降の全原価コードが表示されます。
- 2. デフォルトの原価タイプ範囲**

**開始原価タイプ**  
表示する勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価タイプ」フィールドに入力した原価タイプ以前の全原価タイプが表示されます。

**終了原価タイプ**  
表示する勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価タイプ」フィールドに入力した値以降の全原価タイプが表示されます。
- 3. 勘定科目の制限**  
「デフォルトの原価コード範囲」および「デフォルトの原価タイプ範囲」処理オプションの勘定科目範囲をフォーム上で変更するかどうか指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 表示する勘定科目範囲を変更できます。

1: フォームに表示された勘定科目範囲は変更できません。フォームの「追加選択」領域の勘定科目処理オプションは無効になります。

#### 4. 計算方法の変更許可

「計算方法」処理オプションの変更を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 計算方法を変更できます。

1: 計算方法は変更できません。

#### 5. カラム・バージョン

「作業別進捗状況の入力」フォームに表示されるデフォルトのカラム・バージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、以前に保存したカラム・バージョンを選択するか、フォームに表示するカラムを選択できます。

---

**注意:** 保存されているカラム・バージョンがない場合、このプログラムに前回アクセスした際に設定したカラムが表示されます。

---

### 処理

#### 1. 元帳タイプ

金額の表示および更新に使用する改訂予算元帳タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、JAが使用されます。

---

**注意:** 入力した元帳タイプに基づき、数量に対応する改訂予算元帳タイプが自動的に使用されます。

---

#### 2. 元帳日付の検証

入力した総勘定元帳日付を、会社に入力した現行期間および総勘定元帳固定情報と照合するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 検証する。

1: 検証しない。

#### 3. 予算監査証跡の記録

入力した進捗状況入力改訂に対する監査証跡として取引明細レコード (F0911) を生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 進捗状況入力改訂の期間ごとにF0911レコードを1つ生成します。同一期間内に複数の改訂が入力された場合、仕訳の同じ明細行が更新され、累計残高が保持されます。

1: 同一期間内に行われた変更の数にかかわらず、入力された進捗状況入力改訂ごとにF0911レコードを1つ生成します。

2: 進捗状況入力改訂に対してF0911レコードを生成しません。

#### 4. 参照番号

監査証跡に対して生成される仕訳に割り当てる参照番号を指定します。参照番号を入力することで、現場進捗状況変更に対して生成される仕訳をグループ化できます。

#### 5. 変更仕訳の摘要

生成される監査証跡レコードに割り当てる摘要を指定します。ブランクにした場合、現場進捗状況入力が割り当てられます。

#### 6. カラム・バージョンの変更許可

カラム・バージョンの変更および追加を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 許可しない。

1: 許可する。

## バージョン

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

1. 当初予算 (P510121) のバージョン 「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に実行する、当初予算の入力プログラムのバージョンを指定します。
2. 予算改訂 (P510171) のバージョン 「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に実行する、作業予算の改訂プログラムのバージョンを指定します。

## 作業進捗状況情報の入力

「作業別進捗状況の入力」フォームにアクセスします。

作業別進捗状況の入力 - 作業別進捗状況の入力

OK(O) 検索(F) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

表示 追加選択 カラム 追加カラム 予算改訂

作業 No. 5100 日付期間 2011/05/30  
 Potomac Hotel 詳細レベル 9  
 作業転記編集 補助元帳 \*  
 カラムバージョン (空白=ユーザーID) 計算方式 \*

レコード 1 - 10 > <

グリッドのカスタマイズ

	原価コード	原価タイプ	記述	計算方法	転記編集	詳細レベル	単位	参照 2	備考
<input checked="" type="radio"/>	01000		GENERAL REQUIREMENTS	N	N	3			Field Progress Entry
<input type="radio"/>	02000		SITE WORK	N	N	3			Field Progress Entry
<input type="radio"/>	02200		Earthwork	N	B	4	CY		Field Progress Entry
<input type="radio"/>	02200	1340	Labor	N	N	8	MH		Field Progress Entry
<input type="radio"/>	02200	1341	Regular	D		9	MH		Field Progress Entry
<input type="radio"/>	02200	1342	Overtime	D		9	MH		Field Progress Entry
<input type="radio"/>	02200	1343	Burden	D		9			Field Progress Entry
<input type="radio"/>	02200	1350	Materials	P		8	EA		Field Progress Entry
<input type="radio"/>	02200	1355	Equipment	D		8	HR		Field Progress Entry
<input type="radio"/>	02200	1360	Subcontracting	B		8	LS		Field Progress Entry

「作業別進捗状況の入力」フォーム

### 表示

「表示」タブを選択します。

### カラム・バージョン

表示する照会カラムのバージョンを入力します。このフィールドを空白にすると、ユーザーIDに関連するバージョンが自動的に表示されます。このバージョンは、このプログラムを前回使用したときに自動的に作成されたものです。ユーザーIDに関連するバージョンがない場合は、表示するカラムを手動で選択する必要があります。

## 追加選択

「追加選択」タブを選択します。

**スキップ元原価コード、スキップ先原価コード** このチェックボックスを選択すると、「スキップ元原価コード」および「スキップ先原価コード」フィールドのカラムが表示されます。

**スキップ元原価タイプ、スキップ先原価タイプ** このチェックボックスを選択すると、「スキップ元原価タイプ」および「スキップ先原価タイプ」フィールドが表示されます。

## カラム

「カラム」タブを選択します。

**最終予測単位レート** このチェックボックスを選択すると、「最終予測単位レート」処理オプションのカラムが表示されます。指定した期間に基づき、最終予測数量を最終予測金額で割り (HA / HU)、計算が行われます。

## 追加カラム

「追加カラム」タブを選択します。

**見積残金額** このチェックボックスを選択すると、「見積残金額」フィールドのカラムが表示されます。指定した期間に基づき、実績金額から最終予測金額を引き (HA - AA)、見積残が計算されます。

---

**注意:** 最終予測金額は、期間の転記額フィールドではなく、勘定残高テーブル (F0902) のBORGフィールドに反映されます。

---

**完了時見積金額** このチェックボックスを選択すると、「完了時見積金額」フィールドのカラムが表示されます。完了時見積金額は、最終予測金額を表す別の用語です。指定した期間に基づき、HA元帳の値が表示されます。

最終予測金額は、期間の転記額フィールドではなく、勘定残高テーブル (F0902) のBORGフィールドに反映されます。

**見積残数量** このチェックボックスを選択すると、「見積残数量」フィールドのカラムが表示されます。指定した期間に基づき、実績数量から最終予測数量を引き (HU - AU)、見積残が計算されます。

最終予測金額は、期間の転記額フィールドではなく、勘定残高テーブル (F0902) のBORGフィールドに反映されます。

**完了時見積数量** このチェックボックスを選択すると、「完了時見積数量」フィールドのカラムが表示されます。完了時見積数量は、最終予測数量を表す別の用語です。指定した期間に基づき、HU元帳の値が表示されます。

最終予測金額は、期間の転記額フィールドではなく、勘定残高テーブル (F0902) のBORGフィールドに反映されます。

**見積残単位レート** このチェックボックスを選択すると、「見積残単位レート」フィールドのカラムが表示されます。見積残金額を見積残数量で割り、見積残単位レートが計算されます。

**完了時見積単位レート** このチェックボックスを選択すると、「完了時見積単位レート」フィールドのカラムが表示されます。完了時見積単位レートは、最終予測単位レートを表

す別の用語です。完了時見積金額を完了時見積数量で割り(HA / HU)、完了時見積単位レートが計算されます。

#### 残存単位レート

このチェックボックスを選択すると、「残存単位レート」フィールドのカラムが表示されます。残数の値を実績金額で割り(RA / AA)、残存単位レートが計算されます。

#### グリッド

グリッド領域にアクセスします。

#### 転記編集

勘定科目に割り当てる転記編集コードを入力します。

#### 詳細レベル

勘定科目に割り当てる詳細レベルを入力します。

## パフォーマンス基準労務進捗状況情報の入力

この項では、パフォーマンス基準労務進捗状況の入力プログラム(P510312)の概要と、次の方法について説明します。

- パフォーマンス基準労務進捗状況の入力(P510312)の処理オプションの設定
- パフォーマンス基準労務進捗状況情報の入力

### パフォーマンス基準労務進捗状況の入力プログラム(P510312)について

パフォーマンス基準労務進捗状況の入力プログラム(P510312)は、労務時間および原価の進捗状況を生産性に基づいて測定する際に使用します。他の進捗状況入力プログラムとは異なり、パフォーマンス基準労務進捗状況の入力プログラムは、労務(または計算方法HおよびLを割り当てた他の類似の勘定科目)のパフォーマンスの評価専用に設計されています。労務費と労務時間の実績と予算を測定するだけでは、パフォーマンスが分析で考慮されていないため、タスクが予算を超えるリスクがあるかどうかを評価できません。パフォーマンス基準労務進捗状況の入力プログラムでは、発生値を計算するため、特定の時点でどの程度の活動を完了しておく必要があるかを特定できます。その後、実際原価および時間を発生原価および時間で割り、パフォーマンス係数が算出されます。パフォーマンス係数を計算することで、労務費を、タスクに費やされた単なる労務時間でなく、生産労務時間と比較できます。

他の作業進捗状況プログラムとは異なり、勘定科目を作業別に表示して選択する「作業状況照会」フォームは表示されませんが、計算方法HおよびLが割り当てられている勘定科目のみを表示する照会フォームが表示されます。さらに詳細な検索を行うには、パフォーマンス係数に基づいて許容例外範囲を入力します。入力後は、許容範囲外の労務費勘定科目のみが表示されるようになります。これで、パフォーマンス面でリスクのある勘定科目にアクセスできます。照会プログラムには、表示するカラムを選択するチェックボックスもあります。勘定残高は、開始日以降累計、累計(年累計)または期間で表示できます。

「パフォーマンス・ベース労務活動の処理」フォームから勘定科目を選択すると、「労務進捗状況入力の改訂」フォームが表示されます。このフォームでは、生産性、単位レート、時給など、タスクの現在の活動を分析できます。このフォームは、グループ・ボックスで定義されている次の4つのセクションに分割されています。

- 1番目と2番目のセクションは参照用であり、作業および勘定科目情報を表示します。この情報は静的であるため、3番目のセクションに入力できる他のシナリオの計算のベースとなります。
- 3番目のセクションには入力フィールドがあり、このフィールドを使用して、パフォーマンス係数、見積残値、完了時見積値(最終予測値)および実績数量を操作できます。あるフィールドの値を変更してそのままにしておくと、その変更に基づいて情報が再計算され、他の結果を2番目のセクションの実績情報

と比較できます。結果に満足するまで、フィールドの操作を続行できます。「OK」をクリックするまでは、勘定残高テーブルは更新されません。

**注意:** 完了時見積(最終予測)数量を変更すると、「予算監査証跡の記録」処理オプションが2に設定されていないかぎり、処理オプションで指定されている改訂予算元帳にタスクの見出し勘定科目の仕訳が自動的に生成されます。

完了率がしきい値率より低い場合(フォームの1番目のセクションで参照可能)、見積残および完了時見積(最終予測)値は改訂予算元帳値と等しくなります。数量フィールドに対する改訂のみを入力できます。

- 4番目のセクションには「差異の理由」テキスト・フィールドがあり、現在の結果を承認する場合や、入力した予算に対する改訂の追加情報を提供する場合など、任意の目的に使用できます。入力した情報は、メディア・オブジェクト(添付)として保存されます。

## パフォーマンス基準労務進捗状況情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
パフォーマンス・ベース労務活動の処理	W510312A	「進捗状況の入力/報告」(G5121)、「パフォーマンス基準労務進捗状況の入力」	変更する労務費勘定科目を確認および選択します。
労務進捗状況入力の改訂	W510312B	「パフォーマンス・ベース労務活動の処理」で、勘定科目を選択します。	パフォーマンス係数に影響を与える労務情報を変更し、他のシナリオの発生値を予測します。

## パフォーマンス基準労務進捗状況の入力(P510312)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションを使用して、フォームに表示されるデフォルト値を指定します。

#### 1. 原価コード範囲

##### 開始原価コード

表示する勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。ブランクにした場合、「終了原価コード」フィールドに入力した値以前の全原価コードが表示されます。

##### 終了原価コード

表示する勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。ブランクにした場合、「開始原価コード」フィールドに入力した値以降の全原価コードが表示されます。

#### 2. 許容限度

許容金額と、対応する記述を指定します。この処理オプションは、「パフォーマンス査定」の記述」処理オプションと組み合わせて使用します。

##### 差異の下限

パフォーマンス係数を比較して処理オプション3の査定の記述を割り当てる際に使用する差異の下限を指定します。パフォーマンス係数1.00は、タスクの労務が予算どおりである(差異がない)ことを示します。

##### 差異の上限

### 3. パフォーマンス査定 の記述

パフォーマンス係数を比較して処理オプション3の査定の記述を割り当てる際に使用する差異の上限を指定します。

入力したパフォーマンス係数および許容限度に応じて「パフォーマンス評価」処理オプションに表示される記述を指定します。この処理オプションは、「許容限度」処理オプションと組み合わせて使用します。

差異の下限未満

パフォーマンス係数が「許容限度」処理オプションに入力した下限より低い勘定科目に表示される記述を指定します。

差異の下限と1の間

パフォーマンス係数が「許容限度」処理オプションに入力した下限以上で1より低い勘定科目に表示される記述を指定します。

1

パフォーマンス係数が1と等しい勘定科目に表示される記述を指定します。

1と差異の上限の間

パフォーマンス係数が1より高く、「許容限度」処理オプションに入力した上限より低い勘定科目に表示される記述を指定します。

差異の上限以上

パフォーマンス係数が「許容限度」処理オプションに入力した上限より高い勘定科目に表示される記述を指定します。

## 処理

### 1. 予算元帳タイプ

方法Hが割り当てられている見出し勘定科目の数量、完了予定または完了時の処理オプション(数量のローについて)を変更した際に更新する予算元帳タイプを指定します。方法Hが割り当てられている勘定科目では改訂予算数量と最終予測数量は等しいため、「見積残数量」または「完了時見積数量」処理オプションに改訂を行うと、指定した予算元帳が自動的に更新されます。

空白にした場合は、JA元帳が使用されます。

---

**注意:** 入力した元帳タイプに基づき、数量に対応する改訂予算元帳タイプが自動的に使用されます。

---

### 2. 元帳日付の検証

入力した総勘定元帳日付を、会社に入力した現行期間および総勘定元帳固定情報と照合するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 検証する。

1: 検証しない。

### 3. 作業原価の監査証跡

手動入力または自動生成の進捗状況入力改訂に対する監査証跡として取引明細レコード(F0911)を生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 進捗状況入力改訂の期間ごとにF0911レコードを1つ生成します。同一期間内に複数の改訂が入力された場合、仕訳の同じ明細行が更新され、累計残高が保持されます。

1: 同一期間内に行われた変更の数にかかわらず、入力された進捗状況入力改訂ごとにF0911レコードを1つ生成します。

2: 進捗状況入力改訂に対してF0911レコードを生成しません。

4. 参照番号

監査証跡に対して生成される仕訳に割り当てる参照番号を指定します。参照番号を入力することで、現場進捗状況の変更に対して生成される仕訳をグループ化できます。

5. 摘要の一時変更

生成される監査証跡レコードに割り当てる摘要を指定します。空白にした場合、現場進捗状況入力が割り当てられます。

バージョン

この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

1. 当初予算(P510121)のバージョン

「ロー」メニューおよび「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に行う、当初予算の入力プログラムのバージョンを指定します。

2. 予算改訂(P510171)のバージョン

「ロー」メニューおよび「フォーム」メニューからプログラムにアクセスする際に行う、作業予算の改訂プログラムのバージョンを指定します。

パフォーマンス基準労務進捗状況情報の入力

「労務進捗状況入力の改訂」フォームにアクセスします。

パフォーマンス基準労務進捗状況の入力 - 労務進捗状況入力の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

職務No. 5100 JB Potomac Hotel しきい値 5.00% P/E日付 2005/06/30  
 活動 03300 1340 - Labor 完了率 53.33%

	予算	実績累計	発生	累計差異	完了時現行	合計累計差異
数量	1,500.00	800.00			1,500.00	
時間数	700.00	630.00	373.33	256.67	1,181.25	481.25-
原価	1,000.00	550.00	533.33	16.67	1,031.25	31.25-
時給	1.43	.87		.56	.87	
単位レート	.67	.69		.02-	.69	
生産性	.4667	.7875		.3208-	.7875	

	累計		完了予定		完了時	最終差異
PF - 時間数	1.6875	Slightly Over	1.6875	Slightly Over	1.6875	Slightly Over
PF - 原価	1.0312	Slightly Over	1.0312	Slightly Over	1.0312	Slightly Over
PF - 平均値	1.3594	Slightly Over	1.3594	Slightly Over	1.3594	Slightly Over
数量	800.00	53.33%	700.00		1,500.00	
時間数	630.00		551.25		1,181.25	481.25-
原価	550.00		481.25		1,031.25	31.25-
時給	.87		.87		.87	.56
単位レート	.69		.69		.69	.02-
生産性	.7875		.7875		.7875	.3208-
損益分岐点	96.97				96.97	

「労務進捗状況入力の改訂」フォーム(1/2)

「労務進捗状況入力の改訂」フォーム (2/2)

## 許容

「労務進捗状況入力の改訂」フォームに進む前に、「パフォーマンス・ベース労務活動の処理」フォームの「許容」タブの次のフィールドに入力を行います。

### 全労務タスクの表示

このチェックボックスを選択すると、計算方法Lが割り当てられているすべての労務費勘定科目が表示されます。処理オプションでパフォーマンス係数に基づいて許容範囲を入力できるような場合は、このチェックボックスを選択しないでください。

### 時間ベースのパフォーマンス係数 (PF-H)

時間数パフォーマンス係数の開始範囲を入力し、勘定科目がフォームに表示されないようにします。指定した範囲とパフォーマンス係数が比較され、定義した範囲外(例外)の勘定科目が表示されます。「0」を入力すると、ゼロが範囲の一部として使用されます。このフィールドを空白にすると、\*が挿入され、下限が未指定であることが示されます。

### 終了

時間数パフォーマンス係数の終了範囲を入力し、勘定科目がフォームに表示されないようにします。指定した範囲とパフォーマンス係数が比較され、定義した範囲外(例外)の勘定科目が表示されます。「0」を入力すると、ゼロが範囲の一部として使用されます。このフィールドを空白にすると、\*が挿入され、上限が未指定であることが示されます。

範囲の入力後、労務費勘定科目を表示するには「許容例外の表示」ボタンをクリックします。

### 原価ベースのパフォーマンス係数 (PF-C)

原価パフォーマンス係数の開始範囲を入力し、勘定科目がフォームに表示されないようにします。指定した範囲とパフォーマンス係数が比較され、定義した範囲外(例外)の勘定科目が表示されます。「0」を入力すると、ゼロが範囲の一部として使用されます。このフィールドを空白にすると、\*が挿入され、下限が未指定であることが示されます。

### 終了

原価パフォーマンス係数の終了範囲を入力し、勘定科目がフォームに表示されないようにします。指定した範囲とパフォーマンス係数が比較され、定義した範囲外(例外)の勘定科目が表示されます。「0」を入力すると、ゼロが範囲の一部として使用されます。このフィールドを空白にすると、\*が挿入され、上限が未指定であることが示されます。

範囲の入力後、例外の労務費勘定科目を表示するには「許容例外の表示」ボタンをクリックします。

## 「労務進捗状況入力の改訂」フォーム

### 活動

労務費勘定科目を構成する原価コードおよび原価タイプを入力します。

### しきい値

指定した作業に対して「作業マスターの改訂」フォームに入力されている値を入力します。

### 予算数量

計算方法Hが割り当てられている見出し勘定科目の改訂予算元帳の数量の合計を入力します。

<b>予算時間数</b>	明細労務費勘定科目の改訂予算元帳の数量の合計を入力します。
<b>予算原価</b>	明細労務費勘定科目の改訂予算元帳の金額の合計を入力します。
<b>予算時給</b>	予算原価を予算時間数で割った値を入力します。
<b>予算単位レート</b>	予算原価を予算数量で割った値を入力します。
<b>予算生産性</b>	予算時間数を予算数量で割った値を入力します。
<b>実績累計数量</b>	見出し勘定科目の実績数量を入力します。
<b>実績累計時間数</b>	明細勘定科目の実績数量の合計を入力します。
<b>実績累計原価</b>	明細勘定科目の実績金額の合計を入力します。
<b>実績累計時給</b>	実際原価を実績時間数で割った値を入力します。
<b>実績累計単位レート</b>	実際原価を実績数量で割った値を入力します。
<b>実績累計生産性</b>	実績時間数を実績数量で割った値を入力します。
<b>発生時間数</b>	予算時間数に完了率を掛けた値を入力します(タスクに費やされた累計時間数)。
<b>発生原価</b>	予算原価に完了率を掛けた値を入力します(タスクに費やされた累計原価)。
<b>累計差異時間数</b>	実績時間数と発生時間数の差異を入力します。
<b>累計差異原価</b>	実際原価と発生原価の差異を入力します。
<b>完了時現行数量</b>	見出し勘定科目の最終予測(完了時見積)数量を入力します。方法Hでは、最終予測数量は改訂予算元帳の数量の合計に常に等しくなります。
<b>完了時現行時間数</b>	明細勘定科目の最終予測(完了時見積)時間数を入力します。
<b>完了時現行原価</b>	明細勘定科目の最終予測(完了時見積)原価を入力します。
<b>完了時現行時給</b>	最終予測(完了時見積)原価を最終予測(完了時見積)時間数で割った値を入力します。
<b>完了時現行単位レート</b>	最終予測(完了時見積)原価を最終予測(完了時見積)数量で割った値を入力します。
<b>完了時現行生産性</b>	最終予測(完了時見積)時間数を最終予測(完了時見積)数量で割った値を入力します。
<b>合計累計差異時間数</b>	労務費勘定科目の最終予測(完了時見積)時間数と予算時間数の差異を入力します。
<b>合計累計差異原価</b>	労務費勘定科目の最終予測(完了時見積)原価と予算原価の差異を入力します。
<b>累計PF: 時間数 (累計パフォーマンス係数: 時間数)</b>	実績時間数を発生時間数で割った値を入力します。 時間数パフォーマンス係数が1.00と等しい場合、生産性は予算の100%に等しくなります。 時間数パフォーマンス係数が1.00を超える場合、生産性は予算の100%より低くなります。

	時間数パフォーマンス係数が1.0より低い場合、生産性は予算の100%より高くなります。
<b>累計PF: 原価</b> (累計パフォーマンス係数: 原価)	<p>実際原価を発生原価で割った値を入力します。</p> <p>原価パフォーマンス係数が1.00と等しい場合、生産性は予算の100%に等しくなります。</p> <p>時間数パフォーマンス係数が1.00を超える場合、生産性は予算の100%より低くなります。</p> <p>時間数パフォーマンス係数が1.0より低い場合、生産性は予算の100%より高くなります。</p>
<b>累計PF: 平均値</b> (累計パフォーマンス係数: 平均値)	原価パフォーマンス係数と時間数パフォーマンス係数の平均を入力します (時間数PF + 原価PF / 2)。
<b>累計損益分岐点</b>	<p>全予算労務費が費やされる特定の作業時点を入力します。この値は計算式 <math>1 / \text{累計原価PF} \times 100</math> を使用して計算されます。</p> <p>損益分岐点が100%に等しい場合、全予算が費やされています。</p> <p>損益分岐点が100%より低い場合、予算は残っています。</p> <p>損益分岐点が100%より高い場合、タスクは予算を超えています。</p>
<b>完了予定PF: 時間数</b> (完了予定パフォーマンス係数: 時間数)	「完了時PF: 時間数」フィールドの値に等しくするために必要な時間数パフォーマンス係数を入力します。
<b>完了予定PF: 原価</b> (完了予定パフォーマンス係数: 原価)	「完了時PF: 原価」フィールドの値に等しくするために必要な原価パフォーマンス係数を入力します。
<b>完了予定PF: 平均値</b> (完了予定パフォーマンス係数: 平均値)	「完了予定PF: 時間数」と「完了予定PF: 原価」の平均を入力します (時間数PF + 原価PF / 2)。
<b>完了予定数量</b>	最終予測(見積残)数量と実績数量の差異を入力します。これは、「完了時数量」フィールドの値に等しくするために必要な数量です。
<b>完了予定時間数</b>	最終予測(見積残)時間数と実績時間数の差異を入力します。これは、「完了時時間数」フィールドの値に等しくするために必要な時間数です。
<b>完了予定原価</b>	最終予測(見積残)原価と実際原価の差異を入力します。これは、「完了時原価」フィールドの値に等しくするために必要な金額です。
<b>完了予定時給</b>	「完了予定原価」フィールドの値を「完了予定時間数」フィールドの値で割った値を入力します。
<b>完了予定単位レート</b>	「完了予定原価」フィールドの値を「完了予定数量」フィールドの値で割った値を入力します。
<b>完了予定生産性</b>	「完了予定時間数」フィールドの値を「完了予定数量」フィールドの値で割った値を入力します。
<b>完了時PF: 時間数</b> (完了時パフォーマンス係数: 時間数)	<p>最終予測(完了時見積)時間数を発生時間数で割った値を入力します。</p> <p>時間数パフォーマンス係数が1.00と等しい場合、生産性は予算の100%に等しくなります。</p>

	時間数パフォーマンス係数が1.00を超える場合、生産性は予算の100%より低くなります。
	時間数パフォーマンス係数が1.0より低い場合、生産性は予算の100%より高くなります。
<b>完了時PF: 原価 (完了時パフォーマンス係数: 原価)</b>	最終予測(完了時見積)原価を発生原価で割った値を入力します。 原価パフォーマンス係数が1.00と等しい場合、生産性は予算の100%に等しくなります。 時間数パフォーマンス係数が1.00を超える場合、生産性は予算の100%より低くなります。 時間数パフォーマンス係数が1.0より低い場合、生産性は予算の100%より高くなります。
<b>完了時PF: 平均値 (完了時パフォーマンス係数: 平均値)</b>	「完了時PF: 時間数」と「完了時PF: 原価」の平均を入力します(時間数PF + 原価PF / 2)。
<b>完了時数量</b>	見出し勘定科目の最終予測(完了時見積)数量を入力します。このフィールドの値は、「予算数量」フィールドの値と常に等しくなります。このため、最終予測数量を入力すると、改訂予算元帳の数量は自動的に更新されます。「予算元帳タイプ」フィールドに指定した元帳タイプに対する仕訳が勘定科目明細テーブル(F0911)に生成されます。
<b>完了時時間数</b>	明細勘定科目の最終予測(完了時見積)時間数を入力します。
<b>完了時原価</b>	明細勘定科目の最終予測(完了時見積)原価を入力します。
<b>完了時時給</b>	最終予測(完了時見積)原価を最終予測(完了時見積)時間数で割った値を入力します。
<b>完了時単位レート</b>	最終予測(完了時見積)原価を最終予測(完了時見積)数量で割った値を入力します。
<b>完了時生産性</b>	最終予測(完了時見積)時間数を最終予測(完了時見積)数量で割った値を入力します。
<b>完了時損益分岐点</b>	全最終予測労務費が費やされる特定の作業時点を入力します。この値は計算式 $1 / \text{完了時時間数PF} \times 100$ を使用して計算されます。 損益分岐点が100%に等しい場合、全最終予測(完了時見積)原価が費やされています。 損益分岐点が100%より低い場合、最終予測(完了時見積)原価は残っています。 損益分岐点が100%より高い場合、タスクは最終予測(完了時見積)原価を超えています。
<b>最終差異時間数</b>	予算時間数と最終予測(完了時見積)時間数の差異を入力します。
<b>最終差異原価</b>	予算原価と最終予測(完了時見積)原価の差異を入力します。
<b>最終差異時給</b>	予算時給と最終予測(完了時見積)時給の差異を入力します。
<b>最終差異単位レート</b>	予算単位レートと最終予測(完了時見積)単位レートの差異を入力します。
<b>最終差異生産性</b>	予算生産性と最終予測(完了時見積)生産性の差異を入力します。

## 第 8 章

# 利益の認識

この章では、利益認識の概要と、次の方法について説明します。

- 作業の完了率の更新
- 利益認識データの生成
- 利益認識バージョンの削除
- 利益認識情報の改訂
- 利益認識仕訳の作成

---

## 利益認識について

実際原価をトラッキングし、各タスクの完了率に基づく想定(予算)原価と比較するには、作業進捗状況アプリケーションを使用します。完了率は、各勘定科目に割り当てられている計算方法によって決まります。利益認識では、完了率を使用して、作業全体の最終原価と最終予測収益を予測します。利益認識は、収益の発生または損失の記録に使用できる会計処理であり、作業の進行中の任意の時点における作業の完了率に基づきます。利益認識は作業の請求状況とは無関係であり、完了した作業に対する請求を顧客に行う前でも、作業の利益を認識できます。

利益認識のプログラムを実行すると、実績および最終予測値(原価および収益)に基づいて、期間の利益または損失が計算されます。その後、実際原価および収益を次の基準で調整する仕訳が生成されます。

- 見越または繰延原価を入力するかどうか。
- 繰延収益を一括して認識するか、作業の期間で均一に配分するか。
- 期間に超過請求または過小請求があるかどうか。
- 利益を収益と原価のどちらに基づいて計算するか。
- しきい値完了率に達しているかどうか。

利益認識AAIに設定されている勘定科目、または処理オプションで指定されている勘定科目に対し、仕訳が生成されます。仕訳の多くは、次期会計期間に逆仕訳される見越金額です。利益は、期間別、四半期別、年別および作業別にトラッキングされます。

---

## 作業の完了率の更新

この項では、完了率の更新結果の概要と、作業の完了率を入力する方法について説明します。

## 完了率の更新結果について

利益計算プログラム (R51800) を実行すると、処理オプションにより、完了率を最終予測値に基づいて計算するか、F%元帳の値を使用するかが指定されます。

- 完了率を計算する処理オプションを選択すると、計算式 AA / HA が使用されます。
- F%元帳の値を使用する処理オプションを選択する場合は、最初にその値を入力する必要があります。

作業の完了率を入力するには、完了パーセントの更新プログラム (P511112) を使用します。ある会社の全作業を表示することや、未完了の作業のみを表示することが可能です。作業レコードの検索に使用できる検索条件以外では、更新できるフィールドは「完了%」のみです。完了率を入力すると、指定した期間の作業勘定科目のF%元帳にその値が反映されます。作業勘定科目はビジネスユニット(作業番号)のみで構成されていて、主科目(原価コード)と補助科目(原価タイプ)のフィールドは空白です。入力した完了率を使用して、最終予測値および利益値が計算されます。

P511112プログラムに処理オプションはありません。

**注意:** 利益認識レコードをすでに生成している場合は、グループ作業の調整 (P5144) プログラムまたは単一作業の調整 (P51440) プログラムを使用して作業の完了率を入力できます。

## 作業の完了率の更新に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
完了パーセントの更新	W511112B	「利益計算/計上」(G5122)、「完了率の更新」 「作業マスターの処理」で作業を選択します。	作業の完了率を入力します。

## 作業の完了率の入力

「完了パーセントの更新」フォームにアクセスします。

## 利益認識データの生成

この項では、利益計算プログラム (R51800) の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 利益認識データの生成
- 利益計算 (R51800) の処理オプションの設定

## 利益計算プログラム (R51800) について

利益認識処理の最初のステップは、利益認識データの生成です。この情報は、テスト・モードまたは最終モードで生成できます。

- テスト・モードでは、実績および予算金額のレポートが生成され、最終予測値および完了率が計算されます。このレポートを使用して、全取引が含まれているかどうかを検証できます。予算または実績金額を改訂する必要がある場合は、簡単に改訂でき、レポートを再実行できます。
- 最終モードでは、テスト・モードでプログラムを実行した場合と同様に計算が行われ、同じレポートが生成されますが、レコードが利益認識テーブル (F5144 および F5145) にも生成されます。レコードを利益認

識テーブルに生成した後も、最終予測金額または完了率の調整は可能です。ただし、予算または実績金額の調整が必要な場合は、次のいずれかの処理を実行する必要があります。

- 利益認識バージョンの削除プログラム(R51810)を実行し、改訂を入力した後、利益計算を再実行します。

行った改訂に基づき、新しい利益認識情報が生成されます。

- 改訂を入力し、利益計算を再実行します。

改訂(増分差異)に対する調整仕訳のみが生成されます。

利益のベースとして、入力した情報と、原価または収益を使用するかに応じて、次の値の1つ以上が計算されます。

- 作業の完了率

完了率をF%元帳に直接入力しない場合、AA元帳の金額をHA元帳の金額で割って完了率が計算されます。AA元帳の金額は、「利益認識方法」処理オプションの設定に応じて、原価、収益またはその両方になります。

作業の完了率を100%より大きくすることや、0%より小さくすることはできません。完了率が100%より大きい場合、100%を使用して利益が計算されます。完了率が0より小さい場合、0を使用して利益が計算されます。

- 最終予測金額

完了率を入力しないと、作業のHA元帳の合計が使用されます。完了率を入力すると、実績金額を完了率で割って最終予測値が再計算されます。たとえば、完了率が25%で実際原価が1,000の場合、最終予測原価は4,000になります。

- 発生原価および収益

最終予測金額に完了率を掛けて発生金額が計算されます。

- 超過および過小請求金額

発生金額を実績金額から引いて超過および過小金額が計算されます。

- 利益の金額

原価を収益から引いて利益が計算されます。

しきい値完了率を設定すると、完了率がそのしきい値完了率以上になるまで、作業の利益が計算されないようにすることができます。

- 完了率がしきい値より小さい場合、発生作業累計利益はゼロと記録されます。
- 完了率がしきい値率より大きく、利益を原価に基づいて計算する場合、発生収益は強制的に発生原価に等しくされます。
- 完了率がしきい値率より大きく、利益を収益に基づいて計算する場合、発生原価は強制的に発生収益に等しくされます。
- 完了率がしきい値率より大きく、原価と収益で利益が低くなる方を使用して利益を計算する場合、該当する勘定科目が適宜調整されます。
- 完了率がしきい値以上の場合、繰延利益があればそれを即座に認識することや、作業の残りの期間に利益を配分することが可能です。

利益は、複数の作業にわたってプロジェクト全体で認識することや、作業レベルで認識することができます。また、調整が必要な場合は、終了した期間の利益情報も再生成できます。

利益計算プログラムを最終モードで実行すると、次の処理が実行されます。

- 利益認識テーブル (F5144) にレコードが1つ生成されます。
  - バージョン・フィールド (VERS および VER) が、利益計算の実行に使用したバージョン番号で更新されます。
  - 次番号フィールド (NNBR) が、自動採番テーブル (F0002) から取得された次番号で更新されます。
  - 実績、改訂予算および最終予測の金額に対する原価および収益勘定科目が更新されます。  
JCCA および JCST AAI を使用して収益および原価勘定科目の範囲が決定されます。
  - 利益認識レコードに対して仕訳が生成されていないことを示すために、「再生成に必要なレコード」フィールド (G7ZFU1) が Y に更新されます。
- 原価タイプごとに、利益認識勘定残高テーブル (F5145) にレコードが1つ生成されます。  
原価タイプごとに利益の金額が計算されます。
- 計算した情報のレポート (利益認識ファイル作成) が生成されます。  
この情報は、単一作業の調整プログラムまたはグループ作業の調整プログラムを使用してオンラインで確認できます。
- 処理オプションの設定によっては、管理者向け集計レポートが生成されます。このレポートと利益認識ファイル作成レポートの違いは、このレポートには、超過請求および過小請求金額と、損失引当金がある場合、これらの情報も含まれることです。また、利益情報は作業別ではなくプロジェクト別に印刷されます。管理者向け集計レポートを生成するように指定していない場合も、メニューからオプションを選択することで、このレポートをいつでも生成できます。

利益認識情報を最終モードで生成した後は、P51440 プログラムまたは P5144 プログラムを使用してオンラインで調整できます。また、仕訳を生成して目的の原価および収益勘定科目を更新することや、バージョンを削除して利益認識レコードを削除することも可能です。この操作により、ソース・テーブルを変更し、別の基準に基づいて再作成できます。

### 関連項目:

[付録 A、「JD Edwards EnterpriseOne 作業原価レポート」、「作業原価のすべての集計レポート」、155 ページ](#)

## 事前設定

この項のタスクを実行する前に、次の作業を行う必要があります。

- 必要な作業タイプ、原価タイプおよび AAI がユーザー定義コード (UDC) テーブル 51/IS に設定されていることを確認します。  
参照: [第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価のユーザー定義コードについて」、10 ページ](#)
- JD Edwards EnterpriseOne 作業原価 AAI (特に、JCCA および JCST AAI で定義されている範囲) が収益および原価勘定科目を識別するように設定されていることを確認します。  
参照: [第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価の AAI の設定」、16 ページ](#)

## 利益認識データの生成

「利益計算/計上」(G5122) の「利益計算」を選択します。

## 利益計算 (R51800) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 処理

- 1. 実行モード** プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: プログラムをテスト・モードで実行します。最終予測値および利益情報が計算され、レポートが印刷されます。
- 1: テスト・モードでプログラムを実行した場合と同様に計算が行われますが、さらに、F5144およびF5145テーブルも更新されます。
- 2. 期間終了日** 利益情報を計算する終了日付を指定します。勘定残高は期間別に保存されるため、入力する日付にかかわらず、残高は常に期間の最終日に基づいて計算されます。たとえば、6月30日が期間の最終日で、6月15日を指定した場合、6月30日が使用されます。日付をこの処理オプションに入力する必要があります。未入力の場合、「処理オプションに期間終了日付がありません」というエラー・メッセージがレポートに印刷されます。
- 3. 前四半期の終了日** 利益情報が計算された前四半期の終了日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、発生作業累計の金額が発生現行四半期の金額として使用されます。
- 4. 会社** 生成される利益認識レコードに割り当てる会社を指定します。ここで入力した会社番号を使用して、仕訳の作成プログラム(R51444)の実行時に仕訳が生成されます。完全な貸借対照表がある会社の番号を指定する必要があります。
- 5. 集計のレベル** 利益認識情報をテーブルF5144に保存する集計のレベルを指定します。値は次のとおりです。
- 1: プロジェクト・レベル  
2: 作業レベル  
3: 補助元帳レベル
- 
- 注意:** 補助元帳情報は最終予測レコード(HAおよびHU)に反映されないため、利益を補助元帳別に計算することはできません。この処理オプションは、参照目的のみでレコードを補助元帳別に集計する際に使用します。
- 
- 注意:** JD Edwards EnterpriseOneホームビルダ管理システムを使用している場合、P5144プログラムのオプション・レベルで売上原価勘定科目を表示するには、この処理オプションに「3」を入力する必要があります。
- 
- 6. しきい値** 利益を計算するかどうかを決める際に完了率の値の比較対象となるしきい値率を指定します。この処理オプションに値を入力すると、「作業マスターの改訂」フォームに入力されている値が一時変更されます。作業の完了率がしきい値より小さい場合、発生作業累計利益としてゼロが使用されます。
- しきい値率は整数で入力してください。たとえば、15%の場合は「15」と入力します。
- 7. 繰延利益の認識方法** 完了率がしきい値率を超える期間で全繰延利益を認識するか、作業の期間に基づいて配分するかを指定します。繰延利益とは、完了率がしきい値率を下回っていたときに計算された利益です。

- 8. 最終予測原価** F%元帳に入力されている作業の完了率に基づいて最終予測金額を再計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 再計算しない。各勘定科目にHA元帳の金額が使用されます。  
 1: 再計算する。
- 9. 利益認識方法** 利益の認識に使用する方法を指定します。値は次のとおりです。  
 1: 原価勘定科目の値に基づいて利益を計算します。項目JCSTのAAI範囲により、使用される原価勘定科目が決まります。  
 2: 収益勘定科目の値に基づいて利益を計算します。項目JCCAのAAI範囲により、使用される収益勘定科目が決まります。  
 3: 原価と収益の両方の方法を使用して利益を計算し、2つの結果のうち低い方が使用されます。

## 実行バージョン

- 1. 管理者向け集計レポート (R51443) のバージョン** 使用するレポートのバージョン番号を入力し、管理者向け集計レポート (R51443) を生成するかどうかを指定します。入力したバージョンに基づき、レポートの処理オプションが取得されます。この処理オプションをブランクにすると、管理者向け集計レポートは生成されません。

---

## 利益認識バージョンの削除

この項では、利益認識バージョンおよびレコード削除の概要と、次の方法について説明します。

- 利益認識バージョンの削除
- 利益認識バージョンの削除 (R51810) の処理オプションの設定

### 利益認識バージョンおよびレコード削除について

R51800プログラムを最終モードで実行した結果、勘定残高テーブル (F0902) の値を作業進捗状況入力または仕訳を使用して変更する必要があることがわかった場合は、利益認識レコードを削除し、必要な変更を行った後に再生成できます。利益認識レコードをテーブルF5144およびF5145から削除するには、利益認識バージョンの削除プログラムを実行する必要があります。このプログラムを実行する際は、削除するレコードに関連するバージョンを指定します。特定の作業のみのレコードを削除する場合は、作業番号も指定できます。テーブルF5144の「再生成に必要なレコード」フィールド (G7ZFU1) がYに設定されている場合にのみ、指定したバージョンと作業のレコードが削除されます。このフィールドの値がNの場合、そのバージョンに対して仕訳がすでに生成されているため、削除できません。

**重要:** 未転記の仕訳は削除しないでください。同じ期間に対し、仕訳を転記し、改訂を入力し、利益計算プログラムを再実行します。行った変更に基づき、増分差異に対する仕訳のみが作成されます。また、同じ期間に対しては、仕訳を転記し、それを無効にし、無効にした仕訳を転記し、改訂を入力し、R51800作成プログラムを再実行することも可能です。

利益認識レコードを削除して必要な変更を行った後は、R51800プログラムを再実行して利益認識レコードを再生成できます。

## 利益認識バージョンの削除

「利益計算/計上」(G5122)の「利益計算バージョンの削除」を選択します。

## 利益認識バージョンの削除(R51810)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. 利益計算プログラムのバージョン  
レコードを利益認識テーブル(F5144およびF5145)から削除するR51800プログラムのバージョンを指定します。指定したバージョンに基づき、テーブルから全レコードが削除されます。複数の作業に利益認識が生成されている場合は、「除去する作業」処理オプションに値を入力することで、バージョンで削除されるレコードを制限できます。
2. 除去する作業  
「利益計算プログラムのバージョン」処理オプションに入力したバージョンのレコードを利益認識テーブルから削除する際に使用する作業番号を指定します。空白にした場合、指定したバージョンの全レコードが削除されます。

---

## 利益認識情報の改訂

この項では、利益認識情報の改訂の概要と、次の方法について説明します。

- グループ作業の調整(P5144)の処理オプションの設定
- 単一作業の調整(P51440)の処理オプションの設定
- 利益認識レコードの改訂
- 利益認識レコード内の勘定科目の改訂

## 利益認識情報の改訂について

利益認識レコードを生成した後に、作業の最終予測金額(収益、原価および利益)の調整または完了率の変更が必要なことがわかる場合があります。この場合、最終予測金額の計算に使用される要素を操作しようとする、既存の利益認識レコードの削除や再生成が必要になります。このかわりに、単一作業の調整プログラム(P51440)またはグループ作業の調整(P5144)プログラムを使用して、利益の計算のベースとなる最終予測値を手動で調整できます。

---

**注意:** 仕訳が生成されている利益レコードは改訂できません。「利益計上バージョンの処理」フォームの「バージョン」フィールドが空白の場合、仕訳が生成されているため、利益認識レコードの改訂や削除は不可能です。

---

参照: 第 8 章、「利益の認識」、「利益認識仕訳の改訂」、139ページ

P51440プログラムを選択すると、1つの作業のみの情報を確認および更新できます。P5144プログラムを選択すると、実行した利益計算プログラムのバージョンで更新された全作業の利益認識情報が表示されます。P5144プログラムは、プロジェクト内の複数の作業に利益認識レコードを生成した場合に、その全情報を1つのフォームで確認できるため、特に便利です。

選択するプログラムにかかわらず、利益認識テーブル(F5144およびF5145)の値が表示されます。調整プログラムは次の改訂に使用できます。

- 利益認識方法

原価ベースと収益ベースで利益の金額を比較する場合、利益認識方法を変更できます。選択した方法に基づき、最終予測値と完了率が再計算されます。

- 見越または繰延原価

実績金額を増やすには、見越原価をプラスの数値として入力します。実績金額を減らすには、繰延原価をマイナスの数値として入力します。見越原価ではAAI項目JCAPOおよびJCAPCに、繰延原価ではJCSMIおよびJCSMJに関連する勘定科目に対して逆仕訳が生成されます。

- 最終予測値

最終予測金額を入力(強制)すると、完了率が再計算されます。最終予測値は、FA元帳のAAI項目JCPFC(最終予測原価)、JCPFR(最終予測収益)およびJCPFP(最終予測利益)に関連する勘定科目に反映されます。

- 完了率

「完了率」チェックボックスを選択すると、最終予測値用のフィールドが完了率に変更されます。入力する値は、利益認識方法によって異なります。たとえば、利益が原価に基づく場合は、対応する原価フィールドに完了率を入力します。利益が収益に基づく場合は、対応する収益フィールドに完了率を入力します。入力した完了率に基づき、最終予測値が再計算されて表示されます。作業の勘定科目コードの完了率でF%元帳が更新されます(この勘定科目には原価コードや原価タイプはなく、作業番号のみがあります)。

- 完了率しきい値

完了率しきい値を低くすると、「繰延方法」フィールドの値に基づいて金額が改訂される場合があります。たとえば、完了率がしきい値率より大きい期間で繰延利益を認識する場合、利益の金額には繰延金額が含まれているため、しきい値を低くすると利益の金額が増える場合があります。

- 個々の勘定科目

改訂予算(JA)元帳および最終予測(HA)元帳の勘定科目の金額を加算または減算し、作業に関連するコミットメント(PA)元帳および見積残の値を確認できます。

---

**注意:** JD Edwards EnterpriseOneホームビルダ管理システムを使用している場合、単一作業の調整プログラムで個々のオプション・タイプを表示するには、利益計算の実行時に「集計のレベル」処理オプションに「3」を入力する必要があります。個々の勘定科目を調整した後、R15800プログラムを再実行します。

---

---

**注意:** 完了率と最終予測値の一方のみを入力でき、両方は入力できません。完了率を入力すると、最終予測値が計算されます。最終予測値を入力すると、完了率が計算されます。完了率と最終予測値のどちらも入力しないと、両方の値が計算されます。

---

作業の調整プログラムを使用して行った改訂は、テーブルF5144に反映されます。期間の利益認識情報に満足した場合、レコードのバージョンをロックし、権限のないユーザーによる変更を防止できます。バージョンをロックすると、テーブルF5144のG7ULCK(ユーザーIDロック)フィールドがユーザーIDで更新されます。ロックされたバージョンは、作業をロックしたユーザーのみがロックを解除できます。

予算、実績またはコミットメント金額など、作業利益の見積に関連する他の要素を改訂する場合は、元のシステムで改訂する必要があります。この場合、利益認識バージョンを削除し、改訂を入力し、R51800プログラムを再実行してください。

## 利益認識情報の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
利益計上バージョンの処理	W5144A	「利益計算/計上」(G5122)、「単一作業の調整」または「グループ作業の調整」	利益認識レコードを、そのレコードの生成に使用されたバージョン、作業および有効日付に基づいて確認および選択します。「バージョン」フィールドがブランクの場合、利益認識レコードには仕訳が生成されているため、情報は改訂できません。
グループ作業の調整	W5144B	「利益計上バージョンの処理」で利益認識バージョンを選択します。	複数の作業の利益認識レコードを確認および改訂します。「ロー」メニューから「ロック/ロック解除」を選択してバージョンをロックし、権限のないユーザーによる変更を防止することや、以前にロックしたバージョンのロックを解除することも可能です。
単一作業の調整	W51440C	「利益計上バージョンの処理」で利益認識バージョンを選択します。	単一の作業の利益認識レコードを確認および改訂します。「フォーム」メニューから「ロック/ロック解除」を選択してバージョンをロックし、権限のないユーザーによる変更を防止することや、以前にロックしたバージョンのロックを解除することも可能です。
勘定科目調整	W51440A	「単一作業の調整」フォームの「フォーム」メニューから「勘定科目調整」を選択します。「利益計上バージョンの処理」フォームの「バージョン」フィールドに値がある利益認識バージョンの勘定科目レコードのみを表示できます。	利益認識レコード内の勘定科目を改訂します。 利益認識レコード内の個々の勘定科目の金額を確認および改訂します。

## グループ作業の調整 (P5144) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

#### 1. 作業状況の照会 (P512000) のバージョン

「ロー」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、作業状況照会プログラム (P512000) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

2. 選択ボタン・エグジット 「利益計上バージョンの処理」フォームで利益認識バージョンを選択する際に実行するプログラムを指定します。値は次のとおりです。
- 1: グループ作業の調整プログラム (P5144) を実行します。
  - 2: 単一作業の調整プログラム (P51440) を実行します。
3. 購買オーダー入力 (P4310) のバージョン 「単一作業の調整」/「勘定科目調整」からプログラムにアクセスする際に使用する、購買オーダー入力 (P4310) プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0015 が使用されます。

## 単一作業の調整 (P51440) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

1. 作業状況の照会 (P512000) のバージョン 「ロー」メニューからプログラムにアクセスする際に使用する、P512000 プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
2. 選択ボタン・エグジット 「利益計上バージョンの処理」フォームで利益認識バージョンを選択する際に実行するプログラムを指定します。値は次のとおりです。
- 1: グループ作業の調整プログラム (P5144) を実行します。
  - 2: 単一作業の調整プログラム (P51440) を実行します。
3. 購買オーダー入力 (P4310) のバージョン 「単一作業の調整」/「勘定科目調整」フォームからプログラムにアクセスする際に使用する、P4310 プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0015 が使用されます。

## 利益認識レコードの改訂

「単一作業の調整」フォームにアクセスします。

単一作業の調整 - 単一作業の調整

利益計上バージョンの処理 単一作業の調整

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

バージョン: XJDE0001 有効日付: 2005/06/30

作業No.: 1620 Birmingham Steel - Mem, 補助元帳: [ ]

しきい値%: [ ]  完了率入力 見越(繰延): [ ]

認識方法: 1 原価パーセント(原価→原価) 繰延方法: 1 第一PPで全利益を認識

	収益	原価	利益	%
最終予測金額	12,300,000.00	11,025,200.00	1,274,800.00	10.36
実績累計		2,534,930.00	2,534,930.00-	
完了率		22.99		
残存	12,300,000.00	8,490,270.00	3,809,730.00	30.97
改訂予算		13,013,658.00	13,013,658.00-	
現行期間	2,828,033.87	2,534,930.00	293,103.87	10.36
年累計	2,828,033.87	2,534,930.00	293,103.87	10.36
作業累計	2,828,033.87	2,534,930.00	293,103.87	10.36
未実現	9,471,966.13	8,490,270.00	981,696.13	10.36
請求不足		2,828,033.87		

「単一作業の調整」フォーム

選択する作業の調整プログラムにかかわらず、同じフィールドを確認および改訂できます。

### バージョン

利益認識レコードの生成に使用されたR51800プログラムのバージョンを入力します。このフィールドが空白の場合、利益認識レコードには仕訳が生成されているため、情報は改訂できません。

### しきい値%

「作業マスターの改訂」フォームから、または利益計算プログラム(R51800)の「しきい値」フィールドのしきい値完了率を入力します。必要に応じて、しきい値率を改訂し、利益計算に対する変更を確認できます。

### 完了率入力

このチェックボックスを選択すると、「最終予測金額」フィールドが「完了率」フィールドに変わります。認識方法に対応するフィールドに完了率を入力します。「OK」をクリックすると、最終予測値が自動的に再計算され、フィールドが自動的に再表示されます。

### 認識方法

R51800プログラムを実行した際の「認識方法」フィールドの値を入力します。値を改訂すると、最終予測値および利益金額に対する変更を確認できます。このフィールドの値を変更すると、対応するフィールドの下に「完了率」フィールドが移動します。たとえば、「1」を入力すると、原価が対象となるため、「完了率」フィールドは「原価」フィールドの下に表示されます。「2」を入力すると、収益が対象となるため、「完了率」フィールドは「収益」フィールドの下に表示されます。

<b>有効日付</b>	R51800プログラムを実行した際に「期間終了日」フィールドに入力した日付を指定します。
<b>見越(繰延)</b>	実際原価を調整するための金額を入力します。金額をプラスの数値(見越)として入力すると、値が実際原価に加算されます。金額をマイナスの数値(繰延)として入力すると、値が実際原価から減算されます。仕訳を生成すると、対応するAAIのペア(見越ではJCACPCおよびJCAPO、繰延ではJCSMIおよびJCSMJ)の勘定科目が更新されます。
<b>繰延方法</b>	R51800プログラムを実行した際の「繰延利益の認識方法」フィールドの値を入力します。異なる値を入力して、利益の金額を確認および更新できます。値は次のとおりです。 1: 完了率がしきい値率を超える期間で繰延利益(完了率がしきい値率より小さいために認識されなかった利益)を認識します。 2: 作業の期間に繰延利益を均一に配分します。
<b>最終予測金額収益</b>	指定した期間のJCCA AAIで識別される勘定科目範囲に対するHA元帳の金額の合計を入力します。完了率値を入力(強制)すると、値がF%元帳に反映された後、計算式AA / F%を使用して最終予測収益が計算されます。最終予測収益金額を入力(強制)すると、金額が監査目的でFA元帳に反映され、最終予測利益の金額が再計算されます。
<b>最終予測金額原価</b>	指定した期間のJCST AAIで識別される勘定科目範囲に対するHA元帳の金額の合計を入力します。完了率値を入力(強制)すると、値がF%元帳に反映された後、計算式AA / F%を使用して最終予測原価が計算されます。最終予測原価金額を入力(強制)すると、金額が監査目的でFA元帳に反映され、最終予測利益の金額が再計算されます。
<b>最終予測金額利益</b>	収益と原価の差異を入力します。原価が収益から差し引かれます。このフィールドに値を入力する場合、「最終予測金額収益」フィールドまたは「最終予測金額原価」フィールドの値をクリアする必要があります。 <hr/> <b>注意:</b> 最終予測利益が0より小さい場合は、損失引当金も計算されます。 <hr/>
<b>最終予測金額%</b>	収益に基づく利益率を入力します。この値は、利益の金額を収益の金額で割って計算されます。
<b>完了率収益</b>	認識方法が2(利益は収益ベース)の場合、このフィールドに完了率を入力します。このフィールドは、「完了率入力」チェックボックスを選択した場合にのみ表示されます。「完了率」フィールドが「収益」カラムにある場合、「完了率収益」フィールドの更新が必要であることを示します。
<b>完了率原価</b>	認識方法が1(利益は原価ベース)の場合、このフィールドに完了率を入力します。このフィールドは、「完了率入力」チェックボックスを選択した場合にのみ表示されます。「完了率」フィールドが「原価」カラムにある場合、「完了率原価」フィールドの更新が必要であることを示します。
<b>実績累計収益、実績累計原価、実績累計利益、実績累計%</b>	JCCA AAIで収益勘定科目として識別されている勘定科目範囲と、JCST AAIで原価勘定科目として識別されている勘定科目範囲に対するAA元帳の金額を入力します。原価を収益から差し引いて利益が計算され、利益の金額を収益の金額で割って率が計算されます。
<b>完了率</b>	作業の完了率の値を入力(強制)します。未入力の場合、完了率は計算式AA / HAを使用して計算されます。このフィールドは、認識方法に対応するカラムに表示されます。

**残存収益、残存原価、残存利益、残存%**

残存収益および原価の金額は、「実績累計」の金額を対応する「最終予測金額」から差し引いて計算されます。残存原価を残存収益から差し引いて残存利益が計算され、残存利益を残存収益で割って残存率が計算されます。

**改訂予算収益、改訂予算原価、改訂予算利益、改訂予算%**

JCCA AAIで収益勘定科目として識別されている勘定科目範囲と、JCST AAIで原価勘定科目として識別されている勘定科目範囲に対する改訂予算元帳の合計を表示します。改訂予算原価を改訂予算収益から差し引いて改訂予算利益が計算され、改訂予算利益を改訂予算収益で割って改訂予算率が計算されます。

**現行期間収益、現行期間原価、現行期間利益、現行期間%**

完了率に最終予測収益、原価および利益をそれぞれ掛けて、発生収益、原価および利益が計算されます。この率は、発生収益を発生利益で割って計算されます。

**年累計収益、年累計原価、年累計利益、年累計%**

年累計の金額は現行期間の金額と同様に計算されますが、指定した期間以前の最終予測元帳 (HA) の期間金額が合計され、その合計に完了率が掛けられる点が異なります。

**損失引当金**

原価が収益より大きい場合、その差異が損失として計算され、「損失引当金」フィールドに表示されます。損失は、計算式“(1 - 完了率) × 利益”を使用して計算されます。たとえば、利益が-1000で完了率が60の場合、損失引当金の金額は(1 - 0.6) × 1000と計算され、400になります。

## 利益認識レコード内の勘定科目の改訂

「勘定科目調整」フォームにアクセスします。

「勘定科目調整」フォーム

「勘定科目調整」フォームの「検索」をクリックし、利益認識レコードに関連する原価コードを表示します。

**見積残勘定科目の表示**

このチェックボックスを選択すると、見積残金額がある勘定科目のみが表示されます。

このチェックボックスを選択しないと、全勘定科目が表示されます。

**予算改訂+/-金額入力**

最終予測金額を増減する金額を入力します。たとえば、予算を50増やすには「50」と入力し、予算を50減らすには「-50」と入力します。

<b>最終予測+/-金額入力</b>	作業の原価勘定科目に対し、F0902テーブルの最終予測金額(元帳タイプHA)を変更する値を入力します。たとえば、予算を50増やすには「50」と入力し、予算を50減らすには「-50」と入力します。  率を入力し、金額が自動的に計算されるようにすることも可能です。率(原価に適用される完了率)を入力する場合は、値の前または後に「%」を入力します。たとえば、20%を指定する場合、「%20」または「20%」と入力できます。
<b>ETC金額(見積残金額)</b>	最終予測金額を増減する金額を入力します。たとえば、予算を50増やすには「50」と入力し、予算を50減らすには「-50」と入力します。  このフィールドは、計算方法がEの場合にのみ表示されます。このフィールドの値が実績値に加算され、最終予測(HA)元帳が更新されます。

---

**注意:** 購買オーダー・プログラム(P4310)にアクセスすると、「勘定科目調整」フォームで「ロー」メニューから「外注管理」を選択することで、その勘定科目に関連する全契約を表示できます。

---

## 利益認識仕訳の作成

この項では、仕訳の作成プログラム(R51444)の概要、AAIを使用して作成される利益認識仕訳の概要、および次の方法について説明します。

- 利益認識仕訳の作成
- 仕訳の作成(R51444)の処理オプションの設定
- 利益認識仕訳の改訂
- 作業の作成

### 仕訳の作成プログラムについて

利益認識処理に使用される勘定科目に対して仕訳を生成するには、仕訳の作成プログラム(R51444)を実行する必要があります。利益認識テーブル(F5144)の情報に基づき、適切な勘定科目に対して仕訳が作成されます。この情報は、いずれかの作業の調整プログラムを使用して確認できます。R51444プログラムを実行すると、次の処理が行われます。

- 仕訳が伝票タイプJE、バッチ・タイプGで作成されます。
- テーブルF5144の「再生成に必要なレコード」フィールド(G7ZFU1)がNに更新されます。  
これにより、同じレコードに対して仕訳が複数回生成されるのを防止できます。
- テーブルF5144のバージョン・フィールド(VERS)がクリアされます。  
これにより、作業の調整プログラムによってバージョンが変更されるのを防止できます。

利益認識仕訳を生成した後は、その仕訳を転記してF0902テーブルを更新する必要があります。仕訳を誤って生成した場合は、その仕訳を削除しないでください。

JD Edwards EnterpriseOneホームビルダ管理システムを使用している場合、R51444プログラムでは補助元帳がある勘定科目を読み取り、オプション・タイプをオプション・マスター・プログラム(P44H40)から取得します。オプション・タイプUDCテーブル(44H4/OT)の特殊取扱フィールドの値は、正しい売上原価勘定科目にアクセスする際に使用するAAIを示します。

参照: 第 8 章、「利益の認識」、「利益認識仕訳の改訂」、139ページ

## 利益認識仕訳について

仕訳の作成プログラム (R51444) を実行すると、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価 AAI を使用して、借方および貸方に使用する勘定科目が決定されます。仕訳では貸借を一致させる必要があるため、生成される各タイプの仕訳に対して AAI のペアが使用されます。次の表に、生成される各貸借一致仕訳に使用される AAI の各ペアを示します。

参照: 第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価の AAI の設定」、16 ページ

AAI のペア	AAI および仕訳の機能	認識方法	借方および貸方
JCST01 と JCST02、JCST03 と JCST04 など	使用される原価勘定科目の範囲を識別します。使用する原価勘定科目を識別するために、最大で 49 の異なる範囲を設定できます。	該当なし	該当なし
JCCA01 と JCCA02、JCCA03 と JCCA04 など	使用される収益勘定科目の範囲を識別します。使用する収益勘定科目を識別するために、最大で 49 の異なる範囲を設定できます。	該当なし	該当なし
BS と IS	貸借対照表 (項目 BS) の仕掛品 (WIP) 原価および収益の金額を損益計算書 (項目 IS) の売上原価および収益の勘定科目に振り替えます。	該当なし	借: IS 売上原価 貸: BS WIP 原価 借: BS WIP 収益 貸: IS 収益
JCCOUA と JCBE	超過請求金額を記録します。この金額は、発生収益を実績収益から差し引いて計算されます。実績収益が発生収益より大きい場合、差異が超過請求収益勘定科目に記録され、相殺額が前受収益負債勘定科目に記録されます。  逆仕訳が生成されます。	1: 原価	借: JCCOUA 貸: JCBE
JCBOUA と JCBE	超過請求金額を記録します。この金額は、発生収益を実績収益から差し引いて計算されます。実績収益が発生収益より大きい場合、差異が超過請求収益勘定科目に記録され、相殺額が前受収益負債勘定科目に記録されます。  逆仕訳が生成されます。	2: 収益	借: JCBOUA 貸: JCBE
JCCE と JCCOUA	過小請求金額を記録します。この金額は、発生収益を実績収益から差し引いて計算されます。実績収益が発生収益より小さい場合、差異が過小請求収益勘定科目に記録され、相殺額が見越収益資産勘定科目に記録されます。  逆仕訳が生成されます。	1: 原価	借: JCCE 貸: JCCOUA

AAIのペア	AAIおよび仕訳の機能	認識方法	借方および貸方
JCCEとJCBOUA	過小請求金額を記録します。この金額は、発生収益を実績収益から差し引いて計算されます。実績収益が発生収益より小さい場合、差異が過小請求収益勘定科目に記録され、相殺額が見越収益資産勘定科目に記録されます。 逆仕訳が生成されます。	2: 収益	借: JCCE 貸: JCBOUA
JCAPCとJCAPO ISとBS	作業の調整フォームの「未払/繰延」フィールドに入力した原価に対する調整を記録します。このフィールドに入力した金額がプラスの場合、調整は見越です。 <b>注意:</b> 見越および繰延勘定科目は、通常、貸借対照表勘定科目であるため、金額を貸借対照表から損益計算書に移動するための追加仕訳が生成されます。 逆仕訳が生成されます。	該当なし	借: JCAPC 貸: JCAPO 借: IS 貸: BS
JCSMIとJCSMJ ISとBS	作業の調整フォームの「未払/繰延」フィールドに入力した原価に対する調整を記録します。このフィールドに入力した金額がマイナスの場合、調整は繰延です。 <b>注意:</b> 見越および繰延勘定科目は、通常、貸借対照表勘定科目であるため、金額を貸借対照表から損益計算書に移動するための追加仕訳が生成されます。 逆仕訳が生成されます。	該当なし	借: JCSMI 貸: JCSMJ 借: BS 貸: IS
JCLOSSと BSLOSSまたは JCBE	最終予測金額が利益の損失となる場合、その金額が損失引当金勘定科目(JCLOSS)に記録され、相殺額がBSLOSSに記録されます。BSLOSSが未設定の場合はJCBEに記録されます。 逆仕訳が生成されます。	該当なし	借: JCLOSS 貸: BSLOSSまたはJCBE

いずれかの作業の調整プログラムを使用して最終予測原価、収益または利益の値を強制すると、「最終予測変更仕訳の作成」処理オプションが1に設定されている場合、FA元帳に片側仕訳も生成されます。仕訳に使用する勘定科目の検索には、次のAAIが使用されます。

- 最終予測原価の強制: JCPFC
- 最終予測収益の強制: JCPFR
- 最終予測利益の強制: JCPFP

これらの仕訳は、監査証跡目的でのみ生成されます。仕訳を生成すると選択したかどうかにかかわらず、F0902テーブルは自動的に更新され、強制した金額がFA元帳に反映されます。

## 利益認識仕訳の作成

「利益計算/計上」(G5122)の「仕訳の作成」を選択します。

### 仕訳の作成(R51444)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

##### 1. 最終予測変更仕訳の作成

最終予測値(原価、収益または利益)を変更する際に監査証跡(仕訳)を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 監査証跡を作成しない。

1: 監査証跡を作成する。仕訳は伝票タイプFPで作成されます。

##### 2. 元帳タイプ

「最終予測変更仕訳の作成」処理オプションに「1」を入力した場合、生成される仕訳に割り当てる元帳タイプを指定します。最終予測の変更に対する仕訳を作成する場合に使用します。ブランクにした場合、元帳タイプFAが割り当てられます。

##### 3. 勘定科目の一時変更

作業(ビジネスユニット)

利益認識用に生成される仕訳に割り当てる作業番号を指定します。この処理オプションに入力した値は、利益認識AAIに入力された主科目(原価コード)および補助科目(原価タイプ)勘定科目と組み合わせて使用されます。

補助元帳

利益認識用に生成される仕訳に割り当てる補助元帳を指定します。

---

**注意:** 入力した作業番号、補助元帳および補助元帳タイプにより、AAI ISXXXX、JCCOUA、JCBOUAおよびJCLOSSで生成された対応する値が一時変更されます。

---

補助元帳タイプ

損益計算書の原価、収益、超過請求および過小請求に対する入力の作成中に勘定科目の一時変更を使用する補助元帳タイプを指定します。

---

**注意:** 入力した作業番号、補助元帳および補助元帳タイプにより、AAI ISXXXX、JCCOUA、JCBOUAおよびJCLOSSで生成された対応する値が一時変更されます。

---

##### 4. IS/BS入力の集計

IS/BS入力を集計するかどうかを指定します。この値に応じて、各勘定科目に対して複数行の仕訳を含む明細が生成されるか、仕訳が勘定科目コードごとに単一のISおよび単一のBS取引に集計されます。

## 利益認識仕訳の改訂

仕訳を誤って生成した場合、または改訂が必要なことがわかった場合は、未転記の仕訳を削除しないでください。かわりに、次のいずれかを実行します。

- 同じ期間に対し、仕訳を転記し、必要な改訂を行い、利益計算プログラムを再実行します。  
行った変更に基づいて利益情報が再計算され、その増分変更に対する仕訳のみが作成されます。

- 同じ期間に対し、仕訳を転記し、それを無効にし、無効にした仕訳を転記し、必要な改訂を行った後、利益計算を再実行します。

新しい仕訳が再生成されます。

## 作業の終了

作業が完了し、作業の会計取引が生成および更新された後は、作業を終了できます。作業を終了する際は、仕訳などの取引情報は入力できません。作業を終了するには、「作業マスターの改訂」フォームにアクセスし、作業の「転記編集」フィールドを「N」に更新します。

「利益計算/計上」(G5122)の「作業の開始/終了(作業マスター)」を選択します。

### 関連項目:

第 3 章、「作業の設定」、「作業マスター・レコードの設定」、26ページ

## 第 9 章

# 分割融資の処理

この章では、分割融資処理の概要と、次の方法について説明します。

- 分割融資の作成
- 分割融資取引の改訂
- 分割融資の明細レポートの印刷

---

## 分割融資処理について

建設プロジェクトへのローンは、原価の発生に応じてプロジェクトの進捗中に提供されることが一般的です。この部分的なローン提供は、分割融資と呼ばれます。金融機関から建設ローンまたはクレジット・ラインを受ける場合は、分割融資処理を実行します。分割融資処理は、特定の期間に発生した対象原価に基づいてローンを受け取る場合に使用します。

対象原価とは、ローン契約で規定した原価のことです。発生した原価に応じて、ローンの合計額まで、対象原価に対するローンを受け取ります。特定の期間中に発生した対象原価を示す分割融資レポートを作成できます。

たとえば、作業を設定し、その作業に対して敷地工事、コンクリート工事、煉瓦工事などの多数の作業項目を識別したとします。各作業項目は、次のようなタスクに細分化されます。

- 伐採と整地
- 下水工事
- 舗装工事

この作業の建設ローンとして25,000,000 USDを受け取り、そのうちの3,000,000 USDは敷地工事向けとします。この金額のうち、各敷地工事タスクの対象原価が1,000,000 USDずつあるとします。レポート期間末に、敷地工事の作業項目に関する対象原価の分割融資処理を実行します。作成される分割融資レポートには、この期間の対象原価が次のように示されます。

- 伐採と整地タスクに250,000.00 USD
- 下水工事タスクに95,000.00 USD
- 舗装工事タスクに55,000.00 USD

金融機関にこのレポートを提出して、この期間のローンとして400,000.00 USDを申請します。

金融機関に提出する最終分割融資レポートを作成するプロセスには、次のタスクが含まれます。

- 分割融資の作成プログラム (R51500) の実行
- 分割融資の改訂の入力
- 分割融資の明細レポート (R51510) の実行

## 事前設定

分割融資処理の対象となる勘定科目を識別するAAIを設定します。

参照: 第 2 章、「作業原価システムの設定」、「作業原価のAAIの設定」、16ページ

---

## 分割融資の作成

この項では、分割融資の作成プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- 分割融資の作成プログラム (R51500) の実行
- 分割融資の作成 (R51500) の処理オプションの設定

### 分割融資の作成プログラム (R51500) について

分割融資の作成プログラム (R51500) を実行すると、ある期間に作業で発生した原価のレポートが作成されます。銀行や他の金融機関から獲得したローンの返済 (分割融資) に関し、このレポートを提出できます。分割融資の作成プログラムは、テスト・モードまたは最終モードで実行できます。

#### テスト・モード

テスト・モードでは、作業に関連する原価のレポートが印刷されます。処理オプションとデータ選択に基づき、次のテーブルから情報が取得されます。

- 取引明細テーブル (F0911)  
分割融資AAI (範囲で設定されているAAI) を使用して、レポートの条件に合致する取引がこのテーブルから選択され、分割融資レポート・マスター (F51911) が更新されます。
- 分割融資レポート・マスター (F51911)  
以前の分割融資に含まれておらず、レポートの条件に合致する対象レコードがこのテーブルから選択されます。対象レコードは、分割融資の日付、状況および番号がブランクのレコードです。

処理オプションにより、元帳タイプと取引タイプに対する選択基準も提供されます。たとえば、全額支払済の取引のみか、支払済と未払の両方の取引を選択できます。レポートでは、選択した全原価の小計が作業別に示されます。

テスト・レポートに正しい情報が含まれていない場合は、必要な情報がレポートで示されるようになるまで分割融資AAI、データ選択および処理オプションを変更し、プログラムを再実行してから、プログラムを最終モードで実行し、テーブルF51911を更新できます。分割融資の作成をテスト・モードで実行すると、どのテーブルも更新されません。

#### 最終モード

このプログラムを最初はテスト・モードで実行することをお勧めしますが、テスト・モードでの実行は必須ではありません。このプログラムを最終モードで実行するとテーブルF51911が更新されますが、取引のクリアまたは変更には使用できる改訂プログラムがあり、この実行後に、レポートを印刷して金融機関に提出できます。この場合も、選択した取引のみを処理するか、各取引別に処理するかを選択できますが、各取引別の処理では時間がかかる場合があります。

このプログラムを最終モードで実行すると、同じ基準を使用してレコードが選択されますが、次の追加処理が行われます。

- テーブルF0911から選択された取引でテーブルF51911が更新されます。

- ・ 仕訳に割り当てられている摘要でテーブルF51911EXが更新されます。
- ・ 選択した処理オプションに基づき、F51911内の選択した全レコードに分割融資番号が割り当てられます。
- ・ 該当レコードが別の分割融資に含まれないようにするため、そのレコードに分割融資状況として1が割り当てられます。
- ・ 分割融資日付として、「終了日付」処理オプションに入力した日付が割り当てられます。

既存の分割融資取引がある勘定科目に対する会社または勘定科目コードを変更する場合は、BU/OBJ/SUB/CO F0901>F51911更新プログラム(R51806)を実行し、テーブルF51911のレコードが適切に更新されるようにする必要があります。

参照: 第10章、「作業原価の更新の実行」、「分割融資レポート用の勘定科目情報の更新」、149ページ

## 分割融資の作成プログラム(R51500)の実行

「分割融資の実行およびレポート」(G5123)の「分割融資実行の作成」を選択します。

## 分割融資の作成(R51500)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

- 1. 実行モード**

プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: プログラムをテスト・モードで実行する。選択した取引のレポートが作成されます。分割融資レポート・マスター(F51911)は更新されません。

1: プログラムを最終モードで実行する。選択した取引のレポートが作成され、新しい取引で分割融資レポート・マスター(F51911)が更新されます。
- 2. 日付範囲**

開始日付

取引の選択に使用する開始日付を指定します。入力した日付範囲と取引の総勘定元帳日付が比較され、その取引を含めるかどうかが決まります。この処理オプションはブランクにできません。ブランクにすると、エラー・メッセージが表示されます。

終了日付

取引の選択に使用する終了日付を指定します。入力した日付範囲と取引の総勘定元帳日付が比較され、その取引を含めるかどうかが決まります。この処理オプションはブランクにできません。ブランクにすると、エラー・メッセージが表示されます。
- 3. 元帳タイプ**

「元帳タイプ1」から「元帳タイプ5」

レコードの選択に使用する元帳タイプを指定します。最大5つの元帳タイプを指定できます。
- 4. 分割融資の実行番号の自動採番方法**

プログラムを最終モードで実行する際に取引に割り当てる分割融資の自動採番の取得に使用するテーブルを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 作業原価分割融資の自動採番テーブル(F51002)を使用します。各作業に割り当てる分割融資番号を指定します。このため、必要に応じて、同じ分割融資番号を複数の作業に割り当てることが可能です。このオプションを選択し、作業の自動採番レコードがこのテーブルに設定されて

いない場合、自動採番レコードが生成され、そのレコードに分割融資番号として1が割り当てられます。

1: 自動採番テーブル(F0002)を使用します。システム51の3行目に設定されている番号で始まる一意の分割融資番号が各作業に割り当てられます。

#### 5. レポートに含める分割融資の実行取引

レポートに含める取引のタイプを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 分割融資AAIに基づいて全取引を含めます。

1: 全額支払済の取引のみを含めます。支払状況がPの伝票レコードのみが選択されます。1つの伝票に対して複数の支払を処理できるため、分割融資金額としては、伝票の支払額ではなく総額が使用されます。

## 分割融資取引の改訂

この項では、分割融資の改訂プログラム(P515003)の概要と、次の方法について説明します。

- 分割融資の改訂(P515003)の処理オプションの設定
- 分割融資状況の更新(P515001)の処理オプションの設定
- 分割融資取引の改訂

### 分割融資の改訂プログラム(P515003)について

分割融資の作成プログラムを最終モードで実行すると、設定した分割融資AAI範囲に基づいて取引が選択されるため、不要な取引が含まれる場合があります。分割融資の改訂プログラム(P515003)を使用すると、特定の分割融資番号の取引を作業別に確認することや、次のような情報を改訂することが可能です。

- 分割融資番号
- 分割融資金額
- 分割融資状況
- 分割融資日付
- レポートに印刷される説明

勘定科目情報、総勘定元帳日付および当初金額は変更できません。

分割融資の改訂では、次の処理も可能です。

- 分割融資テーブルへの取引の手動追加。
- テーブルF0911の情報に基づく取引の追加。取引がテーブルF0911に存在しない場合は、自動で割り当てられた伝票番号と伝票タイプを使用して取引を追加する必要があります。
- 取引の削除。  
レコードはテーブルF51911とF51911EXからのみ削除されます。F0911レコードは変更されません。
- 複数の明細行への取引の分割。これらの行は、別々の分割融資に後で割り当てることができます。
- 取引の元のデータの改訂。

「ロー」メニューから「当初ソース」を選択すると、関連するバッチ・タイプのバッチ確認プログラムが表示され、このプログラムを使用して取引の詳細を確認できます。

## 分割融資取引の分割

取引の分割融資金額を改訂することは可能ですが、将来の分割融資に対して異なる取引金額をスケジュールすることが必要な場合があります。将来の分割融資を含めて取引の金額と日付をトラッキングするかわりに、取引を分割し、将来の分割融資の金額と日付を割り当てることが可能です。

取引を複数の分割融資に分割するには、「ロー」メニューから「分割融資実行の分割」を選択します。「分割融資の実行入力の分割」フォームが表示され、このフォームで各明細行の金額と摘要を入力できます。取引は任意の数の明細行に分割できますが、各明細行に割り当てる金額の合計を、取引の分割融資金額と等しくする必要があります。「OK」をクリックすると、「分割融資実行の改訂」フォームが再表示されます。このフォームで、新しい分割融資の明細行を再確認してください。

分割融資取引を分割すると、新しい分割融資レコードが作成され、そのレコードに元の取引と同じ伝票明細が割り当てられますが、伝票タイプは変更されます。これらの新しいレコードは分割融資テーブルにのみ存在するため、伝票タイプDRが自動的に割り当てられ、F0911取引と区別されます。新しい分割融資の明細行には、元の取引の総勘定元帳日付、分割融資の番号、状況および日付が保持されます。分割融資の分割後、新しい明細行の分割融資日付と分割融資状況を改訂し、将来の分割融資に含めることが可能です。

たとえば、分割融資金額が1,200のJE 1234を、4つの明細行に同じ金額で分割するとします。次のレコードが作成されます。

伝票タイプ	伝票番号	JE行番号	分割融資金額	結果
JE	1234	1.0	300	元の取引の分割融資金額が1,200から300に変更されます。
DR	1234	2.0	300	このレコードは自動的に作成されます。
DR	1234	3.0	300	このレコードは自動的に作成されます。
DR	1234	4.0	300	このレコードは自動的に作成されます。

## 分割融資状況の変更

個々の取引、または対象の作業で同じ分割融資番号が割り当てられている全取引に対し、分割融資状況を変更できます。割り当てる分割融資状況は、ユーザー定義コード(UDC)テーブル51/DRに設定されている必要があります。次の状況を使用できます。

- ブランク: 分割融資取引を分割融資レポートから除外する場合に、分割融資状況をクリアします。この値を割り当てると、「分割融資実行No.」および「分割融資実行日付」フィールドがクリアされます。取引を別の分割融資に再度割り当てると、分割融資の番号と日付が入力され、状況がブランク以外の値に変更されます。
- 1: 分割融資の作成プログラムを実行すると、この値が自動的に割り当てられます。取引を分割融資レポートに含める場合、この状況を割り当てます。
- H: 取引を将来の分割融資のために保留する場合、この状況を割り当てます。指定した分割融資番号の取引は分割融資レポートから除外されますが、「分割融資実行No.」および「分割融資実行日付」フィールドの値は保持されます。
- N: 取引の支払が完全には済んでいないことを示す場合、この状況を割り当てます。この取引は分割融資レポートに表示されます。
- X: 取引を分割融資レポートから除外する場合、この状況を割り当てます。この値を割り当てると、取引を分割融資に含める予定がまったくないことを示すことができます。「分割融資実行No.」および「分割融資実行日付」フィールドの値は監査目的で保持されます。

必要に応じて、追加の状況をUDC 51/DRに設定できます。追加された状況の取引は、分割融資の明細レポートに表示されます。

「分割融資実行の改訂」フォームを使用して、個々の取引の分割融資状況を変更します。対象の分割融資および作業番号の全取引の状況を変更するには、「分割融資実行の処理」フォームの「ロー」メニューから「分割融資実行状況の更新」を選択します。「分割融資の実行状況の更新」フォームが表示され、このフォームで新しい分割融資状況を入力できます。また、「更新」チェックボックスを選択する必要があります。状況を空白から別の値に更新する場合は、「新規分割融資の実行No.」および「新規分割融資の実行日付」フィールドへの入力も必要です。

## 分割融資処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
分割融資実行の処理	W515001A	「分割融資の実行およびレポート」(G5123)、「分割融資実行の改訂」	分割融資マスター・レコードを確認および選択します。分割融資金額が作業別および分割融資番号別に表示されます。
分割融資実行の改訂	W515003A	「分割融資実行の処理」で、「ロー」メニューの「分割融資実行の改訂」を選択します。	取引を確認および改訂します。
分割融資の実行入力の分割	W515003B	「分割融資実行の改訂」で、「ロー」メニューの「分割融資実行の分割」を選択します。	必要に応じて、分割融資取引を複数の取引に分割します。「OK」をクリックすると、テーブルF51911およびF51911EXが更新されます。
分割融資の実行状況の更新	W515001B	「分割融資実行の処理」で、「ロー」メニューの「分割融資実行状況の更新」を選択します。	作業の分割融資内の全取引の状況を更新します。「更新」チェックボックスを選択する必要があります。未選択の場合、取引は更新されません。また、分割融資状況を空白から別の値に変更する場合は、「新規分割融資の実行No.」および「新規分割融資の実行日付」フィールドへの入力も必要です。

## 分割融資の改訂(P515003)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

#### 1. 伝票タイプ

分割融資レポート・マスター(F51911)に手動で追加する取引に割り当てる伝票タイプを指定します。この処理オプションを空白にすると、JEが割り当てられます。

## 分割融資状況の更新(P515001)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### バージョン

1. 分割融資実行の改訂(P515003)のバージョン 「ロー」メニューからプログラムを選択する際に使用する、分割融資の改訂プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

## 分割融資情報の改訂

「分割融資実行の改訂」フォームにアクセスします。

**分割融資の実行No.** テーブルF51911からのレコードの表示に使用する分割融資番号を入力します。ワイルドカード値(\*)は使用できません。

**注意:** 分割融資番号をクリアすることで分割融資からレコードを手動でクリアできるため、空白は値になります。

**ローン状況コード** テーブルF51911からのレコードの表示に使用する分割融資状況を入力するか、すでに表示されているレコードに割り当てる新しい分割融資状況を入力します。分割融資の作成プログラムを実行すると、このフィールドに1の値が自動的に割り当てられます。状況を必要に応じて改訂し、取引を管理することや、金融機関に提出する分割融資レポートに印刷されないようにすることが可能です。値は次のとおりです。

空白: 取引を分割融資レポートに含めません。分割融資状況の値を空白に変更すると、「分割融資実行No.」および「分割融資実行日付」フィールドもクリアされます。

1: 取引を分割融資レポートに含めます。

H: 取引を将来の分割融資のために保留します。指定した分割融資番号の取引は分割融資レポートから除外されますが、「分割融資実行No.」および「分割融資実行日付」フィールドの値は保持されます。

N: 取引を分割融資レポートに含めます。この値を割り当てると、取引の支払が完全には済んでいないことを示すことができます。

X: 取引を分割融資レポートから除外します。この値を割り当てると、取引を分割融資に含める予定がまったくないことを示すことができます。「分割融資実行No.」および「分割融資実行日付」フィールドの値は監査目的で保持されます。

**分割融資実行日付** 分割融資の作成プログラムの「終了日付」処理オプションに入力した日付を指定します。

**元帳日付** 取引が総勘定元帳に転記された日付を指定します。総勘定元帳日付は改訂できません。

**当初金額** 分割融資の処理前の当初取引金額を入力します。

## 分割融資の明細レポートの印刷

この項では、分割融資の明細レポート(R51510)の概要と、次の方法について説明します。

- 分割融資の明細レポート(R51510)の印刷
- 分割融資の明細レポート(R51510)の処理オプションの設定

### 分割融資の明細レポート(R51510)について

返済が必要な取引を特定の分割融資番号に割り当てた後、分割融資の明細レポート(R51510)を作成して金融機関に提出できます。分割融資の明細レポートには、勘定科目情報、総勘定元帳日付、伝票の番号およびタイプ、分割融資金額など、各取引に関する情報が示されます。

処理オプションを使用して、印刷するレコードの選択に使用する分割融資番号を指定します。分割融資番号がないレコードや、分割融資状況がブランクのレコードは印刷されません。

次の追加レポートも印刷できます。

- 建設原価: 明細(R51520)
- 建設原価: 集計(R51525)

参照: [付録 A、「JD Edwards EnterpriseOne 作業原価レポート、」155 ページ](#)

### 分割融資の明細レポート(R51510)の印刷

「分割融資の実行およびレポート」(G5123)の「分割融資の実行明細レポート」を選択します。

### 分割融資の明細レポート(R51510)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

1. 印刷する分割融資の実行番号 レポートに印刷するレコードの選択に使用する分割融資番号を指定します。
2. 印刷する金額の種類 勘定科目明細テーブル(F0911)の当初金額を印刷するカラムをレポートに追加するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: カラムは追加しません。テーブルF51911の分割融資金額のみが印刷されます。  
1: テーブルF0911の当初金額を印刷するカラムを追加します。

## 第 10 章

# 作業原価の更新の実行

事業の拡大や管理機構の変更などにより、作業情報のトラッキング方法およびレポート作成方法の変更が必要になる場合があります。

この章では、次の方法について説明します。

- 分割融資レポート用の勘定科目情報の更新
- 計算方法の更新
- 作業原価予測の再計算
- 最終予測情報の削除
- 作業情報の集計および除去

---

**注意:**「上級/技術的操作」メニューには、この章で説明するプログラムの他に、カテゴリ・コードを一括更新するプログラムも表示されますが、このプログラムは、代替順序を割り当てる処理で使用されます。

---

### 関連項目:

第 4 章、「原価コード構造の設定」、「カテゴリ・コードのマッピングによる代替順序の作成」、56ページ

---

## 分割融資レポート用の勘定科目情報の更新

この項では、勘定科目情報が変更された際の分割融資レポート・マスターの更新の概要と、BU/OBJ/SUB/CO F0901>F51911更新プログラム(R51806)の実行方法について説明します。

### 分割融資レポート用の勘定科目情報の更新について

勘定科目情報、会社またはビジネスユニット(作業番号)に割り当てられている勘定科目、あるいは主科目および補助科目の勘定科目を変更する場合は、BU/OBJ/SUB/CO F0901>F51911更新(R51806)を実行し、分割融資レポート・マスターの既存の勘定科目情報を更新する必要があります。これを行わないと、変更後に発生する分割融資に対し、勘定科目を適切に取得および更新することが不可能になります。

R51806プログラムを実行すると、次の処理が行われます。

- テーブルF51911の最初のレコードが取得されます。
- F51911レコードに割り当てられている略式IDを使用して、対応するレコードがテーブルF0901で検索されます。
- テーブルF51911の会社、ビジネスユニット、主科目および補助科目のフィールドが、F0901の対応するレコードの値で更新されます。

---

**注意:** このプログラムは、分割融資レポート・マスターのレコードの勘定科目情報の修正のみに使用されます。取引明細 (F0911) および勘定残高 (F0902) テーブルの勘定科目変更を更新するには、標準勘定科目の仕訳への反映プログラム (R09806) を実行します。

---

## 分割融資レポート用の勘定科目情報の更新

「上級/技術的操作」(G5131)の「BU/OBJ/SUB/CO F0901>F51更新」を選択します。

---

## 計算方法の更新

この項では、計算方法の変換プログラム (R519901) の概要と、次の方法について説明します。

- 計算方法の更新
- 計算方法の変換 (R519901) の処理オプションの設定

### 計算方法の変換プログラム (R519901) について

特定の作業の全勘定科目の計算方法、または複数の作業あるいはプロジェクトにわたる特定の勘定科目の計算方法を変更する必要がある場合は、個々の勘定科目の計算方法を検索して更新するかわりに、計算方法の変換プログラム (R519901) を実行して勘定科目を一括更新できます。

更新する勘定科目、計算方法またはその両方の指定には、データ選択を使用します。割り当てる計算方法の指定には、処理オプションを使用します。たとえば、方法Fが割り当てられている全勘定科目を方法Dに更新することや、全作業の原価タイプ1341の計算方法を変更すること、原価タイプが1341で計算方法Fが割り当てられているレコードを選択することなどが必要になる場合があります。

R519901プログラムを実行すると、勘定科目マスター (F0901) からレコードが選択され、そのレコードが処理オプションの計算方法で更新されます。また、新しい計算方法に基づき、勘定残高テーブル (F0902) の最終予測値 (HAおよびHU元帳) の残高が更新されます。さらに、選択したレコードと変更前の計算方法のレポートも印刷されるため、誤りがあった場合に、その修正に必要な情報が提供されます。

### 計算方法の更新

「上級/技術的操作」(G5131)の「計算方法の変換」を選択します。

### 計算方法の変換 (R519901) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

##### 1. 新しい計算方法

データ選択を使用して指定した勘定科目に割り当てる新しい計算方法を指定します。入力した値が勘定科目マスター (F0901) の計算方法フィールド (CCT) に反映され、最終予測値 (HAおよびHU元帳) が再計算されます。

## 作業原価予測の再計算

この項では、予測の再計算プログラム(R51803)の概要と、次の方法について説明します。

- 予測の再計算プログラム(R51803)の実行
- 予測の再計算(R51803)の処理オプションの設定

### 予測の再計算プログラム(R51803)について

予測の再計算プログラム(R51803)は、最終予測値が正しくないと思われる場合や、整合性レポート処理の一環で実行します。レコードが勘定科目マスターから選択され、対応するレコードが勘定残高テーブルから検索され、最終予測(見積残)値(HAおよびHU元帳)が再計算されます。このプログラムには、レコードの選択を特定の会計年度または期間範囲に制限する処理オプションがあります。必要に応じてデータ選択を使用し、レコードの選択を特定の作業または勘定科目にさらに制限します。また、自動で選択された取引や最終計算のレポートも印刷できますが、このレポートには、計算のベースとなった全取引はリストされません。

### 予測の再計算プログラム(R51803)の実行

「上級/技術的操作」(G5131)の「予算の再計算」を選択します。

### 予測の再計算(R51803)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

##### 1. 期間範囲

処理するレコードの選択に使用する期間番号の範囲を指定します。レコードの選択には、「期間範囲」と「会計年度範囲」処理オプションが組み合わせて使用されます。

「期間範囲」処理オプションを空白にすると、作業の会社に割り当てられている会計期間パターンに基づき、現行期間のレコードが選択されます。

##### 2. 会計年度範囲

処理するレコードの選択に使用する会計年度の範囲を指定します。レコードの選択には、「会計年度範囲」と「期間範囲」処理オプションが組み合わせて使用されます。

「会計年度範囲」処理オプションを空白にすると、作業の会社に割り当てられている会計期間パターンに基づき、現行会計年度のレコードが選択されます。

#### 印刷

##### 1. レポートの印刷

更新された取引のレポートを印刷するかどうかを指定します。このレポートには、各勘定科目と、再計算された最終予測値がリストされます。値は次のとおりです。

空白: レポートを印刷する。

1: レポートを印刷しない。

---

## 最終予測情報の削除

この項では、最終予測情報の削除の概要と、作業原価予測の削除 (R51997) の処理オプションの設定方法について説明します。

### 最終予測情報の削除

最終予測元帳 (HAおよびHU) の監査証跡レコードを生成するように JD Edwards EnterpriseOne 作業原価固定情報を設定して、そのレコードを削除する場合は、作業原価予測の削除プログラム (R51997) を実行できます。指定したデータ選択に基づき、HAおよびHU元帳の取引明細 (F0911) レコードが削除されます。対応する最終予測元帳レコードを勘定残高テーブル (F0902) から削除できます。

R51997 プログラムには、バッチ・バージョン・アプリケーションでアクセスする必要があります。バッチ・バージョンにアクセスした後、「バッチ・アプリケーション」フィールドに「R51997」と入力します。

### 作業原価予測の削除 (R51997) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| <b>1. F0902 HA/HU残高の削除</b> | HAおよびHU元帳の対応する残高を勘定残高テーブル (F0902) から削除するかどうかを指定します。値は次のとおりです。<br>ブランク: HAおよびHU元帳のF0902残高を削除する。<br>1: HAおよびHU元帳のF0902残高を保持する。 |
|----------------------------|--|

---

## 作業情報の集計および除去

この項では、作業原価の除去処理の概要、事前設定、および作業原価の除去プログラム (R51840) の実行方法について説明します。

### 作業原価の除去処理について

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価の取引をシステムから削除するには、2つの方法のいずれかを使用できます。一方の方法では、次の JD Edwards EnterpriseOne 一般会計プログラムを使用して、データを集計および除去します。

- 取引の集計 (R09811)
- 前年度仕訳の除去 (R09911)

他方の方法では、作業原価の除去プログラム (R51840) を使用して、作業の取引明細 (F0911) および勘定残高 (F0902) レコードをすべて除去します。保持する情報に応じて、ビジネス・ニーズに最適な方法を選択できます。

## 取引明細の取引の集計および除去

最初取引の集計プログラム(R09811)を使用して取引を集計すると、終了していない作業の取引明細(F0911)の取引を除去できます。作業取引の集計プログラムでは、指定した期間の取引の合計金額を表す新しい取引が、各勘定科目に対して期間別に作成されます。たとえば、2008年の期間6に勘定科目5001.02200.1341に対して100の取引が入力されている場合、勘定科目5001.02200.1341に対して伝票タイプがBFのレコードが1つ生成され、その金額が集計されます。

取引の集計後は、前年度仕訳の除去プログラム(R09911)を使用して、その取引をテーブルF0911から除去できます。集計レコードを作成する目的は、F0911明細レコードとF0902残高レコード間の監査証跡を保持することです。これは、勘定残高の再転記が必要になった場合に非常に重要です。取引の集計と前年度仕訳の除去の両方のプログラムでは、対象勘定科目の指定用に設定したAAI範囲が使用されます。これらの処理の詳細は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計のガイドで説明されています。

## 作業原価の取引の除去

作業のいずれかの会計レコードの保持が不要になった場合、作業原価の除去プログラム(R51840)を実行してそのレコードを除去できます。作業原価の除去プログラムを実行すると、次の処理が実行されます。

- 転記編集コードPが割り当てられている作業マスター・レコード(F0006)が選択されます。
- 取引明細(F0911)および勘定残高(F0902)テーブルの該当作業の全取引の中から、全会計年度を対象に、その作業に関連する全勘定科目および全元帳が検索されます(プログラムR09811で集計されたレコードを含む)。
- 対応する除去テーブル(F0911PおよびF0902P)にレコードが書き込まれます。
- レコードがテーブルF0911およびF0902から削除されます。

データ選択を使用して、除去対象を特定の作業、会計年度または元帳タイプに制限できます。これを行わないと、転記編集コードがPの作業のみに基づき、削除するレコードが選択されます。この除去プログラムには、関連する処理オプションはありません。

作業を除去した後、F0911PおよびF0902Pテーブルをテープまたは他のメディアに保存して保管できます。実際の作業および関連する勘定科目をビジネスユニット・マスター(F0006)および勘定科目マスター(F0901)から削除する場合は、その作業に関連する買掛金および売掛金取引がある場合、その取引も除去する必要があります。

## 事前設定

取引を除去する前に、次の作業を行う必要があります。

- 除去するシステム・ファイルのバックアップを実行します。
- 除去する作業に転記編集コードPを割り当てます。「作業マスターの改訂」フォームでは、転記編集コードを勘定科目ではなく作業(ビジネスユニット)に割り当てる必要があります。

## 作業原価の除去プログラム(R51840)の実行

「上級/技術的操作」(G5131)の「作業原価の除去」を選択します。



# 付録 A

## JD Edwards EnterpriseOne 作業原価レポート

この付録では、作業原価レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

---

### 作業原価レポート

JD Edwards EnterpriseOne 作業原価システムには、作業原価情報の確認および管理に役立つ各種のレポートが用意されています。管理者向け集計レポートを使用すると、次の情報を確認できます。

- 選択した作業に対する日付基準の勘定残高情報。この情報は、作業別または原価コード別に確認することや、単位別および労務別に分割することが可能です。
- 作業に関連する外注契約の財務明細。
- ある期間にわたる特定の勘定科目に関連する日付基準情報の分析。

システム内のすべての作業や、設定した科目表タイプを表示するレポートを作成できます。また、特定の作業に関連する勘定科目を表示するレポートも作成できます。

---

### 作業原価のすべての集計レポート

次の表に、住所録レポートをレポートID順に示します。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R51006P 作業マスター・リスト	このプログラムを使用して、システム内のすべての作業を確認します。このレポートの集計または詳細バージョンを選択できます。情報はビジネスユニット・マスター (F0006) から取得されます。	「作業原価レポート」(G5113)、「作業マスター・リスト」
R510901 作業勘定科目マスター・リスト	このプログラムを使用して、特定の作業に関連するすべての勘定科目を確認します。このレポートの5つのバージョンでは、勘定科目マスター (F0901) の情報を再編成して表示します。	「作業原価レポート」(G5113)、「作業勘定科目マスター・リスト」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R51091P 科目表タイプ・レポート	このプログラムを使用して、システム内に設定されているすべての科目表タイプを確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「科目表タイプ・レポート」
R512000P 作業状況照会	このプログラムを使用して、作業状況照会ユーザー定義カラム情報を確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「作業状況照会の印刷」
R51412 マスター作業原価レポート	このプログラムを使用して、特定の作業の日付基準勘定残高情報を確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「マスター作業原価レポート」
R514122 原価タイプ別集計	このプログラムを使用して、特定の作業の日付基準勘定残高情報を原価タイプ別に確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「原価タイプ別集計」
R514121 単位原価分析	このプログラムを使用して、特定の作業の日付基準勘定残高情報を確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「単位原価分析」
R51420 作業別詳細	このプログラムを使用して、作業の主な詳細を確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「作業別詳細」
R51425B 取引分析	このプログラムを使用して、詳細取引情報を勘定科目別に確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「取引分析」
R51430 期間別傾向分析	このプログラムを使用して、指定した期間における選択した勘定科目の日付基準作業原価情報を確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「期間別傾向分析」
R51443 管理者向け集計レポート	このプログラムを使用して、プロジェクト、作業または作業内の補助元帳に関連する利益情報を確認および管理します。	「利益計算/計上」(G5122)、「管理者向け集計レポート」
R51445 利益認識作業状況	このプログラムを使用して、各作業の原価、収益および総利益情報を確認します。	「利益計算/計上」(G5122)、「Profit Recognition Job Status」
R51520 建設原価 - 明細	このプログラムを使用して、選択した期間における原価の明細を勘定科目別に確認します。	「分割融資の実行およびレポート」(G5123)、「建設原価 - 明細」
R51525 建設原価 - 集計	このプログラムを使用して、選択した期間における原価の集計情報を確認します。	「分割融資の実行およびレポート」(G5123)、「建設原価 - 集計」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R51530 補助元帳別作業詳細	このプログラムを使用して、補助元帳で分類された作業の詳細を確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「補助元帳別作業詳細」
R51540 予算改訂詳細	このプログラムを使用して、作業の予算に対して行われたすべての追加および変更を確認します。	「作業原価レポート」(G5113)、「予算改訂詳細」

## 作業原価の主なレポート

一部のレポートについて、処理オプションの情報などをより詳細に説明します。この付録では、これらのレポートをレポートID順に示します。

### R512000P: 作業状況照会の印刷

作業状況照会の印刷レポート(R512000P)を使用して、作業状況照会ユーザー定義カラム情報を確認します。このレポートは、「作業原価レポート」メニューまたは「作業状況照会」フォームから印刷できます。このレポートを「作業状況照会」フォームから印刷すると、フォームで表示すると指定した最初の8カラムが印刷されます。このレポートをメニューから印刷する場合は、カラム・バージョンを入力する必要があります。入力したバージョンに基づき、最初の8カラムが印刷されます。

### 作業状況照会の印刷(R512000P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 表示

#### 1. カラム・バージョン

レポートへのカラムの印刷に使用するカラム・バージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、ユーザーIDのカラム・バージョンが使用されます。このIDは、作業状況照会 - ユーザー定義カラム・プログラムの終了時に自動的に保存されます。

#### 2. 日付範囲

開始期間/日付

レポートに印刷する情報の選択に使用する開始日付または期間を指定します。この処理オプションを空白にすると、「勘定残高タイプ」処理オプションに入力した値に基づき、使用する日付が決定されます。

**注意:** この処理オプションに値を入力する場合は、「勘定残高タイプ」処理オプションに値を入力しないでください。入力すると、レポートにエラーが印刷されます。

終了期間/日付

レポートに印刷する情報の選択に使用する終了日付または期間を指定します。この処理オプションを空白にすると、レポートにエラーが印刷されます。

- 3. 勘定残高タイプ** レポートに表示する勘定残高を指定します。「日付範囲」処理オプションに値を入力した場合は、この処理オプションに値を入力しないでください。値は次のとおりです。
- ブランクまたは1: 開始日以降累計  
2: 年累計  
3: 期間
- 4. 勘定科目詳細レベル** 勘定科目詳細の印刷に使用するデフォルトの詳細レベル(3から9)を指定します。入力した値以上の(詳細でない)詳細レベルの勘定科目が集計されます。たとえば、この処理オプションに「5」と入力すると、詳細レベル3および4が割り当てられている勘定科目の金額が印刷され、詳細レベル5、6、7、8および9の勘定科目が集計され、詳細レベル5が割り当てられている勘定科目の合計が印刷されます。この処理オプションをブランクにすると、デフォルトの値9が使用され、全勘定科目が印刷されます。
- 5. 勘定科目コードの順序** レポートに勘定科目情報を印刷する際に使用する勘定科目コードの順序を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: 作業、原価コード、原価タイプ  
A: 代替原価コード、原価タイプ、作業  
C: 原価コード、原価タイプ、作業  
O: 作業、原価タイプ、原価コード  
T: 原価タイプ、原価コード、作業  
1: 勘定科目カテゴリ・コード1  
2: 勘定科目カテゴリ・コード2  
3: 勘定科目カテゴリ・コード3

## R51412: マスター作業原価レポート

マスター作業原価レポート(R51412)には、特定の作業の日付基準勘定残高情報が表示され、次の詳細が含まれます。

- 改訂予算
- 実績(現行)
- 実績(累計)
- 消費率
- 完了率
- 最終予測原価
- 未完了分
- 予測差異
- 原価コード
- 原価タイプ
- 計算方法

処理オプションを使用して、このレポートの印刷を選択した際に単位原価分析 (R514121) レポートおよび原価タイプ別集計 (R514122) レポートも印刷されるように指定できます。

## マスター作業原価レポート (R51412) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 編集

次のオプションを使用して、基準日を入力し、レポート作成を特定の補助元帳に制限し、レポートの補助元帳タイプを指定します。

1. **基準日**

レポートに印刷する情報の選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、作業に割り当てられている会社の現在の財務報告日付が使用されます。
2. **補助元帳**

レポートに印刷する情報の選択に使用する補助元帳を指定します。この処理オプションに値を入力した場合は、「補助元帳タイプ」処理オプションに値を入力する必要があります。全補助元帳を選択するには「\*」を入力し、補助元帳のないレコードを選択するにはこの処理オプションを空白にします。
3. **補助元帳タイプ**

「補助元帳」処理オプションに入力した値に対応する補助元帳タイプを指定します。ユーザー定義コード 00/ST に設定されている補助元帳タイプを入力してください。
4. **原価コード範囲**

開始原価コード

レポートに印刷する勘定科目範囲の開始原価コード (補助科目) 勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価コード」フィールドに入力した値以前の全原価コードが印刷されます。

終了原価コード

レポートに印刷する勘定科目範囲の終了原価コード (補助科目) 勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価コード」フィールドに入力した値以降の全原価コードが表示されます。
5. **原価タイプ範囲**

開始原価タイプ

レポートに印刷する勘定科目範囲の開始原価タイプ (主科目) 勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価タイプ」フィールドに入力した原価タイプ以前の全原価タイプが表示されます。

終了原価タイプ

レポートに印刷する勘定科目範囲の終了原価タイプ (主科目) 勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価タイプ」フィールドに入力した値以降の全原価タイプが表示されます。

### 印刷

次のオプションを使用して、作業の勘定科目詳細レベル、作業現場住所情報、作業ごとの改ページ、原価コードと原価タイプの印刷、残高ゼロの勘定科目の印刷、および単位数の印刷に関する指定を入力します。

1. **勘定科目詳細レベル**

勘定科目詳細の印刷に使用するデフォルトの詳細レベル (3 から 9) を指定します。入力した値以上の (詳細でない) 詳細レベルの勘定科目が集計されます。たとえば、この処理オプションに「5」と入力すると、詳細レベル 3 お

よび4が割り当てられている勘定科目の金額が印刷され、詳細レベル5、6、7、8および9の勘定科目が集計され、詳細レベル5が割り当てられている勘定科目の合計が印刷されます。この処理オプションを空白にすると、デフォルトの値9が使用され、全勘定科目が印刷されます。

- 2. 作業現場住所情報** 作業現場住所と人名録情報をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 作業現場住所と人名録情報を印刷しない。  
 1: 作業現場住所と人名録情報を印刷する。
- 3. 作業ごとに改ページする** レポートに印刷する作業ごとに改ページするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 作業ごとに改ページしない。  
 1: 作業ごとに改ページする。
- 4. 原価コードと原価タイプの印刷** 原価コードと原価タイプをレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 原価コードと原価タイプをレポートに印刷しない。  
 1: 原価コードと原価タイプをレポートに印刷する。
- 5. 残高ゼロの勘定科目の印刷** 金額がゼロの明細勘定科目をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 金額がゼロの明細勘定科目を印刷する。  
 1: 金額がゼロの明細勘定科目を印刷しない。
- 6. 単位数の印刷** 単位をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 単位をレポートに印刷しない。  
 1: 単位をレポートに印刷する。実績、改訂予算およびコミット済数量がレポートに印刷されます。

---

**注意:** 追加の予算元帳を設定した場合、全元帳の数量の合計が印刷されます。

---

## バージョン

この処理オプションを使用して、このレポートの他に、単位原価分析および原価タイプ集計レポートを印刷するかどうかを指定します。空白にすると、追加レポートは印刷されません。

- 1. 単位原価分析レポート (R514121) のバージョン** 印刷するレポートのバージョンを入力し、単位原価分析レポート (R514121) を追加で印刷するかどうかを指定します。
- 2. 原価タイプ集計レポート (R514122) のバージョン** 印刷するレポートのバージョンを入力し、原価タイプ別集計レポート (R514122) を追加で印刷するかどうかを指定します。

## R514122: 原価タイプ別集計

原価タイプ別集計レポート (R514122) には、特定の作業の日付基準勘定残高情報が原価タイプ別に表示されます。表示される情報は次のとおりです。

- 改訂予算

- 実績 (現行)
- 実績 (累計)
- 消費率/完了率
- 最終予測
- 未完了分
- 予測差異
- 原価タイプ

## 原価タイプ別集計 (R514122) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

1. 基準日  
レポートに印刷する情報の選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、作業に割り当てられている会社の現在の財務報告日付が使用されます。
2. 補助元帳  
レポートに印刷する情報の選択に使用する補助元帳を指定します。この処理オプションに値を入力した場合は、「補助元帳タイプ」処理オプションに値を入力する必要があります。全補助元帳を選択するには「\*」を入力し、補助元帳のないレコードを選択するにはこの処理オプションを空白にします。
3. 補助元帳タイプ  
「補助元帳」処理オプションに入力した値に対応する補助元帳タイプを指定します。ユーザー定義コード00/STに設定されている補助元帳タイプを入力してください。

### 印刷

1. 作業現場住所と人名録情報の印刷  
住所と人名録情報をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 住所を印刷しない。  
1: 住所を印刷する。
2. 残高ゼロの勘定科目の印刷  
金額がゼロの明細勘定科目をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 金額がゼロの明細勘定科目を印刷する。  
1: 金額がゼロの明細勘定科目を印刷しない。

## R514121: 単位原価分析

単位原価分析レポート (R514121) には、特定の作業の日付基準勘定残高情報が表示されます。このレポートには次のような詳細が含まれます。

- 改訂予算
- 実績 (現行)
- 実績 (累計)
- 単位

- 予算数量
- 改訂予算
- 予算金額/数量
- 実績数量
- 実績金額
- 実績金額/数量
- 数量/金額差異
- 完了率
- 最終予測
- 予測差異
- 計算方法
- 原価コード
- 原価タイプ

## 単位原価分析 (R514121) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

1. **基準日** レポートに印刷する情報の選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、作業に割り当てられている会社の現在の財務報告日付が使用されます。
2. **補助元帳** レポートに印刷する情報の選択に使用する補助元帳を指定します。この処理オプションに値を入力した場合は、「補助元帳タイプ」処理オプションに値を入力する必要があります。全補助元帳を選択するには「\*」を入力し、補助元帳のないレコードを選択するにはこの処理オプションを空白にします。
3. **補助元帳タイプ** 「補助元帳」処理オプションに入力した値に対応する補助元帳タイプを指定します。ユーザー定義コード00/STに設定されている補助元帳タイプを入力してください。
4. **勘定詳細レベル** 勘定科目詳細の印刷に使用するデフォルトの詳細レベル(3から9)を指定します。入力した値以上の(詳細でない)詳細レベルの勘定科目が集計されます。たとえば、この処理オプションに「5」と入力すると、詳細レベル3および4が割り当てられている勘定科目の金額が印刷され、詳細レベル5、6、7、8および9の勘定科目が集計され、詳細レベル5が割り当てられている勘定科目の合計が印刷されます。この処理オプションを空白にすると、デフォルトの値9が使用され、全勘定科目が印刷されます。

### 印刷

1. **作業ごとに改ページする** レポートに印刷する作業ごとに改ページするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 作業ごとに改ページしない。  
 1: 作業ごとに改ページする。

- 2. レポート見出し** 住所と人名録情報をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 住所を印刷しない。  
 1: 住所を印刷する。
- 3. 「原価コード」と「原価タイプ」の印刷** 原価コードと原価タイプをレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 原価コードと原価タイプを印刷しない。  
 1: 原価コードと原価タイプを印刷する。
- 4. 残高ゼロの勘定科目の印刷** 金額がゼロの明細勘定科目をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 金額がゼロの明細勘定科目を印刷する。  
 1: 金額がゼロの明細勘定科目を印刷しない。

## 処理

- 1. 計算に使用する数量** 見出し(原価コード)と明細(原価タイプ)のどちらの勘定科目の単位原価情報を計算するかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 原価タイプ(明細)勘定科目の単位原価情報を計算する。  
 1: 原価コード(見出し)勘定科目の単位原価情報を計算する。

## バージョン

- 1. 原価タイプの集計 (R514122) のバージョン** 印刷するレポートのバージョンを入力し、原価タイプ別集計レポート(R514122)を追加で印刷するかどうかを指定します。ブランクにすると、追加レポートは印刷されません。

## R51420: 作業別詳細

作業別詳細レポート(R51420)を使用して、作業の主な詳細を確認します。このレポートには次のような詳細が含まれます。

- 原価コード
- 原価タイプ
- 伝票タイプ
- 伝票番号
- 元帳日付
- 予算数量
- 予算金額
- 年累計数量
- 年累計金額

## 作業別詳細 (R51420) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## デフォルト

次の処理オプションを使用して、基準日を入力し、レポート作成を特定の補助元帳に制限し、レポートの補助元帳タイプを指定します。

1. **基準日** レポートに印刷する情報の選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、作業に割り当てられている会社の現在の財務報告日付が使用されます。
2. **補助元帳** レポートに印刷する情報の選択に使用する補助元帳を指定します。この処理オプションに値を入力した場合は、「補助元帳タイプ」処理オプションに値を入力する必要があります。全補助元帳を選択するには「\*」を入力し、補助元帳のないレコードを選択するにはこの処理オプションを空白にします。
3. **補助元帳タイプ** 「補助元帳」処理オプションに入力した値に対応する補助元帳タイプを指定します。ユーザー定義コード00/STに設定されている補助元帳タイプを入力してください。

## 印刷

この処理オプションでは、作業の原価コード、原価タイプ、補助元帳タイプ、原価コードおよび原価タイプの集計、金額および勘定科目の明細、コミットメント、および住所情報を設定できます。

1. **デフォルトの原価コード範囲**

**開始原価コード**  
レポートに印刷する勘定科目範囲の開始原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価コード」フィールドに入力した値以前の全原価コードが印刷されます。

**終了原価コード**  
レポートに印刷する勘定科目範囲の終了原価コード(補助科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価コード」フィールドに入力した値以降の全原価コードが表示されます。
2. **デフォルトの原価タイプ範囲**

**開始原価タイプ**  
レポートに印刷する勘定科目範囲の開始原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「終了原価タイプ」フィールドに入力した原価タイプ以前の全原価タイプが表示されます。

**終了原価タイプ**  
レポートに印刷する勘定科目範囲の終了原価タイプ(主科目)勘定科目を指定します。空白にした場合、「開始原価タイプ」フィールドに入力した値以降の全原価タイプが表示されます。
3. **補助元帳/補助元帳タイプの印刷**

補助元帳および補助元帳タイプのカラムをレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 補助元帳および補助元帳タイプのカラムを印刷しない。

1: 補助元帳および補助元帳タイプのカラムを印刷する。
4. **原価タイプ/原価コード集計の印刷**

各作業の集計を原価タイプ別および原価コード別に印刷するかどうかを指定します。各作業に対し、原価タイプおよび原価コードの集計は、明細の前に別々のページで表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: 原価タイプと原価コードの集計を印刷しない。

1: 原価タイプと原価コードの集計を印刷する。

## 5. 明細金額の印刷

レポートに印刷する金額および数量を取得するフィールドを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 年累計の値を印刷する。期首残高は印刷されません。

1: 現行期間の値と期首残高を印刷する。

2: 開始日以降累計の値を印刷する。

3: 現行期間の値のみを印刷する。

4: 年累計の値と期首残高を印刷する。

## 6. 勘定科目詳細の印刷

レポートに印刷する勘定科目詳細を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべての勘定科目を印刷する。

1: 予算金額または数量のない勘定科目のみを印刷する。

2: 現行期間の実績金額または数量のある勘定科目のみを印刷する。

3: 現行期間の実績金額または数量があり、予算金額または数量のない勘定科目のみを印刷する。

## 7. コミットメントと契約

コミットメントまたは契約に関連する数量および金額のカラムをレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: コミットメントまたは契約に関連する数量および金額のカラムを印刷しない。

1: コミットメントまたは契約に関連する数量および金額のカラムを印刷する。

## 8. コミットメント行の仕入先名

変更オーダーのコミットメント行明細の仕入先名をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先名を印刷しない。

1: 仕入先名を印刷する。

## 9. 作業住所および人名録の印刷

作業現場住所と人名録情報をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 作業現場住所と人名録情報を印刷しない。

1: 作業現場住所と人名録情報を印刷する。

## 10. 印刷する取引の種類

未転記取引をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 未転記取引を印刷しない。

1: 未転記取引を印刷する。

## 11. 記述および参照行の印刷

取引の記述および参照行をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 取引の記述および参照行を印刷する。

1: 取引の記述および参照行を印刷しない。

## R51425B: 取引分析

取引分析レポート(R51425B)を使用して、詳細取引情報を勘定科目別に確認します。このレポートには次のような勘定科目詳細が含まれます。

- 作業番号
- 記述
- 原価コード
- 原価タイプ
- 元帳日付
- 伝票番号およびタイプ
- 仕入先番号
- 請求書番号
- 購買オーダー番号
- 金額および数量
- 仕訳明細

## 取引分析(R51425B)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

- 1. 元帳タイプ**

レポートに印刷する元帳タイプを指定します。この処理オプションを空白にした場合は、すべての元帳タイプが使用されます。
- 2. 日付範囲**

**開始日付**  
レポートに印刷するレコードの選択に使用する開始日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、システム日付以前の全取引が印刷されます。

**終了日付**  
レポートに印刷するレコードの選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、システム日付以前の全取引が印刷されます。
- 3. 伝票タイプ**

レポートに印刷するレコードの選択に使用する伝票タイプを指定します。この処理オプションを空白にすると、伝票タイプにかかわらず、全レコードが印刷されます。
- 4. 補助元帳**

レポートに印刷する情報の選択に使用する補助元帳を指定します。この処理オプションに値を入力した場合は、「補助元帳タイプ」処理オプションに値を入力する必要があります。全補助元帳を選択するには「\*」を入力し、補助元帳のないレコードを選択するにはこの処理オプションを空白にします。
- 5. 補助元帳タイプ**

「補助元帳」処理オプションに入力した値に対応する補助元帳タイプを指定します。ユーザー定義コード00/STに設定されている補助元帳タイプを入力してください。

## 印刷

1. **補助元帳/補助元帳タイプの印刷** 補助元帳および補助元帳タイプのカラムをレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 補助元帳および補助元帳タイプのカラムを印刷しない。  
 1: 補助元帳および補助元帳タイプのカラムを印刷する。
2. **取引タイプ** レポートに印刷する取引を転記コード別に制限するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 転記コードにかかわらず、全取引を印刷する。  
 1: 転記済取引のみを印刷する。  
 2: 未転記取引のみを印刷する。
3. **繰越残高** 勘定科目の繰越残高をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 繰越残高を印刷しない。  
 1: 繰越残高を印刷する。
4. **仕入先** 仕入先名をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 仕入先名を印刷しない。  
 1: 仕入先名を印刷する。

## R51430: 期間別傾向分析

期間別傾向分析レポート(R51430)を印刷して、指定した期間における選択した勘定科目の日付基準作業原価情報を確認します。レポートを作成する基準日と間隔を指定できます。デフォルトの間隔は7日間(週次レポート)です。このプログラムでは、基準日がレポート作成期間の終了日付として扱われ、その期間を使用してそれ以前の全日付が計算されます。処理オプションを使用すると、異なる比率を計算して期間情報を比較できます。

期間別傾向分析レポートには次のような詳細が含まれます。

- 予算金額および数量
- 選択した期間の実績金額および数量
- 期間平均
- 作業累計金額および数量
- 消費率および完了率情報
- 残存金額および数量
- 最終予測金額および数量
- 予測差異金額および数量

## 期間別傾向分析(R51430)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## デフォルト

1. 基準日  
レポートに印刷する情報の選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、作業に割り当てられている会社の現在の財務報告日付が使用されます。
2. 開始日付  
各期間の日数を指定します。この処理オプションをブランクにすると、7日間ごとになります。

## 印刷

1. 明細金額と見出し数量の比率  
明細金額と見出し数量の比率をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 明細金額と見出し数量の比率を印刷しない。  
1: 明細金額と見出し数量の比率を印刷する。
2. 明細数量と見出し数量の比率  
明細数量と見出し数量の比率をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 明細数量と見出し数量の比率を印刷しない。  
1: 明細数量と見出し数量の比率を印刷する。
3. 見出し数量と明細数量の比率  
見出し数量と明細数量の比率をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 見出し数量と明細数量の比率を印刷しない。  
1: 見出し数量と明細数量の比率を印刷する。
4. 期間実際パーセント  
期間実際パーセント( $(\text{*期間実績金額} / \text{最終予測金額}) * 100$ )をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 期間実際パーセントを印刷しない。  
1: 期間実際パーセントを印刷する。
5. 作業以降実際パーセント  
作業以降実際パーセント( $(\text{作業以降期間金額} / \text{最終予測金額}) * 100$ )をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 作業以降実際パーセントを印刷しない。  
1: 作業以降実際パーセントを印刷する。
6. 現行期間の損益  
現行期間の損益をレポートに印刷するかどうかを指定します。この値は、期間内の最終予測金額(HA元帳)の変更額で表されます。値は次のとおりです。  
ブランク: 現行期間の損益を印刷しない。  
1: 現行期間の損益を印刷する。
7. 残高ゼロの場合に比率を印刷する  
実績金額または数量がゼロの勘定科目の比率をレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 実績金額または数量がゼロの勘定科目の比率を印刷する。  
1: 実績金額または数量がゼロの勘定科目の比率を印刷しない。

## R51443: 管理者向け集計レポート

管理者向け集計レポート(R51443)を作成して、プロジェクト、作業または作業内の補助元帳に関連する利益情報を確認および管理します。管理者向け集計レポートは、使用する処理オプションに応じて、次の2つの形式のいずれかで作成できます。

- レポート
- ワークシート

ワークシートに数値を記入した後、その数値をシステムに入力できます。

## 管理者向け集計レポート(R51443)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 印刷

- 1. レポート合計**

レポートに印刷するレポート合計のタイプを指定します。値は次のとおりです。

  - 1: 有効日付別の合計と総合計を印刷する。
  - 2: バージョン番号別の合計と総合計を印刷する。

空白または3: 有効日付別およびバージョン番号別の合計と総合計を印刷する。
- 2. ワークシート形式で印刷する**

レポートをワークシート形式で印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: レポートをワークシート形式で印刷しない。

  - 1: レポートをワークシート形式で印刷する。
- 3. 印刷する収益**

レポートに印刷する金額を指定します。値は次のとおりです。

空白: 現行期間の発生金額を印刷する。

  - 1: 四半期の発生金額を印刷する。

## R51445: 利益認識作業状況

利益認識作業状況レポート(R51445)を印刷すると、各作業の原価、収益および総利益情報を有効日付別に確認できます。このレポートでは、次の情報が作業別に印刷されます。

- 完了時の予測値
- 年累計
- 前期残高
- 現行期間残高

## 利益認識作業状況レポート(R51445)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 選択

1. 有効日付 レポートに印刷する情報の選択に使用する有効日付を指定します。空白にした場合は、会社00000に割り当てられている財務報告日付が使用されます。

## R51520: 建設原価 - 明細

この形式を使用して、選択した期間における原価の明細を勘定科目別に確認します。

「分割融資の実行状況の更新」フィールドでは、分割融資の明細行の状態が示されます。「分割融資の実行状況の更新」フィールドが1の場合は最終、空白の場合は現在の分割融資から除外、Hの場合は保留、Xの場合は分割融資から除外されています。

## 建設原価 - 明細 (R51520) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 印刷

1. 日付範囲
- 開始日付  
レポートに印刷するレコードの選択に使用する開始日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、システム日付以前の全取引が印刷されます。
- 終了日付  
レポートに印刷するレコードの選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、システム日付以前の全取引が印刷されます。
2. 合計行の前の行間
- 合計行の後の行間を1行と2行のどちらにするかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 2行  
1: 1行
3. 原価タイプ見出しの印刷
- 原価タイプ見出しをレポートに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 原価タイプ見出しを印刷しない。  
1: 原価タイプ見出しを印刷する。

## R51525: 建設原価 - 集計

この形式を使用して、選択した期間における原価の集計情報を勘定科目別に確認します。「分割融資の実行状況の更新」フィールドでは、分割融資の明細行の状態が示されます。「分割融資の実行状況の更新」フィールドが1の場合は最終、空白の場合は現在の分割融資から除外、Hの場合は保留、Xの場合は分割融資から除外されています。

## 建設原価 - 集計 (R51525) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 印刷

### 1. 日付範囲

#### 開始日付

レポートに印刷するレコードの選択に使用する開始日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、システム日付以前の全取引が印刷されます。

#### 終了日付

レポートに印刷するレコードの選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、システム日付以前の全取引が印刷されます。

### 2. 勘定科目詳細レベル

勘定科目詳細の印刷に使用するデフォルトの詳細レベル(3から9)を指定します。入力した値以上の(詳細でない)詳細レベルの勘定科目が集計されます。たとえば、この処理オプションに「5」と入力すると、詳細レベル3および4が割り当てられている勘定科目の金額が印刷され、詳細レベル5、6、7、8および9の勘定科目が集計され、詳細レベル5が割り当てられている勘定科目の合計が印刷されます。この処理オプションを空白にすると、デフォルトの値9が使用され、全勘定科目が印刷されます。

### 3. 印刷しない勘定科目詳細レベル

印刷しない詳細レベルを指定します(3から9)。残高がゼロで、指定した詳細レベル以上の勘定科目は印刷されません。たとえば、「5」を入力すると、残高がゼロで、詳細レベルが5よりも高い、つまり6から9の勘定科目はレポートに印刷されません。この処理オプションを空白にすると、残高がゼロかどうかにかかわらず、全勘定科目が印刷されます。

## R51530: 補助元帳別作業詳細

補助元帳別作業詳細レポート(R51530)を使用して、補助元帳で分類された作業の詳細を確認します。このレポートには次のような詳細が含まれます。

- 補助元帳
- 原価コード
- 原価タイプ
- 伝票日付
- 伝票番号
- 伝票タイプ
- 請求書番号
- 支払番号
- 契約番号
- 記述
- 金額

## 補助元帳別作業詳細(R51530)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## デフォルト

この処理オプションでは、レポートの基準にする終了日付を指定できます。

1. **基準日** レポートに印刷する情報の選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、作業に割り当てられている会社の現在の財務報告日付が使用されます。

## 印刷オプション処理

この処理オプションでは、印刷しない見出しを指定できます。

1. **明細行の前の見出しの省略** このレポートの明細行の前に、住所番号、補助元帳および補助元帳タイプの見出しを印刷するかどうかを指定します。合計は、作業別と会社別のみでなく、補助元帳タイプ別、補助元帳別および住所番号別に計算されます。会社および作業のタイトルは、レポートの各ページの上部に表示されます。スペースを節約する場合、住所番号、補助元帳および補助元帳タイプのタイトルは省略できます。値は次のとおりです。

空白: 明細行の前にすべての合計の見出しを印刷する。

1: 明細行の前にすべての合計の見出しを印刷しない。

## R51540: 予算改訂詳細

予算改訂詳細レポート(R51540)を使用して、作業の予算に対して行われたすべての追加および変更を確認します。このレポートには次のような詳細が含まれます。

- 原価コード
- 原価タイプ
- 記述
- 当初予算見積
- 当期予算変更額
- 累計見積変更額
- 改訂予算見積

## 予算改訂詳細(R51540)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、レポートの基準にする終了日付、およびレポートに反映させる原価の追加元帳タイプを指定できます。

1. **基準日** レポートに印刷する情報の選択に使用する終了日付を指定します。この処理オプションを空白にすると、作業に割り当てられている会社の現在の財務報告日付が使用されます。
2. **元帳タイプ** レポートの値の選択に使用する予算元帳タイプを指定します。空白にした場合、すべての改訂予算伝票タイプの値が累計されます。

## 印刷

この処理オプションでは、印刷する最低の詳細レベルと、印刷しない詳細レベルを指定できます。

### 1. 印刷する最も詳細な勘定科目レベル

勘定科目詳細の印刷に使用するデフォルトの詳細レベル(3から9)を指定します。入力した値以上の(詳細でない)詳細レベルの勘定科目が集計されます。たとえば、この処理オプションに「5」と入力すると、詳細レベル3および4が割り当てられている勘定科目の金額が印刷され、詳細レベル5、6、7、8および9の勘定科目が集計され、詳細レベル5が割り当てられている勘定科目の合計が印刷されます。この処理オプションを空白にすると、デフォルトの値9が使用され、全勘定科目が印刷されます。

### 2. 印刷しない詳細レベル

印刷しない詳細レベルを指定します(3から9)。残高がゼロで、指定した詳細レベル以上の勘定科目は印刷されません。たとえば、「5」を入力すると、残高がゼロで、詳細レベルが5よりも高い、つまり6から9の勘定科目はレポートに印刷されません。この処理オプションを空白にすると、残高がゼロかどうかにかかわらず、全勘定科目が印刷されます。



## 付録 B

# 作業原価システムで使用するテーブル

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、テーブルを使用して、作業に関連する情報や勘定科目情報を保管します。

## 作業原価システムのテーブル

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、次の基本テーブルを使用します。

テーブル名/番号	説明
ビジネスユニット・マスター (F0006)	作業の記述、作業番号、作業タイプ、会社、カテゴリ・コードなどの作業マスター情報が保管されています。
元帳タイプ・マスター (F0025)	次のような特定の元帳タイプに対する規則が保管されています。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 予算金額</li><li>• 予算数量</li><li>• 年度締め予算</li><li>• 集計と終了</li></ul>
勘定科目マスター (F0901)	JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムの原価コード構造勘定科目情報、原価コード・スケジュール情報およびカテゴリ・コードが保管されています。作業マスター・レコードが作成されると、見出し勘定科目が勘定科目マスターに作成されます。見出し勘定科目を使用して、利益認識処理中に作業の完了率を調整できます。
勘定残高 (F0902)	JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムの当初予算情報が保管されています。また、原価コード構造にある各勘定科目に対する元帳のJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムの勘定残高明細も保管されています。勘定残高テーブルに保管されているデータは、作業進捗状況情報の計算に使用されます。利益認識仕訳は、勘定残高テーブルに転記されます。
取引明細 (F0911)	取引の詳細な監査証跡を提供し、勘定科目残高の金額と数量に対する改訂をトラッキングできます。JD Edwards EnterpriseOne作業原価元帳には、金額と数量の両方を保管できます。

JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムでは、次の補足テーブルも使用します。

テーブル名/番号	説明
会社固定情報 (F0010)	番号、名称、会計期間パターン、現行会計期間などの会社の定義が保管されています。
バッチ制御レコード (F0011)	各バッチを識別する見出しレコードが保管されています。
AAIマスター (F0012)	利益認識仕訳の作成方法、作業別進捗状況の計算中の実績数量/金額の保護方法、分割融資レポート作成の対象となる勘定科目の識別方法、および総勘定元帳仕訳で貸借一致を必須にするかどうかなどを制御する規則が保管されています。
自動採番 (F0002)	利益認識番号や分割融資番号など、システムで自動的に割り当てられているすべての番号について、次に割り当てることができる番号が保管されています。分割融資レポートでは、システム51の自動採番または分割融資の自動採番を選択できます。
作業原価分割融資の自動採番 (F51002)	割り当てた作業および分割融資の自動採番が保管されています。
住所録マスター (F0101)	名前、住所番号、検索タイプおよびカテゴリ・コードが保管されています。
顧客マスター (F03012)	顧客の売掛情報および請求情報が保管されています。
仕入先マスター (F0401)	仕入先の買掛情報が保管されています。
買掛金元帳 (F0411)	買掛金取引履歴が保管されています。
照会カラム (F5192)	「作業状況照会 - ユーザー定義カラム」フォームに表示するユーザー定義カラム情報が保管されています。
利益認識 (F5144)	現在の利益認識処理の会計情報が保管されています。
利益認識勘定残高 (F5145)	前回の利益認識処理の会計情報が保管されています。
追加作業マスター (F5108)	予定および実績スケジュール情報が保管されています。
原価コード・スケジュール (F51901)	代替順序の参照やレポート作成のために設定した勘定科目マスター・カテゴリ・コードが保管されています。
分割融資レポート・マスター (F51911)	取引明細テーブル (F0911) の対象勘定科目に加えて、分割融資情報が保管されています。
分割融資の摘要 (F51911EX)	分割融資の変更や追加についての摘要が保管されています。

テーブル名/番号	説明
補足データベース・データ・タイプ (F00091)	作業に関する追加情報のトラッキングに使用するデータ・タイプ定義が保管されています。
補足データ (F00092)	作業についての追加情報が、データ・タイプごとに分類され保管されています。
複数原価コード設定 (F51092)	複数原価コードの設定プログラムで設定したバージョンが保管されています。
科目表タイプ・マスター (F5109)	原価コード構造の設定に使用された科目表タイプが保管されています。



# JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。  JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne 供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。  JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。  “ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

<b>BPEL</b>	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
<b>BPEL PM</b>	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
<b>ビルド構成ファイル</b>	ANTスクリプトを生成するプログラムで使用される、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
<b>ビルド・エンジニア</b>	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
<b>ビルド・プログラム</b>	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
<b>ビジネス・アナリスト</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
<b>ビジネス関数</b>	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます(在庫照会、作業オーダー発注など)。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック(Credit Check)や在庫照会(Item Availability)などがあげられます。
<b>ビジネス関数イベント・ルール</b>	“ネームド・イベント・ルール(NER)”の説明を参照してください。
<b>ビジネス・サービス</b>	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
<b>ビジネス・サービス・アーティファクト</b>	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
<b>ビジネス・サービス・クラス・メソッド</b>	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
<b>ビジネス・サービス構成ファイル</b>	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertieなど(他にもある)の構成ファイルです。
<b>ビジネス・サービス相互参照</b>	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
<b>ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ</b>	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>ビジネス・サービス開発環境</b>	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
<b>ビジネス・サービス開発ツール</b>	JDeveloperという名前でも知られています。
<b>ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト</b>	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

<b>ビジネス・サービス・フレームワーク</b>	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
<b>ビジネス・サービス・ペイロード</b>	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ</b>	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール</b>	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ</b>	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化</b>	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ・キー</b>	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用されるユーティリティAPIです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ値</b>	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
<b>ビジネス・サービス・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
<b>ビジネス・サービス・サーバー</b>	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
<b>ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の一つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
<b>ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート</b>	Cビジネス関数で使用される、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
<b>ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ</b>	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
<b>ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト</b>	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
<b>ビジネス・ビュー</b>	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定の列を選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
<b>セントラル・オブジェクトのマージ</b>	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
<b>セントラル・サーバー</b>	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。

<b>チャート</b>	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
<b>チェックイン・リポジトリ</b>	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
<b>コネクタ</b>	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間でロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
<b>相殺/相手勘定</b>	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
<b>コントロール・テーブル・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
<b>コントロール・テーブルのマージ</b>	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
<b>関連データ</b>	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
<b>コスト割当</b>	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
<b>原価要素</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
<b>資格証明</b>	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
<b>相互参照ユーティリティ・サービス</b>	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>セグメント間編集</b>	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
<b>通貨再換算</b>	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
<b>cXML</b>	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
<b>データベース資格証明</b>	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
<b>データベース・サーバー</b>	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

<b>データ・ソース・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
<b>期間パターン</b>	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
<b>指定通貨</b>	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
<b>デプロイメント・アーティファクト</b>	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
<b>デプロイメント・サーバー</b>	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
<b>明細情報</b>	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
<b>ダイレクト接続</b>	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
<b>DNT (Do Not Translate)</b>	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
<b>2重価格設定</b>	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
<b>重複した公開ビジネス・サービス承認レコード</b>	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
<b>埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス</b>	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
<b>編集コード</b>	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
<b>編集モード</b>	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
<b>編集ルール</b>	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
<b>電子データ交換 (EDI)</b>	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
<b>埋込みイベント・ルール</b>	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
<b>従業員ワーク・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
<b>エンタープライズ・サーバー</b>	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

<b>ESB (Enterprise Service Bus)</b>	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
<b>EnterpriseOne管理者</b>	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
<b>EnterpriseOne資格証明</b>	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
<b>EnterpriseOneオブジェクト</b>	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
<b>EnterpriseOne開発クライアント</b>	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
<b>EnterpriseOne拡張機能</b>	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
<b>EnterpriseOneプロセス</b>	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
<b>EnterpriseOneリソース</b>	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
<b>環境ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
<b>エスカレーション・モニター</b>	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
<b>イベント・ルール</b>	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
<b>明示的トランザクション</b>	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
<b>公開されたメソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
<b>施設、事業所</b>	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
<b>略式コマンド</b>	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
<b>ファイル・サーバー</b>	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけではなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
<b>最終モード</b>	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
<b>基盤</b>	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
<b>FTPサーバー</b>	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに回答するサーバーです。
<b>見出し情報</b>	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
<b>HTTPアダプタ</b>	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
<b>インスタンス化</b>	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
<b>統合開発者</b>	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
<b>インテグレーション・ポイント(IP)</b>	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
<b>インテグレーション・サーバー</b>	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
<b>整合性テスト</b>	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
<b>インターフェイス・テーブル</b>	“Zテーブル”の説明を参照してください。
<b>内部メソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
<b>インタオペラビリティ・モデル</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
<b>エラー表示の有効化</b>	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
<b>IServerサービス</b>	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
<b>代替ラベル</b>	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
<b>Javaアプリケーション・サーバー</b>	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
<b>JDBNET</b>	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

<b>JDEBASEデータベース・ミドルウェア</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
<b>JDECallObject</b>	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
<b>jde.ini</b>	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
<b>JDEIPC</b>	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
<b>jde.log</b>	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
<b>JDENET</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
<b>JDeveloperプロジェクト</b>	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
<b>JDeveloperワークスペース</b>	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
<b>JMSキュー</b>	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
<b>リスナー・サービス</b>	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
<b>ローカル・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
<b>ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
<b>ロケーション・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
<b>ロジック・サーバー</b>	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
<b>差し込み印刷ワークベンチ</b>	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
<b>手動コミット・トランザクション</b>	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
<b>マスター・ビジネス関数(MBF)</b>	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
<b>マスター・テーブル</b>	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
<b>照合伝票</b>	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
<b>メディア・ストレージ・オブジェクト</b>	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
<b>メッセージ・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
<b>メッセージング・アダプタ</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>メッセージング・サーバー</b>	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
<b>中間層BPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
<b>監視アプリケーション</b>	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
<b>ネームド・イベント・ルール (NER)</b>	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
<b>Nota Fiscal</b>	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
<b>Nota Fiscal Factura</b>	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
<b>オブジェクト構成マネージャ (OCM)</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
<b>オブジェクト・ライブラリアン</b>	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
<b>オブジェクト・ライブラリアンのマージ</b>	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
<b>オープン・データ・アクセス (ODA)</b>	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

<b>出力ストリーム・アクセス(OA)</b>	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>パッケージ</b>	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
<b>パッケージ・ビルド</b>	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
<b>パッケージ・ロケーション</b>	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下のサブディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
<b>パッケージ・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
<b>パスコード・ディレクトリ</b>	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
<b>パターン</b>	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
<b>計画ファミリ</b>	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
<b>優先プロファイル</b>	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
<b>プリント・サーバー</b>	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
<b>プリステイン環境</b>	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
<b>処理オプション</b>	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィール

	ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。
<b>本稼働用環境</b>	ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。
<b>本稼働レベルのファイル・サーバー</b>	品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。
<b>本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス</b>	本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。
<b>プログラム一時修正 (PTF)</b>	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。
<b>プロジェクト</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。
<b>プロモーション・パス</b>	ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。  11>21>26>28>38>01  このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。
<b>プロキシ・サーバー</b>	企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。
<b>公開ビジネス・サービス</b>	EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。
<b>公開ビジネス・サービス識別情報</b>	関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。
<b>公開ビジネス・サービスのWebサービス</b>	J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。
<b>パブリッシュ済テーブル</b>	マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。
<b>パブリッシュ</b>	パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。
<b>プル・レプリケーション</b>	JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクリイバとしてセットアップされます。プル・サブスクリイバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクリイバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。

<b>QBE</b>	Query by Example (例示照会)の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
<b>リアルタイム・イベント</b>	外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
<b>リフレッシュ</b>	新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース(B73.2やB73.2.1など)に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を修正する機能です。
<b>レプリケーション・サーバー</b>	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
<b>Rt-Addressing</b>	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
<b>規則</b>	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
<b>見積オーダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。  JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
<b>Secure by Default</b>	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
<b>SSL (Secure Socket Layer)</b>	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
<b>SEI実装</b>	サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。
<b>選択項目</b>	JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。
<b>シリアライズ</b>	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
<b>サーバーワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
<b>サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)</b>	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。
<b>SOA</b>	Service Oriented Architectureの略語です。
<b>ソフトコーディング</b>	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
<b>ソース・リポジトリ</b>	HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
<b>スポット・レート</b>	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

<b>スペックのマージ</b>	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
<b>スペック</b>	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
<b>スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
<b>SSL証明書</b>	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
<b>オフライン処理</b>	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
<b>サブスクリバ・テーブル</b>	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシュ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリバ・マシンの識別に使用されます。
<b>スーパークラス</b>	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樫や榆のスーパークラスであるといえます。
<b>補足データ</b>	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
<b>テーブル・アクセス管理(TAM)</b>	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
<b>テーブル変換ディレクタ</b>	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>テーブル変換</b>	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>テーブル・イベント・ルール</b>	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
<b>ターミナル・サーバー</b>	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
<b>3ステップ処理</b>	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

<b>3方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
<b>トランザクション処理(TP)モニター</b>	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
<b>トランザクション処理方法</b>	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です(開始、コミット、ロールバック、取消など)。
<b>トランザクション・セット</b>	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション(電子データ交換の標準ドキュメント)です。
<b>トリガー</b>	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
<b>トリガーイベント</b>	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
<b>2方向認証</b>	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
<b>2方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
<b>ユーザー識別情報</b>	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
<b>ユーザー一時変更のマージ</b>	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
<b>値オブジェクト</b>	データ構造がデータを渡すのとよく似たように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開(公開ビジネス・サービスで使用)か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
<b>差異</b>	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。  JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
<b>公開ビジネス・サービスのバージョン</b>	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
<b>バージョン・リストのマージ</b>	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
<b>ビジュアル・アシスト</b>	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
<b>用語一時変更</b>	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
<b>wchar_t</b>	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

<b>Webアプリケーション・サーバー</b>	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
<b>Webサーバー</b>	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
<b>WSDL (Web Service Description Language)</b>	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
<b>WSIL (Web Service Inspection Language)</b>	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
<b>Webサービス・プロキシ基盤</b>	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・レコード</b>	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート</b>	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
<b>WHERE句</b>	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
<b>Windowsターミナル・サーバー</b>	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
<b>ウィザード</b>	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
<b>ワークベンチ</b>	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエンリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
<b>作業日カレンダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成品と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
<b>ワークフロー</b>	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス(ワークフロー)では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
<b>ワークグループ・サーバー</b>	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
<b>XAPIイベント</b>	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
<b>XML CallObject</b>	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLディスパッチ</b>	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLリスト</b>	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLサービス</b>	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLトランザクション</b>	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
<b>XMLトランザクション・サービス(XTS)</b>	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
<b>Zイベント</b>	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
<b>Zテーブル</b>	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
<b>Zトランザクション</b>	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

# 索引

AAIカテゴリ  
現場進捗保護 16  
作業集計 16  
分割融資レポート 16  
予算残高元帳 16  
利益認識 16  
AAI(自動仕訳)  
JC01-99 113  
カテゴリ 16  
現場進捗保護 18  
システム設定 9, 16  
    関連項目: 概要  
分割融資レポート 18  
    関連項目: DW  
分割融資レポート選択 18  
利益認識 16  
    関連項目: BS; IS; JCAPC; JCAPO;  
    JCBE; JCBOUA; JCCA; JCCE;  
    JCCOUA; JCLOSS; JCPFC;  
    JCPFP; JCPFR; JCSMI; JCSMJ;  
    JCST  
AAI(自動仕訳)の定義 16  
Customer Connection Webサイト xiv  
F0026テーブル 14  
P0002プログラム 22  
P0025プログラム 21  
P0026プログラム 14  
P4310プログラム 135  
P51002プログラム 22  
P51006プログラム 26, 27, 61, 66, 70,  
140  
P510121プログラム 61  
P510171プログラム 66  
P510211プログラム 108, 113  
P510212プログラム 110, 113  
P510312 115  
P51091プログラム 44, 46  
P51092プログラム 52  
P512100プログラム 113  
P51440プログラム 129  
P5144プログラム 129  
P515001プログラム 144  
P515003プログラム 144  
P51921プログラム 79  
P98950プログラム 80

PeopleCodeの表記規則 xvi  
R09811プログラム 152  
R09911プログラム 152  
R51500プログラム 142  
R51800プログラム 124  
R51810プログラム 128  
R51840プログラム 152, 153

## あ

アプリケーションの基礎 xiii

## か

「会社別作業の改訂」フォーム 29  
改訂予算  
    定義済 59  
「改訂予算勘定残高の処理」フォーム 89  
概要  
    監査証跡管理 3  
    原価分析 3  
    最終予測 2  
    作業原価システム 1  
    作業原価で使用する基本テーブル 175  
    作業原価で使用する補足テーブル 175  
    作業状況照会 2  
    作業進捗状況 91  
    作業予算改訂 3  
    システム機能 2  
    システムの統合 5  
    テーブルおよび説明 175  
    分割融資処理 3  
    利益認識 2  
    レポート生成 3  
カテゴリ・コード  
    作業マスター・レコードの作成 27  
    代替順序の割当 53  
    マッピングによる代替順序の作成 56  
カテゴリ・コードの一括更新(R51807) 56  
科目表タイプ  
    システム設定 9  
    関連項目: 概要  
科目表タイプ・コード(定義) 44  
「カラム・バージョンの保存」フォーム 81

監査証跡 66  
 監査証跡管理  
   概要 3  
 勘定科目カテゴリ・コード(09/01から  
   09/23)  
   ユーザー定義コード 11  
   関連項目: 概要  
 「勘定科目調整」フォーム 131  
 「勘定科目のコピー」フォーム 49, 50  
 「勘定科目表タイプの設定」フォーム 44,  
   49  
 勘定別進捗状況の入力プログラム  
   (P510211) 108  
 間接費レート  
   作業マスター・レコードの作成 27  
 管理者向け集計レポート  
   生成 169  
 管理者向け集計レポートの生成 169  
 「完了パーセントの更新」フォーム 124  
 完了率  
   入力 124  
   完了率の更新 124  
   完了率の入力 124  
 関連ドキュメンテーション xiv

## き

期間別傾向分析レポート  
   生成 167  
 期間別傾向分析レポートの印刷 167  
 既存の作業からの情報のコピー 46  
 給与計算情報  
   作業マスター・レコードの作成 27  
 共通フィールド xviii

## く

「グループ作業の調整」フォーム 131

## け

警告 xvii  
 計算式の記述(51/FM)  
   ユーザー定義コード 12  
   関連項目: 概要  
 計算方法  
   完了率 95, 96  
   関連項目: 使用  
   しきい値完了率 95, 96  
   関連項目: 使用  
   方法A(勘定科目: 強制) 95

方法B(買取りまたは固定価格契  
   約) 101  
 方法C(原価コード見出しの完了  
   率) 96  
 方法D(デフォルト) 93  
 方法E(見積残) 99  
 方法F(強制) 94  
 方法G(予算デフォルト: 強制) 94  
 方法HおよびL(作業量および労  
   務) 100  
 方法N(予測なし) 103  
 方法O(一時変更) 97  
 方法P(完了率) 95  
 方法Q(数量) 96  
 方法R(収益: 単価契約) 102  
 方法S(集計) 98  
 方法T(合計) 104  
 方法U(残存単位レート) 102  
 方法V(絶対値) 103  
 計算方法の更新 150  
 契約タイプ(51/CT)  
   ユーザー定義コード 11  
   関連項目: 概要  
 原価コード  
   複数の設定 52  
   割当例 40  
 原価コード構造  
   既存の作業からのコピー 46  
   計画 37  
   計画および考慮事項 37  
   原価コード 38, 40  
   原価タイプ 38, 40  
   構成要素 38  
   作業番号 38  
   作成 46  
   詳細レベル 39  
   設定 37, 44  
   変更 48  
   見出し勘定科目 39  
   明細勘定科目 39  
   例 40  
   原価コード構造の作成 46  
   「原価コード構造の処理」フォーム 44,  
   49  
   原価コード構造の変更 48  
   原価コード・スケジュール  
   設定 70  
   「原価コード・スケジュールの改訂」フォー  
   ム 71  
   原価コード・スケジュールの設定 70

「原価コードのコピー」フォーム 49, 50  
 原価コード・マスター表タイプ(51/TC)  
   ユーザー定義コード 12  
   関連項目: 概要  
 原価タイプ  
   原価コード構造 38  
   割当例 40  
 原価タイプ別集計レポート  
   生成 160  
 原価タイプ別集計レポートの印刷 160  
 原価分析  
   概要 3  
 現場進捗状況レポート  
   生成 107  
 現場進捗状況レポートの生成 107  
 現場進捗保護AAI 18

## こ

ご意見 xviii  
 購買オーダー・プログラム(P4310) 135  
 コミットメント伝票タイプ(40/GT)  
   ユーザー定義コード 12  
   関連項目: 概要  
 ご要望 xviii

## さ

最終予測  
   概要 2  
 最終予測情報(削除) 152  
 最終予測ビジネスユニット・タイプ(51/PF)  
   ユーザー定義コード 12  
   関連項目: 概要  
 作業カテゴリ・コード  
   作業マスター・レコードの作成 27  
   代替順序の設定 27  
 作業原価  
   プロセス・フロー 4  
 作業原価固定情報  
   設定 9  
   関連項目: 概要  
 作業原価固定情報(P0026) 14  
 「作業原価固定情報の処理」フォー  
 ム 15  
 「作業原価固定情報」フォーム 15  
 作業原価コード構造(P51091) 44, 46  
 作業原価コード構造の設定 44  
 作業原価システム  
   概要 1  
 作業原価情報の更新

概要 149  
 実行 149  
 作業原価の詳細レベルの予約 39  
 作業原価の除去プログラム  
   (R51840) 152, 153  
 作業原価の複数原価コード構造  
   (P51092) 52  
 作業原価の元帳タイプの設定 21  
 作業原価のユーザー定義コードについ  
 て 10  
 作業原価分割融資の自動採番  
   (P51002) 22  
 「作業原価分割融資の自動採番」フォー  
 ム 22  
 作業原価マスター  
   処理オプション 29  
 作業原価マスター(P51006) 26, 61, 66,  
 70  
 作業原価マスター・プログラム  
   (P51006) 140  
 「作業原価元帳タイプ規則」フォーム 21  
 作業原価予測の再計算 151  
 作業原価予測の削除プログラム  
   (R51997) 152  
 作業原価レポート 155  
   概要 155  
 作業集計AAI 16  
 作業状況照会  
   印刷 157  
   概要 2  
   照会カラムの定義 79  
   照会元帳タイプ 13  
   ユーザー定義カラム 80  
   関連項目: バージョンの削除  
 「作業状況照会カラムの処理」フォー  
 ム 81  
 作業状況照会 - 基本(P512100) 73  
 作業状況照会情報の印刷 157  
 作業状況照会のカラム・バージョンの削  
 除 80  
 「作業状況照会の処理 - 基本」フォー  
 ム 75  
 「作業状況照会」フォーム 81  
 作業状況照会レポート  
   生成 157  
 作業進捗状況  
   概要 91  
   計算方法 91  
   関連項目: 概要  
   情報の入力 113

- 作業進捗状況情報の入力 113
    - 勘定科目用 113
    - 作業用 113
  - 作業スケジュール
    - 設定 70
  - 作業スケジュールの設定 70
  - 作業の開始または終了 140
  - 作業の確認 73
  - 作業の終了または開始 140
  - 作業の処理 73
  - 作業番号
    - 原価コード構造 38
    - 割当例 40
  - 作業(ビジネスユニット)タイプ(00/MC)
    - ユーザー定義コード 11
    - 関連項目: 概要
  - 作業別買掛金照会(P04220) 73
  - 「作業別買掛金照会の処理」フォー  
ム 90
  - 作業別買掛金照会プログラム  
(P04220) 90
  - 作業別詳細
    - 処理オプション 163
  - 「作業別進捗状況の入力」フォーム 111
  - 作業別進捗状況の入力プログラム  
(P510212) 110
  - 作業マスター情報
    - 入力 26
  - 「作業マスターの改訂」フォーム 29
  - 「作業マスターの処理」フォーム 29, 49,  
55, 62
  - 作業マスター・レコード
    - 作業原価(一般会計ではなく) 26
    - 作成 26
    - 単一の作業用に作成 26
    - トラッキング 26
    - 複数の作業用に作成 26
    - レコードの自動作成 26
    - 関連項目: 給与計算ビジネスユニッ  
ト固定情報(F069056); ビジネス  
ユニット・マスター(F0006); 勘定  
科目マスター(F0901); 追加作業  
マスターの改訂(F5108)
  - 作業マスター・レコードの作成
    - カテゴリ・コード 27
    - 間接費レート 27
    - 給与計算情報 27
    - 関連項目: 間接費レート
    - 作業予算日付 27
    - 税情報 27
  - 設備料金 27
  - 日付情報 27
  - 作業予算 59
  - 作業予算改訂
    - 概要 3
  - 作業予算日付
    - 作業マスター・レコードの作成 27
  - 作業予算変更オーダー 3
  - 作業利益の見積 124
    - 基準 124
- し
- システム
    - 機能 2
    - 作業原価の統合 5
  - システム機能
    - 監査証跡管理 3
    - 原価分析 3
    - 最終予測 2
    - 作業状況照会 2
    - 作業予算改訂 3
    - 分割融資処理 3
    - 利益認識 2
    - レポート生成 3
  - システム固定情報
    - 設定 14
  - システム固定情報の設定 14
  - システム設定
    - AAI(自動仕訳) 16
    - 科目表タイプ 9
    - 原価コード構造 44
    - システム固定情報 14
    - 自動採番 22
    - 分割融資の自動採番 22
    - 元帳タイプ 19
    - ユーザー定義コード 10
  - 「システム別自動採番の設定」フォー  
ム 22
  - 自動採番
    - システム設定 9
    - 関連項目: 概要
    - 設定 22
  - 自動採番の改訂(P0002) 22
  - 「自動採番の処理」フォーム 22
  - 自動採番の設定 22
  - 照会カラムの定義 79
  - 「照会カラムの定義」フォーム 81
  - 照会元帳タイプ(51/IL) 13
  - 詳細レベル
    - 原価コード構造 39

- 作業原価のレベルの予約 39
- レベルのスキップ 39
- 除去処理 152
- ジョブID
  - 作業タイプ 25
  - 作業マスター・レコード 26
- 処理オプション
  - カテゴリ・コードの一括更新 (R51807) 56
  - 勘定別進捗状況の入力 (P510211) 108
  - 管理者向け集計レポート (R51443) 169
  - 期間別傾向分析レポート (R51430) 167
  - グループ作業の調整 (P5144) 131
  - 計算方法の変換 (R519901) 150
  - 原価コード・スケジュール (P51901) 71
  - 原価タイプ別集計レポート (R514122) 161
  - 建設原価 - 集計レポート (R51525) 170
  - 建設原価 - 明細レポート (R51520) 170
  - 現場進捗状況レポート (R51432B) 107
  - 作業原価コード構造 (P51091) 44
  - 作業原価マスター 29
  - 作業原価予測の削除 (R51997) 152
  - 作業状況照会 - 基本 (P512100) 75
  - 作業状況照会の印刷 (R512000P) 157
  - 作業状況照会 - ユーザー定義カラム (P512000) 83
  - 作業別詳細 163
  - 作業別進捗状況の入力 (P510212) 111
  - 作業予算の改訂 (P510171) 67
  - 単位原価分析レポート (R514121) 162
  - 単一作業の調整 (P51440) 132
  - 当初予算 (P510121) 62
  - 取引分析レポート (R51425B) 166
  - パフォーマンス基準労務進捗状況の入力 (P510312) 116
  - 複数原価コード作業の作成 (P51092) 53
  - 複数原価コードの設定 (P51092) 52
  - 分割融資状況の更新 (P515001) 147
  - 分割融資の改訂 (R515003) 146
  - 分割融資の作成 (R51500) 143
  - 分割融資の明細レポート (R51510) 148
  - 補助元帳別作業詳細レポート (R51530) 171
  - マスター作業原価レポート (R51412) 159
  - 予算改訂詳細レポート (R51540) 172
  - 予測の再計算 (R51803) 151
  - 利益計算プログラム 126
  - 利益認識作業状況レポート (R51445) 169
  - 利益認識バージョンの削除 (R51810) 129
  - 利益認識用仕訳の作成 (R51444) 139
- 仕訳
  - 利益認識 136
  - 関連項目: 概要
  - 進捗状況の入力 110
  - 「進捗状況の入力」フォーム 108
- す
  - 数量
  - 定義 59
- せ
  - 税情報
    - 作業マスター・レコードの作成 27
  - 製品ガイド
    - 注文 xiv
  - 設備料金
    - 作業マスター・レコードの作成 27
  - 前提知識 xiii
  - 前年度仕訳の除去 (R09911) 152
- そ
  - 相互参照 xvii
- た
  - 代替順序
    - カテゴリ・コードのマッピング 56
    - 割当 53
  - 単位 (00/UM)
    - ユーザー定義コード 11
    - 関連項目: 概要
  - 単位原価分析レポート
    - 生成 161
  - 単位原価分析レポートの印刷 161
  - 「単一作業の調整」フォーム 131

単一作業の調整プログラム  
(P51440) 129

## ち

注意 xvii  
注意事項 xvii

## つ

追加作業  
情報の入力 27  
設定 27  
追加作業の設定 27  
「追加作業マスター」フォーム 29, 55  
追加ドキュメンテーション xiv

## て

テーブル  
F51092(複数原価コードの設定) 52  
概要 175  
関連項目: 基本; 補足  
勘定科目マスター(F0901) 26, 46,  
124, 136, 150  
勘定残高(F0902) 61, 66, 136, 143,  
150  
作業原価会社固定情報(F0026) 14  
追加作業マスターの改訂(F5108) 27  
取引明細(F0911) 144  
ビジネスユニット・マスター(F0006) 26  
分割融資の摘要(F51911EX) 144  
分割融資レポート・マスター  
(F51911) 143, 144, 149

## と

当初予算 61  
設定 61  
定義済 59, 61  
当初予算(P510121) 61  
処理オプション 62  
「当初予算/勘定科目マスター順序」  
フォーム 50, 55, 62  
当初予算の設定 61  
当初予算の入力 61  
当初予算の変更 61  
ドキュメンテーション  
関連 xiv  
最新版 xiv  
ダウンロード xiv  
ドキュメンテーションのダウンロード xiv  
取引の集計(R09811) 152

取引分析レポート  
生成 166  
取引分析レポートの印刷 166

## は

パフォーマンス基準労務進捗状況の入  
力プログラム(P510312) 115  
「パフォーマンス・ベース労務活動の処  
理」フォーム 116

## ひ

ビジネスユニット・カテゴリ・コード(00/01  
から00/30)  
ユーザー定義コード 11  
関連項目: 概要  
ビジネスユニット(作業)タイプ(00/MC)  
ユーザー定義コード 11  
関連項目: 概要  
ビジネスユニット/主科目/補助科目の  
F0901からF51911への更新 149  
日付情報  
作業マスター・レコードの作成 27  
表記規則 xvi

## ふ

フォーム  
作業予算の改訂 66  
当初予算/勘定科目マスター順序 61  
ユーザー時変更の処理 80  
「複数原価コード設定バージョン詳細」  
フォーム 52  
「複数原価コード設定バージョンのコ  
ピー」フォーム 52  
「複数原価コード設定バージョンの処理」  
フォーム 52  
複数の原価コード構造(作成) 51  
複数の原価コード構造の設定 52  
プロジェクト  
作業の階層の作成 26  
プロジェクトの確認 73  
分割融資  
定義済 141  
「分割融資実行の改訂」フォーム 146  
「分割融資実行の処理」フォーム 146  
分割融資情報の生成 142  
分割融資処理  
概要 3, 141  
分割融資状況の変更 145  
分割融資情報の改訂 144

分割融資取引の分割 145  
 分割融資取引の分割 145  
 分割融資の改訂プログラム  
 (P515003) 144  
 分割融資の作成プログラム  
 (R51500) 142  
 「分割融資の実行状況の更新」フォー  
 ム 146  
 「分割融資の実行入力の分割」フォー  
 ム 146  
 分割融資の自動採番  
 システム設定 9  
 関連項目: 概要  
 設定 22  
 分割融資の自動採番の設定 22  
 分割融資の処理プログラム  
 (P515001) 144  
 分割融資の明細レポート  
 生成 148  
 分割融資の明細レポートの印刷 148  
 分割融資番号 142  
 分割融資レポート選択AAI 16, 18  
 分割融資レポートの生成  
 最終 142  
 テスト 143  
 分割融資レポート用の勘定科目情報の  
 更新 149

## ほ

補助元帳  
 完了率 124  
 関連項目: 入力  
 補足データ  
 作業原価 36

## ま

マスター作業原価レポート  
 処理オプション 159  
 生成 158  
 マスター作業原価レポートの印刷 158

## み

見出し勘定科目  
 原価コード構造 39  
 見積利益  
 改訂 129  
 変更 129  
 関連項目: 複数作業  
 見積利益情報の改訂 129

単一作業用 129  
 見積利益の変更 129

## め

明細勘定科目  
 原価コード構造 39

## も

モデル原価コード構造(入力) 44  
 元帳タイプ  
 改訂 19  
 規則の設定 19  
 システム設定 9  
 関連項目: 概要  
 照会 13  
 元帳タイプ規則の設定 19  
 「元帳タイプの処理」フォーム 21  
 元帳タイプ別改訂予算(P51216) 73  
 元帳タイプ別改訂予算プログラム  
 (P51216) 89  
 元帳タイプ・マスターの設定(P0025) 21

## ゆ

「ユーザー時変更の処理」フォー  
 ム 81  
 ユーザー定義コード  
 概要 11, 12, 13  
 関連項目: 単位(00/UM); 利益認識  
 IS入力(51/IS); 勘定科目カテゴ  
 リ・コード(09/01から09/23); コ  
 ミットメント伝票タイプ(40/CT)  
 ; 原価コード・マスター表タイプ  
 (51/TC); 作業タイプ(00/MC);  
 契約タイプ(51/CT); 計算式の記  
 述(51/FM); ビジネスユニット・カ  
 テゴリ・コード(00/01から00/30);  
 ビジネスユニット・タイプ(00/MC)  
 ; 最終予測ビジネスユニット・タイ  
 プ(51/PF)  
 システム設定 9  
 関連項目: 概要  
 設定 10

## よ

予算  
 改訂 66  
 関連項目: 入力  
 改訂済 59  
 関連項目: 定義済

概要 59  
 現行年度をコピーするための条件 46  
 削除 61  
 当初 59, 61  
   関連項目: 設定; 定義済  
 当初の入力 61  
 変更オーダー 66  
 ロック 61  
 ロック解除 61  
 予算改訂詳細  
   処理オプション 172  
 予算改訂の入力 66  
 予算残高元帳AAI 16  
 予算情報の確認  
   元帳タイプ別 89  
 予算情報のコピー  
   改訂予算 46  
   現行年度 46  
   当初予算 46  
 予算の改訂(P510171) 66  
 予算のロックまたはロック解除 61  
 予算変更オーダー 66  
 予測  
   再計算 151

## り

利益計算プログラム(R51800) 124  
 「利益計上バージョンの処理」フォー  
 ム 131  
 利益認識 123  
   AAI 16  
   概要 2  
   完了率の入力 124  
   情報のロック 129  
   情報のロック解除 129  
   仕訳 136  
   利益の見積 124  
   履歴 136  
   履歴情報 129  
   関連項目: 削除  
 利益認識AAI 16  
 利益認識IS入力  
   ユーザー定義コード 13  
   関連項目: 概要  
 利益認識しきい値  
   定義済 124  
 利益認識仕訳について 136  
 利益認識仕訳の作成 136  
 利益認識仕訳の処理 136  
 利益認識バージョン(削除) 128

利益認識バージョンの削除プログラム  
 (R51810) 128  
 利益認識マスター(P5144) 129  
 利益認識レコード(改訂) 129

## れ

レコード削除 128  
 レポート  
   管理者向け集計 169  
   関連項目: 利益認識  
   期間別傾向分析 167  
   原価タイプ別集計 160  
   建設原価 - 集計(R51525) 170  
   建設原価 - 明細(R51520) 170  
   現場進捗状況 107  
   作業状況照会情報 157  
   作業別詳細 163  
   単位原価分析 161  
   取引分析 166  
   複数原価コード作業の作成 52  
   補助元帳別作業詳細 171  
   マスター作業原価 158  
   予算改訂詳細 172  
   利益認識 169  
   関連項目: 管理者向け集計レポート  
   利益認識作業状況(R51445) 169  
 レポート生成  
   概要 3  
   連絡先情報 xviii

## ろ

「労務進捗状況入力の改訂」フォー  
 ム 116